

リ了本村

末日聖徒イエス・キリスト教会・第169回年次総大会報告・1999年7月号

1999年7月20日発行（毎月1回20日発行）第1巻第7号 昭和42年12月18日第3種郵便物認可 ISSN 1344-8595





「命の井戸」ロバート・T・バレット画

サマリヤの女に対し、主イエス・キリストは次のように語られた。「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネ4：13-14)

末日聖徒イエス・キリスト教会 第169回年次総大会報告

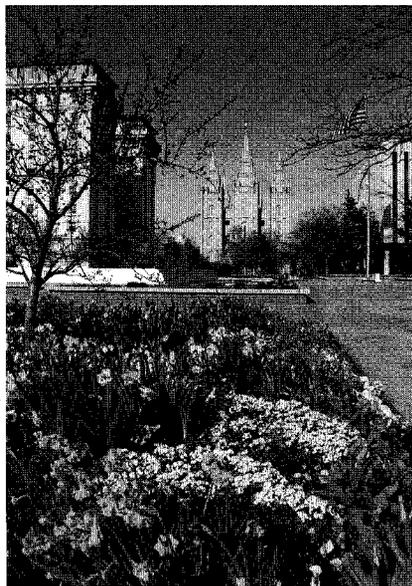
1999年4月3、4日の両日、
ユタ州ソルトレーク・シティ、
テンプルスクウェアのタバナクルにおいて開かれた
年次総大会の説教とその模様

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、総大会日曜日午前の部会で、主イエス・キリストの生涯とその教導の業、そして贖罪について証を述べ、次のように語った。「このすばらしい復活祭の朝に、全能者の僕として、主の大義の預言者ならびに使徒として、わたしたちは声を上げ、不死不滅の救い主について証を述べます。

主は永遠の父の御子として世に來られました。……キリストはわたしたちの勝利の主です。またわたしたちの罪を贖ってくださった贖い主です。主の贖いの犠牲によってすべての人は墓からよみがえります。主が道を開いてくださったので、不死不滅だけでなく永遠の命を得ることができるのです。

わたしは主イエス・キリストの使徒として、この復活祭にこれらを証します。厳粛に、畏敬の念を持ち、また感謝を込めて、……お話しします。」

総大会最初の部会でヒンクレー大管長は次のように教会員にあいさつの言葉を述べた。「わたしたちは再び1,000万人以上の力ある家族としてともに集……っています。……わたしたちは、……地上における神の王国と大義を築き上げるために働く、幸せて祝福された民です。人種や国籍、貧しい者、富める者にかかわらず、老いも若きもこぞ、御名をあがめる主に対して同じ証を持ち、それを分かち合うために集……っています。」



春の花々が教会本部ビル(右)と
ジョセフ・スミス記念館(左)の
間の広場に咲き誇っている。
中央に見えるのは、
ソルトレーク神殿。

「わたしは教会が良好な状態にあることをお知らせできることを喜びとしています」と語ったヒンクレー大管長は、さらにこう報告した。「わたしたちには現在およそ6万人の宣教師がいます。この7月には、伝道部が333か所となります。……さらに、布教活動以外の務めを果たして下さるボランティアの方々や宣教師が13万7,629人います。」

また、ヒンクレー大管長は次のように述べた。「家族歴史の探究も加速度的な

勢いで進められています。……この御業を定められた行く末に向かって前進させるために、わたしたちはかつて夢にも見なかったような規模で神殿を建設しています。……わたしたちは教会員の必要を満たすために、多くの礼拝堂を建設しています。……教会の多くの地域で聖餐会への出席者が増加しており、また活発な会員の割合も上昇しています。」

日曜日午前の部会の最後に、ヒンクレー大管長は、次のような喜ばしい発表をした。「現在建設中のすべての神殿に加えてノーブー神殿を再建することを発表したいと思います。……完成にはしばらくかかるとは思いますが、すでに設計が始まっています。……この新しい建物は、ミシシッピ川の岸辺に最初に神殿を建設した人々を追悼するものとなることでしょう。」

2日間にわたる総大会の各部会は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長とともに司会を務めた。

土曜日午後の部会では、新たに6人の七十人第二定員会会員と3人の地域幹部七十人が支持された(23ページおよび128ページ参照)。

テレビ中継を通じて大会の模様を見られない教会ユニットは、地元のステークおよび地方部を通じて総大会ビデオを請求することができる。——編集部□

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
月刊—イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。隔月刊—インドネシア語、タイ語。季刊—アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長：ジャック・H・ゴースリンド
顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン
教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ

国際機関誌スタッフ
編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：ロジャー・テリー
編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド
工程管理：ベス・デーリー
出版補佐：コニー・シェークスピア
デザインスタッフ
機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・パン・カンベン
デザイナー主任：シェリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、ジェーン・L・マンフォード、デューナ・L・ソレンソン
デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン
予約購読スタッフ
ディレクター：ケイ・W・ブリッグス
配送部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「[リアホナ] 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 理工印刷株式会社
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines July, 1999.
Japanese. 99987 300

July 1999 no. 7. LIAHONA (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

表紙—「失われた羊」デル・バーソン画。表紙内側—「命の井戸」ロバート・T・バレット画。裏表紙内側—「シオンの陣営」ジュディス・メア画。教会歴史美術館の厚意により掲載。

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が採り上げたテーマを、すべて網羅するものではありません。

あ 愛 ……32,34,79
証 ……41
贖い ……94
イエス・キリスト ……16,32,50,77,82
祈り ……107,112,115
戒め ……102
うわさ話 ……97
永遠の進歩 ……19
教え ……6,13,37,86,102
親の務め ……9,13,16,45
か 改宗 ……63
家族のきずな ……37,45,51, 71,74,86,99,102,105
家族歴史 ……99
感謝 ……105
監督 ……60,71
教会の組織 ……71
教義 ……86
キリストの弟子となる ……32,34
キリストの光 ……63,112
悔い改め ……94
結婚 ……29
謙遜 ……26
高潔さ ……60
さ 再活発化 ……50,56,94
自制 ……97
質素 ……109
従順 ……48,53,107
女性 ……45
自立 ……9,90
神権 ……48,51,56,60
信仰 ……77
神殿と神殿事業 ……4,13,29,105
人道的救援活動 ……90
信頼 ……53
正義 ……48
聖文の研究 ……115
聖約 ……29
聖霊 ……6,37,109
世界に広がる教会 ……4
選択の自由 ……53
備え ……19
た 長老見込み会員 ……56
罪 ……26
定着化 ……99,120
伝道活動 ……4,79,120
天の御父 ……16
な 日曜学校 ……6

忍耐 ……112
は バプテスマ ……109
ハリス、マーティン ……41
批判 ……97
評議会 ……51,120
フェローシップ ……74,120
福祉プログラム ……90
負債 ……9
復活 ……82
復活祭 ……82
平安 ……77
奉仕 ……34,63,79,115
ま 目標 ……107
模範 ……115
『モルモン書』 ……41
や 友情 ……50,74
ら 利己心 ……9,26
霊性 ……19
●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。
アイリング、ヘンリー・B ……86
ウエスト、スティーブン・A ……32
ウッド、レイ・H ……48
オックス、ダリン・H ……41
クリステンセン、ジョー・J ……9
コッフオード、クリー・L ……97
ジェンセン、マーリン・K ……74
スコット、リチャード・G ……29
デュー、シェリー・L ……77
トーマス、キャロル・B ……13,109
トブラー、D・リー ……51
ナドル、マーガレット・D ……112
ネルソン、ラッセル・M ……45
ノイエンシュバンダー、デニス・B ……99
パッカー、ボイド・K ……71
バラード、M・ラッセル ……102
ヒンクレー、ゴードン・B ……4,60,82,105,120
ファウスト、ジェームズ・E ……19,53
ヘイト、デビッド・B ……79
ヘイルズ、ロバート・D ……37
ペリー、L・トム ……6
ホエットン、ロバート・J ……34
ホランド、ジェフリー・R ……16
マクマリン、キース・B ……94
マックスウェル、ニール・A ……26
モンソン、トーマス・S ……23,56,63,115
ラーセン、シャロン・G ……107
ローシェイ、ネッド・B ……50
ワースリン、ジョセフ・B ……90

目次

- 1 末日聖徒イエス・キリスト教会第169回年次総大会報告
- 土曜午前の部会 1999年4月3日
- 4 御業は前進する 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 6 力のかぎり神の御言葉を民に教える
十二使徒定員会会員 L・トム・ペリー
- 9 貪欲、利己心、甘やかし
七十人会長会 ジョー・J・クリステンセン
- 13 家族を神殿に備える
中央若い女性第一副会長 キャロル・B・トーマス
- 16 父親らの手で
十二使徒定員会会員 ジェフリー・R・ホランド
- 19 わたしたちの時代
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 土曜午後の部会 1999年4月3日
- 23 教会役員への支持 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 24 教会監査委員会報告
教会監査委員会委員長 テッド・E・デービス
- 25 1998年度統計記録
大管長秘書 F・マイケル・ワトソン
- 26 「わがままを悔い改め……」(教義と聖約56:8)
十二使徒定員会会員 ニール・A・マックスウェル
- 29 神殿の祝福を受ける
十二使徒定員会会員 リチャード・G・スコット
- 32 「小さなことから」
七十人 スティーブン・A・ウエスト
- 34 真に従う者 七十人 ロバート・J・ホエットン
- 37 家族を強めること—わたしたちに託された神聖な義務
十二使徒定員会会員 ロバート・D・ヘイルズ
- 41 証人マーティン・ハリス
十二使徒定員会会員 ダリン・H・オークス
- 神権部会 1999年4月3日
- 45 女性を敬う神聖な義務
十二使徒定員会会員 ラッセル・M・ネルソン
- 48 「神の子のようであって」 七十人 レイ・H・ウッド
- 50 フェローシップング 七十人 ネット・B・ローシェイ
- 51 神権と家庭 七十人 D・リー・トブラー
- 53 従順—自由への道
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 56 神権者—主の強力な軍勢
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 60 群れの羊飼い 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 日曜午前の部会 1999年4月4日
- 63 「わたしは盲人であったが、今は見えるということです」
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 71 監督と副監督
十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー
- 74 友情—福音の原則
七十人会長会 マーリン・K・ジェンセン
- 77 わたしたちの唯一のチャンス
中央扶助協会第二副会長 シェリー・L・デュー
- 79 愛と奉仕 十二使徒定員会会員 デビッド・B・ヘイト
- 82 「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 日曜午後の部会 1999年4月4日
- 86 教義を教える力
十二使徒定員会会員 ヘンリー・B・アイリング
- 90 靈感によって与えられた教会の福祉
十二使徒定員会会員 ジョセフ・B・ワースリン
- 94 帰郷 管理監督会第二副監督 キース・B・マクマリン
- 97 家庭内で家族の名前を傷つけてはならない
七十人 クリー・L・コッフオード
- 99 永遠の家族のきずなを結ぶ橋
七十人 デニス・B・ノイエッシュバンダー
- 102 消せない炎のように
十二使徒定員会会員 M・ラッセル・バラード
- 105 主の祝福への感謝 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 中央若い女性集会 1999年3月27日
- 107 荒れ野の中の光
中央若い女性第二副会長 シャロン・G・ラーセン
- 109 バプテスマの霊的な力
中央若い女性第一副会長 キャロル・B・トーマス
- 112 光に従う
中央若い女性会長 マーガレット・D・ナドール
- 115 日の栄えへの旅
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 118 指導者の言葉
- ソルトレーク・タバナクルから中継された衛星放送 1999年2月21日
- 120 子羊を見いだし、羊を養う
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 128 チャーチ・ニュース

御業は前進する

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

教会は予定された目標に向かって、予定されている使命を果たしているのです。



総 大会へようこそおいでくださいました。兄弟姉妹の皆さん、この偉大な世界大会へようこそおいでくださいました。かつては大会と大会の間の6か月が長く感じられたのですが、今は瞬間に時間が過ぎてしまうような気がします。わたしたちは再び1,000万人以上の力ある家族とともに集い、指導者として召された人々の話に耳を傾け、そして学び、信仰を新たにして、より良い人生を送るという決意を固め、楽しく交わっています。

わたしたちは、福音を広め、地上における神の王国と大義を築き上げるために働く、幸せで祝福された民です。人種や国籍、貧しい者、富める者にかかわらず、老いも若きもこそぞって、御名をあがめる主に対して同じ証を持ち、それを分かち合うために集っています。

わたしは教会が良好な状態にあることをお知らせできることを喜びとしています。御業は前進を続けています。2, 3の分野についてお話ししましょう。

わたしたちには現在およそ6万人の宣教師がいます。この7月には、伝道部が333か所となります。わたしたちは「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施〔しなさい〕』と言われた主の戒めを成就するために努力しています(マタイ28:19)。

さらに、布教活動以外の務めを果たしてくださるボランティアの方々と宣教師が13万7,629人います。熟年層がほとんどの彼らは、神の王国を心から愛するがゆえに、いかなる報酬を受けることもなく、自分たちの時間と才能をささげています。彼らの貢献はフルタイム職員に換算すると1万5,174人分の働きに相当し、賃金に換算すると5億3,100万ドル(約637億2,000万円)に相当します。何と驚くべきことでしょうか。

家族歴史の探究も加速度的な勢いで進められています。各地で自分のルーツに対する関心が高まっています。やがて、これらすべての動きがわたしたちの目指す大なる目的の達成に結びつけられていくことでしょう。子供たちの心がその父に向けられることにより、主の目的が成就されるのです。

この御業を定められた行く末に向かって前進させるために、わたしたちはかつて夢にも見なかったような規模で神殿を建設しています。昨年10月以来、わ



たしたちはアラスカのアンカレジで、メキシコのコロニア・フアレスで、そしてスペインのマドリードで神殿を奉獻しました。今年中にあと14の神殿が奉獻される予定です。

これは常に多くの問題に遭遇する、途方もなく大きな事業ですが、わたしはどれほど困難なことであろうとそれらは解決されて、目的を達成できるという確信を持っています。

わたしたちは教会員の必要を満たすために、多くの礼拝堂を建設しています。「けがの功名」という古いことわざがあります。アジアをはじめとする世界各地を苦しめている経済問題は地価の下落を招き、それによってわたしたちは安く建設用地を購入できるようになりました。

教会の多くの地域で^{せいさん}聖餐会への出席者が増加しており、また活発な会員の割合も上昇しています。

わたしは単に、世界中で主の御業がたくましく発展していることをお知らせ



大会時のタバナクル内部の様様。

するためにこれらのことを述べたにすぎません。

わたしたちは教会全体の会員数といったような大きな単位について話をしがちですが、しかし忘れてならないのはわたしたちが皆それぞれの必要と問題を抱え、夢と希望を抱き、信仰と確信を持つ個人であるということです。ある者は強く、ある者は弱いかもしれません。しかし皆、努力しています。それぞれに対処しなければならない問題があり、それらは深刻で難しいことです。わたしたちには、互いに成長し強め合うために仲間が必要です。わたしたちは「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め」ることを決して忘れてはなりません(教義と聖約81:5)。

わたしたちは、自分たちが多様性に富んだ世界に住んでいるということを忘れてはなりません。地上の人々はすべて天父の子供たちですが、多くの様々な宗教を信仰しています。わたしたちは寛容な心をはぐくみ、感謝の気持ちでお

互いを尊敬し合わなければならないのです。教義の違いがあったとしても、悪意を抱いたり、他を軽んじるいかなる態度も執ったりすべきではありません。

現在、コソボで残忍な仕打ちを受けている人々をわたしたちは心配しています。キリスト教徒であると口にしながら、異なる信仰を持つ人々にどうしてあのような野蛮な仕打ちを加えるのか理解に苦しんでいます。これらの残虐な行為の被害者に対して、わたしたちが人道的支援を迅速に行っていることをわたしは感謝しています。

教会が以前よりよく認められ、また理解されていることを喜びをもって、報告いたします。おおむね、報道機関はわたしたちに好意的です。彼らはわたしたちに誠実な態度で接しています。もちろん例外もあり、それは残念なことです。扇情的でそうした効果だけをねらう人々がいまだに古くからの教会に対する誤ったイメージを発信しています。しかしそのようなテレビの映像にしても、わた

したちに関する膨大な量の情報によってたちまちのうちに消されてしまうようです。昨日の新聞記事などすぐに忘れ去られてしまいます。その間にも、教会は予定された目標に向かって、予定されている使命を果たしているのです。

わたしたちの導き手である主によって与えられた偉大な使命を忘れることなく、忍耐をもって、ともに働こうではありませんか。これは主の教会なのですから。

それではこれから、兄弟姉妹たちの話を聞きましょう。すべての話者は、話の責任の重さを感じています。これから聞く話のためにたくさんの祈りがささげられ、努力が払われてきました。このすばらしい末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちの教義と実践に関して偉大でしかも最も重要な基礎の部分について、わたしたちの信仰を増し加えることができるよう、へりくだりイエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

力のかぎり 神の御言葉を 民に教える

十二使徒定員会会員
L・トム・ペリー

**もしわたしたちが祈りと研究を通してへりくだって教えるなら、
わたしたちはもっと効果的に教えることができるでしょう。**



1849年12月9日、日曜の朝8時、8歳から13歳までの30人ほどの子供たちが家の中に設けられた小さな教室に到着しました。子供たちは入り口で靴やコート、帽子に付いた雪を払い落とすと質素なベンチに腰かけました。そして、クラスが始まるのをわくわくして待ちました。外は寒く、雪の降りしきる日でした。しかし教室の暖炉は暖かく、打ち解けた雰囲気に満ちていました。リチャード・バラントインは、目を輝かせながら日曜学校の出席を取りました。彼は子供たちとともに歌を歌うと、「子供たちにイエス・キリストの福音を教えるために、自分の家のこの部屋をささ

げます」という内容の、静かながらも熱心な祈りをささげました。その声は豊かで、敬虔^{けいけん}の念と感動のこもった言葉が、よどみなく発せられました。このようにして、ソルトレーク盆地での日曜学校が創設されたのです。

日曜学校を組織することは彼にとって初めてのことでありませんでした。母国スコットランドにおいて、彼は救済長老派教会 (Relief Presbyterian Church) の活発な会員でしたが、それでも日曜学校を組織した経験がありました。彼が若人を教育して福音の知識を得させたいという大きな望みを持っていたのは当然のことと言えます。彼の育った家庭では、父親が『聖書』の章全体を暗唱しては、好んで子供たちに聞かせていました。食事前の祈りは当時の慣習でしたが、まず帽子を脱ぎ、感謝の祈りをささげずには、一口の水さえ飲まないような家庭でした。

やがて、新しい預言者がアメリカに出現した、というわさがスコットランド全土に広がりました。最初リチャードはこれらのうさをほとんど気に留めませんでした。しかし彼の教義的な疑問が以前にも増して大きくなるにつれ、彼はさらなる光と知識を率直に探し求めるようになりました。オーソン・プラット長老がエジンバラを訪れたのは、1841年のことでした。リチャードは彼のメッセージを聞き、そして

1年間この教会について研究しました。やがて彼は改宗し、北海でバプテスマを受けました。彼はこう言っています。「わたしはジョセフ・スミスが預言者であること、『モルモン書』が神の言葉であることを確信していました。そして、もしわたしがそれを受け入れなかったなら、わたしは滅ぼされるだろうことも確信していました。」教会への初期の改宗者の多くがそうであったように、彼は事業を処分して、母親と兄弟と姉妹の幾人かと連れ立って、アメリカに移住しました。彼らは1843年11月11日、ノーブーに到着しましたが、このとき町には大きな混乱が生じていました。結局、彼らはイリノイ州を去って、ウィンタークォーターズに向かいました。そこで彼は結婚し、間もなく西部への長い旅のために準備に取りかかりました。そして1848年9月にソルトレーク盆地に到着すると、すぐに家建てました。この盆地で最初の日曜学校が開かれたのは、この家でした。後に礼拝堂 (旧第14ワードの建物) が完成したとき、日曜学校はその新しい集会所に移転しました。

バラントイン兄弟は、生涯を通じて、若人に主なる救い主の福音を教えたいという熱心な望みを抱いていました。この最初の日曜学校の歴史を記してくれたわたしのいとこである故コンウェイ・バラントイン・ソーン兄弟に感謝しています (See Conway B. Sonne, *Knight of the Kingdom: The Story of Richard Ballantyne* [1949], 7-48)。

今年、日曜学校創立150周年を祝うに当たり、わたしたち一人一人がより良い教師となる責務について思い起こす機会となればと思います。わたしたちの所属する組織や人とのつながりのほとんどすべては、教えるというプロセスと関連しています。親の主要な責任の一つは子供を教えることです。職業面でのわたしたちの務めの多くも、人に教えることを伴います。また、わたしたちが教会で受けるどの責任も、何らかの形で教えることが要求されます。主は『教義と聖約』でわたしたちにこう教えておられます。

「また、あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。

熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。それは、理論において、原則において、教義において、福音の律法において、あなたがたが理解する必要のある神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられるためである。」(教義と聖約88:77-78)

1月1日付けで、わたしたちはいっそう効果的な教師となるうえで役立つ、新しい資料(日本では英文のみ)を受け取りました。この新しい『教会指導手引き』には、「福音の教授と指導」について述べられた項目があります。この項目で説明されている原則は、あらゆる面に应用できます。この項目にある二つの指示は、教師がいっそう効果的に召しを果たすために自らを備える特別な方法について触れています。

一つ目の指示は、わたしたちに救い主の模範に従い、主がお教えになったように教えることを勧めています。天からの教えを通して、主は現世におけるすべての使命のうち最も大なる使命に備えられました。ルカによる福音書にはこうあります。「幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みとその上にあった。」(ルカ2:40)

この後には、救い主の少年時代についてわたしたちが知ることのできる唯一の記述が続きます。12歳のとき、主は両親に連れられてエルサレムに行かれました。慣習に従って過越の祭を祝うためです。祭を終えて帰途に就いた両親は、イエスがいないことに気づきました。彼らはエルサレムに戻り、イエスを見つけました。

「そして3日の後に、イエスが神殿で教師たちの真ん中に座っておられるのを見つけた。教師たちはイエスの話を聞いたり、またイエスに質問したりしていた。

聞く人々は皆、イエスの賢さやその答えに驚嘆していた。」

(ジョセフ・スミス訳ルカ2:46-47)



テンプルスクウェアの東側にできた大会出席者の行列。

救い主の少年時代のこの模範から、主が神の御言葉を緊急に教えなければならないと感じておられたことが分かります。これと似た緊迫感を抱いていた一人の預言者がいました。ニーファイの弟、ヤコブです。ヤコブとその弟ヨセフは、この民の祭司と教師に任じられていました。彼らは、もし熱心に人々を教えなかったなら、自分たちで責任を取らなければならないと考え、自らの責任を非常に深刻に受け止めていました。『モルモン書』ヤコブ書第1章19節で、ヤコブはこう書いています。

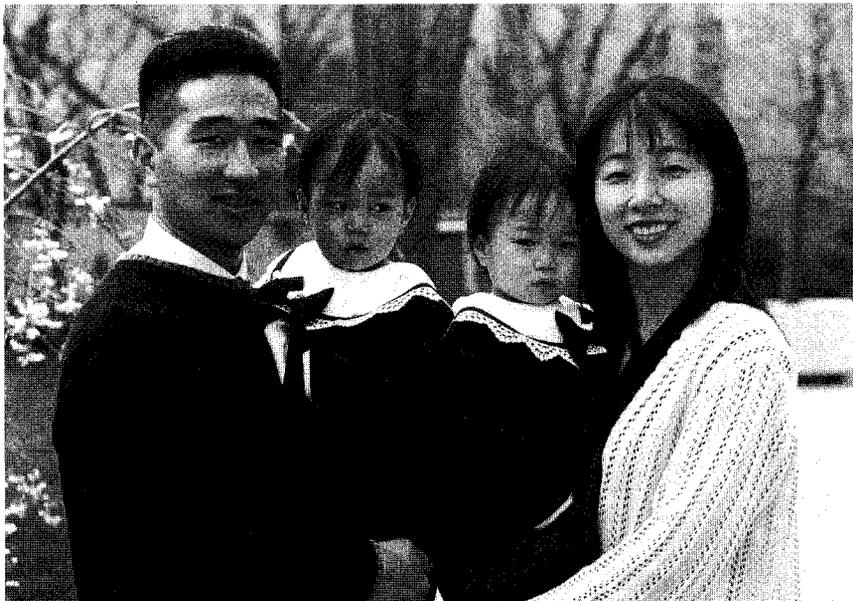
「そしてわたしたちは、もし自分たちが力のかぎり神の言葉を民に教えなければ、民の罪を自分たちの頭に受けるという覚悟で責任を受けたので、主に対して自分たちの務めを尊んで大いなるものとした。そしてわたしたちは、民の血がわたしたちの衣にかかることのないように、力のかぎり働いた。そうしなければ、彼らの血がわたしたちの衣にかかって、わたしたちは終わりの日に染みのない者とは認められないであろう。」(『モルモン書』ヤコブ1:19)

救い主のように、神の御言葉を学ぶことについて、教師も同様の緊迫感を抱く必要があります。わたしたちは教

義と聖約第93章で救い主が「最初から完全は受けず、恵みに恵みを加えられた」ことを知らされています(12節)。主はハイラム・スミスへの訓戒を通して、すべての教師にとって賢明な勧告をお与えになりました。こうおっしゃったのです。「わたしの言葉を告げようとしないうで、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約11:21)

良い教師になるうえで基礎となるのは、ほかの人たちにわたしたちの得た知識を伝えられるように、主の御言葉を真剣に研究することです。

わたしたちは、多くの神権時代を通じて維持されてきた聖なる預言者の言葉を授かっています。何という祝福でしょうか。主が預言者にその教えを書き記すように命じられたおかげで、『旧・新約聖書』はわたしたちに、福音の教えを時の初めから途切れることなく示してくれています。さらに、『モルモン書』という奇跡が主なる救い主の使命についてのもう一つの証と



して世に出されました。加えてわたしたちには、『教義と聖約』に含まれている啓示と、『高価な真珠』に含まれている教えと啓示があります。

このように、教えることが普遍的な責任であるため、聖文の研究を通して自分自身を備えるのは全教会員にとって必要なことです。

新しい指導手引きに記された二つ目の指示は、御霊によって教えることの大切さです。教義と聖約第42章にはこうあります。

「また、彼らは聖約と教会の規定とを守って実行しなければならない。また、御霊に導かれるままに、これらを彼らの教えとしなければならない。

御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」(教義と聖約42:13-14)

教師としての備えをするときにわたしたちを高め導いてくださる、神会の一員である聖霊を常に伴侶とできるのは、わたしたちにとって特権です。わたしたちは、「教えるときに、主の御霊により高められるよう主に請い願うなら、自信が増すであろう」という神の教えに従うことを通して自分自身を備えるべきです。わたしたちを導く御霊がともにあるとき、わたしたちは大いなる力で教えることができます。御霊の助けがあるときに受ける者と与え

る者の間に生じる知識の流れは、わたしたちが靈感によって教えるうえで不可欠のものです。このことを『教義と聖約』の次の聖句は教えてくれます。

「まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしから聖任され、慰め主すなわち真理の御霊によって真理の言葉を宣べ伝えるために遣わされる者は、真理の御霊によってそれを宣べ伝えるか、それとも何かほかの方法によって宣べ伝えるか。

もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。

さらにまた、真理の言葉を受け入れる者は、真理の御霊によってそれを受け入れるか、それとも何かほかの方法によって受け入れるか。

もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。

それゆえ、真理の御霊によって御言葉を受け取る者は、真理の御霊によって宣べられるままにそれを受けるということを、あなたがたが理解して知ることができないのはなぜか。

それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約50:17-22)

もしわたしたちが祈りと研究を通してへりくだって教えるなら、わたしたちはもっと効果的に教えることができます。そうすればわたしたちは、

主がわたしたちに教えたいと望んでおられることと一致し調和した形で、御霊の助けを受けながら御言葉を分かち合うことができるのです。

自分が教えることの影響について完全に理解している教師はほとんどいません。ある初等協会の教師の姉妹は、自分の教え方が後年、わたしにどれだけ大きな影響を与えることになるか想像もしなかったでしょう。わたしはニューヨーク市のとある会議室で彼女の教授法をまねたのです。彼女は視覚資料を用いてわたしたちの注意をつなぎ止めておくことに非常に熟練していました。彼女がレッスンで使っていたフランネルボードは、当時とても人気がありました。

さてここで、時間の流れを早送りして、わたしが仕事に就いていたときのとても重要な出来事についてご紹介したいと思います。1962年、わたしはある大規模小売店の管理職としてニューヨークに勤務することになりました。わたしの新しい責任の一つが理事会に予算の提示をすることでした。プレゼンテーションの数週間前、わたしは会社の社長室に呼ばれ、社長からどれほど理事会が予算を提示する人に過酷な要求をしてくるか告げられました。そして、理事会を納得させるようなプレゼンテーションをし、申請する予算への承認を得ようきつく言い渡されました。わたしは、圧倒される思いと自己不信の重荷を感じながら社長室を出ました。

翌日、わたしは会議室を下見に訪れ、部屋を見回しながら、プレゼンテーションを効果的にする方法はないものか、と頭をひねりました。そして会議室のいすに腰かけたとき、壁の大半を覆っている大きなフランネルに目が留まりました。きっと、内壁の防音効果のためにはられていたのでしょう。その大きなフランネルを見ていて、わたしはフランネルを使いながら教えてくれた初等協会の教師のことを思い出しました。わたしはソルトレークから、裏面がフランネルになった紙を取り寄せました。それが到着すると、その紙の上

に3つの異なった予算計画を作成しました。予算の提示がなされ、続いて討議が行われました。わたしは、まずフランネルから一つの予算計画表を取り外すと、適切なところで別の予算計画表を代わりにはり付けました。理事会のメンバーはフランネルボードを使ったわたしのプレゼンテーションをととても気に入ってくれました。わたしが二つ目の案の細目を提示し、理事会にその場合の予測結果を報告する度に、彼らはすぐに最初に提示した方の予算案をもう一度見たがりました。実は、この最初の予算案こそわたしたちが承認してほしいものなのです。プレゼンテーションはとても効果的だったようで、終わったとき、わたしは褒められました。そのプレゼンテーションが理由であったかどうかは分かりませんが、翌週わたしは社長室に呼ばれ、理事会がわたしを部長職から取締役に昇進させることを承認したと知らされました。

これは、家庭であろうと、教会の教室であろうと、あるいはどこかほかの場所であろうと、効果的に教えることが、いかに個人とその将来に大きな影響を及ぼし得るかの分かりやすい例です。偉大な教師は、数多くの人々に多大な影響を与えることができます。

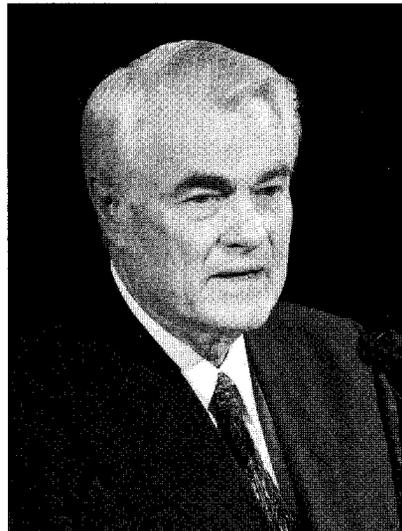
デビッド・O・マッケイ大管長はかつて、教師の重要性について次のように教えました。「教師はこの世の中で最も高貴な職業である。家庭の安定と清さ、国家の安全と永続性は、青少年への適切な教育にかかっている。親は子供に生きる機会を与え、教師は子供によりよく生きることを教える。」(David O. McKay, *Gospel Ideals* [1953], 436)。

神の祝福があって、わたしたちがさらに効果的な教師となれるよう、勉強し、備え、能力を向上させる決意をいっそう強めることができますように。靈感によって教えるときに初めて、福音のメッセージは世界に広がるということを心に留めましょう。力のかぎり神の御言葉を兄弟、姉妹に教えるというチャレンジをわたしたちすべてが受け入れられますように。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

どんよく 貪欲, 利己心, 甘やかし

七十人会長会
ジョー・J・クリステンセン

わたしたちは文字どおり神の御前に呼ばれて、わたしたちがそれらの資産を使ってどのように人々に恵みをもたらす、王国を建設したかについて報告することになる、とわたしは確信しています。



福音は悩んでいる人に慰めを与え、慰めを得ている人に悩みを与える、などと言う人々があります。今日、わたしは慰めを得ている人々、つまり裕福な人、貧しい人、そしてその間にあるすべての人々に向けてお話ししたいと思います。

主はこのように言われました。「あなたがた、金持ちで自分の持ち物を貧しい者に与えようとしない者は、災いである。」さらに、主はこう言われました。「あなたがた、貧しい者で心が打ち砕かれておらず、……その目が貪欲に満ちている者は、災いである。」

恐らく多くの方々が、だれかの書き残した次のようなささやかな祈りを耳にしたことがあると思います。

「愛する神様、

今日これまでのところ、すべて順調にきました。わたしはうわさ話をしていませんし、かんしゃくを起こしたりもしていませんでした。貪欲でなく、怒りっぽくなく、意地悪もせず、利己的でなく、自分を甘やかすこともありませんでした。けれども主よ、あと数分でベッドから起きます。それからは、あなたの助けがもっと必要になると思います。」

貪欲、利己心、甘やかしに打ち勝つには、だれもがたくさんの助けを必要とします。プリガム・ヤング大管長は率直にこう述べています。「この民についてわたしが最も恐れていることは、彼らがここで裕福になり、神とその民を忘れ、怠惰になり、そして自分から教会を離れて行くことです。……わたしが最も恐れていることは、彼らが富に堪えられないことです。」

繁栄は幾つかの重大なチャレンジを投げかけます。なぜならば多くの人々が、裕福になると概して怠惰になり、さらに貪欲と利己心、甘やかしに陥った結果、御霊を失って、文字どおり、「自分から教会を離れて行く」からです。

ほとんどの人がお金や物に心を向けています。モリス・チャルファントが書いているように、「20世紀最大の〔課題〕は、『どうしたら裕福になれるか』ということです。今日の人々の思いと……心を占めている事柄で、これ以上に大きなものはありません。……これは社会的な地位や生活環境にかかわりなく、あらゆる人に言えることです。」

お金自体は別に悪いものではないのですが、パウロはテモテにこう教えています。「金銭を愛することは、すべての悪の根である。」⁴ 裕福な人の中には、人々に恵みをもたらすために、また王国の建設のために富を使って、自分が得た繁栄に上手に対処する人もいます。けれども、多くの富者にとって、富は大きな問題を投げかけています。

わたしたちを脅かしている物質主義への対策として、ここに4つの提案をいたします。皆さんによく考えていただきたいと思います。

第1, 欲しいものと必要なものを混同してはならない。

わたしはこの点について母から大切な教訓を学びました。わたしの父は長年、毎年新しい車に乗り換える習慣がありました。第二次世界大戦が終わって間もなく、穀物の価格が急騰したころのある日、父は家族全員が目を見張るような高級車に乗って家に帰って来たのです。

ある日の朝、母はこう尋ねました。「新しい車は前のよりどれくらい高かったの。」父が答えると、母はこう言いました。「前の車でもわたしが行きたい所はどこへでも行けたわ。差額分をだれかわたしちよりもっとそれを必要としている人に使っていただいたらどうかしら。」

そして、そのとおりにになりました。翌年、父は安い車に乗り換え、余剰を分かち合うという方法を続けていきました。

注意していないと、わたしたちの欲しいと思っているものはいつの間にか必要なものになってしまいます。詩の一節を心に留めてください。「ほら、ほら、ぜいたくちゃん、泣かないで。そのうち必需品になれるんだから。」

第2, 子供に多くのものを与えすぎることによって、過度に甘やかしてはならない。

現代の多くの子供がわたしたち親が甘やかしすぎているために、ゆがめられた価値観の下で成長しています。財政的に恵まれていようと、あるいはほとんどの人がそうであるようにそれほど豊かでなかろうと、わたしたち親は子供が望むものをすべて与えようとして、楽しみにして待つ祝福、自分が持っていない何かを切望することから得る祝福を奪っていることが往々にしてあります。わたしたちが子供に教えることのできる最も大切なことの一つは、拒否することです。一般的に、即席の満足を与えていると子供は弱い人間に育ってしまいます。一生懸命努力したことがないまま、まことの偉大さを身に付けた人が一体何人いるでしょうか。

マックスウェル長老はこの点を心配して、このように述べています。教会のすばらしい青少年や若い独身者の中には、苦勞を知らない人がいます。彼らには欲しいものは何でも手に入ります。ほんのわずかでも丁重で感謝のこもった彼らからの言葉をむなしく期待している親たちがガソリン代・保険料までも含めて支払った車をはじめ、様々なものが彼らにはあてがわれているのです。このように、当然のように受け取られるそれらのものが子供たちを利己的にし、ものに対する執着心を植え付ける原因となる傾向があるのです。⁵

ある賢い母親はこのように言っています。「子供たちには、与えることができる場合であっても、与えないようにしています。子供たちのために思って与えないのです。」

フレッド・ゴスマンはこのように述べています。「欲しいものが何でも手に入る子供は、命の続くかぎりものを欲しがります。」⁶ 子供の人格を形成するうえでは彼らの生涯のどこかの時点で、「地球は今もお太陽の周りを回っている」のであって、彼らを中心にしていくわけではないと学ぶことが重要です。⁷ そのためには、「どうしたら、自分たちがいることによって、世界をより良い

所にするだろう」と自問するように子供を訓練する必要があります。

わたしたちが住んでいる世界は躍動感に満ちた多彩な娯楽であふれています。おもしろくなければ、退屈で価値がないと考えるような子供たちを育ててしまう世界です。家族の活動においてさえも、働くことと遊ぶことの融合を考える必要があります。わたしが成長期にあったころの忘れられない経験の幾つかは、屋根板の交換や塀の作り方、庭仕事を学ぶといった家庭での活動に関連したものです。多くの子供たちにとってそれは労働というよりはむしろ少しの作業を含んだ遊びと言えるでしょう。

甘やかしすぎる結果、多くの子供は実社会に出る準備のないまま家を離れて行きます。ヒンクレー大管長はこのように語っています。「もちろんわたしたちは日々の糧を得ていかなければなりません。主はアダムに、生涯顔に汗してパンを得なければならぬと命じられました。特に結婚を控え、妻とやがて生まれてくる子供を扶養する責任を引き受けられる若い男性にとって、自立への備えをすることは非常に大切です。」⁸

料理や裁縫をはじめとする生活上の大切な技術を身に付けないまま結婚する青年男女があまりにも多いのです。これら必須の技術に関して無知であること、加えて金銭管理についての理解の欠如といった問題が、子供たちの結婚に失敗を招く種となってまかれています。

わたしたちの多くが高価な流行とファッションの奴隷となる子供を育てているのではないのでしょうか。この聖句を心に留めてください。「あなたの宝のある所には、心もあるからである。」⁹ わたしたちがどこに宝を蓄えているかを知るにはどうすればよいのでしょうか。それには、時間と金銭と思いをどこに向けているかを評価する必要があります。買い物や支出にどれほど心を向けているかを評価してみませんか。

子供たちに対して流行の中から適切な服を選んで着ることさえ避けるように言うつもりはありません。彼らに





意見を交換し合う、大管長会の3人。左から、トーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

とってそれは非常に大切なことかもしれないからです。けれども、洋服ダンスに入り切れないほどは必要ないでしょう。わたしたちには教会員として、身なりを整え、魅力的かつ上品な態度で人々に接する責任があります。それはうまく計画すれば、衣服に途方もないお金を使わなくとも実行できることです。

『モルモン書』には、衣服に関連した高慢の問題を警告する預言者たちの言葉が10か所以上にわたって記録されています。一つの例を紹介します。「さて、……教会の人々は次第に高慢になり始めた。それは、彼らが……得た非常に多くの富と織り目の細かい絹と、より糸で織った亜麻布……のためであった。彼らはこれらのものに恵まれて非常に高価な衣服を身に着けるようになり、高慢な目をもって高ぶった。」¹⁰

わたしたちが子供たちとともに、しばしば引用されている開拓者のモットーに従って生活すれば、これら物質分野の問題は解決します。「修繕するか、使い切るか、間に合わせるか、なしで済ませるか。」

第3、何度も語られているように、控えめな生活を営み、負債をあたかも疫病のように避ける。

ヒンクレー大管長は最近、ヒーバー・J・グラント大管長の言葉にわた

したちの注意を向けています。「人の心と家族に平安と満足を与えるものを一つ挙げるとすれば、それはわたしたちが収入の範囲内で生活することです。わたしたちを虐げ、落胆させ、希望を失わせるものを一つ挙げるとすれば、それは返済できない借金を負い、果たせない義務を負うことです。」¹¹

サミュエル・ジョンソンはこのように述べています。「借金を単なる不自由なものと考えることに慣れてはならない。やがてそれは不幸へと姿を変えらるからである。」

あなたは家族を心地よく住まわせるのに、実際どれほどの大きさの家が必要でしょうか。これ見よがしの家や虚栄心の満足、必要をはるかに超えて求めるなどの、霊的、経済的な基盤を揺るがすようなことをしてはなりません。

もしわたしたちが自立しており、分かち合える立場にいるならば、言うまでもなく資産を確保すべきです。収入の範囲内で生活し、負債を避けていれば、資産を蓄えることが可能です。平均的な収入を持ちつつ生涯をかけて資産の形成を実行している人々がいるかと思う一方で、多額の給料をもらいながら、実行していない人々もいます。この違いはどこから来るのでしょうか。それは収入よりも支出を抑え、貯蓄に

回し、複利を活用しているかということなのです。

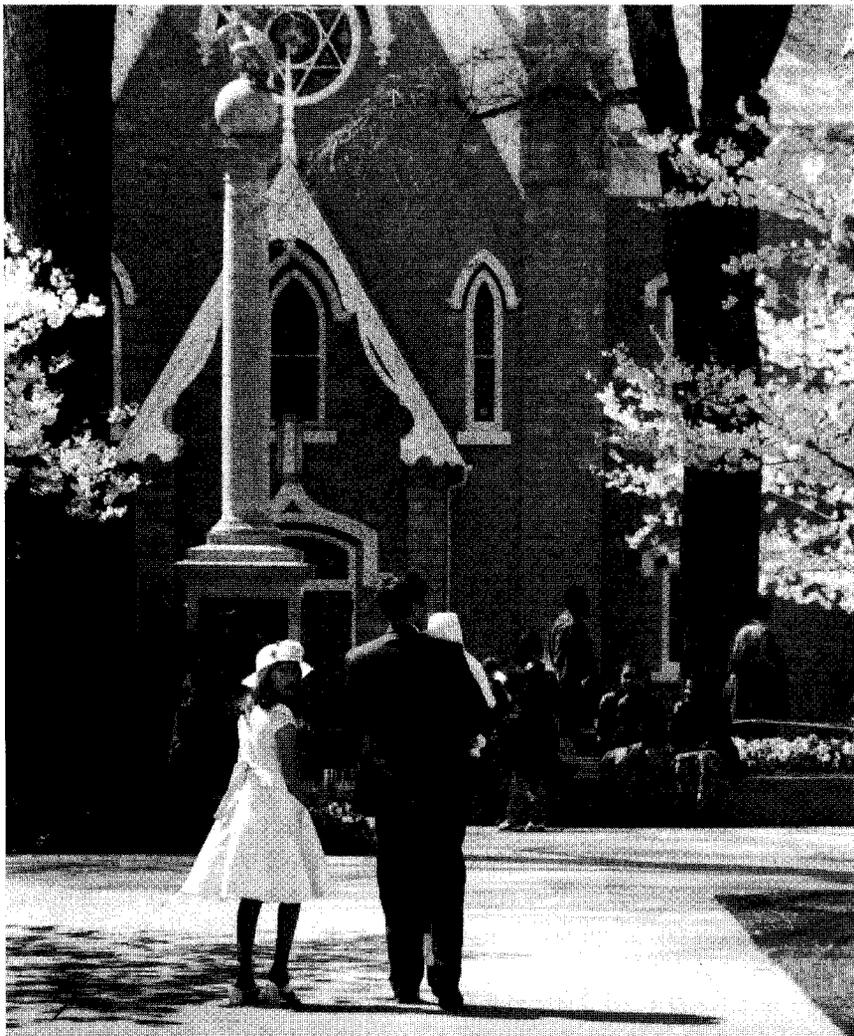
財務コンサルタントはこのように指摘しています。「ほとんどの人は富を誤解しています。……富と収入は同じものではありません。毎年、豊かな収入を得て、それをすべて使っていたら、あなたは裕福になるための道を歩んではいません。単に、高級な暮らしをしているにすぎないのです。富とは、蓄えるものであって、使ってしまうものではありません。」¹²

第4、惜しみなく与え、分かち合う。

わたしたちよりも恵まれない人々に心と思いを向ければ向けるほど、貪欲や利己心、甘やかしがもたらす霊的な腐敗を避けることができます。わたしたちが手にしている資産は管理を任されているのであって、所有物ではありません。わたしたちは文字どおり神の御前に呼ばれて、わたしたちがそれらの資産を使ってどのように人々に恵みをもたらす、王国を建設したかについて報告することになる、とわたしは確信しています。

預言者ヤコブは、富をどのようにして得、何のために使うべきかについて優れた勧告を与えています。

「しかし、富を求める前に神の王国を求めなさい。



部会と部会との間のテンプルスクウェアのアッセンブリーホール外側の様子。

キリストに望みを抱いてから富を求めるならば、富は得られるであろう。しかし、富を求める目的は、裸にいる者に着せ、飢えている者に食物を与え、束縛されている者を自由にし、病人や苦しんでいる者を救うなど、善を行うことである。」¹³

什分の一を正直に納めることに加えて、貧しい人々に対して惜しみない援助の手を差し伸べなければなりません。どれほどの金額を納めたらよいのでしょうか。わたしはこの点を明確にしてくれたC・S・ルイスに感謝しています。「余分の金額以上を与えること、これが唯一の安全な規定ではないかと思えます。……慈善の寄付がまったく不便や支障を来さない程度なら、……その金額ではまだまだ不足だということです。慈善目的に寄付したがために、

したいと思うことができなくなる状態ではなければなりません。」¹⁴

わたしたちが献金するにふさわしい個人はたくさんいますし、目的も数多くあります。教会の断食献金と人道的救援活動基金に惜しみなく献金すべきです。深遠で意義のある生活を家族に望んでいるならば、わたしたちは勇気をもって、宝をどこに蓄えているかを調べ、そして貪欲や利己心、甘やかしが生む落とし穴を避けなければなりません。

さあ、皆さん、覚えていきましょう。

● 欲しいものと必要なものを混同してはならない。

● 子供を甘やかしてはならない。

● 控えめな生活を営み、負債を避ける。

● 惜しみなく人々に与える。

与えることはまことに、わたしたち

の信仰の真髄です。復活祭の時期に当たり、わたしたちは再び、「神〔天父〕はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」¹⁵ ことをお祝いします。御子は地上に来て、望むならば何でも手に入れることがおできになりました。けれども、わたしたちすべてのために、貪欲や利己心、甘やかしのいかなる影からも無縁のつつましい生活の模範を示すことを選びになりました。主が送られた究極の模範となる生活に少しでも近づくために努力できるよう願っています。

イエスがキリストであられ、この教会が生ける預言者によって導かれ、3日目に墓は文字どおり空になっていたことを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 教義と聖約56:16-17
2. Quoted in Bryant S. Hinckley, *The Faith of Our Pioneer Fathers* (1956), 13.
3. Morris Chalfant, "The Sin of the Church," *Wesleyan Methodist*; quoted by John H. Vandenberg in Conference Report, Oct. 1965, 131; or *Improvement Era*, Dec. 1965, 1154.
4. 1テモテ6:10参照
5. BYU devotional, 12 Jan. 1999.
6. *Spoiled Rotten: American Children and How to Change Them* (1992), 32.
7. Gosman, *Spoiled Rotten*, 11, and inside front cover.
8. 「あなたはむさぼってはならない」『聖徒の道』1991年2月号, 4
9. マタイ6:21
10. アルマ4:6
11. *Relief Society Magazine*, May 1932, 302.
12. Thomas J. Stanley and William D. Danko, *The Millionaire Next Door* (1996), 1.
13. 『モルモン書』ヤコブ2:18-19
14. *Mere Christianity* (1952), 67.
15. ヨハネ3:16

家族を神殿に備える

中央若い女性第一副会長
キャロル・B・トーマス

**わたしたちの最大のチャレンジは、自分たちの家族を神殿に備えさせること
なのです。まず両親にその責任がありますが、祖父母やおじ、おば、
さらに兄弟姉妹も、家族を教えることができます。**



兄 弟姉妹の皆さん、わたしは今日ここでお話ができることを喜んで、と思えます。

若い女性会長会の責任を頂いて以来、様々な場面で幸せを感じています。1か月前、訓練集会のためにエクアドルのグアヤキルに行きました。ホテルに到着したときには、すでに日が暮れていました。翌朝カーテンを開けてみると、山の手のサンタアナヒルズに美しいかこう岩の建物がそびえ建っていました。目を見張る美しさは一目瞭然でしたが、建物の上部に天使モロナイ像を見つけてようやくそれが神殿であると気づきました。そして気づいたときには目に涙が浮かびました。その神殿はその地に住む教会員が受けるすばらしい祝福の象徴です。

「神殿はあらゆる建物の中にあっても異彩を放っています。……それは聖約

と約束の場所です。わたしたちは祭壇で創造主なる神の御前にひざまずき、永遠の祝福を約束されるのです。」(Gordon B. Hinckley, *Teachings of Gordon B. Hinckley*, [1997] 632-633) どこへ行っても、神殿が建築されるのを目にしてきました。南アメリカであろうと、世界中のどこであろうと、神殿は神の聖徒らを高め、地の面を変えていくことでしょう。

愛する預言者により32の神殿建設の発表がされてから、まだ1年しかたっていません。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はかつてこのように述べました。「今は世界の歴史の中で、神殿建設の最も偉大な時代です。」(*Teachings*, 629)

末息子のスペンサーは現在モンゴルで伝道していますが、伝道部長が宣教師と会員に向けて、教会を確立する彼らの義務について話をしたときのことを次のように書き送ってくれました。「コックス部長が質疑応答の時間を設けると、最初の質問は『モンゴルにはいつ神殿が建ちますか?』というものでした。モンゴルの人々は生活の中でさらに福音が大きな位置を占めていくようになることを渴望しています。自国語の『モルモン書』すらまだないのに、神殿を望んでいるのです。」

どうしてこんなに神殿が騒がれているのでしょうか。簡単に言えば、神殿の目的は「神の律法と戒めに従うすべての人を贖う」ということです。完全な福音がアダムに啓示されました。いかなる時代にあっても、聖徒たちは何らかの形で神殿を持っていました。」(デ

ビッド・B・ヘイト「神殿における個人の礼拝」『聖徒の道』1993年7月号, 26)

ジョセフ・スミスはこのように述べました。「この世において神が我々に負わせられた最大の責任は、我々の死者を捜し求めることである。」(*History of the Church* 6: 313) もしそれが真実であれば、親や、家族の一員としてのわたしたちの最大のチャレンジは、自分たちの家族を神殿に備えさせることなのです。まず両親にその責任がありますが、祖父母やおじ、おば、さらに兄弟姉妹も、家族を教えることができます。

主人とわたしが神殿で結婚したとき、重要事項として、神殿の外では神殿での事柄を決して話し合うべきではないと理解していました。儀式が秘密だからなのではありません。神聖だからなのです。「神殿で行われる儀式は、準備のできていない人々に施すことがないよう、秘密にされています。」(ボイド・K・パッカー「神聖な事柄」『聖なる神殿』2) わたしたちが熟慮し、良識を働かせるなら、家族の中にあっても、子供たちを神殿に備えるのに役立つ真実がたくさんあります。

以下のことを考えてみてください。

● 神殿着の神聖さについて教えてください。神殿ではすべて白いものを身に着けます。白は清らかさを表します。

● 神殿は主の学びやです。ヒンクレー大管長はこのように述べています。「[神殿は] 神にかかわる崇高で神聖なことを学習する学びやともなります。」(「大管長会メッセージ——ソルトレーク神殿」『聖徒の道』1993年11月号, 6)

● 神殿参入のためにふさわしくなるという意味を教えてください。若いときから神殿に入るためのふさわしさの原則を理解し、そのとおりに生活するよう勧めてください。そうすればエンダウメントを受けてガーメントを着用する段階になって、服や生活様式を一新しなくて済むと子供たちに教えるのです。若い女性がひざ丈のスカートをはいていれば、神殿でエンダウメントを受けた後に新しい服を買う必要はありません。神殿に行くことを望んでいる若い男性であれば、社会生活におい



て教会の標準を遵守することでしょう。

●福音を語る際の言葉が理解できるように教えてください。「エンダウメント」「儀式」「結び固め」「鍵」という言葉は何を意味するのでしょうか。ある幼い男の子は、両親が神殿の結び固めについて話をすることを耳にし、こう尋ねました。「何を結んで固めるの?」

どこで子供を教えるのでしょうか。家庭の夕べは改まった機会ですが、それ以外にも多くの場所で神殿への霊的な思いについて語ることができます。わたしが好んで語る時間は、夜子供たちが床に就くときでした。わたしも彼らのベッドの上に横たわり、霊的な事柄について話したものです。平安と静けさの中で、御霊が子供たちの心と魂に、わたしの語る言葉が真実であると穏やかに証してくれるのです。

当然、ヨセフとマリヤも家族に神殿について教えたと考えられます。ペリー長老も話したように、救い主が12歳のとき、両親はイエスをエルサレムの過越の祭に連れて行きました。イエスが居残ったとき、イエスはその年齢の男の子たちが喜びそうな娯楽施設におられたわけではありませんでした。両親は神殿にイエスがおられるのを見つけました。恐らくマリヤは夜イエスを寝かせるとき、これらの神聖で尊い真理について証をしていたのでしょう。

神殿に関するわたしの最初の思い出は、まだ小さかったころのことです。

神殿はすばらしい所であろうと知っていました。それは両親が忠実に神殿に参入し、神殿から帰って来るときは良い雰囲気だったからです。そして神殿着の神聖さを理解したのは、母がそれについて愛と敬意をもって話していたからです。

ハワード・W・ハンター大管長はこのように述べました。「神殿で味わう霊的な思いを子供たちに伝えてください。より熱心に、またもっと安らかな雰囲気の中で、……話しても差し障りのない事柄を子供たちに教えるようにしましょう。子供たちの目に触れるように、家の中に神殿の写真を飾ってください。」(「神殿に心を向ける民」『聖徒の道』1995年5月号、6) アフリカで訪問した家庭ではどこでも、神殿の写真をさりげなく、しかも美しく飾っていました。

家族を神殿に備えさせるとき、新しい理解がもたらされます。わたしが学んだことの幾つかを分かち合いたいと思います。

1. 神殿に度々参入すれば、生活の中にバランスを得ることができます。神殿から帰って来ると、幸福感が増します。御霊の影響により、この世の葛藤から守られるのです。ヒンクレー大管長による約束に耳を傾けてください。「教会の中でもっと神殿の業が行われるようになれば、利己心、争い、中傷が今より少なくなるでしょう。そして

さらに霊性が高められ、お互いへの愛が増し、神の戒めにより従順になることで、教会全体が高められるでしょう。」(Teachings, 622)

2. 神殿の霊的な雰囲気により、世俗的なものへの関心が薄らぎます。定期的に参入すれば、最新のファッションで身を固めるのを感じなくなり、世俗的な娯楽に魅了されなくなります。

3. 神殿は啓示を受ける場所です。何年も前のことですが、神殿の中に足を踏み入れたとき、次の言葉が心に浮かびました。「人前で話せるよう学びなさい。」でも「人前で話すことがいつ必要になるというのかしら」と思いました。それから何か月もの間、力不足ながらも、受けた靈感に従いたいという望みを育てようと努めました。地元の図書館で、ある演説家のテープまで借りました。その演説家は、自分の目標は将来モルモンタバナクルで話することであると断言していました。当時わたしは思いました。「タバナクルで話をするなんて、わたしには絶対ないわ。」

ジョン・A・ウィットソー長老はこのように述べています。「神殿の内外を問わず、最も予期していないときに啓示として、心を悩ませている問題への解決が与えられるからである。……神殿は啓示を期待できる場所である。」(“Temple Worship,” *Utah Genealogical and Historical Magazine*, April 1921, 63-64)

4. わたしが学んだ最大の教訓の一つは、サタンはわたしたちを神殿参入から遠ざけようとするということです。友達が教えてくれました。神殿参入するときは、だれにもその旨を知らせないそうです。車に飛び乗り、一目散に行くだけなのだそうです。もしそうしなければ、必ず自分を神殿に行かせない何か起きるからだ、と言っていました。

ローガン神殿の神殿長による警告を読んだのを覚えています。サタンとその僕たちは「人々の耳にささやき、神殿に行かないようにと説得する。」(“Genealogical Department,” *Church News*, 12 Dec. 1936, 8) 「神殿の業は末日聖徒

に靈的な力を非常に力強く与えるものであるため、それに反対する力も強く働きます。」(ボイド・K・パッカー『聖き宮』「聖徒の道」1992年6月号, 23)

5. エリヤの靈を地上で感じる事ができません。教会の青少年とともに働いていると、彼らが神殿に引かれてい^まるのを目の当たりにします。

中央アメリカのニカラグアでは、49人の若い女性とその指導者のグループが、グアテマラシティー神殿に2,000人の名前を持って行きました。どの若い女性もお金をためるのに1年かかりました。この忠実な若い女性たちは2日間バスに乗り、3つの国の国境を越え、そして神殿に2日または3日滞在して帰途に就きました。

別のワードでは、若い人たちが家族に心を向け、1万人の先祖の名前を見つけました。神殿のある場所では、青少年が死者のためのバプテスマを受けるのを目にします。毎週受けることもあります。

6. 神殿では、特に絶望を感じているときに、主の御靈が慰めや平安を与えてくれます。最近わたしは神殿で、35歳の女性に会いました。言葉を交わしたわたしは、彼女に、ご主人とともに参入されているのかどうか尋ねました。その姉妹は優しい目をしながら、ご主人が3か月前に脳腫瘍で亡くなったことを話してくれました。神殿は彼女の心のよりどころであり、神殿で見いだすことのできる御靈は彼女に慰めと平安を与えるのです。そして恐らくご主人がそこにはおられるのでしょうか。

わたしたちは自分自身に「どのくらい頻繁に神殿へ行くべきでしょうか」と尋ねることができます。わたしたちの指導者は決してどのくらい頻繁に神殿へ行くべきかとは言いません。その答えは人それぞれに異なるからです。様々な年齢層の女性で神殿の近くに住んでいる人の多くは、週に1回参入するように心がけています。友人の一人はフルタイムで仕事をしていましたが、月に1日を神殿で過ごし、セッションを何回か受けていました。このような女性は従順ですが、さらに自分たちの生

活の中で受けている神権の権能の力も理解しています。

若い両親にとって、神殿は月に1回のデートの場になるかもしれません。パッカー長老はこのように述べています。「皆さんは恐らく分かると思います。わたしたちは家族の務めとして家族歴史活動を確立しようとしているのです。幼い子供たちを育てている夫婦は、遠くの神殿に頻繁に行けないからといって、至らなさや罪悪感を抱く必要はありません。母親は重要な出来事を書き留めたり、写真や思い出の品を集めたりすることで貢献することができます。これらすべては、忙しい母親のスケジュールに合わせて行ってください。」(“A Plea to Stake Presidents,” leadership training meeting, 1 Apr. 1988)

わたしの母親はスクラップブックを作りませんでした。受け継ぎに対する愛をわたしに与えてくれました。母は先祖の尽きせぬ話を語りながら、先祖を愛するように教えてくれました。

パッカー長老は続けてこのように述

べています。「父親と母親は儀式や聖約について話すことができます。声の抑揚で、神殿という単語を口にする度に、強調して発音することができます。……時が来れば、家族に対する責任が多少軽減され、収入も多少増えることでしょう。そのときに、教会員はもっとこの神聖な〔神殿の〕業に力を入れることができますし、そうすべきです。」(“A Plea to Stake Presidents,”)

母親と父親の皆さんにお願いします。御自分の息子さんと娘さんに神殿の聖約の意義について教えてください。こう教えるのです。「ガーメントの着用は神聖な特権です。……〔それは、〕救い主イエス・キリストに従うという内面的な決意を外に表すものです。」(1996年11月5日付けの大管長会からの手紙)

兄弟姉妹、生ける神の僕として、この神聖な神殿の業を推し進めていきましょう。神殿参入に靈的に備え、主の御前に立てるように、子供たちを教えてくださいますように。イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。



父親らの手で

十二使徒定員会会員
ジェフリー・R・ホランド

〔父親に求められる〕最も大いなることは、父親が養い育てる子供の幸福と子供の霊を守るために全力を尽くすことです。



この復活祭の週末にわたしは、復活された主イエス・キリストだけではなく、主のほんとうの父であり、わたしたちの霊の父であって神である御方にも感謝をささげたいと思います。神は、完全であった独り子の犠牲を受け入れ、主の何時間にも及ぶ贖いと贖罪を通じてすべての人の子らを祝福してくださっているのです。主から愛されたヨハネによる次の宣言がとりわけ意味を深めるのは、復活祭の時期をおいてほかにないでしょう。この宣言では、御子だけでなく御父も次のようにたたえられています。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」¹

未熟ではあっても、わたしも父親の一人です。しかし、あのような方法で自分の愛する息子の深い苦しみとはり

つけを見守らざるを得なかった天上の神の苦しみを理解することなどとうていできません。御父の本能と衝動が、苦しみとはりつけを阻止し、御使いを遣わして妨げようと叫んでいたことでしょう。しかし御父はそんなさいませんでした。目の前に展開されたすべてを堪え忍ばれました。それがアダムとエバに始まり世界の終わりに至るすべての御父の子供たちの罪に対して、救いの代価を払い得る唯一の方法であったからです。完全である御父と御子に、わたしはとこしえに感謝することでしょう。御二方は苦い杯に酔うことはなさいませんでした。また、不完全で力に欠け、容易につまずき、すぐに失敗するわたしたちを見捨てられなかったのです。

最初の復活祭の時期における、「贖い」のこのようなすばらしさについて考えるとき、わたしたちはこの御父とキリストとの関係が、救い主が教導の業に携わられた時代に一貫した、最も優しく、感動的なテーマの一つであったことに気づきます。イエスの存在の意義、イエスの目的と喜びはすべて、御父に喜びをもたらし、御父の御旨に従うことに集中していました。イエスは常に御父のことを考え、御父に祈りをささげられていたことでしょう。わたしたちとは異なり、主は、御自身の望みを天へと向けるために、日々の中でどんな危機も、落胆するような変化も必要とされませんでした。主は常にその本能から、心からの熱意をもって天を仰ぎ見ておられたのです。

現世で主が教導の業に携わられた期間を通じ、キリストは一瞬たりとも虚

栄心や私欲に駆られることはなかったでしょう。一人の若者が主を「善人」と呼ぼうとしたとき、ただ一人、天の御父だけがそのような称賛に値するとして、そのような称賛を自らのものとはされませんでした。

主が教導の業を始めて間もないころ、主はへりくだってこのように言われました。「わたしは、自分からは何事もすることができない。……わたし自身の考えですのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めている……。」²

聞く者をその力と権能で圧倒した教えに続いて、主は言われます。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。わたしは自分からきたのではない。……わたしをつかわされたかたは真実である……。」³そして後に再びこう言われます。「わたしは自分から語ったのではなく、わたしをつかわされた父ご自身が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったのである。」⁴

御父にまみえたいと望み、イエスがその言われるとおりの御方であると直接御父からお聞きしたいと望む人に対して、主はこのようにお答えになりました。「もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知っていたであろう。……わたしを見た者は、父を見たのである。」⁵イエスが弟子たちの中に一致を保ちたいと望んだとき、主は御自身と神との関係を例に取って祈られました。「聖なる父よ、わたしに賜わった御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」⁶

主は十字架に向かうときでさえ、それを阻止しようとした弟子たちを制止して言われました。「父がわたしに下さった杯は、飲むべきではないか。」⁷言葉に表現し難いほどの試練が終わると、主は最も平安にあふれ、現世での教導の業の報いに値する言葉を口にされました。苦痛の最後に、主はこう言われたのです。「『すべてが終わった。』……父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」⁸そしてすべてが終わり、主は御父のもとに戻られたのです。



わたしは正直幾度もその瞬間について、そしてその後すぐに起こった復活について考えました。そして御父と御子との再会はどのようなものだったのかと思いました。あれほど御子を愛しておられた御父、そしてすべての言葉と行いで御父に栄光を帰して尊んだ御子。それまで一つであった御二方が再会されたとき、抱擁はどのようなものだったでしょう。神である同僚同士として、今どのように過ごされているのでしょうか。わたしたちはただ想像し、敬服するほかありません。わたしたちは復活祭の週末に、そのような関係を幾分か自分でも体験できるような生活をしたいと切に望んでいます。

父親として、わたしはわたしやほかのすべての父親たちが、地上で息子や娘たちと、より親密な強い関係を築くため、さらに何かできないものかと考えています。御子が御父に抱かれていたような思いのごくわずかでも、世の父親が子供から示されたいと望むのはおこがましいでしょうか。天の御父が御子に愛を注がれた姿に倣おうとさらに努めるならば、わたしたちも子供から同じ

ような愛情を得られるかもしれません。いずれにせよ、若人の中に形成される神の概念は、地上での両親に見いだされる属性が中心となっていることをわたしたちは確かに理解しています。⁹

先に述べたもののほか、理由はまだありますが、最近読んだ本の中で『父親不在のアメリカ』(Fatherless America)という書物ほど衝撃を受けたものはありません。この研究の中で、著者は「父親不在」が「この世代における最も有害な人口学的傾向」であり、子供を傷つける最たる要因であると述べています。彼は確信をもって、それが貧困から犯罪、未成年の妊娠、幼児虐待、果ては家庭内暴力に至る、最も切迫した社会問題の主因であると断言します。この時代のおもな社会問題には、子供の養育から逃避する父親の問題も含まれます。¹⁰

物理的に家を空ける父親より深刻なのは、霊的に、あるいは感情的に家族から離れている父親の問題です。幾ら父親が家庭にいても心が家族から離れていれば、その罪は、物理的に家を空けているという罪以上に破滅を引き起こしかねません。あらゆる年代層から、様々な家庭環境で育つ子供2,000人を対象に、お父さんにいちばん感謝しているのは何かと尋ねたところ、皆一様に「一緒にいてくれること」と答えました。この答えを聞いて、なぜわたしたちは驚かないのでしょうか。¹¹

最近、カンファレンスの責任で出会った一人のローレルの少女が、わたしたちが訪問した後に手紙をくれました。手紙にはこう書かれています。「せめて父が、わたしにとって霊的にも感情的にもどれほど必要な存在か分かってくれたらと思います。どんな形でもかまわないので、わたしに優しく話しかけ、温かく接してほしいのです。わたしの普段の生活で何が起きているか積極的に関心を持ち、祝福を与え、あるいは少しの時間ただ一緒にいてくれるだけでも、それがわたしにとってどれほど大切なことか、父は分からずにいると思います。父が不器用で、気持ちをうまく表現できないために気後れする

のは分かります。でも、ただ努力してくれるだけで、父が思うよりもずっとわたしにとっては意味があるのです。わたしを愛してくれていることは知っているのですが、まるで感謝していないように受け取ってほしくありません。以前、父から小さなメモをもらいました。そのメモの最後には「愛しているよ、お父さんより」と書いてありました。そのメモを宝物にしています。これからはかけがえのないものの一つとして大事に残していきます。¹²

わたしもこの若い女性と同様、この話が父親に対する感謝が欠き、父親に自らの至らなさを自覚させる趣旨のものであると、皆さんが受け止めることのないよう願っています。ほとんどの父親はすばらしく、すてきな人々です。作者は分かりませんが、若いころに読んだ物語に、このような一節がありました。

「疲れた顔の、ただの父親だけど
家に帰る、日々の務めを終えて
骨折って働き、
来る日も来る日も努力して
どんな事態にも立ち向かう。
心の中にわき上がる喜び、
だって家族が
帰って来た彼の姿と声に、
喜んでくれるから。

持っているものはすべて与える。
ただの父親だけど
小さな子らのために道を整え、
何事も断固として
厳格な勇気をもって行う。
祖父が父にしたように。
これは父への、ほくの書いた詩
ただの父親だけど——
最もすばらしい人。」

兄弟の皆さん、たとえわたしたちが「最もすばらしい人」とは言えず、力の限界や欠点があっても、聖なる御父が備えられ、聖なる御子によって模範を示された力強い教えゆえに、わたしたちは正しい方向に向かって進んで行くことができるのです。御父の助けにより、わたしたちは親として、想像以上の

受け継ぎを残すことができます。

最近父親になったある人が次のように記しています。「息子がわたしの方を見ているのに気づくと、わたしは父と過ごした日々をよく思い出し、父のような人になりたいと望んでいた当時が目には浮かびます。自分専用のひげそりとシェービングクリームを持って、毎朝父の横でひげをそり、夏、父が芝刈りをする後について、行き来していたこと思い出します。」

今、わたしは自分の導きに息子が従うよう望んでいます。しかし、息子がわたしに従うだろうと思うと恐くなります。この小さな男の子を腕に抱いていると、『天国への郷愁』に駆られます。それは神と同じように愛し、安らぎを与え、守ることを望む気持ちです。まだ青少年のころ、どのような恐れを感じても、答えはいつも、『お父さんならどうするだろう』という思いでし

た。今、わたしには養う子供がいます。わたしは天の御父に対し、父に抱いたような思いで、自分がすべきことを学べるよう、頼りにしているのです。」¹³

最近、大学時代の友人から次のような手紙が届きました。「わたしの少年期は混沌とした、不安定な時期でしたが、確かなことが一つあります。それは、父から愛されていたことです。その確信は、若いころの支えでした。わたしは主を知り、主を愛するようになりました。なぜなら父も主を愛していたからです。わたしは決して人を愚か者呼ばわりしたり主の御名をみだりに唱えたりしたことはありません。それは、『聖書』の中で禁じられている¹⁴父から学んだからです。また父から、什分の一を納めるのは特権であると教わったため、ずっと納めてきました。父が自分の誤りに対し責任を取ったように、わたしも自らの失敗についてそのよう

に努めてきました。一時期父は教会から離れていましたが、年老いてから伝道にも出、神殿で忠実に働きました。父は遺言で、家族が暮らしていける以上の財産が残ったら、教会に納めるようにと言いました。父はこよなく教会を愛していました。父のおかげで、わたしも教会を愛しています。」¹⁴

この話はまさにバイロンの詩を福音の中でかいま見たような気がします。「君の顔を眺めていると、あなたのお父さんを思い出す。」¹⁵

まだ若かったニーファイが成長過程にあったところに、「わたしは、父がこれまでに語った言葉をすべて信じた」¹⁶と話したことから、その後預言者となる彼の将来がうかがえます。また、預言者エノスが人生の転換期に「父が…語るのを度々聞いていた」¹⁷と語った言葉は『モルモン書』に記されている偉大な啓示の一つです。そして、悲しみに打ちひしがれていた罪深い青年アルマは、自分の多くの罪を思い出してひどく苦しんでいたとき、「かつて父が……預言するのを聞いたことを思い出し[まし]た。[それは]イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖うために来られるという」ものでした。¹⁸ 父親がこれ以上論しても無駄に思えたときに述べた証が、アルマの記憶にかすかに残っていたため、息子アルマの霊が救われただけでなく、『モルモン書』に登場する人々の歴史も永遠にわたって影響を受けたのです。

御父は偉大な族長であるアブラハムにこう言われました。「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである。」¹⁹

この復活祭の週末に、わたしは主が預言者ジョセフ・スミスに宣言されたように、「大いなることが……父親に求められる」²⁰と証します。その中でも最も大いなることは、父親が養い育てる子供の幸福と子供の霊を守るために全力を尽くすことです。

人類史上最も耐え難い苦難にあったとき、主の体のすべての毛穴から血が流れ出、苦悩に満ちた叫びが主の口か

大会の説教を聞く十二使徒定員会会員。左から、ボイド・K・バックナー会長代理、L・トム・ペリー長老、デビッド・B・ヘイト長老、ニール・A・マックスウェル長老、ラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オックス長老、ジョセフ・B・ワースリン長老。



ら発せられ、キリストはそれまでいつも頼っていた御自分の御父により頼み、「アバ」と叫びました。今の言葉では、「お父さん」か、幼い子供は「パパ」と呼ぶのでしょう。²¹

これは非常に個人的な事柄で、引用するだけでも神聖さを汚すような気がします。癒されることのない苦痛にさいなまれた子供と、真の力の源であったその父が、一晩中苦難を共に耐えたのです。

父親の皆さん、この復活祭の週末に、わたしたちが親としての務めを再確認できますよう、また自分の子供を抱き締め、子供を永遠に信頼するうで、御父と御子を思い起こして力を得られるよう、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

注

1. ヨハネ3：16
2. ヨハネ5：30
3. ヨハネ7：16、28
4. ヨハネ12：49
5. ヨハネ14：7、9
6. ヨハネ17：11
7. ヨハネ18：11
8. ヨハネ19：30；ルカ23：46
9. See "Parent-Child Relationships and Children's Images of God," *Journal for the Scientific Study of Religion*, Mar. 1997, 25-43.
10. David Blankenhorn, *Fatherless America: Confronting Our Most Urgent Social Problem* (1995), 1.
11. See "Becoming a Better Father," *Ensign*, Jan. 1983, 27.
12. ロバート・A・リーズからの個人的な書簡
13. ロバート・A・リーズからの個人的な書簡
14. ロバート・A・リーズからの個人的な書簡
15. "Parisina," in *Byron: Poetical Works* (1970), 333.
16. 1ニエファイ2：16
17. エノス1：3
18. アルマ36：17
19. 創世18：19, 強調付加
20. 教義と聖約29：48
21. マルコ14：36

わたしたちの時代

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

**現代の科学や技術の驚異は、昇栄をもたらすことはありません。
将来に備えるときに直面する大きなチャレンジはまさに、
さらなる霊的な啓発を必要とするでしょう。**



愛する兄弟姉妹、そして友人の皆さん、わたしはこの説教壇に立って話す間、御霊の導きがあるように願っています。わたしの語る言葉が天父に受け入れられるように、導きと知恵を祈り求めます。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの時代について預言者ジョセフ・スミスはこう語っています。「〔過去の時代の〕預言者、祭司、王たちが、特別な喜びをもって思い描き、〔また、〕楽しみに待ち望んでいたのが、わたしたちの生きているこの時代であった。天からの喜びのおとずれに胸を躍らせ、この時代を詩に歌い、文章に表し、また預言した。……わたしたちは末日の栄光をもたらすように神から〔選ばれた〕恵まれた民である。』¹ 1842年に預言者ジョセフ・スミスがこのことを語って以来、人類はそれまでのどの時代にも増

して、多くの知識を得てきました。

わたしたちは21世紀を間近にひかえています。過去を振り返ってみる時に忘れてならないのは、過去2,000年の間に起こった最も重大な出来事は、科学技術や交通手段の驚異的な進歩ではないということです。それは救い主の贖いであり、神権の鍵と権能を含む、福音の回復です。これら二つの無類の出来事は、時代が変わっても、人類にとってきわめて重要なものであり続けるでしょう。過去、現在、未来のかなめは、この驚くべき神の介在にあるのです。

1901年1月1日、まさにこの建物で、大管長会は全世界に次のメッセージを送りました。

「新しい世紀が、今日始まる。これまでの100年は、この地球の人類史上で最も重要な年月だった。その間の重要な出来事や驚異的な進歩、すばらしい業績、有益な発明や発見などは、たとえ100日かけても、要約することすらできないであろう。こうした100年間の進歩は、人類が成長し続ける中で、今や過去のものとなっている。19世紀に予見されていたのは、進歩、発達、自由、そして光であった。我々は幸せなことに、驚嘆すべきものに囲まれて生活し、知性の宝を分かち合っている。』²

このメッセージが100年前に出されたとき、人々の交通手段は、まだ馬と馬車でした。電話や電気の時代は始まったばかりでした。航空機も、Eメールも、ファックスも、インターネットもありませんでした。世の中の知識は爆発的に増加してきました。わたしは、

地上における神の御業を進めるために、神がこれらの知識の宝を解放してくださいと信じています。新しい21世紀には、その宝に急激な進歩がもたらされることでしょう。

わたしの今日のメッセージは、将来のために自分自身を備えることです。これはわたしたちの時間です。ただ時計を見ているだけではいけません。ある人々は、刻々と次の世紀が近づいて来るので、不安げに時計を見詰めています。時間に対する意識は、わたしたちの思いや行いに影響を与えます。レストランの窓辺に掛けられた時計の話でそれを表現してみましょう。「その時計は、正午過ぎで止まっていました。ある日、友人がレストランのオーナーに、そのことを知っているかと尋ねました。オーナーはこう答えました。『知っている。でも、その時計を見て空腹を感じ、食事をしに入ってくる人がたくさんいることに、驚かれると思いますよ。』」³

もし天の時計のようなものがあって、人々に霊的な飢えを感じさせることができたならと思います。ほとんどの人は何に飢えているのでしょうか。わたしは霊的で道徳的な指導者に飢えている

のだと考えます。技術の発達や科学的発明、医学の進歩には、驚異的で信じられないものがあります。しかし、わたしたちは、喜びをもたらすためにそれらを正しく使わなければなりません。それには、霊的で道徳的な指導者が必要です。この地球には、文明社会が長い間存在してきました。コンピューターはとても便利で、面倒な仕事の軽減に役立ちます。しかし、ニューフェイス人はコンピューターなしに「幸福に暮らし」ていました。⁴ エレクトロニクスの奇跡には、落とし穴があります。例えば、インターネットは使い方を誤れば、結婚生活や家庭、そして命までも破壊することがあるのです。

今日、多くの人が2000年問題で頭を悩ませ、コンピューターの年月の計算が抱える問題のために、間もなく来る日付におびえています。時間についてある人がこう言いました。「[時間は、]時とともに変わる。若人の時間は着々と進み、中年の時間は飛び去り、老人になるともう残りが無い。」⁵ わたしたちは日常の仕事の多くをエレクトロニクスに頼るようになりました。結果として、2000年に移行するに当たり、コンピューター

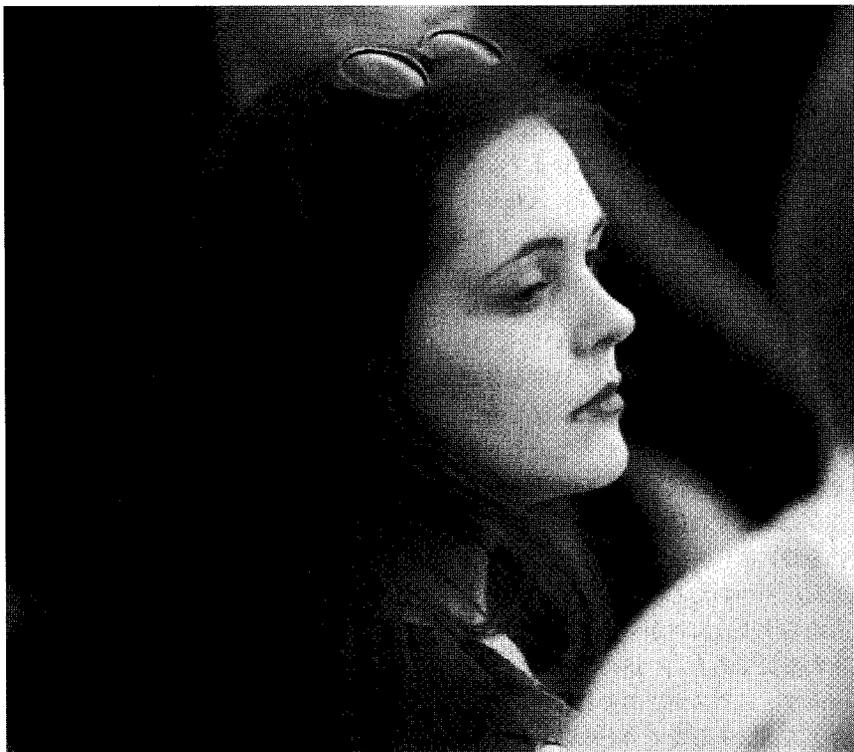
を再プログラムする必要に悩まされているのです。多少の問題は起こるかもしれませんが、21世紀になるときに、大きなコンピューターの故障が社会を崩壊させるようなことはない、わたしは楽天的に考えています。それよりも、社会の伝統的な価値観が崩れていくことに、より大きな恐れを抱えています。

確かに、わたしがより心配しているのは、正直や誠実、品位、礼儀、純潔という道德のコンピューターの故障なのです。現在どれだけの人が、ほんとうに汚れを知らぬままにいてでしょうか。実に多くの人が、世間で人気があり話題になるものを信じています。この道德観の崩壊は、神の教えと個人の行いを切り離したために起こっているのです。高潔な人々は、自らの規範に従って生活することを決意しているので、人からの監視やコントロールを必要としません。わたしが願うのは、道德というコンピューターに高潔さの3つの要素を組み込むことです。すなわち、自分自身への公正さ、人に対する公正さ、そして収穫の律法を理解することです。

また、救い主への個人的礼拝が複雑になることなく、福音の真理の純粹な力がわたしたちに平安をもたらすように願っています。わたしたちは信仰を純粹に、礼拝を清く保たなければなりません。宗教は儀式以上のものであり、正義であるべきです。

わたしは、末日聖徒イエス・キリスト教会が2000年を迎える際のチャレンジにこたえ得る組織であると確信しています。増加する会員数、数多くの新しい神殿、啓示された組織、これらはすべて、21世紀を迎えるために備えられているのです。科学技術の発展を心に描くのは感心なことですが、霊的に成長するためには、自分の顔や心に救い主の面影を受ける必要があります。⁶

画期的な年である2000年が近づいて、人々の動揺は高まっています。新しい世紀に近づくだけでなく、世の救い主、贖い主イエス・キリストの誕生から数えて第3の1000年に突入するからです。この一人の御方、ナザレのイエスは、富や地位によらずに世



界を変えられました。わたしたちが知るかぎり、主は生涯御自分の質素な服以外に、この世の富も資産も所有されませんでした。

主のメッセージは簡潔です。「平安がこの家にあるように。」「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。」「こうした簡潔な原則を用いて主は新しい生活方法をお伝えになりました。主が教えられたのは愛であり、希望と救いの教義であり、この世と来るべき世で平安を得るための道でした。主は復活の時、すなわち霊的な暗闇が取り除かれ、永遠の命という輝かしい光と希望が全人類に与えられる時について語られました。

イエスの昇天の後に、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをはじめ、そのほかの特に教育を受けたこともなかった使徒や七十人たちは、この啓発されたメッセージを世に宣べ伝えるに当たり、靈感によって鋼鉄のように強められた人となりました。彼らの旅や連絡の手段は原始的なものでしたが、この少数の宣教師たちは新しい希望のメッセージを携えて雄々しく前進しました。そしてキリストの啓示された教義をあまねくもたらすという壮大な業を行ったのです。

交通手段と伝達手段が進歩したおかげで、現代の組織化された教会は福音を宣べ伝える業を急速に推し進めています。メディアを使ったリフェロープログラムにより、多くの求道者が宣教師に紹介されています。教会が制作したビデオを使って、宣教師は福音のメッセージや教会の使命を説明しています。しかし、わたしたちは個人として、この神聖な業を推し進めるために自分の責任を果たしているのでしょうか。様々な伝達手段が発達した今日わたしたちには、ペテロ、ヤコブ、ヨハネやほかの勇敢な弟子たちの時代に比べれば何千倍も楽に、早くこの使命を果たせる機会が与えられています。平和の福音の備えを足にはいた数多くの使者たちが、今や神のメッセージを携えて出て行くのです。

科学技術は、教会が達成しつつある使命を強力に支えています。1950年代の後半、ジェット機の時代が到来したとき、デビッド・O・マッケイ大管長はニュージーランドの神殿を奉献した後、ジェット旅客機に乗り込みました。ロサンゼルスに到着したとき、マッケイ大管長はヘンリー・D・テラー長老たちに言いました。「来週の木曜日に大管長会と十二使徒評議会が集まる時、ニュージーランドにステーキを組織するように提案しようと思います。」そしてこう言いました。「こんなに速い飛行機があれば、中央幹部は世界中のどこにでも素速く旅行して、組織されたステーキを訪問できるでしょう。」「¹⁰今では合衆国外に何百ものステーキがあります。

今世紀の伝達手段と交通手段の発達により、主の言葉がシオンから出るペースが速くなりました。¹¹ わたしはイザヤと同じ気持ちを感じます。彼はわたしたちの時代についてこう言いました。「水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである。」「¹²この驚くべき知識のほとばしりが、主の救いのメッセージを世界にもたらす



わたしたちの能力を高めてくれるものと信じています。「[主]の名によって罪のゆるしを得させる悔改めが……もろもろの国民に宣べ伝えられる」のです。¹³

2000年が近づくにつれて、驚異的な科学技術をマスターしなければならない、という要求は、ますます厳しいものとなります。その過程でわたしたちは、技術に関する知識を得ようと夢中になるあまり、霊的なものをおろそかにするでしょう。間違いなく、教育は将来への扉を開きます。しかしわたしたちは、信仰というコンピューターが正しく動いて、常に義の道にとどまるようにしなければなりません。そのためには毎日祈り、聖文を研究し、家庭の夕べを行い、日々聖約と儀式を守って生活することです。礼拝をするには、外形的な象徴よりもさらに深いものが求められます。救い主の教えに具体的に示された簡潔で深遠な行動原則に従う必要があります。主は、「悔い改め、十分に固い決意をもってわたしに立ち返りなさい、と言われました。」「¹⁴信仰をもって「¹⁵幼子のようになり、[主]の名によってバプテスマを受け」るのです。救い主の教えはこうです。「あなたがたの敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱い迫害する者のために祈りなさい。」「¹⁶

だれにとっても最も難しいチャレンジはこれです。「わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように、あなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる。」「¹⁷完全は永遠の目標です。わたしたちはこの世で完全になることはできませんが、戒めに従って努力し、ついには贖いを通して完全になれるのです。忘れないでください。現代の科学や技術の驚異は、昇栄をもたらすことはありません。将来に備えるときに直面する大きなチャレンジはまさに、さらなる霊的な啓発を必要とするでしょう。この拡大していく新しい知的な財産はすべて、大変な努力と学習を通してマスターしていかなければなりません。しかし、技術的な知識は、霊的な目的と意義が伴わなけ

れば、十分に活用できません。主はその知識を、主の目的を達成して人類に祝福をもたらすために使うように期待しておられます。しかし、こうした主の高尚な概念が自分自身の目標や願望になるまでは、科学技術を主の目的に向けることはできません。

救い主の降誕から数えて第3の1000年が近づくに当たり、主の御名によってバプテスマを受けた1,000万の会員は、どのようにして主の御業を推し進めていくのでしょうか。これを行うにはヒンクレー大管長や副管長、十二使徒定員会、そのほかの中央幹部からの指示に従うことです。わたしたちは努力の大半を、自分の生活と思いを変えることに向けるべきです。救い主が新しい戒めと呼ばれた「互に愛し合いなさい」という教えを実践するのです。¹⁸すべての会員には、主の羊を養うという永続する責任があります。¹⁹

預言者ジョセフが指摘したように、これはわたしたちの時代であり、時間です。わたしは、人類の未来には、かつてないような偉大な祝福が待ち受けていると、信じています。わたしは霊的な知識があふれ出て、「海が水でおおわれているように、地は主の栄光の知識で満たされる」この時代を心から喜んでいます。²⁰知識と英知は、すべての人の生活を祝福するために「天より降る恵みの雨のように」降り注いでいます。²¹わたしたちは、2000年を越えて希望に輝く未来に目を向け、神からすべての賜物^{たまもの}がもたらされると確信しながら信仰をもって前進するためにあらゆる機会をとらえなければなりません。そのように知識が増大すると、責任も重くなります。もしわたしたちが懸命に働き、管理の職を賢く果たし、将来に備えて生活するなら、主から助けを受けて神聖な業を進めるためにこの高尚な

知識を用いることができるでしょう。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、わたしたちの時代の預言者です。大管長はこの責任の重さを痛切に感じ、地上で神の目的を成就するために全力を尽くして精力的に働いています。わたしたちは各々、この業を推し進めるために、自分にできることをすべて行う必要があります。詩篇の作者はこう歌っています。「これは主のなされた事でわれらの目には驚くべき事である。」²²これが真実であることを主イエス・キリストの聖なる御名^{あかし}によって証します。アーメン。

注

1. *History of the Church*, 4:609-610.
2. In James R. Clark, comp., *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 6 vols.(1966), 3:333.
3. In Jacob M. Braude, comp., *Braude's Treasury of Wit and Humor* (1964), 178.
4. 2ニーファイ 5:27
5. Evan Esar, comp., *20,000 Quips and Quotes* (1995), 812.
6. アルマ 5:14参照
7. ルカ 10:5
8. マタイ 22:37
9. マタイ 22:39
10. Henry D. Taylor, in Conference Report, Apr. 1960, 118-119.
11. ミカ 4:2参照
12. イザヤ 11:9
13. ルカ 24:47
14. 3ニーファイ 10:6
15. 3ニーファイ 11:37
16. 3ニーファイ 12:44
17. 3ニーファイ 12:48
18. ヨハネ 13:34
19. ヨハネ 21:15-17参照
20. ハバクク 2:14
21. 「ヴェニス商人」第4幕第1場、小田島雄志訳、白水社『シェイクスピア全集』2:398。申命32:2も参照
22. 詩篇 118:23

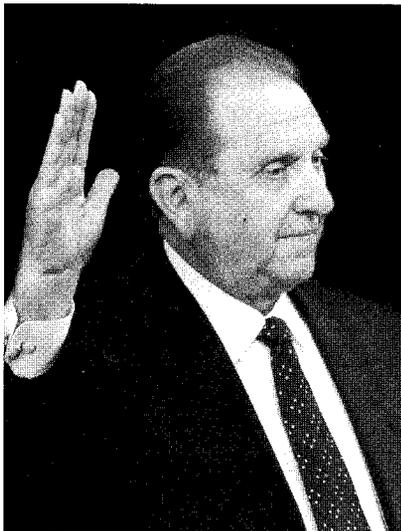
ジョセフ・スミス記念館で預言者ジョセフ・スミスの肖像画を鑑賞する大会訪問者。



教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長からの要請により、わたしモンソン兄弟がこれから中央幹部、地域幹部七十人、ならびに中央補助組織会長会の方々の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をさせていただきたいと思います。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持してください。また、大管長会第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二副管長としてジェームズ・エストラス・ファウストを支持してください。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいればその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・K・バックカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・バックカー、L・トム・ベリー、

デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持してください。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

大管長会の副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持してください。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば同じようにその意を表してください。

これまで地域幹部七十人として働いてくださったアデマール・ダミアニ、エルナーニ・テスクエアラ、ロバート・S・ウッドの各長老の働きに感謝の挙手をし

てくださる方はその意を表してください。ありがとうございます。

わたしたちは、アデマール・ダミアニ、ステイブーン・B・オーブソン、デビッド・R・ストーン、H・ブルース・ストウキー、リチャード・H・ウインケル、ロバート・S・ウッドの各長老を七十人第二定員会会員として支持してください。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

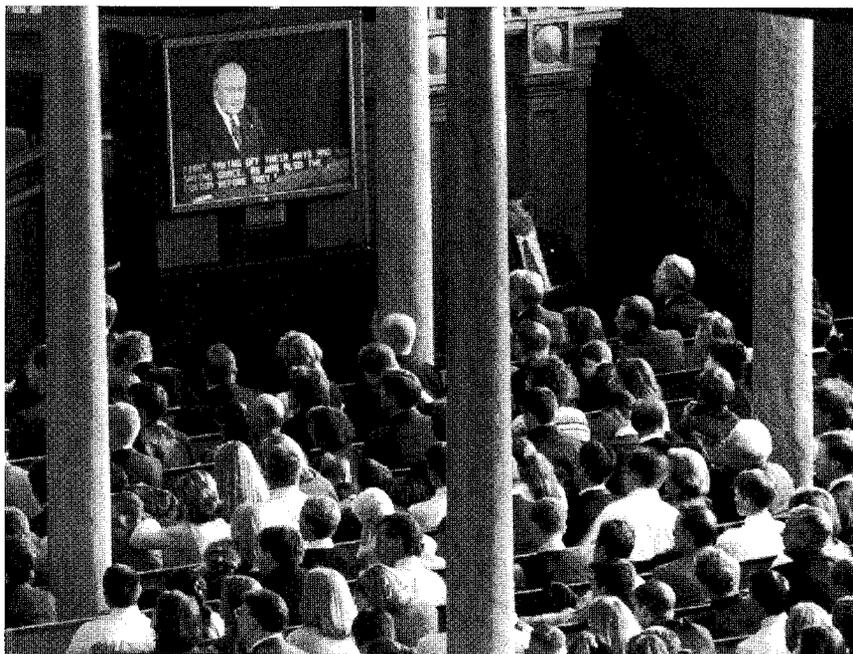
わたしたちは、ベンハミン・デ・ホヨス、ステイブーン・E・スノー、ペドロ・ホヘ・ダ・クルズ・ベンアの各長老を地域幹部七十人に支持してください。この提議に賛成の方はその意を表してください。ありがとうございます。反対の方がいれば同じようにその意を表してください。

わたしたちはそのほかの中央幹部、地域幹部七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持してください。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば同じようにその意を表してください。

提議は全員一致で賛意の表明が得られたようです。兄弟姉妹の皆さんの信仰と祈りに感謝します。

では、新しく召された七十人第二定員会の方々、壇上の席においでください。

大会出席者の席から説教壇が見えにくい場所には、大画面のテレビスクリーンが設置されている。



教会監査委員会報告

教会監査委員会委員長
テッド・E・デービス

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

教 会監査委員会は3人の会員で構成され、教会のあらゆる役員、職員、業務、部署、また教会の関連組織から独立しています。当委員会は大管長会に直接報告することになっており、託された責任を遂行するうえで必要なあらゆる記録類、および教会職員からすべての情報を入手しました。

教会にはあらゆる業務、部署から独立した教会監査部もあります。教会監査部は教会監査委員会から独立しており、職員は公認会計士など専門の監査委員で構成されています。また監査部は、認可された専門の監査基準に従って教会の様々な財政報告書を監査しています。これには地元の教会ユニットからの献金と支出を監督することも含まれます。

教会監査委員会は教会基金の収支管理と保全のために、財務運営の方針ならびに方法について、また1998年12月31日までの1年間の予算編成、会計、報告および監査方式について検討いたしました。1998年度の教会支出は、定められた方針にのっとり、什分の一配分評議会で承認されたものです。同評議会は、啓示によって規定されたとおり、大管長会、十二使徒定員会および管理監督会で構成されています。承認された予算の管理は、予算承認委員会の管理の下、教会予算部によって管理されています。

デゼレト・トラスト・カンパニー、デゼレト・マネージメント・コーポレーションを含む教会の関連組織とその子会社は、



大会中、H・デビッド・バートン管理監督と話す、十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老とダリン・H・オークス長老。

独立した取締役員会に報告し、標準的な事務処理方式に従って個々に会計制度を設け、一般に認められている会計上の原則に従って報告しています。これらの組織は、教会監査部および独立した公認会計事務所、あるいはそのいずれかから監査を受けています。ブリガム・ヤング大学および教会運営のそのほかの高等教育機関は独立した公認会計事務所から監査を受けています。

財政運営、予算、そのほかの方針ならびに方法、そして1998年中に提出された監査報告書やそのほかの回答を検

討した結果、監査委員会では1998年12月31日現在の教会基金の収支に関するすべての事柄は、啓示と定められた教会の方針と手続きに従って運営され、会計処理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告申し上げます。

教会監査委員会

テッド・E・デービス(委員長)

ドナルド・D・サルモン

フランク・M・マッコード

1998年度統計記録

大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

兄 弟姉妹の皆さん、大管長会
は教会員の参考のために、
1998年12月31日現在の会員
数の増加と現況を示す以下のような統
計記録を発表しました。この統計は、
今回の大会に先立って提出された報告
書に基づいています。

教会ユニット

ステーク数 2,505
 地方部数 631
 伝道部数 331
 ワード数と支部数の合計 25,551

教会員数

総会員数 10,354,241
 1998年に増加した記録上の子供
 76,829
 1998年にバプテスマを受けた改宗者
 299,134

宣教師

専任宣教師 57,853

神殿

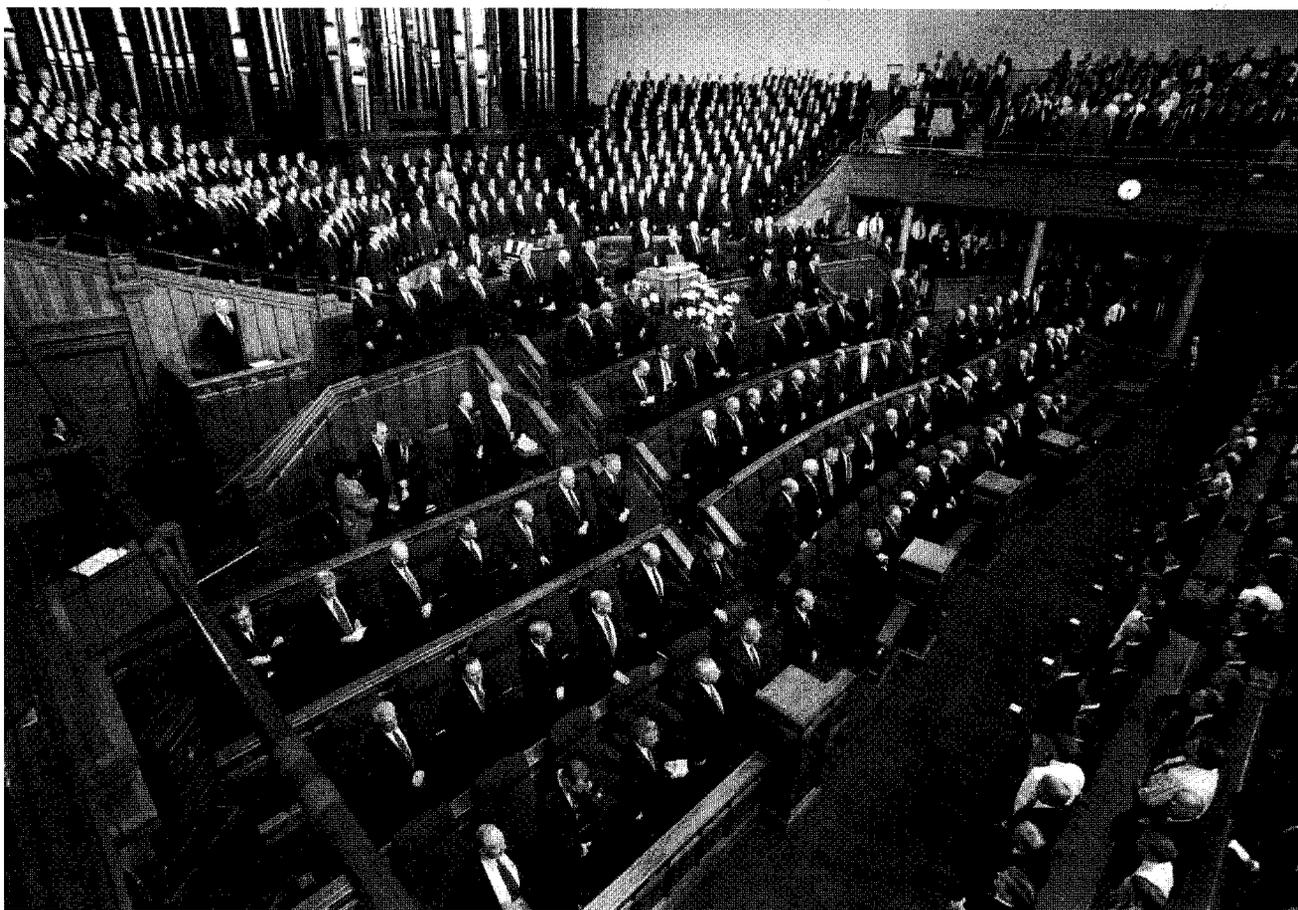
1998年に奉献された神殿数 2
 (ユタ州モンティセロ神殿、
 イギリス・プレストン神殿)

儀式が執行されている神殿数 53
 現在建設中の神殿を含め、1998年末ま
 までに建設が発表されている神殿数
 45

1998年4月以降に他界した著名な教会員

七十人第一定員会会員のダラス・N・
 アーチボルド長老、ジューン・ディクソ
 ン・オクス姉妹(十二使徒定員会会員
 のダリン・H・オクス長老夫人)、フェ
 ルネ・ガードナー・ハンター姉妹(元七十
 人最高評議会会員の故ミルトン・R・ハ
 ンター長老夫人)、ノーマ・クリール・ハ
 ーバートン姉妹(元七十人定員会会
 員のロバート・B・ハーバートン長老夫
 人)、元中央若い女性副会長のマーガ
 レット・ロムニー・ジャクソン・ジャド姉
 妹、元教会歴史家のレナード・ジェーム
 ズ・アーリントン姉妹、元教会財務委員
 会会員のグレン・E・ニールソン兄弟。

中央幹部の座る壇上の6列。最上列が大管長会と十二使徒定員会の席となっている。



「わがまを悔い改め……」 (教義と聖約56:8)

十二使徒定員会会員

ニール・A・マックスウェル

**中でも柔和は、ほんとうの意味で役立ちます。
利己心を覆い隠すだけでなく、利己心を消し去ってくれるからです。**



程度の差こそあれ、だれもが利己心と闘っています。それほど一般的であるなら、なぜ利己心について悩むのでしょうか。それは、利己心とは実はスローモーションで起こる自己破壊だからです。預言者ジョセフ・スミスが「利己的な感情をすべて覆い隠すだけでなく、まったくなくすように」勧めたのも驚くに当たりません (*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, sel. Joseph Fielding Smith [1976], 178)。ですから、目指すべきは利己心を抑えることではなく、完全になくすことなのです。

例えば、刺激的な行為にふけることによってむなしい思いを満たそうとしても、そうした利己心のほとばしりはかえってむなしさを増すだけです。欲求を

数式で表すと、0は何倍しても0にしかなりません。つまり、価値のないものは価値あるものを生み出すことはないのです。衝動的で利己的な一つ一つの行為は、人に対する意識や関心を薄れさせることにより、さらに自らの世界を狭めます。またそうした利己心への傾倒は、見た目やこの世的な標準からすると誇らしげに見えるものの、実は偏狭な態度の現れであって、水槽の中の金魚のように、自分では自立していると思っても、水を換えてえさをくれる人のことを忘れていたのです。

その昔、世の偏狭な人々にこの地球という惑星が宇宙の中心ではないことを告げるために、コペルニクスのような人が必要でした。現代の利己的な人には、彼らも宇宙の中心でないことを教えるコペルニクスが必要でしょう。

利己心のよく知られた初期の形は、人を利用して自分をよく見せる、自分の手柄にする、人の失敗を喜ぶ、人の真の成功をねたむ、個人的に和解するより公に自分の正当性を主張する、「人の言葉に付け込んで欺く」、などです(2ニーファイ28:8)。

利己的な人は、自分中心に考えることによって、偽証や盗みやむさぼりを簡単に行います。何でも好きなようにするからです。当然のことですが、政府が生まれながらの人の欲求に迎合するのは容易なことです。社会が今のままの機能を保ち、彼らには好きなことが認められると思わせている場合は特にそうです。

そのうえ利己心は、不作法や軽蔑、自己中心を引き起こし、その一方で、人が必要としているものや称賛、報いなどを与えようとせず、彼らを「見過ごしにし、彼らに注意を払」いません(モルモン8:39参照)。さらには、無礼な態度や無愛想、そして人を押しつける行為に至ります。

利己心の道とは対照的に、主のまっすぐな細い道には、怒りや暴力はありません。家庭の中に真の愛があれば、妻子への虐待はありません。さらに、熱心に教会での責任を果たすならば、利己心の克服に役立つでしょう。利己心がなくなれば、もっと自由になります。G・K・チェスタートンが語ったように、わたしたちが関心のない人にまで関心を示すことができれば、「青空の下で、道いっばいのすてきな人々に囲まれたような」気持ちになるでしょう(*Orthodoxy* [1959], 21)。

主の弟子として日々生活するうえで利己心が頭をもたげてくる状況がたくさんあるように、それを避ける方法もたくさんありません。中でも柔和は、ほんとうの意味で役立ちます。利己心を覆い隠すだけでなく、利己心を消し去ってくれるからです。例えば、重要な行動を取る前に、次のように自問できるのではないのでしょうか。「わたしはだれの必要を満たそうとしているのだろうか。」あるいは、どうしても自分の気持ちを抑えられないようなときに、まず10数えることができます。そのように行動をフィルターにかける時間を取れば、わたしたちの自己をささげようとする心が10倍になり、柔和というメッシュが破壊的で自己本位な利己心にフィルターをかけてくれるのです。

また、自分の考えを無理に通そうとせずに、柔和な態度で結果を受け入れます。何がふさわしいかについて御霊の導きを受けるようにすべきです。

残念なことに、利己心は人々の中で大きく広がると、文化の一つになります。そして、利己心に支配された社会は、ついには、秩序や隣れみ、愛を失い、人々は邪道に陥って、心が鈍くなります(モロナイ9章参照)。こうなると社会は、

大規模な文化的退廃を反映した抜き差しならない状態に陥るのです。古代においてこれが起こったのは、民が「背きに陥った」ために「弱くなってしまった」ときでした(ヒラマン4:26)。人の行動の原則によれば、かつては少数派であった利己的な人々が多数派になるとき、神の裁きと、愚かな利己心への報いが下されるのです(モーサヤ29:26-27参照)。

文化の墮落が加速されるのは、利己的で心の狭い一部の人々が、かつて広く受け入れられていた一般的な価値観に無関心になるときです。利己的な人と

無関心な人に助長され、社会は地獄へと誘い落とされます(2ニーファイ28:21参照)。中にはこの墮落に荷担せずに、傍観者となった人々もいます。かつては自分の権利を行使して墮落をくい止めようとした人々です。そのような状況をイエーツはこう嘆いています。「高潔な者がまったく説得力を持たず、利己的な者だけが暗躍している。」(W. B. Yeats, "The Second Coming")

多数派となったかつての少数派は、皮肉なことに、自分たちが受けた寛容さを示そうとはせずに、服従と修正を強要しています。社会の墮落は、すべて

が一度に起こるわけではありません。だれにもその変化が気づかれぬように、同じ陰うつな傾向が、かすかながら巧みに、やむことなく進行するのです(2ニーファイ28:21参照)。

それらは、利己心がもたらす即時的な結果であり、その一方で、永遠の救いに影響する最終的な結果もあります。

利己心は実際に、あらゆる重大な罪の原因となるものです。それは親をおろそかにし、安息日を破ることによって、また偽証や殺人、むさぼりによって十戒を砕くハンマーとなります。当然のことながら、利己的な人は不義の欲求を満たすために、自ら進んで聖約をよく破ります。悔い改めずに「姦淫を行う者、みだらな行いをする者、また偽りを好んで行う者」が、やがて、罪の代価を払った後に、星の栄えの王国に行くのはもったもなことです。

ある利己的な人々は、神の律法などないから罪はないと、誤って信じています(2ニーファイ2:13参照)。また、状況に応じた倫理観を歓迎します。絶対的な罪はないのですから、自分の知識と方の範囲内であれば何でも行えると信じているのです(アルマ30:17参照)。

これも驚くに当たりませんが、利己心は、誤った理解と不正な行動による失敗をもたらします。例えば、権力を求めて墮落したカインは、アベルを殺した後、「わたしは自由だ」と言いました(モーセ5:33、6:15も参照)。

このように、利己心がもたらす最悪の結果の一つは、物事の価値判断が大きく狂うことです。ぶよはこすが、らくだは飲み込んでいるのです(マタイ23:24参照。末日聖徒イエス・キリスト教会発行の欽定訳『聖書』[英文]脚注24aのジョセフ・スミス訳も参照)。例えば、様々なぶよをこしている人が、墮胎というらくだを飲み込んでいます。したがって、利己心によって、1杯のあつものがごちそうに見えたり、30枚の銀貨が財宝に思えても不思議ではないのです。

利己心が強くなると、古代の民の子供たちに起こったことと同じようなことが起こります。彼らは、「成人になつて」……「独り立ちすると」かたくなになって、





道を誤りました(3ニーファイ1:29。30節も参照)。文化が崩壊に転じるのは、「わずかな年月」においてですし、実際にそれが起こっています。そして、地域社会で培ってきたともに働くことへの願いが、個人のふさわしくない欲望に置き換えられてしまうのです(ヒラマン4:26)。

自分の道を歩むことを決めた生まれながらの人は、しばしば肉の思いに快い言葉によって養われ、「心が鈍っている」民になってしまいます(1ニーファイ17:45参照。エペソ4:19も参照)。そして悲しいことに、麻薬中毒者のように、常に肉欲を満たすものが必要になるのです。

利己心が強いと、人を利用することはあっても、愛することはしません。ウリヤのような人には気をつけなければなりません(サムエル下11:3-17参照)。キリスト降誕の何世紀も前に、預言者ヤコブはみだらな男たちに警告しました。「あなたがたは妻子の前に良くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂けさせ、子供たちの信頼を失った。」(『モルモン書』ヤコブ2:35)愛が冷えるとき、貧しい人や困っている人は用心しましょう。ソドムで起こったように、そのような人は無視されるからです(マタイ24:12参照。エゼキエル16:49も参照)。奇妙に思えるかもしれませんが、利己的な人が尊大になると、ほかのすべての人は萎縮してしまいます(サムエル上15:17参照)。

初期の小さな利己的な行為によって、方向が決まります。それから、小さな流れが生まれ、それが集まって小川となり、やがて川に合流し、ついには大河になって、「不幸と無窮の苦悩の淵」に流れ込

むのです(ヒラマン5:12)。

わたしたちには、社会の墮落を示すほんとうのしるしに気づく事実上の責任があります。イエスは警告されました。「あなたがたは空の模様を見分けることを知りながら、時のしるしを見分けることができないのか。」(マタイ16:3)様々な社会のしるしを見分ける必要性を説かれたのです。

文化の墮落で起こっていることについては、一般市民と指導者の双方に責任があります。もちろん、歴史的に、悪い指導者を批判するのは簡単ですが、社会の構成員の行動を大目に見るべきではありません。さもなければ、墮落を正当化するために、自分はただ従っただけで、指導者から命じられていたにすぎないと主張する可能性があるからです。民主主義の社会では、指導者と一般市民の両方の人格が問われ、従う人にももっと大きな責任が求められます。

預言者モルモンは、滅亡の危機にある民を導く責任を、無私ので引き受けました。モルモンは民のために祈りましたが、彼らの罪悪のために、祈りがかなうという信仰を持ってませんでした(モルモン3:12参照)。別の時代の指導者、エジプトのヨセフは、将来の具体的なチャレンジに備えさせることにより、迫り来る危険から人々を守りました(創世41:46-57参照)。政治家の中には、リンカーンのように霊的な指導を行った人がいます。ところで、リンカーンも警告を残しました。すなわち、野心と才能のある人が引き続き現れ、その人は「差別を渴望し、熱心に求め、そしてもしできるならば……奴隷の解放か自由人の

奴隷化か、どちらかを切り札にしてそれを実現する」と(cited in John Wesley Hill, *Abraham Lincoln — Man of God* [1927], 74. 強調部は原文のまま)。

無私の人、ジョージ・ワシントンは、次のように記しました。「歴史上、偉大な権力を手にし、本能に告げられるままに、隣人と全人類の幸福のために、その力を優しく控えめに用いた人は、ほとんどいない。」(James Thomas Flexner, *Washington: The Indispensable Man* [1984], xvi)

権力は、それに執着しないワシントンのような人が持つと、最も安全です。だれもが利己的な願望を達成するのに忙しい自分本位の社会では、兄弟愛や地域社会を築くことはできません。この復活祭の季節に、そしてほかのどの季節にも、イエスが御自身を第一に考えることを少しもなさらなかったという事実を知るのとは何と喜ばしいことでしょうか。

それを考えると、「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」という戒めが与えられたのは当然のことです。これには、自己を崇拜することも含まれます(出エジプト20:3, 強調付加)。何らかの利己的な行いをしてきた人は、その報いを受け、深い悲しみに襲われるのです。

それとは対照的な例として、無私的心を持つメリッサ・ハウズがいます。彼女は数か月前に、まだ若い父親を癌で亡くしました。その直前に、9歳のメリッサは家族の祈りで次のように嘆願しました。「天のお父様、パパを祝福してください。もし天のお父様がわたしたちよりパパを必要とするなら、そうなさってください。パパが欲しいけど、御心のままになさってください。そして、どうかわたしたちがそのことで腹を立てることがないように助けてください。」(クリスティー・ハウズからの書簡、1998年2月25日付)

まだ若いのに、何と霊的に従順なことでしょう。救いの計画を無私ので理解しているのです。わたしたちがこのような従順さを身に付けられるよう、イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

神殿の祝福を受ける

十二使徒定員会会員

リチャード・G・スコット

神殿は平安を得、自己に向き合い、靈感を受ける場所です。定期的な参入はあなたの人生をより大きな目的で満たしてくれることでしょう。



すばらしい平安と幸福、限りない喜びをもたらす、最も美しい慰めに満ちた主の教義の一つが、永遠の結婚と呼ばれる原則です。この教義はお互いを深く愛し、ともに分かち合う人生の試練や悲しみ、そして幸福を通して成長してきた男女が、同じこの祝福にあずかることのできた彼らの家族とともに、この現世を超えて永遠にともに生きることができるといふものです。これは単なるすばらしい満足感を与える夢といったものではなく、現実です。この地上で結婚のもたらす喜びを分かち合った夫と妻ならばだれしもそのような祝福を欲するでしょう。しかし主によって確立された要求を満たした人々だけがこの神聖な贈り物を受け取るのです。わたしは、わたし自身の人生に最も大きな幸福を過去から未来にわたってもたらすすべての事柄が、神殿の儀式に根ざしてい

ることを証いたします。今、ふさわしいときに神殿の儀式にあずかることを決心してください。何によってもその決意を揺るがせないでください。

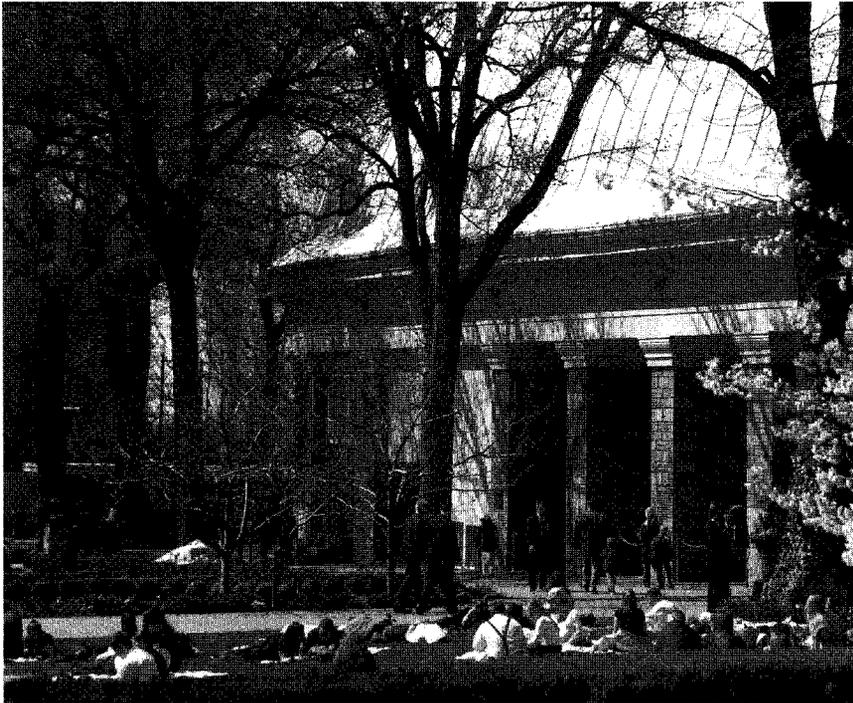
もしもあなたが今神殿の儀式を受けるばかりという状態ならば、この偉大な儀式のために注意深く準備をしてください。神殿に参入する前にあなたは神殿推薦状を受けるための面接を監督とステーク会長から受けるでしょう。正直であり、率直であってください。この面接は合格しなければならない試験ではなくて、あなたが成熟していて最も気高い儀式をきちんと受けられる霊性を持っていること、そして主の家で与えられる啓発的な聖約を結ぶことができるということを確認するための重要なステップなのです。個人的なふさわしさは、神殿の祝福を享受するための欠くことのできない必要条件です。ふさわしくない身でありながら神殿に参入する人はだれも皆、罪の宣告を受けるでしょう。

ふさわしい人格は、主の教えを基とする一貫した正しい選択を行ってきた人生によって、最良の形で形成されます。しばしの間、わたしは永遠の結婚へとあなたがたを導く、優しい発見の時期であるコートシップに向けて準備をしている方々にお話をしようと思います。それは分かち合い、成長するときです。そしてそれはあなたがたの思いや行動、計画を、二人の個人、すなわち将来子供を持つ親としての自分たちに焦点を当てるべきときです。コートシップの期間中のすべての思いと

行いにおいて完璧にふさわしくあるよう努力して、立派な両親となる準備をしてください。あなたがたの永遠の伴侶となるようとしている人の必要や望み、ふさわしい向上心といったものに敏感であってください。

永遠の結婚の基盤となるのは、かわいらしい顔や魅力的なスタイル以上のものです。人気やカリスマ性以上に考慮しなければならないものがあります。あなたが永遠の伴侶を見いだそうとするときに、主と主の戒めに深い愛を持ち、それに従って生きる決心をしていて、思いやりをもって理解を示し、だれをも赦し、喜んで自分をささげ、愛らしい子供たちに恵まれた家庭を望み、家庭の中で真理の原則を子供たちに教えることと決意している、そんな幸福をあなたにもたらしてくれる最も重要な特質を育てようとしている人を探してください。将来の妻になろうという人にとっての最優先事項は妻であり、母でありたいという望みでしょう。彼女は神の娘たちに神が与えられた、より優れた妻や母となるための神聖な特質—忍耐、寛容、子供を愛する心、そして職業的成功を求めることよりも子供らの世話をすることを望むような、そんな特質を伸ばすべきです。彼女は母親に要求される事柄に対して準備するため、良い教育を受けておくべきです。将来夫となる人たちは、神権を尊んでそれを他者への奉仕のために行使しなければなりません。名誉ある伝道はそのような決意の強い証となるでしょう。生活の必要を提供する者としての役割を受け入れ、それをなし得る能力を持ち、それらの責任を果たせるようになろうと懸命に努力しているような男性を求めてください。

望ましい特性をすでに備えた人を探すのではなく、それらを今まさにはぐくもうとしているたくさんの候補者たちを無視しないよう提案します。完全な人を見つけることなどあり得ませんし、かりに見つけたとしてもその人があなたに関心を示すことはほとんどないでしょう。これらの特質は夫婦としてはぐくむのがいちばんなのです。



テンブルスクウェアのタバナクル南側の様子。

神殿での経験は多くの面で定例の礼拝行事と大きく異なりますから、準備をするために監督に相談して助けを受けてください。彼はあなたが神聖な経験をもっと十分に理解し、享受する助けとなるように特別に訓練された人を神殿の重要な点について話し合えるように用意することができます。神殿でのエンダウメントと結び固めの儀式は大変栄光に満ちた意義を持つものだから、あなたはそれらの儀式を受けて、それらの意味を熟考するために意義深い時間を過ごしたいと思うでしょう。2回の神殿訪問に分けて受けることもいいでしょう。最初の訪問で、できることならばすでにエンダウメントを受けた家族の一人か同性の親しい友達について来てもらいます。神殿での経験の持つ神聖な性質を考えるなら、一緒に同行してくれる人を、数人の家族のどれかと親しい友人たちに限定するのもよいでしょう。祝賀会や披露宴、送別会やほかのことが神聖な神殿での経験よりも重要になることのないようにしてください。それにも増して、あまり深刻にならないようにしてください。あなたは神殿の儀式に精通した親切な神殿職員から一つ一つについて助けを

受けます。彼らはあなたの参入が期待どおりのすばらしい経験となるように心を砕いてくれることでしょう。

神殿の外では、神殿で明かされる特定の神聖なことについて話すことはしません。しかし神殿内ではあなたの質問に答える権能を持った人がいて助けてくれます。初めての参入のとき、あなたは権能を持った人から神殿の外で話し合ったりすべきではない事柄についての、注意深く準備された詳細な説明を受けるでしょう。あなたの初めての参入が、わたしの経験したと同じようにあなたを感動させ、霊性を高めてくれるものでありますように。あなたの注意深い準備がそれを得させてくれるでしょう。

コートシップの期間中に、結婚のきずなの中でのみ許されるべき親密な行為がなされるということは、律法に背く行為です。そのような行為は聖霊を遠ざけ、心痛や落胆を招き、結婚の聖約の中で必ずやあつれきを生じ、相いれない習性や性格を隠してしまいます。離婚、神殿での祝福の喪失に発展するような不信の種は純潔の律法に背くことによりまかれることがしばしばです。そのような過ちを犯さないでください。

あなたがたが主の家で永遠にわたって結び固められたとき、新しい家族の単位が生まれます。あなたが生まれて以来あなたに関して直接の責任を果たしてきた両親は、この後助言者という役割を担います。彼らの助言は貴重なものとなることでしょう。しかし、これからはあなたとあなたの永遠の伴侶とともに決断をしていくのです。夫であり、ふさわしい神権保持者として、あなたは主の神権を持つ者として救い主の模範に熱心に倣^{なら}いたいと望むでしょう。妻と子供にあなたのすべてをささげることが、これからの人生の焦点となることでしょう。時には男性というものは家族一人一人の運命を支配したいという誘惑に遭います。彼がすべてを決めてしまうのです。彼の妻は彼の気まぐれに振り回されてしまいます。それが文化的な慣習であるからとかどうとか、そんなことは問題にもなりません。それは、主の道から外れたことです。それは、末日聖徒の夫が妻や子に対して執るべき態度ではありません。

ヒンクレー大管長が主によって、世界中の教会員がもっと容易に儀式に参加できるよう、空前の速さで新しい神殿を建築するよという靈感を受けたことにわたしは大変感謝しております。もしあなたがすでに神殿の儀式を受けていて、しかも現在近くに神殿があるにもかかわらず定期的に参入していないのなら、わたしは心の底から、どうか神殿に戻ってください、とお願いします。それにはたくさん理由があります。神殿は平安を得、自己に向き合い、靈感を受ける場所です。定期的な参入はあなたの人生をより大きな目的で満たしてくれることでしょう。それはあなたの受けたと同じ昇栄に至る儀式を亡くなった先祖の方々にも受けてもらえるようにしてくれる場所です。神殿に行きなさい。そうすることが正しいとあなたは知っているはずで。さあ、行きなさい。

神殿の儀式は生涯にわたる実りある熟考と修養を促すために、象徴的趣意にあふれています。神殿での一つ一つの言葉と所作について深く考えてくだ

さい。それらが相互にどのように関係しているのかを研究してください。あなたがそれらの事柄の特性について熟考するとき、あなたと救い主との関係、また救い主と天の御父との関係という観点から考えてみてください。あなたの受けた理解が、最重要とされるべき事柄に適切な重点を置くことによって、いかにあなたの地上での生活を豊かにし得るかについて熟考すべきです。エンダウメントと同じように、亡き先祖たちのための結び固めやほかの儀式を行えるように時間を作ってください。だれかのために身代わりの儀式を受けようとするときに、その人に自分を置き換えるようにすると思えます。彼のことを考え、彼が儀式を受け入れてくれるように祈って、それから恩恵を受けられるよう祈ります。聖霊があなたの理解を増してあなたの人生を豊かにしてくださるよう心の中で祈りながらそれらの儀式を行ってください。それらのふさわしい祈りは聞き届けられるでしょう。』

伴侶が深く根ざした性格や習慣のために、神聖なこれらの経験を受ける準備などきつとできないだろうということを、永遠の結婚という言葉を書く度に心に思っただけ深い悲しみを感じておられる方々のためにわたしの個人的な経験についてお話ししたいと思います。結婚して5年くらいたったころですが、わたしたちは重要な経験をしました。わたしたちの大切な2歳の息子、リチャードが、先天性の心臓疾患を治療する手術中に亡くなりました。それから6週間後に、娘のアンドレアが出生と同時に亡くなりました。そのときは教会員でなかったわたしの父は、幼いリチャードをととも愛していました。父はわたしの、やはり活発でなかった母に言いました。「リチャードとジェニーンが子供を二人も亡くしたことを受け入れているようだけど、それがどうしてなのか分からないよ。」

母は、靈感を受けたかのように答えて言ったのです。「ケネス、あの子たちは神殿で結び固められているのよ。あの子たちには自分たちが義になかった

人生を送ったなら永遠に子供たちといられることが分かっているのよ。でもわたしとあなたはそういう聖約を結んでいないから5人の息子たちと一緒にには過ごせないわね。』

父は深くその言葉について考えました。父はステーキ宣教師と会うようになり、すぐにバプテスマを受けたのです。それから1年と少しの後には、父、母、そしてその子供たちがアイダホフォールズ神殿で結び固められました。後にキンボール大管長は父の頭に手を置いて、若者並みの活気と力強さを約束して、結び固めの力を授けてくれました。父は母とともにワシントン神殿で11年間結び固めの執行者として奉仕しました。あなたはあなたのできる限りのことを行いなさい。そして神殿結婚の望みを決してあきらめないでください。

もしもあなたが独身で、まだ日の栄えの結婚を決心できるような相手がだれか見いだせていないのなら、ふさわしく生きてください。それについて祈ってください。主が正しいと思われるときにそういう相手が現れることを期待してください。現世から来世にわたる祝福を妨げるいかなることであれ、あなたの標準を落とすようなことはしてはなりません。主はあなたの心の思いを御存じです。主の預言者たちは、あなたがたが常に日の栄えの結婚にふさわしく生きるかぎり、それを受けると断言しています。わたしたちにはそれが現世と来世のどちらでかなえられるかは分かりません。でもふさわしく生きてください。祈ってください。

わたしは、聖なる結び固めの力を通して神殿の聖壇上に永遠の結婚が結び固められたときの貴い喜びを知っています。公正さと、自分をささげるという決意と神の戒めに

対する従順、すべてに関して一緒に神の御心をうかがうという決意があるならば、その喜びは言葉にできないくらいです。時に現世的妨害を受けることがあつてさえ、地上でともに生きる人生の至福、その神聖な経験からあふれ出す充足感と平安というものを言い表せる言葉をわたしは見つけられません。それはあなたが一人一人に得てもらいたいと思う喜びと幸福です。さらに大切なことは、天の御父があなたがたのために望んでおられることだということです。

さあ、神殿に来てください。それはあなたの人生に大きな祝福を与え、自分たちの力では決して得ることのできない重要な儀式を幕の向こうの人々に提供することになるのです。

想像を絶する苦しみと計り知れない代価を払う苦悶をもって、救い主はわたしたちの仲介者となり、贖い主となり、最後の裁き主となる権利を得られたことを証いたします。主への信仰と、要求される儀式と聖約を受けることによって、主の無限の贖罪を通じて可能となった永遠の結婚という祝福を受ける権利をわたしたちは得ることができるのです。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

大会出席者とあいさつを交わす、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老。



「小さなことから」

七十人

スティーブン・A・ウエスト

**わたしたちが、思いやりと愛をもって、謙遜に、熱意をもってキリストに従い、
そのような者が示す、ささやかな、つつましい、優しい行いを通して
勇気と信仰が増し、感めが得られますように。**



数年前、わたしと妻は小さな旧市街の支部で働きました。そこには約35人の会員が集っていました。わたしの心から尊敬する支部長であるダニエル・ソイヤー兄弟は、当時支部で3、4年以上集っていた唯一の会員だったと思います。わたしたちの集会はテラスハウスで開かれましたが、そこは東部の大都市で安全上最も問題のある場所の一つでした。その家が面していた通りでは、1968年に大規模な暴動が起こり、多くの建物が放火され、略奪に遭いました。それから25年を経た当時でも、まだ修理や建て直しがされていない建物が幾つかありました。テラスハウスの前には、歩道から玄関のドアに通じる外階段が数段あり、ドアから教室や事務所に改造された幾つかの部屋へと通じていました。もう一つのドアが歩道に面していて、

そこから内階段を下りて地下に行くとき、聖餐のテーブル、話者用の演壇、折り畳みいすが置いてありました。その場所が、わたしと妻が最も記憶に残る霊的な経験をした場所なのです。

ある日曜日、支部の聖餐会の最中に、一人の女性が通りからドアを開けて中に入って来ました。彼女はホームレスで、汚れたぼろぼろの衣服をまとい、せきをし、息を詰まらせ、汚ないハンカチで鼻をかんでいました。彼女は、かすれた大きな声で「歌いたいわ。お祈りをしたいの」と言いました。そしていちばん前の席まで真っ直ぐ歩き、白いブラウスを着た会員の隣に座り、その会員にもたれかかって頭を肩の上に乗せました。するとその会員はすぐに腕をその女性に回し、集会の間ずっと抱き締めていました。話者が良きサマリア人のたとえを話している最中にその女性が入って来て、その出来事が起こったのです。この女性がせきをし、息を詰まらせているときに、話者はそのたとえを話し続けていました。話の終わりになって、話者が参照聖句を引用すると、突然大きな声を出して、このホームレスの女性は、話者が引用し出した聖句を途中から最後まで暗唱しました。後でこのことについて話したとき、だれかが愛をもって訪問者に腕を回すような姿は、長い間見るのがなかったように思いました。また、わたしたちが見た模範以上に良きサマリア人のたとえを表す例もないように思いました。そしてわたしたちは、このたとえの前に話された「自分を愛す

るように、あなたの隣り人を愛せよ」²という救い主の言葉を思い出しました。

2番目の経験は、^{しゅうぶん}自分の一を納めるために数枚の硬貨を信仰深く封筒に入れた親切で誠実な女性に関するものでした。ある日、その女性が教会に来ると、手に1枚の乾いたパンを入れたサンドイッチ用のビニール袋を持っていました。彼女はわたしたちにそのビニール袋を手渡してこう言ったのです。「教会に入るおつもりでしたら、ささげ物をすべきです。わたしは、多くは差し出せないで聖餐のパンをささげています。」

この女性がささげたパンを取っていると、その日の聖餐会は特別な意味を持ったものになりました。わたしの脳裏を駆け巡ったのは次の聖句でした。「イエスは、さいせん箱にむかってすわり、群衆がその箱に金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持は、たくさん金を投げ入れていた。

ところが、ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。それは1コドラントに当る。

そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、『よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。』

みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである。』³

3番目の経験は、援助を請う人にいつ施しをすべきかについて日曜学校で会員が話し合っているときのことでした。さらに教育を受けようと、奥さんとともにアフリカから来ていたある会員が、手を挙げて次の経験を話してくれました。彼が家に帰るために近所を歩いていると、胸にピストルを持った男が近づいて来て、あり金をすべて出すように要求したのです。その会員は、ポケットからお金を取り出し、その男に渡してこう言いました。「あなたがほんとうにお金に困っているのなら、まだありますよ。」彼は、かばんを開けてお金を出し、それを強盗に渡して、「分かり



ますか。あなたがこのお金をわたしから取って行くのではなく、あなたがそれを必要としているので、主の御名によってあなたに差し上げるのです」と言いました。強盗は驚いて彼を見上げ、ピストルをベルトにしまってこう言いました。「どこに住んでいるんだい。家までついて行ってやるよ。あんたはあまりにも善人だから、この辺りは危なくてしょうがない。」

二人でこの会員のアパートに向かって歩き出すと、突然警察の車に取り囲まれました。一人の女性がアパートの窓から強盗行為を目撃し、警察に通報したからです。警官はその強盗を逮捕し連行しました。この会員は後日、被害者として強盗裁判に出廷し、証言するよう求められました。裁判で彼は、強盗は金を要求したが、主の御名によってお金を差し出すと言ったこと、またこの強盗がほんとうに金銭に困っているなら、さらに差し出すと言ったこ

とを証言したのです。

それからは、「上着を奪い取る者には下着をも拒むな」という主の御言葉を聞くと、わたしの思いは聖地だけでなく、あの東部の町の危険な通りに思いをはせるようになったのです。

これらは、現代の数少ないほんの小さな経験で、あまり多くの人が目にしないものですが、これらの人々は、困難な状況の中で生活している模範的な人々であることを示しています。ある会員は、40年使っているわたしの『モルモン書』を指し、皮の表紙のほとんどは擦り切れてぼろぼろになり、裏の厚紙は露出し、角はすり減っているのを見てこう言いました。「この支部の会員の多くは、あなたの『モルモン書』のようです。……外側はぼろぼろですり減っていますが、内側にある思いは偉大で貴重なものです。」

最後に、テキサスである夕方に、わたしがバプテスマの面接を行った9歳の

スペイン系アメリカ人の女の子について話したいと思います。わたしは、イエスがどのような御方か知っているか尋ねました。彼女は「はい」と答えました。「それでは、イエス様はどのような御方ですか」と聞くと、その子は手を頭の上で動かして見えるすべてのものを身振りで表し、こう言いました。「これ全部イエス様のものなの。」ほかの9歳の子供、いいえたぶんわたしたちでさえも、これほど上手にまとめることができるでしょうか。ほんの短い言葉で、この子供は救い主を簡潔明瞭に表現したのです。「これ全部イエス様のものなの。」面接が終わったとき、この子は母親に、そのまま教会堂に残って、「イエス様の家」で泊まりたい言いました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわれたイエス・キリストとを知ることあります。」⁵

救い主は、新しい世界で弟子たちに

言われました。「……あなたがたは、わたしの教会で行わなければならないことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。わたしが行うのを見たそのとおりのことを、あなたがたも行いなさい。

あなたがたは、これらのことを行うならば、幸いである。』⁶

時の中間に、多くの業の中で、救い主は、様々な所で癒し、親切な言葉をかけ、飢える人に食物（この世と霊的な糧の両方）を、必要な人に助言と勧告を与えられました。主は恐れる人のために祈り、世を去る人をいたわり、子供たちに愛と尊敬を注ぎ、重荷を負っている人に慈愛に満ちた気遣いをされました。「このようにして、主は小さな手段によって大いなることを成し遂げられることが分かるのである。』⁷「それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きな業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大いなることが生じるのである。』⁸

今日の時代、日々の多くの経験から、社会の動向が誤った方向に進んでいるように思える中であって、わたしたちが、思いやりと愛をもって、謙遜に、熱意をもってキリストに従い、そのような者が示す、ささやかな、つつましい、優しい行いを通して勇氣と信仰が増し、慰めが得られますように。

救い主がおよそ2,000年前に伝えられた教えをそのままわたしたちの生活に再現できますように。その祈りにわたしの証を加えます。救い主は生きておられます。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

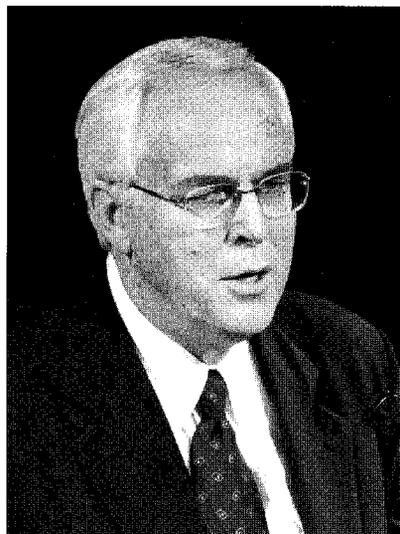
1. ルカ10：30-37参照
2. ルカ10：27
3. マルコ12：41-44
4. ルカ6：29
5. ヨハネ17：3
6. 3ニーファイ27：21-22
7. 1ニーファイ16：29
8. 教義と聖約64：33

真に従う者

七十人

ロバート・J・ホエットン

救い主は、御自身がそれらの人々をこれ以上ないほどに無条件に、純粋に、また完全に愛されたように、わたしたちにも主に真に従う者としてほかの人々を愛するよう望んでおられます。



イエスはこの地上における教師としての最後の御業を、11人の弟子だけが同席するあの2階の部屋で行われました。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように……。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。』¹主は御自身に迫った死と復活について語られました。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。』²主は神の御子としての御自身の神性を再確認されました。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』³さらに主は天の御父が弟子たちのためにもう御一方の慰め主、すなわち聖霊を遣わされることを

約束されました。「聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え」られる。⁴

イエスは、わたしたちを無条件に愛していたからこそ、わたしたちの罪のために贖いの犠牲となられたのです。イエスがどのように生きられたかということこそ、わたしたちの従うべき模範です。イエスの愛がなければ、わたしたちは天の御父のみもとに戻ることができません。イエスの道はわたしたちの道でもあるのです。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならぬ。』⁵ イエスは、わたしたちが努めて善いことを行わなければならないこと、同胞の物心両面における福利は自分自身の福利と同じように大切であること、わたしたちは天の御父のすべての子供たちに対して心からの関心と哀れみを示すべきことを教えられました。モロナイはキリストのような愛を慈愛と定義しました。「あなたが人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛であることを、わたしは存じています。ですから、人は慈愛を持たなければ、あなたが御父の住まいに用意してくださった場所を受け継ぐことができません。』⁶ 主を信じている、主を愛していると言うだけでは不十分です。終わりの日にほかの人々に対して主と同じような愛をわたしたちが得ていると認められなければならないのです。わたしたちは、救い主のように自らの命を捨てる必要はありませんが、救い主と同様に、人生を構成するもの、すなわち時間や才能、財産、

自分自身などをささげることによって、ほかの人々の生活を祝福すべきです。

モルモンは次のように勧めています。「御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」⁷ 信仰と同様、キリストのような愛は御霊の賜物であり、個人の義にかかわる原則に基づいて、また与えられている律法に対する従順さに応じてもたらされるものです。信仰と同様、愛も実践することによって育てなければなりません。わたしたちは皆、1日ずつしか生きられません。また年齢や環境にかかわらず1日を与えられ、ほかの人々との関係において選択の機会を与えられるのです。わたしたちが自らを制し、ほかの人々に仕えるよう手を差し伸べるときに、聖霊によって清められ、教えを受けます。そして、次のパウロの言葉の意味を理解できるようになるのです。「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実〔である。〕」⁸ わたしたちが人々に行く哀れみ深い奉仕は神聖な愛へと発展し、わたしたちを変え、「御子が御自身を現されるときに、……御子に似た者となる」のです。⁹

ブリガム・ヤングは次のように教えました。「わたしたちは、愛と親切の働きを自分の家族から始めるべきです。それから、ほかの人々へと広げてください。」¹⁰ ベニヤミン王は親に対し、子供たちが「互いに愛し合い、互いに仕え合うように」教えるよう勧告しています。¹¹ キンボール大管長は次のように教えました。「神はわたしたちのことを心に留め、見守っておられます。しかし、神がわたしたちの必要を満たされるのは、通常は人々を介してなのです。だからこそ、神の王国にあって互いに仕え合う必要があるのです。」¹²

昨年1月、コロンビアを襲った地震は、アルメニアの町を荒廃させました。心配した幾人かのステーキ会長たちは、アルメニアの会員が必要としている物資について知るために、キトにいる地域会長に電話をしました。地方部長は多くの会員が家を失い、壊れずに残



った4つの教会堂に避難したものの、緊急に食物と衣類を必要としているのを確認しました。扶助協会と神権指導者は即座に行動に移り、コロンビア全土の会員から集められた食物と衣類の寄付が、各都市の指定された教会堂に次々と運び込まれました。7歳になるネイディはカリ市の教会堂に両親とともにやって来ました。そしてビャレアル監督が会員から寄付を預かる姿をじっと見守っていました。

「監督さん、どうしたらアルメニアの子供たちを助けられるの。」

「ネイディ、君のお父さんとお母さんはもう助けてくれたよ。」

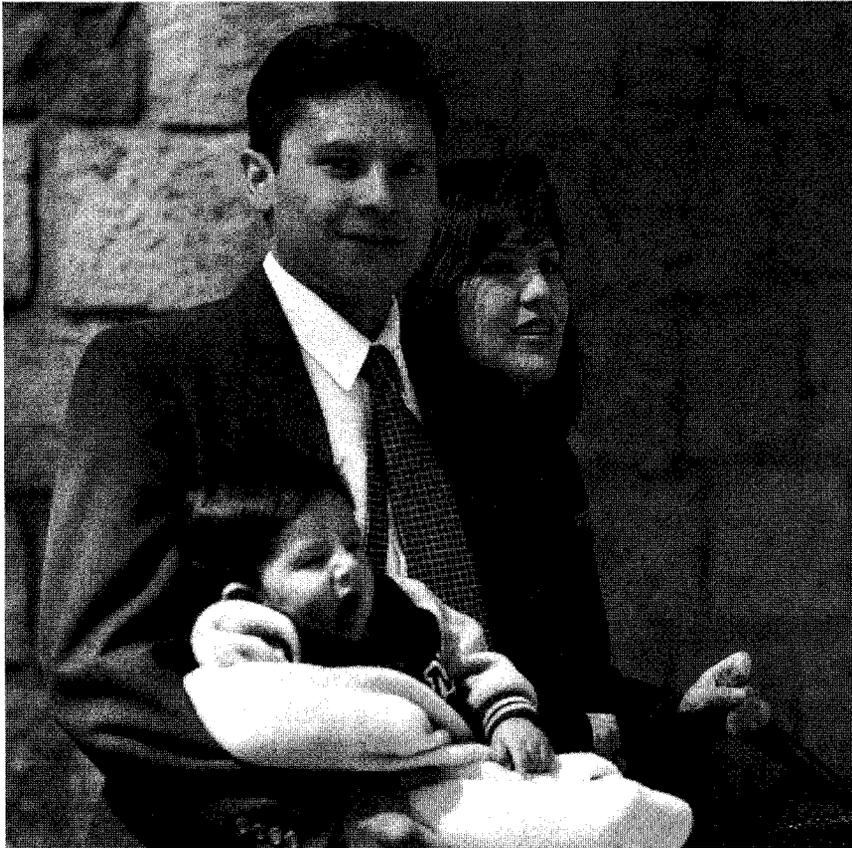
ネイディは教会堂の反対側の端の方に行きました。そして荷造りされている子供用の衣服はほとんどなく、靴はまったくない状態なのに気づきました。ネイディは自分の靴を片方の手にぶらさげて、監督のところへ戻って来ました。「わたしどうしたら助けられるか分かったわ。靴をなくした女の子に、どうぞわたしのをあげてください。」彼女ははだしで、音も立てずに、そっと外へ出て行きました。

ベニヤミン王は聖霊の導きに従い、「生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者」となるように勧告しました。¹³

1829年の晩春、驚くべき回復の業が始まったころ、主は預言者ジョセフを通してジョセフ・ナイトに「人は謙遜であり、愛に満ち」ていなければ、「だれもこの業を助けることはできない」と語られました。¹⁴ 今日、ふさわしい若人は皆、専任宣教師としての2年間の奉仕に備えるよう勧められています。宣教師は主の福音を教え、ほかの人々に仕えるときに、自分が仕える人々に対して抱くキリストのような愛を含め、御霊の賜物を授かります。伝道活動は、ほかの人々に対する愛と奉仕の上に築かれ、一生続く幸福の基となり得るものであり、またそうならなければなりません。

母親の務めは神権者の務めと同様、ほかの人々に奉仕し、ほかの人々を養う神聖な召しです。子供に対する母親の純粋な愛を目的にしたりした人で、そのような愛が神によるものであることを否定できる人がいるでしょうか。姉妹の皆さん、このようなイエス・キリストの愛を生涯にわたって示すことができますし、またそうしなければなりません。

裕福な男性がイエスに近寄って来てこう尋ねました。「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか。」主が守るべき戒めを繰り返されると、その男性はこう答えました。「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのではし



う。」イエスは彼に言われた、『もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい。』¹⁵

今日、わたしたちは主の弟子として自らに問う必要があります。「ほかに何が足りないのでしょうか。」皆さんは絶えず善を行い、家庭や教会、地域社会にあってほかの人々に愛を注ぎ、仕えることができます。ある点で、皆さんは喜んで「自分の持ち物と能力をすべて〔主に〕ささげ」なければなりません。¹⁶

わたしの知っている、真に従う者の中に、心待ちにしていた退職後の平安と楽しみを後に置いて主に従い、主の王国における専任の奉仕の業に出かけた夫婦がいます。もし弟子となって成長したいと望むなら、伝道について監督と話してください。教会のどの伝道部ももっと多くの夫婦宣教師を必要としていますし、やがて儀式が行われる100の神殿も働き手を必要としています。ヒンクレー大管長は次のように話しました。

「宣教師はなぜ幸福なのでしょう。それは彼らがほかの人々のために自分を捨てて働いているからです。

神殿で働いている人が幸せなのはなぜでしょうか。言うまでもないことですが、それは彼らの愛の働きが人類の救い主がささげられた偉大な身代わりの御業と一致するものだからです。』¹⁷

わたしは愛する人々に囲まれてきたことに感謝しています。彼らは、愛と奉仕によってわたしの人生に祝福をもたらしてくれました。アルマの時代に改宗した人々のように、もし主の民と呼ばれるならば、「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望」まなければなりません。¹⁸ どんな人であれ、キリストのような愛と奉仕により多くの人の重荷を担ってくれた、真に従う者のことを思い出せるはずです。アーネスト・リロイ・ハッチは、わたしが育ったメキシコ北部の町の医者でした。彼はわたしの伝道部長であり、ほかにも幾つかの伝道部でも働きました。彼は人生の大半、「さらに聖くなお努めん」という賛美歌の歌詞を持ち歩きました。

最後の2行は次のような歌詞になっています。「われみ国に ふさわしく 主のごとくに 尊くならん。」¹⁹

救い主は、御自身がそれらの人々をこれ以上ないほどに無条件に、純粹に、また完全に愛されたように、わたしたちにも主に真に従う者としてほかの人々を愛するよう望んでおられます。過去の時代と同様に今日でも、主の使徒と預言者は、このキリストのような愛こそ主の福音の真髄であるということを常に模範によって教えているのです。わたしは互いの、また一人一人への彼らの愛を知り感じるができるようになりました。わたしは彼らがイエス・キリストの真の弟子であることを証します。この教会は地上における神の王国です。わたしたちにはキリストとキリストの弟子の愛と奉仕の模範が与えられています。わたしたちもまたキリストの真の弟子となることができますように、イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ヨハネ13：34-35
2. ヨハネ15：13
3. ヨハネ14：6
4. ヨハネ14：26
5. 3ニーファイ27：27
6. エテル12：34
7. モロナイ7：48. 強調付加
8. ガラテヤ5：22
9. モロナイ7：48
10. *Discourses of Brigham Young*, sel. John A. Widtsoe(1954),271.
11. モーサヤ4：15
12. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, ed. Edward L. Kimball (1982), 252
13. モーサヤ3：19
14. 教義と聖約12：8
15. マタイ19：16, 20-21
16. モーサヤ2：34
17. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997), 595
18. モーサヤ18：8
19. 『賛美歌』74番

家族を強めること—— わたしたちに託された 神聖な義務

十二使徒定員会会員
ロバート・D・ヘイルズ

家族を強める鍵は、主の御霊を家庭に招くことです。
家族の目標は、細くて狭い道を歩いて行くことです。



家族を強めることは、わたしたち両親や子供、親族、指導者、教師、個々の教会員にとって、神聖な義務です。

家族を霊的に強めることの重要性は、聖文の中でははっきり教えられています。アダムは父親として、エバは母親として、息子や娘に福音を教えました。アベルは神を愛し、そのささげ物は主に受け入れられました。一方、カインは「神よりもサタンを愛し」、重大な罪を犯しました。アダムとエバは「カインとその兄弟たちのゆえに主の前に嘆き悲し」みましたが、子供たちに福音を教えることは決してやめませんでした（モーセ5:12, 18, 20, 27; 6:1, 58参照）。

わたしたちは、子供はそれぞれ異なった賜物と才能を持って生まれてくることを理解しなければなりません。アベルのように、生まれつき信仰の賜物を与えられているような子供がいます。一つ一つの決定に思い悩む子供もいます。わたしたち両親は、子供の苦勞や苦惱を見て、主に対する信仰を失ったり、弱めたりしてはなりません。

息子アルマは、「自分の多くの罪を思い出してひどく苦しみながら」、世の罪を贖われる神の御子、イエス・キリストの来臨について父から聞いたことを思い出しました（アルマ36:17）。父親の言葉がアルマを改宗に導いたのです。このように、わたしたちの教えや証は、子供たちの心に残っています。

ヒラマンの2,000人の若い兵士は、義になかった母親が力強く福音の原則を教えられたことを証しています（アルマ56:47-48参照）。

霊的な苦悶のときに、エノス是这样い言いました。「永遠の命……について……度々聞いていた……父の言葉が、そのときになってわたしの心に深くしみ込んできた。」（エノス1:3）

『教義と聖約』の主の言葉によれば、両親は子供が「8歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと接手による聖霊の賜物の教義を理解するように」教えなければなりません。

また、「子供たちに祈ることと、主の前をまっすぐに歩むことも」教えなければなりません（教義と聖約68:25, 28）。

言葉と模範を通して子供に福音を教えるとき、家族は霊的に強められ、強化されます。

生ける預言者の言葉は、家族を霊的に強めるという神聖な義務を明らかにしています。1995年、大管長会と十二使徒評議会は、「世界への宣言」を発表しました。中にはこう述べられています。「家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもので……夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。……両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守……るように教えるという神聖な義務があります。」（『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1996年6月号、10-11）

今年の2月、大管長会はすべての両親に、次のように呼びかけました。「子供たちを福音の原則の中で教えることに全力を尽くしてください。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。家庭は義になかった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえでの大切な役割を果たしてはくれません。」

この2月の手紙の中で、大管長会が教えているように、福音の原則の中で子供を教えるならば、両親は破壊的な要素から家族を守ることができます。大管長会はさらに次のように勧めています。「家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」（1999年2月11日付けの大管長会からの手紙）

主御自身と教義による助けがあれば、

家族は、様々なチャレンジに隠れた悪の力をすべて察知し、克服することができます。家族に必要なものが何であれ、預言者の勧告に従うときに、家族を強めることができるのです。

家族を強める鍵は、主の御霊を家庭に招くことです。家族の目標は、細く狭い道を歩いて行くことです。

家族を強めるために、家庭という囲いの中でできることは、無数にありま

す。家族の中で強める必要のある分野が分かるように、幾つかのアイデアと具体例を紹介しましょう。人や家族がそれぞれ異なることはよく承知していますが、皆さんを励ますためにお伝えします。

●家庭を安全な場所にして、一人一人が愛と帰属感を抱くことができるようにしましょう。それぞれの子供が異なった賜物と能力を持っていることを

理解してください。一人一人が特別な愛と思いやりを必要としています。

●「柔らかい^{こたえ}答は憤りをとどめ」ることを心に留めましょう(箴言15:1)。わたしと愛する妻がソルトトレイク神殿で結び固められたとき、ハロルド・B・リー長老は、「怒って大声を上げると、御霊は家庭から離れて行きますよ」という賢明な勧告を与えてくれました。わたしたちは怒りのあまり、子供に対して家庭や心の扉を閉ざすようなことをしてはなりません。放蕩^{ほうとう}息子のようになり、本心に立ち返ったときに、いつでも愛と助言を求めて帰って来られることを子供に伝えてください。

●子供たちと時間を過ごし、活動や話題を子供に選ばせましょう。気を散らすものを排除してください。

●子供自身の宗教的な行いを奨励しましょう。例えば、個人の祈り、聖文の研究、特別な目的を持った断食などです。子供の行動や言葉遣い、人に対する態度などを観察して、霊的な成長を評価してください。

●子供と毎日祈りましょう。

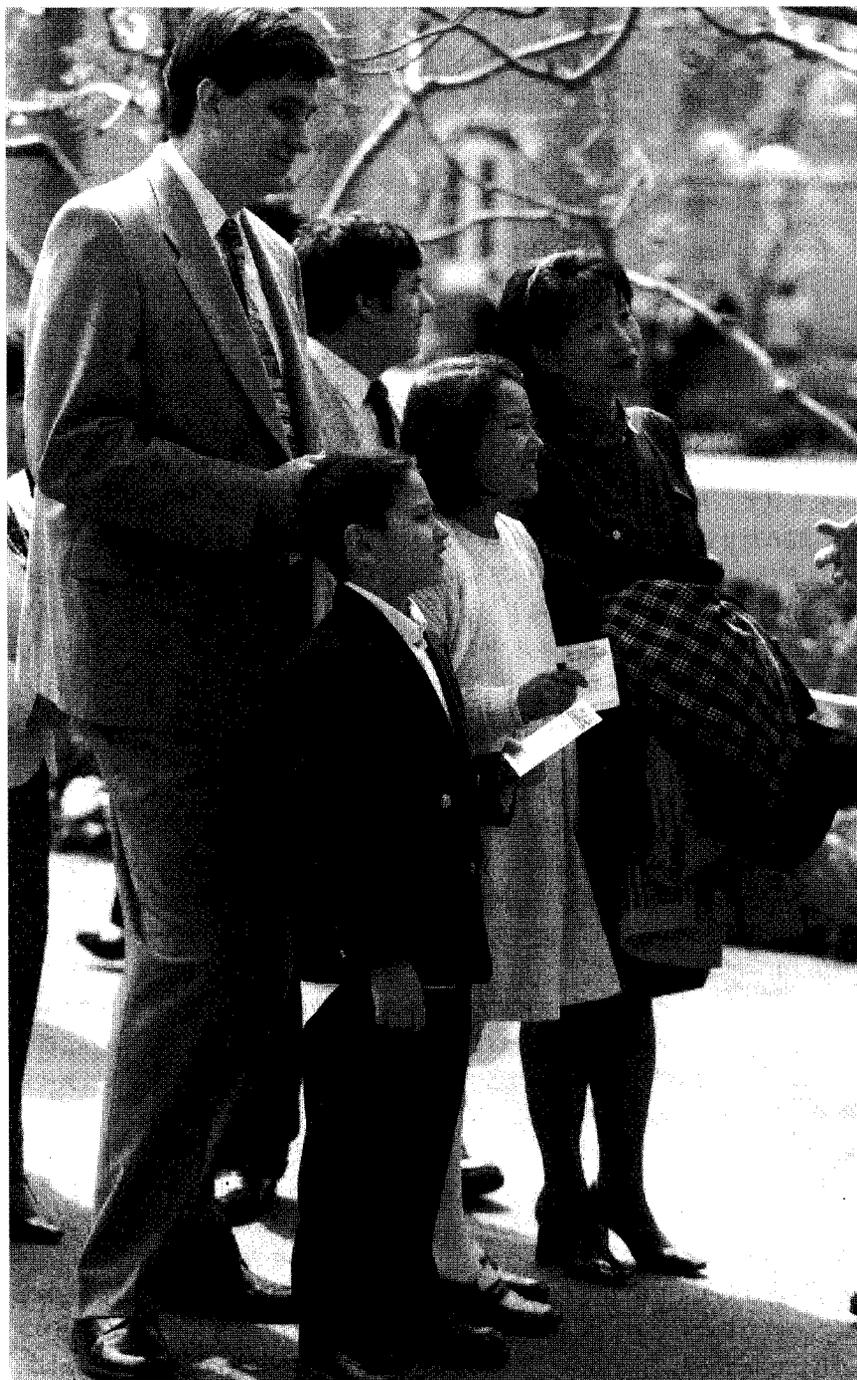
●一緒に聖文を読みましょう。わたしが覚えているのは、両親が聖文を読んで、子供たちが床に座ってそれを聞いていたことです。時々両親からこう質問されました。「この聖句は、どういう意味かな?」「この聖句からどんな気持ちを感じるかな?」それから両親は、子供たちの答えに耳を傾けました。

●生ける預言者の言葉や、教会機関誌の中から子供や青少年や成人向けの記事を読みましょう。

●『賛美歌』や『子供の歌集』から選んだ歌を家族で歌い、家庭の中をふさわしい音楽で満たしましょう。

●毎週家庭の夕べを開きましょう。両親は時々、恐れるあまり、子供に教えたり、証^{あかし}したりできないことがあります。わたしの人生にも、そのような罪悪感を覚えたことがありました。子供たちが必要としているのは、霊的な気持ちを分かち合い、教えや証を伝えてくれる両親なのです。

●家族会議を開いて、家族の計画や関心事について話し合しましょう。最



も効果的な家族会議の一つは、家族と一対一で行うものです。子供たちの考えが大切であると感じさせてください。子供に耳を傾け、学んでください。

●家庭に宣教師を招いて、教会にあまり活発でない友人や会員でない友人にレッスンをしてもらいましょう。

●教会の指導者を支持していることを示しましょう。

●できるだけ家族一緒に食事をして、有意義な会話を楽しみましょう。

●自分一人ですれば簡単に速くできる仕事でも、家族みんなでいきましょう。家族で働くときに、子供たちと話をしてください。わたしの父は、そのような機会を土曜日ごとに与えてくれたものです。

●子供が友情を築く方法を学べるように助け、友達が家庭で歓迎されていると感じられるようにしましょう。友達との両親と知り合いになってください。

●時間や資源の賢明な使い方を模範によって子供に教えましょう。自立と、将来に備えることの大切さを学べるように助けてください。

●先祖や家族の歴史について子供に教えましょう

●家族の伝統を築きましょう。子供たちの必要や才能、能力を考慮して、有意義な休暇を過ごす計画を立て、実行してください。子供たちが楽しい思い出を作り、才能を伸ばし、自尊心を築けるように助けてください。

●言葉と行いにより、道徳的な価値観と、戒めを守る決意を教えましょう。

●わたしがバプテスマと確認の儀式を受けた後、母がそばに来て「どんな気持ち?」と聞きました。わたしは、何とか言葉を見つけて、その平安に満ちた穏やかで、幸せで、温かい感じを伝えました。すると母は、それは今受けたばかりの聖霊の賜物で、もしふさわしく生活すれば、その賜物が常にわたしとともにあることを説明してくれました。そのとき受けた教えは、生涯にわたってわたしの心に刻まれています。

●バプテスマと確認の儀式を受け、聖霊の賜物を授かり、聖餐を取り、神権を尊び、神殿で聖約を交わして守るこ

との重要性について子供に教えましょう。子供たちは神殿推薦状にふさわしく生活し、神殿結婚に備えることの大切さを知る必要があります。

●神殿で伴侶や子供と結び固めをまだ受けていなければ、家族で神殿の祝福に備えましょう。家族で神殿の目標を立ててください。

●自分の持っている神権にふさわしくなり、家族の生活に祝福をもたらすためにそれを使いましょう。

●メルキゼデク神権の力で、家庭を奉獻しましょう。

●家庭外にも役立つものがあります。それらを活用すれば、家族は強められます。

●教会や地域社会で奉仕するように、子供を励ましましょう。

●子供の問題や必要について、子供の教師、コーチ、カウンセラー、アドバイザー、教会の指導者と話し合しましょう。

●子供たちが余暇にしていることを知っておきましょう。映画やテレビ番組、ビデオの選択に口を挟んでください。もしインターネットを使っていれば、何をしているのか尋ねましょう。健全な娯楽の大切さが理解できるように助けてください。

●学校の有意義な活動を奨励しましょう。子供たちが何を学んでいるのか知ってください。宿題を助けてください。子供たちに教育の大切さ、および職業と自立に備えることの大切さを理解させてください。

●若い女性は18歳になったら扶助協会に出席しましょう。中には、気が進まない人もいるかもしれませんが、溶け込めないかもと不安になるかもしれません。若い姉妹の皆さん、そんなことはありません。扶助協会は皆さんのためにあります。生涯を通じて、皆さんに祝福をもたらすでしょう。

●若い男性はアロン神権を尊びましょう。それは備えの神権であり、メルキゼデク神権に皆さんを備えるものです。そしてメルキゼデク神権に聖任されたら、長老定員会で活発に活動してください。兄弟愛や定員会のレッスン、

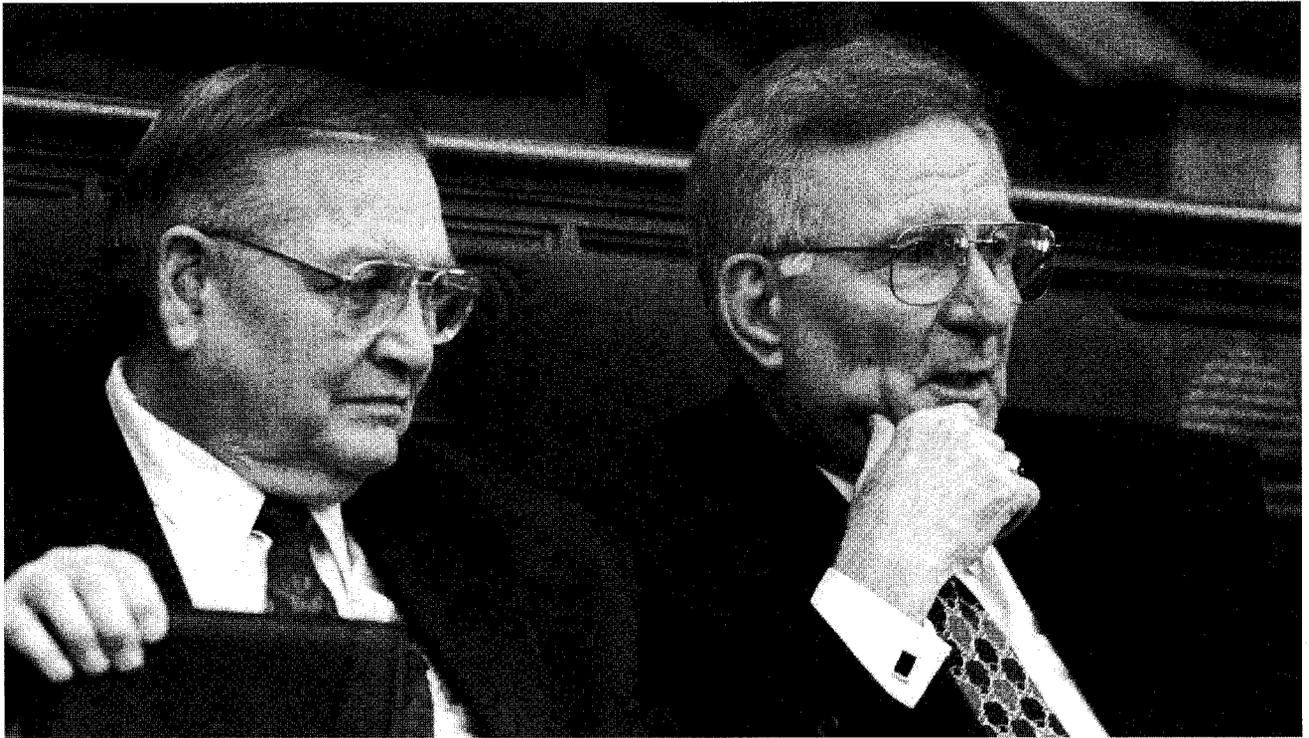
奉仕する機会は、生涯にわたって皆さんと家族に祝福をもたらすでしょう。

●主の御霊が家庭にもたらされ、わたしたちが主の模範によって教えるなら、どの家庭も何らかの方法で強められます。

●恐れずに、信仰をもって行動しましょう。10代の子供が家族の価値観を試し始めるとき、両親は一人一人に必要なことについて主に導きを求める必要があります。これはさらに愛と支援が必要なときであり、選択の方法についての教えを再度強調するときです。子供が誤りから学ぶのを見守るのは、恐ろしい経験です。しかし、人から強要されてでなく、子供が自らの手で主の方法や家族の価値観を選ぶとき、選択の機会はさらにすばらしいものになります。愛と寛容という主の方法は、力と強制というサタンの方法よりも優れています。10代の子供を育てる場合は、特にそうです。

●預言者ジョセフ・スミスの言葉を忘れないでください。「人々に罪を捨てさせるには、手を取って導き、優しく見守る以外にない。人々がわたしに少しでも愛と親切を示してくれたら、わたしはどんなにか心強いことだろう。ところがその反対の行為は、あらゆる不快な思いを巻き起こし、人の心を憂うつにさせるものである。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, sel. Joseph Fielding Smith [1976], 240)

●わたしたちができることをすべて行っても子供が義の道から離れて絶望感に襲われるときは、オーソン・F・ホイットニーの次の言葉が慰めになるでしょう。「中には迷い出る羊もいるでしょう。しかし羊飼いは常に彼らを見守っておられるのです。彼らは、囲いに戻そうと神の手が差し伸べられていることに、遅かれ早かれ気づくでしょう。わたしたちがこの世にいる間か、あるいは来世に行ってからになるかもしれませんが、いずれ彼らは戻って来るでしょう。正義に背いた結果に対しては責任を取り、犯した罪の報いを受けなくてはなりません。しかし最終的には、罪を悔い改めた放蕩息子のように、赦しの心で迎えてくれる〔母親と〕



大会の模様を見守る。七十人のウィリアム・R・ブラッドフォード長老とL・ライオネル・ケンドリック長老。

父親の家、彼らの心に戻るのであれば、つらい経験も無駄にはなりません。軽率で反抗的な子供のために祈ってください。希望と信頼を捨てずに信仰をもって見守り、神の救いの業を見届けてください。』(Orson F. Whitney, in Conference Report, Apr. 1929, 110)

●独身者や子供に恵まれていない人はどうでしょう。家族についての助言に関心を持つ必要があるでしょうか。あります。現世ですべての人が学ばなければならぬことだからです。未婚の成人会員は、しばしば、特別な力を家族に与えることができます。自分の家族や周囲の家族に対して、援助と寛容と愛のすばらしい源になれるのです。

●成人会員の中には、親族に対して両親と同じような責任を果たしている人がたくさんいます。祖父母、おじやおば、兄弟姉妹、おい、めい、いとこ、そのほかの親族は、家族に大きな影響を与えることができます。わたしは自分の親族に感謝したいと思います。彼らは模範と証によって、わたしを導いてくれました。親族の人は時々、両親が言えば口論になってしまう事柄を、話すことができます。ある若い女性は、

長い時間心から母親と話し合った後、こう言いました。「自分のした間違いをパパやママに話すのは、とてもつらいわ。でも、スーザンおばさんに話すのは、もっとつらいの。おばさんをがっかりさせたくないから。」

わたしたちは現世が学習と信仰をばぐむ場であることを自覚し、すべての事物には反対のものがあることを理解しなければなりません。我が家の家族会議で、妻が言いました。「ある家族が完全だと思ったら、その家族をよく知らないということね。」

兄弟姉妹の皆さん、1833年に主によってジョセフ・スミスと教会の指導者に与えられた「わたしたち自身の家を整え」るようという勧めと訓戒に(教義と聖約93:43)、わたしたちは親として耳を傾けようではありませんか。主はさらにこうおっしゃっています。「わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。」(教義と聖約93:40)「家族を整える必要がある。また、家族の者に、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わり、常に祈るようにさせる必要がある。そうしなければ、彼らはその場

所から退けられるであろう。」(教義と聖約93:50)。

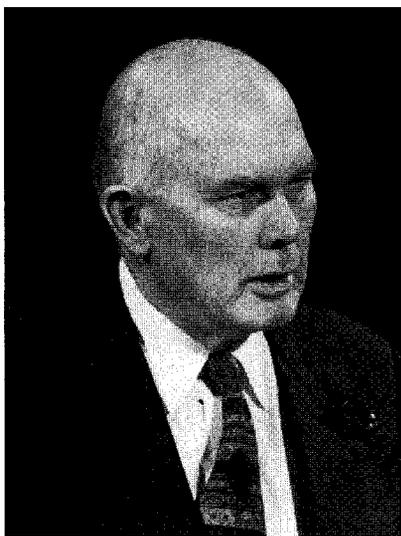
わたしたちの時代の預言者も、家族を整えるようにという同様の勧めと警告を与えています。わたしたちが靈感と愛という祝福を受けて、家庭の中に起きる信仰とは反対のものに対処していけますように。そうするとき、わたしたちは、それらの試練がわたしたちを主に近づけ、家族を互いに近づけるものであることを理解できるでしょう。預言者の声に聞き従って、家庭を強めることができますように(教義と聖約93:41-49参照)。わたしたちが主に近づくとき、家族全体が強められます。そして、互いに高め合い、強め合い、愛し合い、助け合うときに、家族一人一人が強くなります。「助けを与え、助けを受けて、一緒に登って行く」のです(クエーカー教徒の格言)。

家族を強めるために、主の御霊を家庭に招いて保つことができますように。また、それぞれの家族が「永遠の命に至る細くて狭い道」を歩んで行くことができますように(2ニーファイ31:18)、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

証人 マーティン・ハリス

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

**マーティン・ハリスが最も教会に貢献したことの一つに、
『モルモン書』の出版の資金を調達したことが挙げられます。
そしてそのことで、彼はいつの世でも尊敬されるべきなのです。**



証人の律法

神の子らのための救いの計画において、証人および証をするということは、とても重大な事柄です。神会では、聖霊が御父とその御子を証する役割を担っていらっしゃいます(2ニーファイ31:18参照)。御父は御子を証され(マタイ3:17; 17:5; ヨハネ5:31-39参照)、御子は御父を証されました(ヨハネ17章参照)。そして主はその僕らに御自身を証するように命じられました(イザヤ43:10; モーサヤ18:9; 教義と聖約84:62参照)。また、預言者らは皆イエス・キリストを証してきました(使徒10:43; 黙示19:10参照)。

聖文には「二人または三人の証人の口によって、すべての言葉は確定される」と書かれています(教義と聖約6:

28; 2コリント13:1。申命19:15も参照)。救いに関する最も重要な儀式であるバプテスマ、結婚、およびそのほかの神殿の儀式には、証人が求められています(教義と聖約127:6; 128:3参照)。

『聖書』はイエス・キリストを証しています。それはキリスト降誕の預言や伝道の記録、主の御言葉を世に広めた人々の証によってです。『モルモン書』にも同じ内容が書かれています。メシヤの務め以前、その期間、そしてそれ以後の証が含まれています。現在『モルモン書』には適切にも、「イエス・キリストについてのもう一つの証」という題が付けられています。

『モルモン書』の証人

『モルモン書』自体にも証人がいます。彼らの証の重大性について、そしてそのうちの一人の人生について話をするよう選びました。

ジョセフ・スミスが『モルモン書』の翻訳をしていたとき、主は啓示をお与えになりました。預言者の証のほかに、「わたしの三人の僕の証がある。わたしは彼らを召して聖任し、これらのものを彼らに示し、彼らはあなたを通して与えられるわたしの言葉を携えて行くであろう。」(教義と聖約5:11。エテル5:2-4; 2ニーファイ27:12-13も参照)「まことに、彼らはこれらのものが真実であることを確かに知るであろう。天からわたしが彼らにそれを宣言するからである。」(教義と聖約5:12)

さらに8人の証人もいますが、彼らの証についてはまたの機会にお話ししたいと思います。

『モルモン書』の証人として選ばれた3人は、オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマー、そしてマーティン・ハリスです。書面となった「三人の証人の証」は、1830年以降教会が出版し『モルモン書』約1,000万冊に収められています。これらの証人は「この記録が記されている版を」そして「その版に刻まれている文字を見た」ことを厳かに証言しています。そしてその記録についてこのように証しています。「神の賜物と力によって翻訳された……。神の聲がわたしたちにそのことを宣言されたからである。」また次のように証をしています。「また、一人の天使が天から降って来て、携えて来たその版を目の前に置いたので、わたしたちはその版とそれに刻まれている文字を見たことを謹んで言明する。目で見ても、これらのものが真実であると証するのは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによるものであることを知っている。」

・さらに「主の聲がこのことを証するようにわたしたちに命じられたので、わたしたちは神命に従ってこのことを証する。」(「三人の証人の証」『モルモン書』)

超自然的な存在の可能性を否定する人は、この驚くべき証を拒否するかもしれません。しかし不思議な経験を信じることに抵抗のない人々は、この証に感動せずにはられません。3人のうちの二人が同時に啓示を受け、続いて3人目の人はその直後に受けたのですが、その3人が自ら見聞きしたことについての書面による厳かな証は、重要視されるべきものです。確かにこれまでも、一人の証人の証が基となって、多くの信仰深い人々が偉大な奇跡を承認し、受け入れてきました。またこの社会では、一人の証人の証言だけでも、重大な罰や判決を下すに十分であると考えられてきました。

証言を評価するという経験を積んだ人はたいがい、証人が実際にその出来事を目撃する機会があったか、またその件に関する偏見の可能性がないかを

考慮します。もし複数の証人が同一の出来事に対して同一の証言をするならば、共謀の証拠がないか、またそれに相反する証言がないか、疑いの目が向けられます。

考えられる反対意見すべてから計られても、『モルモン書』に対する3人の証人の証は力強くそれに立ち向かっています。もしその証が偽りであったならば、3人それぞれについて、自分の証を放棄する理由と機会が十分にありました。また正確でない部分があったとすれば、詳細についてあいまいな発言をする理由と機会も十分にありました。よく知られているように、教会の他の指導者を巻き込む不和やねたみのために、3人の証人はそれぞれ、証言が公表されてからおよそ8年のうちに、末日聖徒イエス・キリスト教会から破門されています。3人とも共謀を図るほどの共通した関心というものがなかったため、それぞれの道を進みました。しかしどの人も、破門されて後12年から50年にわたる、その生涯の終わりのときまで、だれ一人として公表された証言を曲げたり、その真実性に陰を落とすようなことは言ったりしませんでした。

さらに彼らの証言はほかの証人による証言と矛盾するところがありません。一人くらいその証を却下してもよさそうなものを、ばかにされたり、不利な状況に立たされたりするというのにもかわからず、3人の善人が一致して、生涯この公表された証言に固執し続けたというのは、どのように説明できるでしょうか。『モルモン書』自体と同様に、善良で正直な人たちが何を見たか、その証言の中で厳粛に明言しているということが、いちばんの説明なのです。

マーティン・ハリス

マーティン・ハリスに特別な関心を持っているわたしは、たいいていの教会員の彼に対する認識に悲しみを覚えます。不当な方法で『モルモン書』の最初の原稿を手に入れ、後に失ってしまった人という認識以上に、もっと敬意に値する人なのです。

『モルモン書』が出版されたとき、マ



ーティン・ハリスはもうすぐ47歳という年で、ジョセフ・スミスやほかの二人の証人たちより20歳も年上でした。彼はニューヨーク州バルマイラで、裕福であり、人々から一目置かれる市民でした。その時代や場所を考えても大きい、240エーカー(約97ヘクタール)の農場を所有していました。1812年の戦争では二つの戦いに挑んだ退役軍人でもあります。彼は町の人々から、選挙による役職や責任を任されていました。そして勤勉で誠実な人柄により、だれからも尊敬されていました。当時の人々の記録によると、彼は「勤勉で、骨身を惜しまない農夫、事業の手腕にたけていて、生活は質実剛健」そして「事業の取り引きでは断固として公正」である

と評価されていました (quoted in Richard Lloyd Anderson, *Investigating the Book of Mormon Witnesses* [1981], 96-97, 98)。

この裕福で公正な壮年男性は、若くて一文なしのジョセフ・スミスの味方となってくれました。ジョセフがバルマイラでの借金を返済し、約150マイル(約240キロ)も離れたペンシルバニア州北部に引っ越せるようにと、50ドルを与えたのです。1828年4月、ジョセフ・スミスはその引っ越し先で、ようやく腰を据えて『モルモン書』の翻訳に着手できました。原稿が116枚になるまで、ジョセフが翻訳しながら読み上げ、マーティンがそれを書き留めていました。

マーティンが家族に原稿を見せたい

と何度も要求したので、ジョセフは根負けしてしまい、バルマイラに持ち帰る許可をしてしまいます。そしてバルマイラで原稿は盗まれ、失われ、恐らく焼かれてしまったようです。このことで主はマーティンとジョセフを叱責されます。ジョセフは翻訳する賜物を一定期間取り上げられ、マーティンは「悪人」であり、「神の勧告を無視し、神の前で交わした最も神聖な約束を破〔つた〕」と叱責されました(教義と聖約3:12-13。教義と聖約10章も参照)。幸いなことに、後にジョセフもマーティンとともに主より赦され、翻訳の業はほかの筆記者を交えて再開されました。わたしたちは明らかにジョセフを、そのすばらしき業により尊敬しています。しかしマーティンのその後の忠実さは、引き続き疑われたままです。しかしその汚名は晴らされるべきなのです。

マーティン・ハリスの生涯において、この盗まれ、失われた原稿の悲惨な話に続く重大な出来事を、ここでのおさらいしたいと思います。

マーティンの叱責後約9か月たったとき、預言者ジョセフは啓示を受けました。その啓示で、金版に対する3人の証人が選ばれ、もしマーティンがへりくだるならば、それらを見る特権が与えられる、と宣言されました(教義と聖約5:11, 15, 24参照)。数か月後、マーティンは3人の証人の一人に選ばれ、前に話した経験をし、証をする機会を得ました。

マーティン・ハリスが最も教会に貢献したことの一つに、『モルモン書』の出版の資金を調達したことが挙げられます。そしてそのことで、彼はいつの世でも尊敬されるべきなのです。1829年8月、マーティンは印刷屋エグバート・B・グランディンへの支払いを確実にするために、自宅と農場を抵当に入れました。7か月後、『モルモン書』の初版5,000部の印刷が完成しました。後に支払いの期限が過ぎ、彼の自宅と農場の一部が3,000ドルで売却されました。このような方法で、マーティン・ハリスは主の啓示に従順だったのです。

「あなたは自分の財産をむさぼること

なく、……『モルモン書』を印刷するために惜しみなくそれを分け与えなさい。

印刷業者との契約によって生じた負債を支払いなさい。束縛から自らを解放しなさい。」(教義と聖約19:26, 35)

ほかの記録や啓示でも、マーティン・ハリスが回復された教会の活動に意義深く従事していたことや、神とともにいたことがわかります。1830年4月6日、教会が設立されたときも彼はその場にいました。そしてその日にバプテスマを受けています。1年後ジョセフ・スミス、シドニー・リグドン、そしてエドワード・パートリッジとともに、ミズーリへ旅するように召されました(教義と聖約52:24参照)。その年マーティンはミズーリで、「彼の金銭を教会の監督の前に置いて、教会員の模範となる」よう命ぜられました(教義と聖約58:35)。2か月後、ジョセフ・スミス、オリバー・カウドリ、シドニー・リグドンやそのほかの者ととともに、「数々の啓示と戒めについて管理人」となりました(教義と聖約70:3。70:1も参照)。これらの啓示や戒めは、出版のうえ、輪読するように指示が下り、後に『教義と聖約』となりました。

マーティン・ハリスの兄のエマーは、わたしの曾祖父です。彼は1832年、オハイオ州から伝道に召されました(教義と聖約75:30参照)。エマーはペンシルバニア州北部のかつて住んでいた家の近くで、1年間伝道しました。この期間の大半、エマーの同僚は弟のマーティンでした。マーティンは熱心に伝道したため、数日間投獄されたこともあり、ハリス兄弟たちは約100人を改宗します。その中にオークスという家族も含まれていました。その家族にはわたしの曾祖父もいました。つまり、わたしのミドルネームと名字は、1832年から1833年にかけて、サスケハナ郡で伝道中に会った先祖たちの名前に由来しているのです。

1834年2月、伝道後オハイオ州カートランドに戻ったマーティン・ハリスは啓示により選ばれ、教会の最初の高等評議員に選ばれました(教義と聖約102:3参照)。3か月もたたないうちに、

マーティンは「シオンの陣営」とともにカートランドを去り、900マイル(約1,450キロ)離れたミズーリの地へ、迫害されている聖徒を救いに行きました。

回復の最も重要な出来事の一つは、1835年2月に十二使徒評議会が召集されたことです。マーティン・ハリスを含む3人の証人は「十二人を探し出す」よう(教義と聖約18:37)、そして選び、預言者とその副管長に委任された権能により、聖任するよう任命されました。〔それから、この聖任は大管長会の会員たちの^{あんしゅ}接手によって執り行われました。〕(see B. H. Roberts, *Comprehensive History*, 1:372-375)

大きな影響力と権能を持つ立場から、3人の証人はそれぞれ違った方法で脱落してしまいました。1837年、オハイオ州カートランドには、財政的にも霊的にも大きな^{かつとう}葛藤がありました。マーティン・ハリスは後にそのときのことを、「ジョセフ・スミスへの信頼を失い」「心が暗くなった」と述べています(quoted in Anderson, *Investigating the Book of Mormon Witnesses*, 110)。1837年9月、マーティンは高等評議員から解任され、3か月後に破門されました。

マーティンの妻ルーシーは失われた原稿に関与していたのですが、1836年にバルマイラで亡くなりました。それから1年以内にマーティンとその家族はカートランドに移住し、マーティンはブリガム・ヤングのめいであるキャロライン・ヤングと再婚しました。

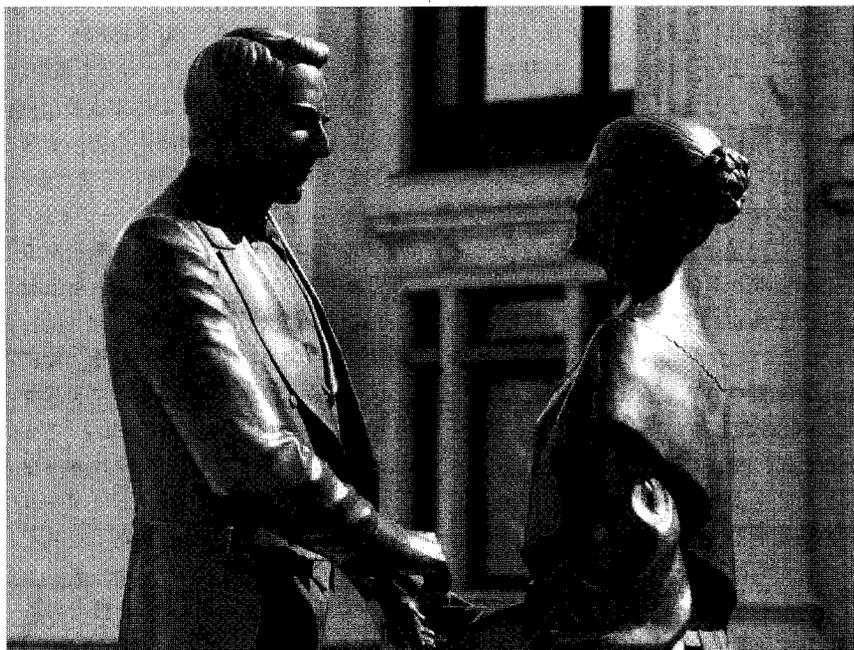
聖徒の大半がミズーリやノーブー、そして西部に移ってしまった後も、マーティン・ハリスはカートランドに残りました。1842年、その地を訪問していた宣教師により、再度バプテスマを受けました。1856年、キャロラインとその4人の子供はユタまで長旅をしましたが、当時73歳だったマーティンはカートランドの自宅に残りました。1860年、人口調査員に自分は「モルモンの説教者」であると告げ、引き続き回復された福音に忠実であった証拠となりました。後に、マーティンは訪問者に言いました。「教会から決して離れたりしていない。教会がわたしから離れた

のだ。』(quoted in William H. Homer Jr., "Publish It Upon the Mountains': The Story of Martin Harris," *Improvement Era*, July 1955, 505) その意味はもちろん、ブリガム・ヤングが教会を西部に導き、年老いたマーティンはカートランドに残った、という意味です。

カートランドで過ごした人生の残りの日々の一時期、マーティン・ハリスは見捨てられたカートランド神殿の案内人兼管理人と自称し、活動していました。マーティンは神殿を愛していたのです。神殿の訪問者らは、彼がユタの教会指導者から見捨てられていると報告しましたが、彼が出版された『モルモン書』の証を固く守っている、とも報告しました。

1870年、ついにマーティンの、ユタにいる家族と再会したいという望みが、旅のチケット、七十人会長会の一員による公式のエスコートというブリガム・ヤングからの温かな招待によってかないました。ユタで87歳の彼をインタビューした人は、彼を「年のわりには非常に力強く、……とても記憶力がいい」と描写しました (*Deseret News*, 31 Aug. 1870)。マーティンは再度バプテスマを受けましたが、それは当時よくあったことでした。そしてこのタバナクルで2度話をしています。彼が話した内容について公式の記録はありませんが、中心となるメッセージが何であるかは確かに知ることができます。なぜならば35人もの人が、この期間に彼が述べた話の個人的な記録を残しており、すべて似通っているからです。ある記録ではマーティンはこのように述べています。「単なる信仰ではありません。知識の問題です。わたしは金版とそこに書かれた文字を目にしました。わたしは天使を見、天使はわたしに金版を見せました。」(quoted in Anderson, *Investigating the Book of Mormon Witnesses*, 116)

マーティン・ハリスは死期も迫ったところに、『モルモン書』の証を繰り返す、次のように宣言しました。「わたしがこれらのことを言うのは、皆さんがわたしの言ったことが真実であるとほか



教会本部ビル北側の広場にあるジョセフ・スミスとエマ・スミスの像。

の人に伝えることができるためです。決して打ち消すようなことはしません。わたしにこの真理について証をするようにと命じる神の声を、わたしは聞いたのです。」(quoted in Anderson, *Investigating the Book of Mormon Witnesses*, 118)

マーティン・ハリスは1875年ユタ州クラークストーンにて亡くなりました。享年92歳でした。ユタ州クラークストーンでは毎年夏、彼を記念したページェント「マーティン・ハリス——知っていた人」を行い、彼の生涯をしのんでいます。

彼の模範から何を学ぶことができるのでしょうか。(1) 証人は重要です。そして3人の証人の『モルモン書』に対する証は印象的で、^{しんびょう}信憑性があります。(2) 幸福と霊的な成長は、教会の指導者に従うときに得られます。(3) わたしたち一人一人に希望があります。たとえ罪を犯し、好ましい道から離れてしまったとしてもです。

主の招きは温かく、愛あるものです。「立ち返りなさい。そして主が備えられたテーブルに着き、聖徒の交わりという甘く、心を満たしてくれる木の実を再び味わいなさい。」(1985年12月23日付けの大管長会からの^{みわざ}手紙) これは主の御言葉であり、主の御業であることを、イエス・キリストの御名により証

します。アーメン。

参考図書

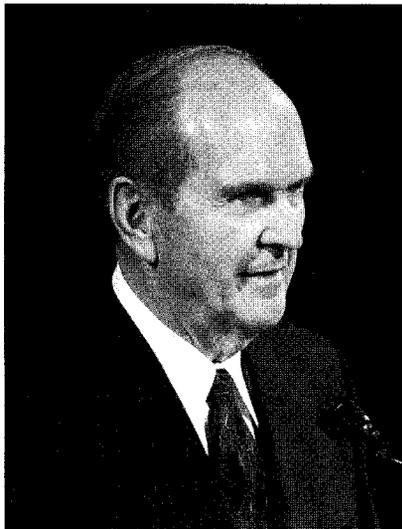
1. Anderson, Richard Lloyd. *Investigating the Book of Mormon Witnesses*. 1981, chap. 7-8.
2. Homer, William H., Jr. "Publish It Upon the Mountains': The Story of Martin Harris." *Improvement Era*. Mar.-July 1955. 144-46, 194-95, 238-39, 244, 310-11, 344-46, 387, 462-63, 505-7, 524-26.
3. James, Rhett Stephens. *The Man Who Knew: The Early Years*. 1983 "Dramatic Biography Annotations." 95-169.
4. Ludlow, Daniel H., ed. *Encyclopedia of Mormonism*. 5 vols. 1992. "Book of Mormon Witnesses." "Martin Harris" "Witnesses, Law of."
5. Roberts, B. H. *A Comprehensive History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*. 6 vols. 1930. 1:371-76.
6. Tuckett, Madge Harris and Belle Harris Wilson. *The Martin Harris Story*. 1983.

女性を敬う 神聖な義務

十二使徒定員会会員

ラッセル・M・ネルソン

**天父のように、現在の姿だけでなく、将来の可能性も含めて、
わたしたちを愛してくれる姉妹たちに感謝しましょう。**



今 晩、兄弟たちとともに集えることは喜びであり、多くの青少年が父親と一緒に参加しているのを見るのは、すばらしいことです。わたしたちが集まったのは、教会の指導者の言葉を聞きたいと願っているからです。しかし、これはユニークな集会です。母親が一人もいません。母親なしにこの場にいられた人はいないのに、わたしたちは母親なしの集会を開いています。

こよい、わたしは息子や義理の息子、孫たちと出席しています。彼らの母親はどこでしょう。家庭のキッチンに集まっています。何をしていますのでしょ

う。ドーナツをたくさん作っています。わたしたちは家に帰ると、そのドーナツを頂きます。そして食べている間、わたしたちは今晚の集会で学んだことを伝え、母親や姉妹や娘たちは、熱心に耳を傾けるでしょう。これはすてきな家族の伝統です。わたしたちが神権者として学び行うすべてのことが、家族に祝福をもたらすという事実を象徴しています。¹

これから、ふさわしくてすばらしい姉妹たち、特に母親について話し、女性を敬う神聖な義務について考えてみましょう。

わたしがまだ若い大学生のとき、同級生の一人が末日聖徒の友人たちに、母親のために大至急献血をしてほしいと頼んできました。彼女はおびただしい出血をしていたのです。わたしたちはすぐに病院へ駆けつけ、血液の検査を受けました。あのとき受けたショックは忘れられません。一人の血液が性病に感染しているので使えないと言われたのです。それは献血を頼んだ彼自身の血液でした。幸いなことに、母親は助かりましたが、彼の悲しみはいつまでも残るでしょう。彼は罪悪感にさいなまれていました。自分の不道徳な行いのために、母親に必要な助けを与えることができず、母親をさらに悲しませたからです。わたしは大切な教訓

を得ました。神の戒めを汚す人は母親を汚すのであり、母親を汚す人は、神の戒めを汚しているのです。²

母親を敬う

医学博士として専門的な職業に就いていたとき、わたしは時々、なぜ難しい仕事を選んだのですかと聞かれました。そんなときは、「この人生で最も気高い最高の仕事は母親です」と答えました。わたしは母親にはなれないので、病人の世話をすることがそれに近いと考えました。わたしは、母親がしてくれたように、愛情をもって十分に両親の世話をするように努めました。

何年も前に大管長会は、わたしに限りない影響を与えた声明を発表しました。「母親の役割は、神の役割に近いものです。それは人間が行う最も高貴で神聖な業で……その神聖な召しを敬う母親を天使の次に置くものです。」³

母親は、神の偉大な幸福の計画になくってはならない存在なので、その神聖な業は、家族の崩壊と女性の価値の下落を目指すサタンに対立するものです。若い男性の皆さんに知っていただきたいのですが、立派な女性の影響がなければ、最高の可能性に到達することはできません。それは皆さんの母親であり、何年後かには、皆さんの奥さんのことです。尊敬と感謝を示す方法を今学んでください。皆さんの母親が「母親」であることを忘れないでください。彼女は命じる必要はありません。母親の願いや望み、助言は、皆さんが尊重すべき指示を与えてくれます。母親に感謝し、愛を伝えてください。そして、もし父親なしに苦労して皆さんを育てているのであれば、彼女を敬う義務はなおさら大きくなります。

母親の影響は、生涯を通じて皆さんに祝福をもたらします。特に、伝道に出るときがそうです。何年も前に、フランク・クロフト長老は、アラバマ州で伝道していました。福音を宣べ伝えていたとき、ならずものに無理やり連れ去られ、背中を鞭で打たれることになりました。クロフト長老は、木に縛りつけられる前に、上着とシャツを脱

ぐように命じられました。それに従ったとき、最近母親から受けた手紙が地面に落ちました。ならずもの卑劣な首領が、その手紙を拾い上げました。クロフト長老は目を閉じて、心の中で祈りました。首領は、クロフト長老の母親からの手紙を読み始めました。その手紙の写しから引用しましょう。

「愛する息子へ、……救い主の次の言葉を忘れないでください。『わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々な悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。』また、救い主が世の罪のために十字架で苦しまれたときに、口にされた不滅の言葉を忘れないでください。『父よ、彼らをおゆるしくください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。』確かに、あなたを虐待する人た

ちは……何をしているのか、あるいは何をしないでおこうとしているのか分からないのです。いつか、どこかで、自分のしたことを理解し、後悔して、あなたが行っている輝かしい御業のゆえに、あなたを敬うでしょう。ですから、忍耐なさい。あなたを虐待し、様々な悪口を言う人々を愛しなさい。そうすれば、主はあなたを祝福し、強めてくださるでしょう。……そして忘れないでください、昼も夜も、お母さんがあなたのために祈っていることを。」

クロフト長老は、手紙を手にした悪意に満ちた男を見ました。彼は少し読むと……座って考え込んでいるようでした。やがて立ち上がり、長老に近づいて言いました。「おい、おまえにはすばらしい母親がいるようだ。分かるか、おれにもいたんだ。」それから、仲間に向かって言いました。「このモルモンの母親の手紙を読んだら、これ以上、何もできなくなった。放してやった方がいいだろう。」クロフト長老は、

危害を受けずに解放されました。⁴

わたしたちは、すばらしい宣教師の忠実な父親と母親に心から感謝します。彼らが子供に対して抱いているのは、崇高な愛なのです。

姉妹を敬う

聖なる神権を有するわたしたちには、姉妹たちを敬う神聖な義務があります。わたしたちは、からかうのが悪いと分かる年齢ですし、その知恵があります。家族の中だけでなく、人生で出会う、すべてのすばらしい姉妹たちを敬います。神の娘として、女性には神聖な可能性があります。女性なしに、永遠の命はあり得ません。

女性に対する高い敬意は、神への愛から、また神の偉大な永遠の計画において女性の果たす高貴な目的への理解からもたらされます。ですから、ポルノグラフィーについて警告します。それは女性を汚します。罪悪です。伝染し、破壊的で、習慣性があります。人体には、汚染された食物や飲み物の有害な作用を取り除くシステムがあります。しかし、ポルノグラフィーの毒は、吐き出すことはできないのです。^{ひとたび}一度記録されると、記憶の中にいつも残り、ゆがんだイメージを心に浮かべ、その力は人生の健全なものから皆さんを遠ざけます。疫病のようにそれを避けてください。

妻を敬う

まだ結婚していない人は、将来の自分の結婚について考えてください。^{はん}伴侶をよく選んでください。神殿結婚の大切さを教えている聖句を心に留めておきましょう。

「日の栄えの栄光には、3つの天、すなわち3つの階級がある。

その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位（すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約）に入らなければならない。

そうしなければ、その人はそれを得ることができない。」⁵

主の宮における最高の儀式は、夫と妻が一緒に等しく受けます。



振り返ってみると、わたしの人生で最も大切な日は、愛するダンツェルと聖なる神殿で結婚した日です。妻なしに、神権の最も高い永遠の祝福にあずかることはできません。妻なしに、わたしはすばらしい子供たちの父親にも、かわいい孫たちの祖父にもなれません。

わたしたち父親は、子供たちの母親を限りなく愛するべきです。母親が受けるに値する感謝と、尊敬と、称賛を伝えてください。夫の皆さんは、結婚当時のロマンチックな雰囲気を保ち、結婚生活の親しい交わりの中で思いやりと優しさを示してください。皆さんの思いと行いにより、自信や信頼を勝ち得るようにしましょう。言葉遣いを正しくし、二人で精神を高揚させる時間を過ごしましょう。仕事やレクリエーションや趣味など、生活の何よりも、妻を最優先しましょう。

理想的な結婚とは、不完全な二人の真の協力関係であり、それぞれが互いを補い合い、戒めを守り、主の御心を行うために努力することです。

父親は愛のうちに家族を管理する

家族は、社会と教会の最も大切な単位で、神によって定められました。それは、「神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもの」⁶です。「神が家族を確立されたのは、御自身の子供たちに幸せをもたらすため、また愛を感じられる場所で正しい原則を学べるようにするため、そして永遠の生活の備えをさせるためです。」⁷

両親は子供の福利について主要な責任を負っています。⁸ 教会は、両親に代わってその責任を果たすものではありません。理想的には、末日聖徒の家族は、神権を持つふさわしい男性によって管理されます。この族長の権能は、あらゆる神権時代の神の民が尊重してきました。家族には神聖な起源があって、そのきずなは、正しい権能によって結び固められるならば、永遠に続きます。この権能の源であり、わたしたちすべての御父である神は、愛と義によって家庭を管理するように求めておられます。⁹



大会部会の閉会に当たり、会衆に手を振るゴードン・B・ヒンクレー大管長。

父親の皆さんは、皿洗いや子守り、おむつの取り替えなどを手伝うことができます。そして日曜日には、子供たちの教会に行く支度をし、奥さんの方が車で待って、クラクションを鳴らしてせかすようにすることもできます。

「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。」¹⁰ このような愛によって、わたしたちはもっと善い夫となり、父親となり、思いやりのある霊的な指導者になるのです。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るとき

に達成されるに違いありません。」¹¹ わたしたちの責任は、家族の祈りや聖文の研究、家庭の夕べを確実に行うことです。また、子供たちが救いと昇栄に必要な儀式を受け、¹² 什分の一を納める者に約束されている祝福にあずかれるように備えをさせることです。¹³ 癒しや慰め、導きなどの神権の祝福は、わたしたちに与えられた特権です。

家庭は愛のすばらしい実験室です。利己心や欲という原料を、協力というつぼの中で融合して、互いへの愛と思いやりという製品を作り出すのです。¹²

兄弟の皆さん、生活の中で特別な姉

妹たちを敬ってください。妻や母親や姉妹たちに、皆さんの愛を伝えてください。皆さんが最善の行いができないときも、忍耐してくれる姉妹たちをほめたたえましょう。天父のように、現在の姿だけでなく、将来の可能性も含めて、わたしたちを愛してくれる姉妹たちに感謝しましょう。わたしはへりくだって、わたしの母や姉、妹、娘、孫、そして特別な伴侶であり、友である妻がいることに感謝します。

神の祝福があって、すべての徳高き女性たちを敬えるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

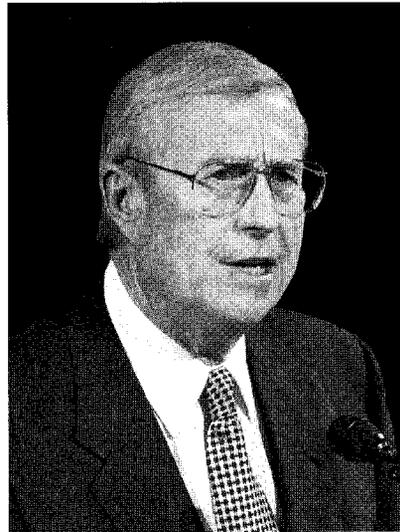
1. 教義と聖約 23 : 3参照
2. 親を敬うように教えている聖句は多くある。出エジプト20 : 12 ; 申命5 : 16 ; マタイ15 : 4 ; 19 : 19 ; マルコ7 : 10 ; 10 : 19 ; ルカ18 : 20 ; エペソ6 : 2 ; 1ニーフアイ17 : 55 ; モーサヤ13 : 20 ; ジョセフ・スミス訳マタイ19 : 19 ; ジョセフ・スミス訳マルコ7 : 12参照
3. James R. Clark, comp., *Messages of the First Presidency of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 6 vols. (1965-75), 6 : 178. 1935年、大管長会は次のような声明を出している。「末日聖徒イエス・キリスト教会が掲げる真の精神は、女性に人として最高の栄誉を与えるものである。」(*Messages of the First Presidency* 6 : 5)
4. See Arthur M. Richardson, *The Life and Ministry of John Morgan* (1965), 267-68
5. 教義と聖約 131 : 1-3
6. 「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、10参照
7. 『家族——ガイドブック』iv
8. 教義と聖約 68 : 25-28参照
9. 教義と聖約 121 : 41-45参照
10. エペソ 5 : 25
11. 『聖徒の道』1996年6月号、10参照
12. モーサヤ 4 : 14-15 ; 教義と聖約 68 : 25-31参照

「神の子のようであって」

七十人

レイ・H・ウッド

神権の保持に関しては、いかなるいいかげんさ、むとんちゃくさ、無関心さもあるべきではありません。一度受け入れたら、神権を顧みなかったり、軽視したり、放っておいたりするようなことがあってはいけません。



イスラエルの人々がヨルダン川を渡りエリコが滅ぼされた後、彼らが次に立ち向かったのはアイの町でした。アイはエリコより小さな町でその兵の数も少なく、ヨシュアは3,000人の兵で勝利を得られるだろうと考えました。ところがイスラエルの軍はアイの人々に敗れ、退却を余儀なくされました。ヨシュアは主の御前で地に身を伏せて敗因を尋ねます。そしてその答えと教訓を受けます。

エリコが滅ぼされたとき、主はイスラエルの民にその地にあるいかなる貴重な品々も取ってはならないと命じられました。ところがアカンという人が戦利品の幾つかを取り、隠していたのです。アカンはこう言いました。「わたしはぶんどり物……を見て、ほしくなり、それを取りました。わたしの天幕の中に、地に隠してあります。」(ヨ

シュア7 : 21) 主は戦利品を破壊するように命じられ、アカンは石で撃ち殺されました。

一人の人物の不正直がイスラエルの軍勢の敗北と36人の死という多大な影響を及ぼし得たというのは、理解し難いことのように思われるかもしれませんが。ジェームズ・E・タルメージ長老は次のように述べています。「義の律法はすでに破られ、のろわれたことはすでに聖約の民の軍営に入ってきていた。この背罪があったために、神の助けは遮られ、民が悔い改めて聖くなるまで彼らは再び力を得ることはできなかった。」(『信仰箇条の研究』140。ヨシュア7 : 10-13も参照)

だれかが神の戒めのいずれかを破ったとき、もし悔い改めが見られなければ、主は守りとなり支えとなる力を取り去られるのです。わたしたちが神から来る力を失うとき、問題があるのは神ではなくわたしたちの方であることを、わたしたちは確かに知っています。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約82 : 10) わたしたちの悪い行いは落胆をもたらします。それはキリストが示してくださっている「完全な希望の輝き」をかすませ(2ニーフアイ31 : 20)、消してしまいます。神の助けがないとき、わたしたちは自力に頼るしかないので。

神権は権限を受けた主の代理人として行動するための権能で、すべての人々

に特定の霊的な祝福をもたらす儀式を行うのがその務めです。それは教会を管理するとき、啓示を通して主の御言葉を得るとき、福音を説くとき、そして生者と死者のための救いの儀式を執り行うときに、主の思いと望みを知らせる力です。神権を持つことは、実に偉大なことなのです。

わたしたちは、「神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており、天の力は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない」と教えられています(教義と聖約121:36)。スペンサー・W・キンボール大管長は次のように注意を促しています。「皆さんが有している……神権の力そのものには制限がありません。ただ皆さんが主の御霊に一致した生活をしないときにその制限が皆さんのうちに現れ、力が限られてくるのです。」(*The teachings of Spencer W. Kimball*, ed. Edward L. Kimball [1982], 498, 強調付加)

神権を持つ者として、わたしたちは「選ばれた種族、王国の祭司、聖なる国民、神につける民」であることを覚えなければなりません(欽定訳1ペテロ2:9より和訳)。わたしたちは「悪人から去り、離れ、彼らの清くないものに触れてはならない」と命じられています(アルマ5:57)。

老若を問わず、男性が神権を受け入れて聖任されると、その神権を尊んで大いなるものとするという神聖な責任を受けます。この責任を果たすには、わたしたち一人一人が勤勉に仕え、信仰と証をもって教え、接する人々を高め強めることが求められます。つまりわたしたちは自分自身のためだけに生きることはできず、ほかの人々の成長、発展、幸福に対しても責任があるのです。

神権のいかなる職への聖任についても、年齢や状況のために自動的に行われるといったことはあるべきではありません。神権の職への候補者一人一人としっかりと面接を行い、その候補者からそれまで行ってきた立派な奉仕の業についての報告や個人の清さとふさわしさについての証言、そして神権の職の大いなる責任を進んで負いた果

たそうという精いっぱい
の努力および今後の意志についての確認を受ける神権指導者は幸いです。

神権の保持に関しては、いかなるいいかげんさ、むとんちゃくさ、無関心さもあるべきではありません。一度受け入れたら、神権を顧みなかったり、軽視したり、放っておいたりするようなことがあってはいけません。神権は永遠にわたしたちのものとなる可能性のある名誉と力の外套なのです。

神権の召しを受け入れることにより、

男性一人一人はある特定の行動様式を取ることを自身の誠実さにかけて誓うこととなります。これは責任感をもたらし、わたしたち一人一人の中に積極的な行いを強め、怠惰を防ぐ力を生み出します。

これらの神聖な召しを軽んじる者に対して、ジョージ・Q・キャノン長老は次のように警告しています。「わたしたちは自分たちが持つ神権を尊ばなければならない。さもなければ神権は、わたしたちを高める代わりに、わたしたちに破滅をもたらす道具となるであろう。神の神権を受けながらそれを尊んで大いなるものとしなないのは、恐ろしいことである。」(*Gospel Truth*, sel. Jerreld L. Newquist, 2 vols. [1957], 1:229)

神権について考えるときには、その真の名称、すなわち「神の御子の位に従う聖なる神権」という名を忘れないようにしましょう。イエス・キリストは神の偉大な大祭司です。主はこの地上のあらゆる神権の権能と力の源です。わたしたちの救い主、仲保者、贖い主として、主はわたしたちの言葉、行い、信条、教義、信仰、儀式、個人の義に



おいて従うべき道を模範によって示してください。[「わたしたち」は、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、[わたしたち]のために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。](1ペテロ2:21)

わたしたちが忠実に主の神権を保持し、召しのすべてを尊んで大いなるものとするならば、主は栄光、永遠の命、昇栄、そして主が持っておられるすべてを授けると約束しておられます。御父の王国においてわたしたちは主と共同の相続人となるのです。使徒パウロの次の言葉にはそのことがよく表されています。「そして、この神権に聖任される人々は皆、神の御子のようになって、いつまでも祭司なのである。」(ジョセフ・スミス訳ヘブル7:3)

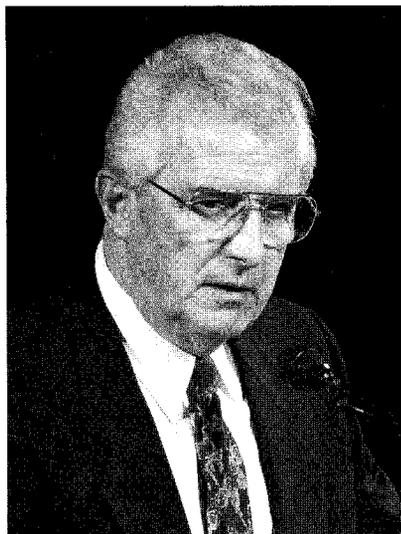
わたしは「人を救う力を備えておられるこの御方」、すなわちわたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの「功德にひたすら頼りながら(2ニーファイ31:19)、これまで述べたことがそのとおりであると厳粛に証します。イエス・キリストの聖なる御名により申し上げます。アーメン。

フェローシップング

七十人

ネッド・B・ローシェイ

友人と責任と神の善い言葉による養いを得ることが意味するものをわたしは知っています。



兄 弟の皆さん、わたしはこの機会にへりくだり、皆さんの信仰と祈りによる助けを得たいと思います。こよいわたしたちのうえに御霊の恵みと導きがあり、ここで語られる言葉を聞いて靈感を受けられるようにと願っています。

もう随分昔になりますが、わたしは自分の人生、すなわち永遠に続く自分の人生を変える電話を受けました。

わたしの属するワードのある姉妹から電話を受け、数週間後に開催を控えたミュージカル活動の夕べの余興としてダンスを披露してほしいと頼まれました。ダンスはわたしの趣味で、ソルトレーク・シティーにあるスタジオで社交ダンスを習っていました。当時はまだ一度もMIAのダンス活動に参加したことがなく、ダンスの発表の誘いを引き受けたときには、胸がわくわくしました。

わたしとパートナーが約束の日に着

したときには、熱烈な歓迎を受けました。驚いたことに、そのプログラムで踊ったのはわたしたちだけだったのです。それは心躍る経験であり、その晩は思う存分楽しむことができました。

次の日曜日の朝、わたしは執事の職に召されてから初めて自分のワードの礼拝行事に参加することにしました。当時、わたしの家族の中で活発な会員は一人もいませんでした。教会でわたしは温かく自分を迎え、真の友情と心遣いを示してくれる人々を見いだしました。このような経験がきっかけとなって、わたしは自分の生涯にわたり喜びをもたらす活動と奉仕への道を歩き出したのです。

その当時シニア・アロン神権委員会と呼ばれる組織がありましたが、これは通常のアロン神権者の年齢を過ぎた人々に働きかける兄弟たちの組織でした。この兄弟たちというのは、主が自分に望んでおられることをそのまま実行するごく普通の人たちでした。わたしは彼らに守られ、彼らと良き友人としての関係を築くことができました。すばらしい帰還宣教師がわたしたちのクラスでレッスンをしてくれました。そこで学んだ福音の基礎は、伝道に出る備えをするのに役立ちました。これと時を同じくして、わたしはワードでダンスクラスの手伝いをするように依頼されました。このような機会を通じて、わたしは自分が必要とされているという気持ちや責任を得ました。

それからの15か月は、大きく進歩し、幸福に満たされながら、瞬く間に過ぎました。やがて、わたしはメキシコでの伝道の召しを受けましたが、すぐにこの国の言葉と国と人々が大好きになりました。

イエス・キリストの回復された福音のメッセージを分かち合う中で、自分の残された生涯のための土台が築かれました。

友人と責任と神の善い言葉による養いを得ることが意味するものをわたしは知っています。自分の人生に何が欠けているのか理解していない人、救い主の愛を知ることによってもたらされる温かい気持ちに飢え渴いている人がたくさんいます。そのような人々は、いわば眠ったままの状態であり、「善い知らせ」をもたらす隣人による魂の目覚めを待っているのです。わたしたちを注意深く見守り、わたしたちの模範を観察し、「すばらしい模範だ、どうやったら自分もあのようなになれるのだろうか」と考える人々がいるのです。

神権を持つ兄弟の皆さんは、老いも若きも、自分の周囲に目を配り、あまり活発でない会員や教会員でない人を探し、友情の温かい手を差し伸べるようお勧めします。皆さんとともに教会の活動に参加するよう彼らを誘ってください。彼らの友人となり、影響を及ぼし、永遠に続く未来のために彼らの人生を祝福してください。

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。

見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに來ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。

そして、悔い改めを条件として、すべての人を自分のもとに導くことができるように、主は再び死者の中からよみがえったのである。

人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。』

主のすばらしい約束をここに付け加えたいと思います。「見よ、自分の罪を悔



い改めたるは赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。』

この復活祭の季節に、わたしたちは主の復活を祝いますが、主に従い、主の御心みこころを行うすべての人々のために喜んで払ってくださった主の犠牲に心を向けようではありませんか。

わたしはすべての人が主のみもとに来て、回復されたイエス・キリストの完全な福音がもたらす素晴らしい祝福を享受できるようお勧めします。

人の言い伝えやわたしたちの生活を乱すあらゆる事柄、モロナイの言う「正しい道」からわたしたちをそらすあらゆる事柄を捨て去りましょう。わたしたちを贖ってくださった御方、救い主イエス・キリストに心を向け、従おうではありませんか。

この大会のメッセージを聞くときに、心の思いに耳を傾け、その促しに従ってください。そうすれば高い所から教えを受け祈りの答えを受けることでしょう。

助けを必要としている人を助け、多くの霊を主のみもとに導き、彼らが神の善い言葉で満たされ養いを受け、主の温かい愛を知るように、以前にも増して熱心に働きましょう。「あなたは背に束を積まれるであろう。働き人が報酬を受けるのは当然だからである。」「このようにすれば多くの人々の心に喜びがもたらされるでしょう。

ずっと昔のあの夜、自分の才能を分かち合うよう招かれたときに、教会での友人と活動という素晴らしい新たな世界への門戸が開かれたのです。わたしに温かい友情の手を差し伸べ、仲間として受け入れ、わたしを養い、わたしの人生に祝福をもたらしてくれた人々に感謝しています。

イエスがキリストであり、わたしたちの救い主、贖い主あかしであられると証します。この教会は主の教会、末日聖徒イエス・キリスト教会です。イエス・キリストみまの御名により、アーメン。

注

1. 教義と聖約 18:10-13
2. 教義と聖約 58:42
3. モロナイ 6:4
4. 教義と聖約 31:5

神権と家庭

七十人

ロ・リー・トブラー

各ワードが評議会を通して、……(神権者のいない)家族に手を差し伸べ、彼らに神殿への道を開く方法があります。



アロン神権とメルキゼデク神権を有する、愛する兄弟の皆さん。この壇上に立つのは、特別な祝福です。神の預言者と使徒たち、そして義にかなった有能な兄弟姉妹が長年にわたってこの場所から教会員を教え導いてきました。今晚、へりくだって願うことは、教会において、まだ家庭内でメルキゼデク神権の祝福にあずかっていない家族へもっと関心を払うように、神権指導者、特にステークとワードの指導者の皆さんに対する励ましの言葉を伝えることです。メルキゼデク神権は家族を祝福し、導くうえで欠かせないものですが、父親がまだそれを授かっていない家庭があります。そのような家族にとって、完全な福音、特に神殿の祝福は、家族の努力だけでなく、神殿の儀式が家族に対して持つ意味を理解している教会員の愛ある努力によってもたらされます。

子供のころ、兄弟とともに育った家庭では、のどの渇きをいやすために水が欠かせないように、神権は生活に不可欠なものであることが十分に理解されていました。母は自分の育った大家族で、家族全員が教会のすべての活動に参加し、家族でソルトレーク神殿に参入する喜びを経験してきました。祖父のショエルは47歳のときに神権とそれに付随するすべての祝福を受けました。母は専任宣教師の務めを終えると、夫としてのみならず、子供の父親としてふさわしい神権を有する神権者に巡り会うことができるように願い、神権の特別な祝福を求めました。神権の祝福を受けた後、母とわたしたち家族のために、義にかなったそれらの願いすべてが、ネバダ州南部で成就しました。わたしたちは最初から、神権と回復された福音の儀式によって築かれた家族でした。これにより、子供だったわたしたちは、自分たちの家族だけでなく、



両親の家族とも密接につながっていると感じました。

わたしたちは幼いころ、父親が一人で、またはワードの神権者を伴って、我が家で神権を行使する際に、神権による癒しの力について学びました。1930年代、ネバダ州の小さな開拓者の町には、医者も一人もいませんでした。最も近くの医者でも、ラスベガスユタ州のセントジョージにしかいませんでした。けがや病気のとき、真っ先に考えるのは神権の力による祝福を受けることでした。母が常々このように言っていたことを思い出します。「このバンカーヒルに医者はいないけれど、祝福をしてくれる神権者がいるからそれで十分だわ。」神権の祝福によって老いも若きも平安と活気を得ました。その祝福は力強いものでした。神権がそこにあるかぎり、わたしたちは決して力を失うことはありませんでした。幼いころに家庭で神の神権の力を知ることができたことにいつも感謝しています。

今日わたしたちの家庭は、過去に類のないような試練に直面しています。

それは、家族という基本単位を引き裂き、将来に対する平安と自信を家族から取り去るような試練です。不道徳な行為、不正直、薬物への依存を喧伝する悪の力が、強まってきているようです。これらの道徳の問題と試練がなくなることはないでしょう。また、日常生活におけるこの世的な試練が厳しさを増していることに気づくでしょう。競争力の強化を目指して世界中の営利組織、非営利組織の吸収や合併が行われているため、雇用が以前のように安定したものではなくなってきたことに、わたしたちはすでに気づいています。家族で経営する農場は、従来のように地元や国内の動向への対応よりも、むしろ世界市場と経済状況全般への対応を以前に増して迫られています。

実質的にすべての職業において世界規模で起こっている急激な変化が、家庭への負担となつてのしかかっています。このような急激な変化は親や子供に不安感を引き起こしています。徐々に低下する道徳的価値観も伴うこれら諸問題を、最も効果的に解決できる場所は家庭です。ふさわしい神権を有する父親が指導し、善良で義にかなった母親がともに働く家庭において、義の力が効果的に発揮されるとき、この試練を乗り越えることができます。

1999年2月11日、世界中の教会員にあてた手紙の中で、大管長会は、子供たちを福音の原則の中で教養育てることに全力を尽くすように、父親と母親に再度呼びかけました。さらに、家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も家庭に代わったり、家庭の大切な役割を果たしてはくれないと忠告しました。

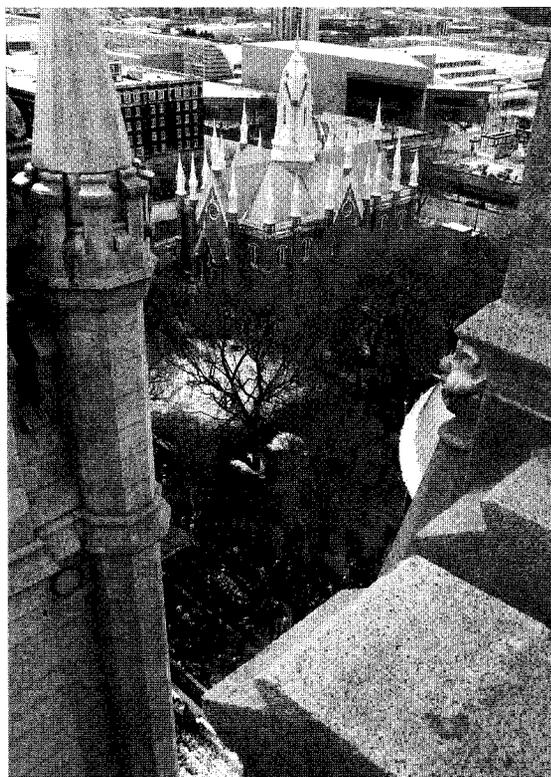
わたしの育った家庭のように、これらの試練に対処するための神権の土台が家庭にあれば、将来起こり得る不測の事態を恐れる必要

はありません。逆境や試練に苦しむこともあるかもしれませんが、その結果得られるものには、永遠における至高の価値があります。神権が尊ばれ、行使されている家庭は、現在の困難な状況を堪え忍び、永遠の家族を築くことができるでしょう。その過程で、家族一人一人が完全となり、忠実さに対する報いを受ける備えをします。

どのワードや支部にも、神権者のいない家族がたくさんあります。これらの家族には、心からの関心を示して、夫や父親がメルキゼデク神権を受ける備えができるよう勧めあげてあげることが必要なのです。妻たちは祈り、その勧めを受けるのを待っています。これらの男性は、指導者によって教え養われ、神権を受けることができるでしょう。彼らは父親として家族に啓示と導きをもたらすでしょう。また子供を祝福し、バプテスマと確認の儀式を施す父親となるでしょう。夫と妻はともに神殿に参入し、子供も連れて参入し、そこでこの世と永遠にわたる結び固めを受けるでしょう。息子を神権者に聖任し、病めるときも健やかなときも息子や娘たちを祝福するでしょう。彼らの多くはこの世的な意味で、すでに家族にとつての良き養い手です。しかし彼らは、永遠における霊的な意味で家族を養う方法を学ばなければならないのです。

各ワードが評議会を通して、これらの人々とその家族に手を差し伸べ、彼らに神殿への道を開く方法があります。わたしたち、そして彼らがほかにもどの方法で昇栄に至り、目の前の試練に対処できるというのでしょうか。監督、支部長、メルキゼデク神権定員会、ワード/支部の評議会が、祈りのこもった、思いやりのある方法でこれらの家族に手を差し伸べることを優先するよう、この場で強くお願いしたいと思います。これらの家族が、神権という外套の庇護の下に安全に守られるとき、この教会は完全にその機能を発揮できるでしょう。主とその偉大な業について、イエス・キリストの聖なる御名によって証します。アーメン。

ソルトレーク神殿の上方からテンブルスクウェアを臨む。中央の美しい建物はアッセンブリーホール。



従順——自由への道

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

従順は真の自由をもたらします。啓示された真理に従えば従うほど、わたしたちはもっと自由になります。



愛する兄弟の皆さん、わたしは今晚この説教壇に立って、神権を尊ぶ皆さんの忠実な従順さに、心からの愛と尊敬を感じています。わたしはこれから警告の声を上げるので、導きを受けて話せるように祈っています。今日の社会では、人の行動には何の制限も加えるべきでないという魅惑的で騒々しい声があつて、善と悪の違いがあやふやになっています。彼らは結果を考えずに、完全な自由を主張します。わたしははっきりと言いますが、そのような行動は人を破壊に導く最短の道なのです。

今晚わたしは教会の神権者、とりわけアロン神権を持つ青少年の皆さんに、真の自由を得る方法について話したいと思います。従順は真の自由をもたらします。啓示された真理に従えば従うほど、わたしたちはもっと自由になります。デビット・O・マッケイ大管長

は、ダンディーという名の自分の馬が、どんなに完全な自由を望んで束縛を嫌ったかについて話しています。

「人を乗せると、ダンディーはどの馬よりも積極的で、よく反応し、言うことを聞きました。……

ところが、拘束されると機嫌が悪くなります。つながれるのが不満で、ロープをかじって自由になろうとしました。逃げるつもりはなくて、ただ自由になりたかったのです。ダンディーは、ほかの馬も同じように思っているだろうと考えて、ロープまで外そうとしました。……

……近所を探検したいという願いと好奇心が、ダンディー自身やわたしを問題に巻き込みました。一度は高速道路で車にはねられました。……

けががよくなると、今までどおり自由を求める気持ちに駆り立てられ、ダンディーはさくをくまなく調べました。しかし、出入り口が針金で止められていると気づいただけでした。……

ところが、ある日のこと、その針金が外れたままになっていました。ダンディーはそれを見て掛け金を外し、別の馬を連れて……外に出ました。2頭は……納屋として使われている古い家まで行きました。ダンディーが好奇心に駆られて扉を開けると……穀物の詰まった袋がありました。何という発見でしょう。そして、何という悲劇でしょう。それはねずみを殺すためのえさでした。ダンディーと連れ馬は、けいれんと苦痛に襲われ、間もなくして死にました。」

マッケイ大管長は、さらに続けてい

ます。「ダンディーは、教会の多くの青少年とよく似ています。……衝動的で、活気があり、好奇心の塊です。……彼らも束縛されるのを嫌います。しかし、いつも忙しく働かせて、正しく、慎重に導くならば、彼らは責任感があり、有能であることを証明します。しかし導きを与えずにさまようままに放置すると、多くの場合彼らは正しい原則を破って、悪と災いと死のわなに陥ってしまうのです。」

手綱をつけられること、すなわち制限に素直に従うことは、わたしたち個人の進歩と成長に欠かせません。最近全国放送された番組で、囚人によって飼いなされた野生の馬の話が紹介されました。囚人たちは馬との関係を築く過程で、忍耐や感情の抑制、敬意、組織内で働く価値などについて学びました。また、馬が自分たちの命令に従うようになるのを見て、彼らは刑務所に入る原因になった恐ろしい過ちを避けるにはどうすべきだったのかに気づきました。さらに付け加えると、正しい原則に対する従順により、彼らは社会の疾病、恥、墮落、罪悪感から解放されました。そして馬と同じように、さらに学んで成長し、目標に到達できるようになったのです。

多くの人々は説得力のある声を上げて、制限からの自由、特に道徳的な制限からの解放を求めています。しかしわたしたちは地球の歴史から、繁栄した社会には様々な制限があったことを学んでいます。地球自体を考えてください。物質から最初に造られたとき、それは何もない、荒れ果てた暗黒の世界でした。それから神が光と闇とを分けるように命じられると、秩序が生まれました。神の命令に従って、地球に最初の昼と最初の夜がもたらされました。次に神は、天空を創造するように命じられ、主は太陽と、月と、時と季節にに応じて輝く星を組織されました。一連の命令とそれに対する従順な行いの後に、地球は人の住める美しい場所になりました。²

元合衆国上院議員のジェーク・ガーン兄弟は、数年前にアメリカの宇宙飛

行士のチームと一緒に宇宙に飛び立ちました。スペースシャトル「ディスカバリー」から見た宇宙の広大さを思い出しつつ、彼はこのように述べています。「地球の周りを回ると、人が皆神の子であって、地球が神の律法に従っていることが分かります。」「宇宙から見た地球は荘厳なまでに美しく、まさに息をのむような光景です。」³

わたしたちが住んでいるこの地球は、

宇宙で特異な位置を占める惑星です。しかし、太陽系の一部でもあり、太陽の周りを回るほかの8つの惑星や小惑星、すい星、衛星などと一つの整然としたシステムを形成しています。地球が独自の軌道を持つ一つの惑星であるように、人はそれぞれ、独自の生活領域を持つ個人です。しかし個人であっても、家族や地域社会の一員であり、そこでは、原則に対する従順さに応じ

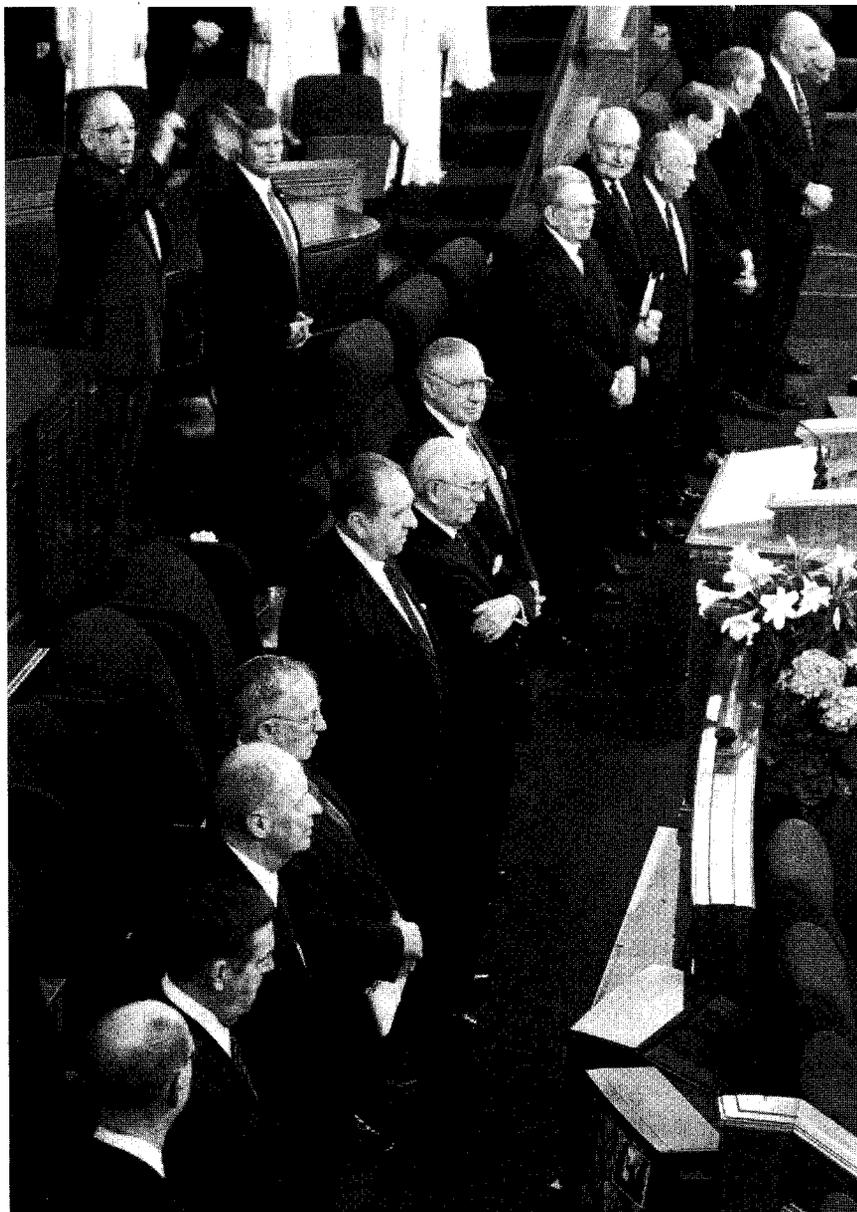
て調和の保たれるシステムが与えられています。秩序は、暗黒でむなしい地球に命と美しさを与えたときと同じように、わたしたちにも働きます。従順は、わたしたちが天父から望まれている可能性を十分に伸ばして、いつの日かみもとで生活するのにふさわしくなるように助けてくれます。

さて、兄弟の皆さん、自由のもう一つの要素は信頼です。60年ほど前、わたしが最初の伝道に出ていたとき、マッケイ大管長は宣教師たちに偉大な真理を教えてくださいました。大管長は、何も言わずに黒板に歩み寄ると、チョークを取って、こう書きました。「愛されるより、信頼される方がすばらしい。」わたしはこの言葉について考え、幾つかすばらしい模範に出会いました。聖典から一つの例を紹介しましょう。

ヤコブとラケルの息子ヨセフは、奴隷としてエジプトに売られました。そして、ポテバルの家で欺かれ、牢に入れられました。二つの夢を見て思い悩んでいたパロは、ヨセフの能力を牢屋番から聞いて、夢を解き明かすように求めました。ヨセフは靈感によって、7年間の豊作の後に7年間の飢饉が来ることを王に告げました。パロは夢の解き明かしを受け入れただけでなく、ヨセフを信頼して、パロに次ぐ権力を与えました。7年が過ぎて飢饉が来ました。結局ヨセフは、すべての兄弟と父親を飢えから救いました。⁴ヨセフは自分の上に立つ人から絶対的な信頼を受けたので、大きな自由を享受したのです。皆さんもヨセフのように、信頼を受けられますが、自ら努力する必要があります。

すべてにおいて、救い主がわたしたちの模範です。使徒パウロは、主が「御子であられたにもかかわらず……従順を学」ばれたと書いています。⁵能力に限りがあるとしても、キリストがされたように従順を学ぶことができます。子供たちは両親に従うことによって権威を尊重することを学び、両親からの信頼を得ます。もし従わなければ、ジャック少年のように父親からこう言われるでしょう。「おまえが言うことを聞かないから、また白髪が増えたぞ。」

会員たちとともに賛美歌を歌う、大管長会と十二使徒定員会。左下から、十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老、ジェフリー・R・ホランド長老、ロバート・D・ヘイルズ長老、リチャード・G・スコット長老、トーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長、ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理、十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老、デビッド・B・ヘイト長老、ニールA・マックスウェル長老、ラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オークス長老、ジョセフ・B・ワースリン長老。そして、写真には写っていないがM・ラッセル・バラード長老。



ジャックは答えます。「それじゃ、おじいちゃんの頭が真っ白なのは父さんのせいだね。」⁶ わたしたちが、人とうまくやっていくのに役立つ自制について、教室でもっと学べるように願っています。従順がわたしたちの目標になると、いらだつことがなくなり、障害は成長のための踏み台になります。

知恵の言葉に従えば、中毒症状に陥ることはなく、アルコールや麻薬やたばこの奴隷になることはありません。肉体は健康に、精神は健やかになるでしょう。この原則には次のような約束があります。「これらの言葉を守って行くことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その骨に髓を受けるであろう。」⁷

この啓示には、さらに約束があります。「また、知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。」⁸ ですから、従順によって知識も得られるのです。救い主が言われたように、「神のみこころを行おうと思おう者であれば、だれでも……この教が……わかる」のです。⁹

従順は、決定を下すときに平安をもたらします。もし戒めに従うことを固く決意していれば、誘惑が来る度に、どちらの道に行くか決め直す必要はありません。ですから、従順は霊的な安全をもたらすのです。

兄弟の皆さん、従順のもう一つの側面は、御霊のささやきに従うことです。これも自由を与えてくれます。わたしたちは、いと高き源からのささやきを無視して、何度後悔したのでしょうか。

エフライム・ハンクスは、御霊のささやきに従ってすばらしい模範を示した少年です。1856年の秋、彼が眠ろうとしていると、声が聞こえてきました。「手車隊が困っていて、あなたの助けが必要です。行って助けてくれますか。」彼は少しも躊躇せず¹⁰に答えました。「はい、ほくでよければ行きます。」

彼は馬に乗ってドレイパーからソルトレーク・シティーに向かいました。町に着くと、盆地に入った最後の手車隊の救助に行く人を募る声が聞こえてきました。エフライムは飛び上がって、「ほく

は準備ができています」と言いました。彼は言葉どおり備えていたので、とりあえず一人でたつことになりました。

ひどい吹雪の中、エフライムは幌馬車で山を越えて東に向かいました。吹雪は3日続いたので、雪がととても深く、幌馬車は動かなくなりました。そこで、馬で行くことにしました。エフライムは馬にまたがり、もう1頭の馬を引きながら、慎重に雪の中を進みました。やがて夕闇に包まれ、サウスパスで一人で野営しました。横になろうとしたとき、エフライムは飢えている聖徒たちのことを考え、直観的に、バッファローを下さるように主に願ひ求めました。祈り終えて目を開けると驚いたことに、50ヤード(約46メートル)足らずの所にバッファローが1頭立っていたのです。ライフルでねらいを定め一発でしとめると、バッファローは彼が野営しているくぼ地にころがり落ちてきました。

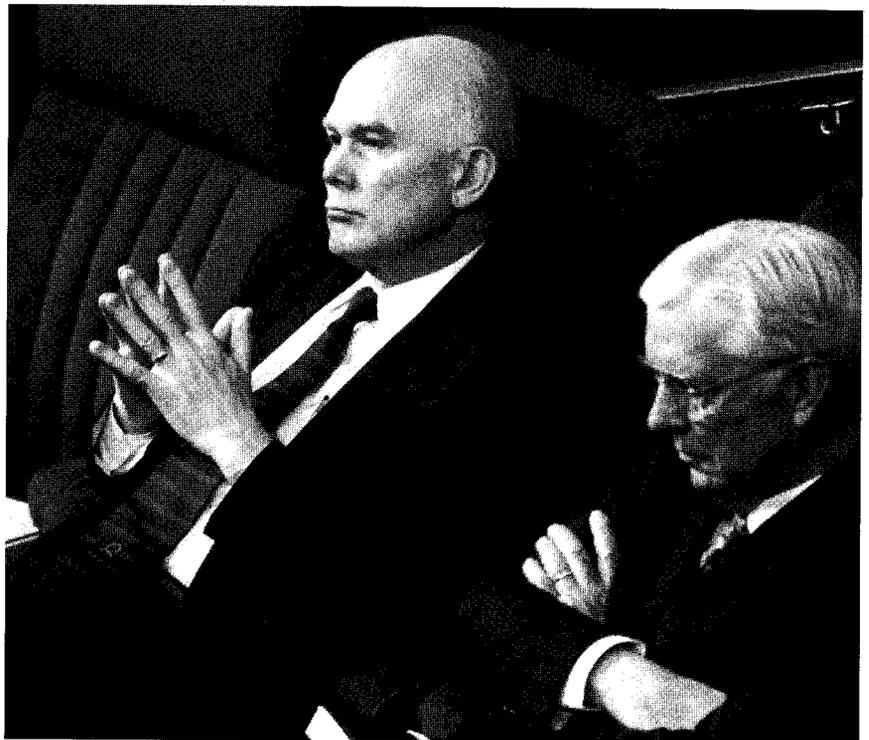
翌朝早く、彼は2頭の馬とバッファローの肉を携えて、アイス・スプリング・ベンチに着きました。そこでもう1頭バッファローをしとめました。この遅い時期に、その地域でバッファローを見つ

けるのは珍しいことでした。肉を細長く切り分け、馬の背に積んでから、彼は再び旅を続けました。ここからは、エフライム自身の話を引用しましょう。

「日没の1時間ぐらい前に、遠くの雪の中に黒い筋のようなものが見えた。近づいて行くと、動いているのが分かった。それは、ずっと探していた、エドワード・マーティン隊長の率いる手車隊に間違いなかった。……彼らはわたしを見つけ、歓呼して迎え入れた。そして、わたしが持って来た新鮮な肉を見たとき、彼らの感謝の言葉は尽きることがなかった。わたしの周りに集まって、一人がこう言った。『お願いです、肉を一切れ下さい。』別の人が声を上げて、『哀れな子供が飢えています。少し分けてください。』子供たちは目に涙をためて叫んだ。『肉をちょうだい、肉をちょうだい。』……5分後には肉が全部なくなり、わたしの2頭の馬はその重荷から解放された。それからの数時間、キャンプの人々は、せっせと肉を料理して食べ、神に感謝したのだった。」¹⁰

まことにエフライム・ハンクスは御霊

大会の説教に静かに思いをはせるダリン・H・オークス長老とM・ラッセル・バラード長老。



のささやきに従ったので、初期の英雄の一人になったのです。彼は冬の悪天候の中を先頭を切って進み、多くの開拓者の命を救いました。エフライムは御霊のささやきに耳を傾け、教会指導者の勧告に従ったので、絶望的な状況に追い込まれた開拓者たちを苦難から解放する力になれたのです。

自由は、わたしたちが神の律法と御霊のささやきに従うときにもたらされる貴重な賜物たまものです。もし破滅を避けたければ、そしてマッケイ大管長の馬のダンディーや仲間の馬のようにならなければ、自分が越えてはならない所にさくを築く必要があります。その越えてはならないさくとは、啓示された真理の原則です。その原則に従順であれば、わたしたちは自由になり、天父が備えてくださった可能性と栄光に到達できるのです。

わたしは、従順が大切であることを証あかしします。また、ヒンクレイ大管長は預言者の外套がいとうを身にまとい、教会の頭、主なる救い主から啓示と導きを受けた方であることを兄弟の皆さんに証したと思います。イエス・キリストの御名なによって証します。アーメン。

注

1. Quoted in Rick Walton and Fern Oviatt, comps., *Stories for Mormons* (1983), 86-87
2. アブラハム4章参照
3. Conversation with E. Jake Garn, 23 Feb, 1999.
4. 創世37章：39-42章参照
5. ヘブル5：8
6. Adapted from Jacob M. Braude, comp., *Braude's Treasury of Wit and Humor* (1964), 147.
7. 教義と聖約89：18
8. 教義と聖約89：19
9. ヨハネ7：17
10. See Sidney Alvarus Hanks and Ephraim K. Hanks, *Scouting for the Mormons on the Great Frontier* (1948), 132, 133, 135-36, 140.

神権者—— 主の強力な軍勢

第一副管長

トーマス・S・モンソン

教会において手にすることのできる最も強力な防衛手段の一つは、活発なメルキゼデク神権者にあります。彼らは力強く、揺らぐことがなく、意欲あかしにあふれ、献身的であり、そして証を持っている人々の集まりです。



教会において手にすることのできる最も強力な防衛手段の一つは、活発なメルキゼデク神権者にあります。彼らは力強く、揺らぐことがなく、意欲にあふれ、献身的であり、そして証を持っている人々の集まりです。

わたしの事務所には、二つの小さな陶器のつぼがあります。一つのつぼには死海から持ち帰った水が入っており、もう一つのつぼにはガリラヤの海から持ち帰った水が入っています。時々、水が蒸発していないかどうかを確かめるためにつぼを軽く振ってみるのがわたしの習慣になっています。こうする度に、わたしは水が寄せ集められた二つの場所に思いをはせます。死海は生物を寄せつけません。ガリラヤの海は生き物が豊かにあふれ、また主イエスキリストの思い出がいっぱいに詰まっています。

今日の教会にはもう一つ水の寄せ集められた場所があります。それは各ワード、各ステークの長老見込み会員が集められている貯水池です。貯水池に向かって勢いよく川の水が流れ込んでいく様子を想像してください。次に、よどんだ貯水池から水が少しずつ漏れている状態を想像してください。この漏れている水はメルキゼデク神権へ昇進することを表しています。長老見込み会員の貯水池はわたしたちが理解しているよりも急速に拡大し、深くなっています。

今、アロン神権プログラムについて

わたしは今晚、神権者によって構成される巨大な軍勢と同席できることを誇りに思っています。皆さんは毎日奉仕の業に励み、主が命じられたように熱心に教え、さらに勢力を尽くして働き、教会が直面する特別なチャレンジに立ち向かうために正しい航路を取るよう、すなわち世にあって世の者とならないよう生活しています。

わたしたちが生活している現在の世の中では、不道徳、無責任、不正直という洪水が個人の生活を根底から押し流そうとしています。わたしたちはこれらの基盤を守らなければ、つまりそのように侵食の機会をうかがっている影響力に耐えるよう基盤を補強しなければ、困難な局面を迎えることになります。

吟味してみる必要があり、急を要しています。なぜなら、あまりにも多くの少年たちがつまずき、よるめいて、メルキゼデク神権定員会に昇進することなく倒れているからです。これによって、教会における活発な神権者の基盤が侵食され、長老見込み会員の愛する妻や子供たちも巻き添えになっています。

この流れに歯止めをかけるためにわたしたちは指導者として何ができるでしょうか。アロン神権という川の源流から手をつけなければなりません。個人の判断力を的確にとらえる方法に関して古いことわざがあります。それはまずある人に、よどんだ池に流れ込む川を見せませす。そして、その人にバケツを渡して、池の水がなくなるまで水をくみ出してもらいます。その人が最初に、池に流れ込む川を何とかしてせき止めようとするならば、分別のある人として認められます。もし、流れ込む川を無視して、懸命にバケツで水をかい出そうとしているならば、その人は正気でないと思なされるというものです。

啓示によって明らかにされているように、監督はワードのアロン神権の会長であり、祭司定員会の会長です。監督は神より与えられたこれらの責任をほかの人に委任することができません。しかし、定員会アドバイザーとして召されている兄弟たちに責任を与えることができます。彼らは少年たちの生活に影響を及ぼすことのできる人です。

副監督やワードの役員教師、特に若い男性の父母は計り知れないほど大きな助けを与えることができます。アロン神権定員会の会長会によってなされる働きも非常に効果的です。

したがって、わたしたちの目標は、すべての若い男性を救って、若い女性にとってふさわしい人物を備えること、力強いメルキゼデク神権定員会を確立すること、そして主の期待にこたえるための訓練を受け、その能力を持つ宣教教師を備えることです。

そのための賢明な第一段階は、執事に、それぞれが聖任されている召しが神聖なものであることについて霊的な自覚を持たせることです。断食献金を集め

る責任に関連づけて霊的な自覚を持たせることに成功したワードがあります。

このワードの会員たちは断食日に執事と教師の訪問を受け、そこで献金します。しかし、執事はこの責任を果たすためにいつもより早く起きなければならないため、多少おっくうがっていました。

監督会はあるとき靈感を受けました。そして、執事と教師をバスいっばいに詰め込むとソルトレーク・シティーにあるウェルフェアスクウェアに連れて行きました。彼らはそこで貧しい子供たちが新しい靴や衣類を受け取っている姿を目にしました。彼らはそこで空のかごが、日用品でいっぱいになっていく様子を目にしました。金銭の授受はまったく行われていませんでした。やがて、簡単な説明がありました。「アロン神権者の皆さん、皆さんが断食日に集めてくれたお金でここにあるすべての品物をそろえることができたので

す。食糧や衣類、それに保護施設までもです。」アロン神権者はうれしくなり、活気づきました。そして、自分たちの責任を進んで果たすようになりました。

すべての教師はホームティーチングの割り当てを受けているのでしょうか。これは伝道の準備をするためのすばらしい機会です。義務を果たすための訓練を受ける特別な機会です。人々を「見守る」責任を与えられると、少年は自動的に自分だけではなく他人にも目を向けるようになります。

では、祭司はどうでしょうか。これらの若い男性には聖餐を祝福し、引き続きホームティーチングの義務を果たし、神聖なバプテスマの儀式に参加する機会があります。

わたしは執事だった時代に、聖餐のテーブルを前にして聖餐を執り行う祭司をじっと見詰めていたものです。バリーという名の祭司はすばらしい声の持ち主でした。彼がはっきりとした口

大会の部会に出席するため、タバナクルへの入場を待つ人々。





調で聖餐の祈りを読むのを聞いていると、まるでスピーチコンテストでスピーチを聞いているような錯覚に陥ったものです。ほかのワードの会員たち、とりわけ年輩の姉妹たちは彼の美声を褒めていました。彼は少し有頂天になっていたと思います。ワードにはジャックという名の祭司もいました。彼は聴覚に障害を持っていたため、話す声が不自然でした。わたしたち執事はジャックが聖餐を祝福するとくすくす笑っていました。実はわたしたちがこんな大胆なことをするのは無謀なことだったのです。ジャックはくまのような手をしていましたので、わたしたちなどわけなく一撃で倒すことができたからです。

あるとき、美声の持ち主であるバリーと、うまく話せないジャックの二人が、聖餐の祝福をする割り当てを受けました。賛美歌を歌っている間、二人の祭司はパンを割きました。バリーが祈るためにひざまずきました。わたしたちは目を閉じました。けれども、祈りの言葉が一向に聞こえてきません。わたしたち執事はどうしたのかと目を開きました。バリーが取り乱した様子で、聖餐の祈りが印刷されている小さな紙を探していた光景は一生忘れることができません。その紙はどこにも見当たりませんでした。バリーはどうしたらよいか分かりませんでした。バリーの顔は紅潮し、次に会衆の目が自分に注がれ始めると真っ赤になりました。

するとジャックはそのくまのような手を伸ばすと、バリーをつかんで後ろのいすに座らせました。そして自分が足載せ台にひざまずいて、祈り始めました。「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このパンを頂くすべての人々が、……このパンを祝福し、聖めてください。……」彼は祈りを終え、そしてパンが配られました。ジャックは水も祝福しました。そして配られました。その日わたしたち執事は、話すことに障害があるにもかかわらず、神聖な祈りを暗記していたジャックを心から尊敬しました。バリーもジャックを見直しました。そのとき、二人の間には永遠に続く友情が築かれたのでした。

監督会やアロン神権定員会アドバイザーの影響力をはるかにしのぐのが、家庭の持つ影響力です。両親の影響力が正しく発揮されるかどうか、子供の成功と失敗の分かれ道になることがしばしばあります。最近わたしたちが行った調査によれば、伝道に出ること、また神殿で結婚することを決意するに当たって最も大きな影響を受けたのは家庭からであったことが明らかになっています。

48人の祭司で完全な定員会が組織されていたワードは、わたしが知っているかぎりでは3つしかありません。それらはジョセフ・B・ワースリン、アルフレッド・B・スミス、アルビン・R・ダイ

ヤーが管理したワードでした。ほとんど例外なく、これらの定員会に所属していた若い男性は伝道に出て、神殿で結婚しました。彼らが成功を収める鍵となったことの一つは、若い男性たちが見習うことのできる模範となる人々がアロン神権アドバイザーを務めていたことでした。理想とされる人物は、伝道から帰ったばかりで、あふれるばかりの証を持つ帰還宣教師で、若いアロン神権者が「わたしはあの人のようになりたい」と思うような人です。

長老見込み会員という貯水池に流れ込むアロン神権者をせき止めることは、わたしたちが考えているよりもはるかに多くの問題を解決することになるのです。若い男性は皆、伝道に出て、神殿で結婚するようになることでしょ。これによって、若くふさわしい女性の数と、永遠の伴侶として選ぶにふさわしい男性の数との均衡が取れないということもなくなるでしょう。したがって、ここでわたしたちは少年の問題について話しているのではなく、夫、父親、祖父そして家族の族長の問題について考えているのです。アロン神権者である若い男性の足もとに堅固な基盤を築こうではありませんか。

アロン神権は受けたものの、適切な時期に長老の職に聖任されていない成人の改宗者を見過ごすことのないようにしましょう。このままだと彼らはやがて、不活発というよどんだ貯水池にとどまることになるのです。出口のない池にはまってしまったと感じているとはいえ、すばらしい人々である彼らを救い出したワードやステークがあります。各地の教会を訪問する際に、わたしはこの救出活動について理解し熱意を持っているユニットを記録しておくことにしています。皆同じような経験をしています。救出のための努力は一人の活発でない会員に対して一人の活発会員が対応し、それもワードレベルで実施する方法が最も効果的であることが分かっています。また、監督が参画すべきです。なぜならば、監督はワードのアロン神権の会長であると同時に管理大祭司だからです。

このように重大な問題に取り組むには、ふさわしく、十分に準備された教師を召さなければなりません。兄弟の皆さん、祈りをもってあなたのユニットが置かれている状況を分析し、それから、奉仕を行い、救うために主が準備してこられた人々を召してください。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」² 父親が光を見だし、生活を改め、主イエス・キリストの足跡に従って歩むときに、妻と子供たちにどれほど大きな喜びがもたらされるかを考えてください。

真の愛と靈感あふれる教えを実践した模範が、故ジェームズ・コリアーの生涯に見られます。コリアー兄弟は自身の努力により、ユタ州バウンティフル地域において大勢の兄弟たちを活発にしました。わたしはコリアー兄弟の招きを受けて、今や長老に聖任され、妻や家族とともにソルトレーク神殿に参入して、永遠の聖約と祝福を受けるために熱心に努力してきた人々を前にしてお話をする機会がありました。

この偉業をたたえるために開かれた夕食会において、わたしは、ジェームズが教え、救い出した人々に対して抱いている愛、そして彼らがジェームズに対して抱いている愛を目の当たりにし、また感じる事ができました。残念なことに、このときジェームズ・コリアーは、不治の病に冒されており、この最後の表彰式に出席するために医師を説得して何とか病院を抜け出して来たのです。

ジェームズは説教壇に立つと、満面に笑みを浮かべました。彼は集まった人々を愛していることを感情を込めて語りました。目に涙を浮かべていない人は一人もいませんでした。コリアー兄弟は「だれもが日の栄えの王国に行きたいと思っているのですが、そこへ行くために死にたいと思っている人はいません」と機知に富んだ言葉を述べ、そして、声の調子を落として、こう語りました。「わたしは行く準備ができています。わたしは幕のかなたへ行って、愛する友である皆さん一人一人をお迎えするために待っています。」

ジェームズは病院へ戻りました。彼の葬儀が行われたのはそれから間もなくのことでした。

アロン神権を持つ青少年と長老見込み会員に対する責任を果たすに当たって、たった一人で立ち向かう必要はないことを覚えておいてください。わたしたちは天を見上げて、神の助けを願い求めることができます。「人間よりも優れた力が存在することを認めても、決して人間の価値が低くなるわけではありません。善行と高邁な目的を自分よりも優れた力によって達成できる、という信仰を持つならば、人はその優れた御方のおられる、より高い目的地と、より高貴な特質を目指し、この世の苦しみにあっても励ましを受けることでしょう。……人は求め、信じ、祈り、答えが与えられるという望みを持たなくてはなりません。真心から祈りの気持ちで努力するならば、必ず答えが与えられます。それこそがまさに信仰の真髄なのです。」³ そのように、ステイブン・L・リチャーズ副管長は教えました。

愉快な戯曲『王様と私』からの一節は、努力するわたしたちに励ましを与えてくれます。サイアム王は臨終の床に就いていました。王の傍らには、英語の家庭教師を務めるアンナがいました。アンナの息子は母親に尋ねました。「王様は精いっぱい……善い人だったの？」アンナは物思いに沈んだ様子で答えました。「王様ほど精いっぱい頑張った……善い人は思いつかないわ。王様は〔ほんとうに〕努力したのよ。」⁴

預言者ジョセフ・スミスはこのように宣言しました。「わたしたちが存在する目的は幸福を得ることです。徳、正直、信仰、聖さの道歩み、そして神のすべての戒めを守るなら、そこに達することができます。」⁵

はっきりと示されている道歩みではありませんか。そのためには、世界でいちばん短い説教に従う必要があります。これは道路標識にも書かれていて、どこでも目にすることができます。それは「キープ・ライト〔Keep Right〕」、つまり「いつも正しいこと

を行いなさい」です(訳注——アメリカの交通法規で自動車は右側通行〔Keep Right〕)。

ジョーはこの助言に気づき、そして従いました。彼は朝6時に起きて、体に障害を持つ子供を車に乗せ、80キロ先の病院まで送って行くよう頼まれました。ジョーは行きたくなかったのですが、何と言って断ればよいのかが分かりませんでした。一人の女性が子供を抱えて来て、助手席に乗せると、涙ながらに感謝の言葉を述べました。ジョーは「ほくに任せてください」と言うと、すぐに車を出発させました。

2キロほど車を走らせると、その子がかみながらこう尋ねました。「あなたは神様なの？」

「残念だけど違うよ、坊や」とジョーが答えました。

「ほくはあなたがきつと神様なんだって思った」と子供が言いました。「お母さんがほくのベッドの横で、ほくが元気になって友達と遊べるように、病院に連れて行ってくださいって、神様にお祈りしていたんだもの。あなたは神様のために働いている人？」

「うん、時々はね」とジョーが言いました。「でも、いつもじゃないんだ。これからはもっと神様のために働こうと思っているよ。」

兄弟の皆さん、皆さんも、わたしも、わたしたちもそうしようではありませんか。わたしたちがへりくだり、同時に熱意をもって、神のために働くことができますように祈っています。

主イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. モロナイ 4 : 3.
2. 教義と聖約 18 : 10.
3. in Conference Report, Oct. 1937, 35, 38.
4. Richard Rodgers and Oscar Hammerstein II, *The King and I* (n.p. : Williamson Music, Inc., 1951).
5. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, sel. Joseph Fielding Smith (1976), 255-56.

群れの羊飼

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしは監督の皆さんに心から感謝しています。神の啓示の下にこの監督という職が設けられ、機能していることに深く感謝しています。



愛する兄弟の皆さん、皆さんにお話しすることは大きな榮譽であるとともに重大な責任であることを痛感しています。主がわたしを祝福されることを祈っています。

何とすばらしい光景でしょうか。神の神権に聖任された何十万に上る成人と青少年が兄弟愛というきずなで結ばれています。もしわたしたちが一つの大きな会場に集まるとしたら、それはどれほど力強い集会となることでしょう。世界中が目を見張ることでしょう。これに匹敵するものをわたしは知りません。

兄弟の皆さん、皆さんは教会を支える屋台骨です。皆さんの中から、監督や支部長、地方部長、ステーキ会長、地域幹部七十人、そしてすべての中央幹部が召されるのです。

若人の皆さんは、偉大な伝道プログラムの核となる存在であり、その影響は世界中に及んでいます。成人と青少

年の皆さん全員が神の武具を身に着けて、地上における主の御業を推し進めているのです。

このような集会に出席する度に、わたしは参加したいと望むすべての人を収容し切れないことを残念に思います。いつも、タバナクルのドアが開けられた瞬間から、若い男性と彼らの父親が洪水のようになだれ込んできます。予定どおりであれば、新しいホールは1年後に完成し、希望者全員を収容できるようになるでしょう。

テレビ放送や衛星中継を利用して大会の様を御覧になっている皆さんに対しても、わたしたちは一体感を抱えています。

天の御父もわたしたちにはほほえみかけておられることでしょう。御父を愛し、御父とその愛子への証を胸に抱き、また、教会において指導者としての務めを果たし、義に満ちた家庭、真理が説かれ、実践されている家庭の家長としての務めを果たしている大勢の成人と青少年を目にして、御父は大いに喜んでおられることでしょう。

わたしたちは、老人から若人に至るあらゆる人々のいる巨大な組織に発展してきました。もしわたしたちが思いと目的と心をつにして力を合わせるなら、達成できないことなど存在しないのではないのでしょうか。

皆さん一人一人が神権への聖任とともに与えられたすばらしい事柄に心を留めていただきたいと思います。これは地上における神の権能です。それは神から賜った神聖な贈り物です。神権には、教会の諸事を運営するための力

と権能が含まれています。神権には、主の御名によって祝福したり、病人に手を置いて癒したり、天の力を降らせたりする力と権能があります。神権は神聖なものです。それは神聖な力を帯びています。その権能はこの世で行使されるばかりでなく、死の幕を超えてさらに効力を有しているものです。

皆さんが自分の有している神権にふさわしくあるよう願っています。皆さん一人一人に、心からお願いします。どうか神権者としてふさわしい生活を送ってください。

現在、世界中で大きな邪悪が蔓延しています。それは改めて言われなくても、だれもが知っていることです。わたしたちはボルノグラフィーをはじめとするみだらなものや邪悪な行いなど、下品で汚れたものに常にさらされています。つまり、神の神権を持つ人の標準にまったくそぐわないものに取り巻かれているのです。

世にあつて、世の汚れに染まらずにいることは一つのチャレンジです。

不正直がはびこっています。それは学校で行われる不正行為や、巧妙に仕組まれた陰謀、搾取と詐欺に満ちたビジネスなどに見ることができます。誘惑が至る所でわたしたちを待ち構えています。そして不幸にも、それらに屈服してしまう人がいます。

兄弟の皆さん、強くあってください。世の悪に打ち勝ってください。わたしたちはとりすます必要はありません。聖人ぶった態度を執る必要もありません。わたしたちはただ、高潔さ、善悪を見分ける力、誠実さによって自分の行動を律していけばよいのです。

家庭で福音を実践しましょう。家庭を夫婦の間、親子の間で愛を率直に伝え合う場とするのです。怒りを抑えてください。互いに対して無条件の忠誠を尽くしてください。

ひたすら正しいことを行ってください。そうすれば、結果は自然についてきます。毎朝ひざまずいて祈り、聖なる御霊の導きと守りを求めてから、その日の務めに取り組む生活を送ってください。そして毎晩、就寝前に、恥じ

入ることも戸惑うこともなく、赦しを懇願する必要もなしに、主に祈りをささげられるような生活を送ってください。皆さんがそのように生活するなら、神は必ずや皆さんを祝福してくださいでしょう。いつか皆さんにも、年老いて自分の人生を振り返る日が訪れるでしょう。そしてこう言うことができるでしょう。「わたしは誠実に生きてきた。自分自身を含めてだれをも欺かなかった。子供たちの母親である妻との親しい交わりを大いに楽しんだ。子供たちを誇りに思っている。神が数々の祝福をもたらしてくださったことに心から感謝している。」

皆さんがもしそのような人生を送ってきたのであれば、老いの兆候をあちこちを感じるようになったときに、感謝の涙が目にあふれ、感謝の思いで胸が高鳴ることでしょう。このことを、わたしは皆さんに約束します。

もう10年以上前のことになりますが、わたしは教会の監督についてこの説教壇から話をしました。わたしは今晚、再びそのテーマについて手短かに話したいと思います。

わたしは監督の皆さんに心から感謝しています。神の啓示の下にこの監督という職が設けられ、機能していることに深く感謝しています。

御存じのように、去年の秋にすさまじい嵐が中央アメリカを襲いました。6日間にわたって、ハリケーン・ミッチがその地域に停滞して、特にホンジュラスで猛威を振りました。風は狂ったように吹き荒れ、雨は絶え間なく降り続けました。川は増水し、堤防沿いに建てられた家を押流しました。ホンジュラスでは、200以上の橋が破壊されたため、交通手段はまひしてしまいました。山地からは土砂が崩れ、土石流となって沿岸部になだれ込みました。そして建ち並ぶ家の窓の上部まで泥にまみれたのです。庭や道路も泥をかぶりしました。人々は恐怖の中を、持ち物すべてを後にして逃げ惑いました。

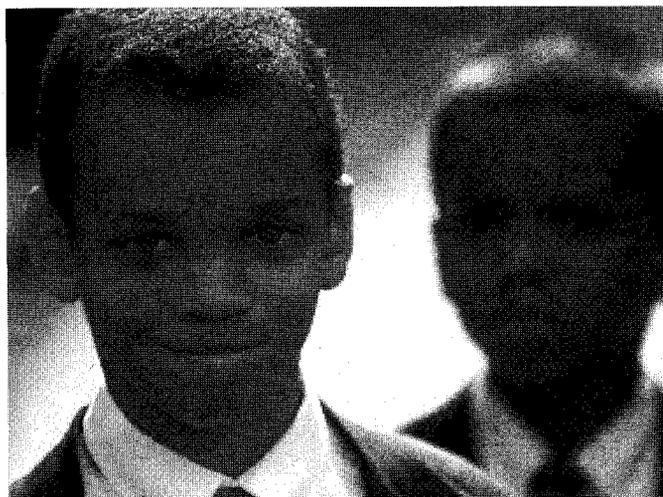
一人の監督は大型のトラックを入手し、ワードの会員たちを集め、高台まで避難させました。やがてトラックが

使えなくなると、彼はどうかしてボートを手に入れました。このようにして彼は自分に託された群れを見守ったのです。

わたしは状況を調べ、また可能であれば慰めを与えるために被災地に赴きました。そこでわたしは奇跡を見ました。単純ながら驚くほど効果的に機能している当教会の組織を目にしたのです。

この教会の会員には皆、監督が支部長がいます。わたしは世界中のあらゆる地域から寄せられた数多くの援助に対して称賛の言葉を送ります。それと同時に、教会が見事な方法で援助を実施したことに対して感嘆の気持ちを抑えることができません。まず、監督たちがステーキ会長に要請し、ステーキ会長たちは地域会長会へ、そして、地域会長会はソルトレーク・シティの教会本部へ援助を要請しました。数時間のうちに、大量の食糧、医薬品、衣類などが教会の倉を出発しました。

最も被害の大きかった地域のサン・ベドロ・スラに倉庫を借り、各ワードの監督は会員たちが交代で倉庫で働くように組織しました。彼らは、各々の家族に、1週間分の食糧をビニールの袋に詰め、かばんに衣類を詰め、また病気にならないよう薬を持たせました。すべての監督は自分の民を知っていました。扶助協会会長とともに会員たちが必要としている事柄を把握していました。彼らは政府から派遣された職員のように顔を知らない人々ではありません。彼らは友人であり、家族のようにお互いの必要が分かる程度の規模に組織されたワードの一員でした。そこには、言い争いや、意地汚く衣食をわしづかみにして持って行くような光景は見られませんでした。すべてに秩序があり、規律正しく、和やかに行われ



ました。彼らは愛と関心に基づいて行動し、当面の必要を満たすための対応が手際よく行われました。そこでは福音が静かにしかも力強く実践されていたのです。

やがて水は引いたのですが、あらゆるものが厚い泥で覆われ、醜い姿と化していました。したがって、シャベルと手押し車ほどありがたいものはありませんでした。そして、ここでもまた監督の指示によって、会員たちは全員で家屋から泥を運び出したのです。

わたしたちは土曜日に集会所を訪れたところ、大勢の人がそこにいて、群れの父であり、愛にあふれる監督から指示を受けていました。水に浮いていた長いすを外に運び出しては、丁寧に洗っていました。また、モップを手にした会員たちが壁や床から泥をふき取っていました。こうして、その土曜日の夜には安息日の礼拝ができるまでに準備を整えていたのです。

わたしは監督の皆さんに対して心からの感謝と尊敬と、称賛の気持ちを抱いています。わたしはホンジュラスのラ・リマで最も悲惨な状況の中に置かれたときの彼らの働きを目にしました。彼らと話し、握手し、彼らに愛を感じました。自分のことを顧みず、惜しみなく時間をささげ、知恵と靈感をもって世界中のワードを管理している監督の皆さんに心から感謝しています。彼らは会員からの愛以外に何の報酬も受けません。また、安息日やそれ以外の日も休む暇はありません。彼らは会



員たちと最も密接に接触し、それぞれの必要と状況を把握している人々です。

今日の監督に求められている事柄は、^{こんにち}テモテに手紙を書き送ったパウロの時代と何ら変わるところがありません。

「さて、監督は、非難のない人で、ひとりの妻の夫であり、自らを制し、慎み深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ、

酒を好まず、乱暴でなく〔すなわち、威張るわけでも荒々しい人物でもなく〕、寛容であって、人と争わず、金に淡泊な人でなければならぬ(1テモテ3:2-3)。

また、テトスにあてた手紙の中でパウロはこのように付け加えています。「監督たる者は、神に仕える者として、責められる点がなく……

教^{おし}にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならぬ。それは、彼が健全な教によって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである。」(テトス1:7, 9)

長老に聖任され、そして伝道から帰還したときも含めて、幼年期から青年期にかけて、わたしには一人の監督しかいませんでした。彼はすばらしい人でした。25年間監督を務めました。わたしたちは監督をよく知っていましたし、監督もわたしたちのことをよく知っていました。わたしたちは彼のことをいつも「ダンカン監督」と呼び、監督はいつもわたしたちをファーストネームで呼びました。わたしたちは崇拜

していたと言ってもよいほど監督を尊敬していました。かといって、恐れていたわけではありません。なぜならわたしたちは監督が心を許せる友達だと考えていたからです。ワードの規模は非常に大きかったのですが、監督は献身的に仕えました。

わたしは彼の葬儀でお話をしました。恐らく彼は父に次いで、わたしの若い時代に最も大きな影響を与えた人でしょう。監督に心から感謝しています。

それ以来、わたしには何人かの監督がいましたが、例外なくどの監督も献身的で靈感あふれる指導者でした。

さて今晚ここに集っている監督の皆さんに向かって少しお話いたします。話の内容のほとんどはステーク会長やその他同様の責任を受けている方にも当てはまると思います。まず、わたしが皆さんに抱いている深い愛を感じていただきたいと思います。わたしは教会員が皆さんのことを愛していることを知っています。彼らは皆さんに絶大な信頼を寄せており、皆さんが召しを受けたときに、わたしたちは全幅の信頼を寄せていました。どうかワードにおいて管理大祭司としての役割を果たし、人々の相談相手となり、困っている人を支援し、悲しんでいる人を慰め、援助を必要としている人を助けてくださいるようお願いいたします。また、ワードで教えられている教義の擁護者となり、質の高いレッスンが行われていることを見届け、必要とされる多くの責任に

会員たちを召してくださるようお願いいたします。

監督の行動は非の打ち所のないものでなければなりません。すなわち、徳高い人であって、どのような叱責^{しっせき}も受けることのない人でなければなりません。皆さんの模範によって会員たちが進むべき方向が示されます。悪を非難することを恐れてはなりません。正義のために悪に立ち向かい、真理を守ることに妥協してはなりません。これらすべては断固とした態度で臨む必要がありますが、同時に優しさと愛をもって行わなければなりません。

監督はワードの父親であり、会員の守護者です。彼らが悲しみ、病に伏し、落胆しているときに援助の手を差し伸べなければなりません。監督はアロン神権の会長としての務めを果たし、副監督とともに執事、教師、祭司を導き、「主の薫陶と訓戒とによって」彼らを育てなければならぬのです(エペソ6:4)。

皆さんは、妻にとっての夫であり、愛する伴侶であり、妻を守り、扶養する責任を負っています。あなたは子供にとっての父親であり、愛をもって子供たちを育て、理解をもって教えなければなりません。

悪魔が皆さんを攻撃しようとしていることに注意してください。あらゆる人の中で特に監督は、自らを律し、生活の中になかなる種類の罪や悪徳をも入り込ませないようにしなければなりません。ポルノグラフィを避け、みだらな番組を放送しているテレビを消し、思いと行いを清く保ってください。

事業上の利益を追求する目的で監督室を使用することはできません。さもないと、監督としての奉仕から特別な利益を得ていると言って人々は皆さんを非難することでしょう。

監督はイスラエルの一般判士です。これは恐れを抱くほど大きな責任です。あるときは、ワードの会員が教会員でいることができるかということについても判断を下さなければなりません。バプテスマを受けるにふさわしいかどうか、アロン神権を授けるにふさわしいかどうか、宣教師として働くにふさ

わしいかどうか、さらには彼らが主の家に参入し、そしてそこで授けられる祝福を受ける資格があるかどうかということ判断しなければならないのです。監督はだれ一人として空腹で着る物もなく住む家さえないという状態に置かれることのないよう気を配らなければなりません。管理するすべての人々の環境をも把握していなければなりません。

監督は会員にとって慰める者であり、導く者でなければなりません。助けを求める人のためにいつでも応じられるよう、扉を開いておかなければなりません。また、人々の重荷をともに背負えるように肉体的にも精神的にも強くなければなりません。そして悪事を行う者にさえ愛の手を差し伸べなければなりません。

兄弟の皆さん、わたしは大きな責任を背負っている皆さんのうえに全能者の祝福が与えられるよう祈っています。神が皆さんに健康と強さを授けられますように。神が皆さんの心に触れて、知恵と理解、感謝と愛が与えられますように。会員たちに恵みをもたらすことを第一に考えて生活し、なお、皆さんの仕事で求められている事柄や家族に向けられるべき適切な注意を犠牲にすることがないように、祈っています。

皆さん一人一人についてわたしは主に感謝しています。皆さんの働きのゆえに、わたしは皆さんを愛しています。わたしは、あらゆる地で奉仕している皆さん一人一人のために祈っています。悪魔の誘惑から皆さんが守られるよう、わたしは主にお願ひしています。神の武具を身に着けるよう、お勧めします。

天よりの祝福が、皆さんの妻子のうえにありますように。いつの日か、皆さんは解任されるでしょう。それは寂しい日になることでしょう。会員たちとの思い出を生涯忘れることはないでしょう。それらはあなたの生活を聖め、平安と安息と喜びをもたらすことでしょう。愛する兄弟たちのうえに神の祝福が注がれますように、へりくだりイエス・キリストの御名みなによってお祈りいたします。アーメン。

「わたしは盲人であったが、今は見えるということです」

第一副管長

トーマス・S・モンソン

人に光を与えたいと望むのならば、自分の光を輝かせなくてはなりません。



イエスは人々の間を歩き、教えられたとき、分かりやすい言葉で話をされました。ペレアからエルサレムへのほこりにまみれた道を旅しているときも、ガリラヤの海べで群衆に話しかけたときも、サマリヤのヤコブの井戸のそばで休んでいるときでも、たとえを使って教えられました。悟り、感じることのできる心、聞くことのできる耳、見ることのできる目を持つことについて、イエスはしばしば話をしておられます。

目が見えるという賜物たまものに恵まれない盲人が、ある大きな町のにぎやかな通りの隅のいつもの場所で、やっとの思いで体を支えながら、来る日も来る日も座っていました。その片方の手には

鉛筆でいっぱい古いフェルト帽が、もう片方の手にはブリキのコップが握り締められていました。通行人へのただ一つの訴えは短く適切なものでしたが、それは決定的で絶望的な響きさえするものでした。そのメッセージは小さなプラカードに書かれ、ひもで首に下げられていました。こう書かれていました。「わたしは目が見えません。」

立ち止まって鉛筆を買う人も、ブリキのコップに硬貨を入れる人もほとんどありません。皆あまりにも忙しく、自分のことで精いっぱいなのです。そのコップがいっぱいになったことはなく、半分にすらなかつたことはありませんでした。そんなうららかなある春の日に、一人の男性が立ち止まりました。彼は使い古したそのプラカードの言葉を、「春なのにわたしは目が見えません」とマーカーで書き変えました。すると、コップはたちまちいっぱいになってあふれるほどでした。恐らく忙しい通行人たちはチャールズ・I・オードネルの「若々しい4月の青空にも驚かないようにわたしの目を訓練するのは不可能だった」という一節に心を動かされたのでしょうか。それでも、目が見えるようになりたいとの希望に対して、硬貨は貧しい代用品です。

わたしたちのだれもが日の見えない人を知っています。また見える目がありながら、真昼くらやみに暗闇の中を歩いている多くの人も知っています。後者は白

杖を持ち歩いたり、聞き慣れた「トントントン」という音を頼りに注意して進んだりすることもしません。忠実な盲導犬をそばにつけることも、「わたしは目が見えません」というカードを首に下げることもしませんが、彼らは確かに目が見えません。怒りや無関心、復しゅう心、憎悪、偏見、無視によって、また価値ある機会を軽んじることによって見えなくなっている人がいます。このような人について主は言われました。「この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである。」¹

「イエス・キリストの福音が回復された春がやって来ても、わたしの目は見えないままです」という嘆きが聞こえてきます。それはまるでピリポの友人が叫んだのと同じようです。「だれかが、手びきをしてくれなければ、どうして[わたしの道が]わかりましょう。」²

何年も前のことですが、ステーキ大会に出席したときに、あるステーキ副会長が盲人であることに気づきました。

彼の働きぶりは見事で、まるで目が見えているかのように責任を果たしていました。ビルの2階にあるステーキ事務所であつたのが会つたのは風の晩のことでした。突然、ドーンという大きな雷の音がして、ビルが一瞬にしてほぼ停電状態になってしまいました。わたしは本能的にその目の不自由な指導者に手を伸ばしてこう言いました「さあ、わたしの腕につかまってください。階段を下りるのを手伝いましょう。」

すると次のような返事が返ってきましたが、きっと彼の顔には笑みが浮かんでいたことでしょう。「大丈夫です、モンソン兄弟。あなたこそ、わたしの腕につかまってください。わたしがお手伝いします。」そしてこう付け加えました。「暗闇には慣れていきますから。」

やがて嵐は遠のき、電気も復旧しました。目が見えずとも光に満ちたその男性に導かれて階段を下りたことを、わたしは忘れないでしょう。

遠い昔の遠く離れたある場所で、イエスが道を通っているとき、生まれつきの盲人を御覧になりました。弟子たちは主に、その人はなぜ盲人なのか、

本人またはその両親がこのような苦しみをもたらすような罪を犯したためか、と尋ねました。

「イエスは答えられた、『本人が罪を犯したのではなく、また、その両親が犯したのではない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。……

わたしは、この世にいる間は、世の光である。』

イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、

『シロアム(つかわされた者、の意)の池に行つて洗いなさい。』そこで彼は行つて洗つた。そして見えるようになって、帰つて行つた。』³

この奇跡についてパリサイ人の間で大きな紛争がありました。

「そこで彼らは、盲人であつた人をもう一度呼んで言つた、『神に栄光を帰するがよい。あの人[イエス]が罪人であることは、わたしたちにはわかっている。』

すると彼は言つた、『あのかたが罪人であるかどうか、わたしは知りません。ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲人であつたが、今は見えるということです。』⁴

十二使徒の長であり、ペテロという名で知られ、当時シモンと呼ばれた漁師について人は考えます。疑い深く、信じようとせず、気性の激しいペテロは主の預言どおりにイエスを3度知らないと言いました。つつかれ、あざけられ、打ちたたかれながら、愚弄される苦しみの中、沈黙を固く守りながら、「主は振り向いてペテロを見詰められ」⁵ました。ある年代学者がその心の変化をこう書いています。「もう十分でした。……[ペテロは]どのような危険も顧みず、死をも恐れない気持ちでいました。……[彼は]夜明けを迎えるために夜の暗闇を走りました。……心が打ち砕かれ、悔い改めたこの男は自らの良心によって裁きを受け、新しく[高潔な]者になるために、以前の古い生活や恥辱、弱さ、自分自身を神の御心に添うた悲しみのゆえに葬り去つたのです。』⁶

使徒パウロもまたペテロと同様の経験をしています。改宗した日からその



死に至るまで、パウロは「古き人を脱ぎ捨て」、「真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着る」⁷ようにと人々に熱心に説き勧めました。

漁師シモンは使徒ペテロとなり、迫害者パウロは改宗者パウロとなりました。

人々の人生を変える救い主の力が、時間の経過によって変わることはありません。死人ラザロに言われたように、皆さんやわたしに救い主は「出てきなさい」⁸とっておられるのです。

ハロルド・B・リー大管長はこのように語りました。「地上を歩む人はすべて、住む場所や貧富を問わず、生まれたときから、キリストの光、真理の御霊、神の御霊と呼ばれるものを授けられています。この英知の普遍の光がすべての人に授けられているのです。この御霊について、モロナイはこう述べています。

『見よ、善悪をわかまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわかまえることができる。』⁹

この定義を満たして救い主の祝福にあずかる資格のある人たちは、皆さんもわたしも知っています。

ソルトレーク・シティーのウォルター・ストーバーはそのような人の一人でした。彼はドイツに生まれ、福音を受け入れ、アメリカにやって来ました。自ら事業を興して、それに自分の時間と財産を進んでささげました。

第二次世界大戦後、ウォルター・ストーバーは祖国に戻るよう勧告されました。彼はドイツに帰って教会を管理しました。そして、出会った人、仕えた人すべての生活に祝福をもたらしました。彼の資金で、かつては紛争で荒廃していた美しい都市ベルリンに二つの教会が建てられました。彼はドイツに住む全教会員をドレスデンに集合さ

せることを計画しました。ドイツ全土から教会員が一堂に会して聖餐を取り、神が賜った祝福を証し合えるように列車を借り切ったのです。

ウォルター・ストーバーの義理の息子であるトーマス・C・ルドックは、ウォルターの葬儀でこう語りました。「父は出会うすべての人の顔にキリストの面影を見る才能があり、そう振る舞うようにしていました。」

ある詩人がこう書いています。

わたしは暗闇で一人の見知らぬ人に会った。彼のランプが消えていた。わたしは立ち止まって自分のランプから火をともした。すると間もなく世界中を揺さぶるほどの強い嵐がやって来た。風が通り過ぎたとき、わたしのランプは消えていた。そこへ例の見知らぬ人が戻って来た。そのランプはきらきらと輝いている。彼はその貴い炎を失わずにいたのだ。そしてわたしのランプに火をともしてくれた。¹⁰

恐らくこの詩の意味は、人に光を与えたいと望むのならば、自分の光を輝かせなくてはならないということでしょう。

預言者ジョセフ・スミスが深い森に入ったとき、そこで神聖なことが起きました。彼はそのときのことをこう記しています。

「それは1820年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。わたしがこのようなことを行おうとしたのは、生涯で初めてであった。わたしは不安のまただ中であっても、声に出して祈ろうとしたことはまだ一度もなかったからである。」¹¹

見えない力から受ける恐怖に耐え抜き、ジョセフはこう続けています。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしにふりそそいだ。……

その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと

栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。¹²

そしてジョセフは聞き、学んだのでした。

「モンソン兄弟、もしも救い主が御姿を現されたら、どのような質問をしますか」と聞かれたとしましょう。

わたしの答えはいつも同じです。「質問はしません。むしろ救い主の御言葉を聞くつもりです。」

太平洋に浮かぶ島のある晩のことです。小さな船が天然の棧橋の停泊所に滑るように入って来ました。メリ・ムリポラが船から降り、村に続く使い古された細い道に出られるよう二人のポリネシア女性が案内しました。彼女たちは真夜中の空に輝く星の明るさに驚きました。優しい月の光に照らされながら、一行は道を進みました。ところがメリ・ムリポラには、こんなに美しい自然や月も星も空も楽しむことができません。なぜなら、彼は目が不自由だったからです。

メリ・ムリポラの視力はある運命の日まで正常でした。パイナップル農園で働いていたとき、突然辺りが真っ暗になって、それからは日中でも絶えず夜の暗闇になってしまったのです。彼は福音が回復されたことや末日聖徒イエス・キリスト教会の教えについて学びました。そして、それらの教えに従った人生を歩むようになりました。

メリ・ムリポラと彼の愛する人たちは、神権を持った人が島を訪問していると聞いて、この長旅をして来たのです。彼は聖なる神権を持つ者の手から祝福を受けたいと思いました。そしてその望みはかなえられました。視力を失った目からは涙が流れ、茶色い頬を伝って、着ていた民族衣装に落ちました。彼はひざまずいて祈りました。「おお神よ、わたしの目が見えないことをあなたは御存じです。もしあなたの御心にかねば、わたしの視力は回復するとあなたの僕が祝福してくれまし



た。あなたの知恵により、わたしの目が光を取り戻すことになろうと、一生ずっと闇の中にいることになろうと、今こうして福音を理解することができることを、また、わたしに命の光を与えてくれる福音が真実であることを永遠に感謝します。」

彼は立ち上がり、祝福を施したことをわたしたちに感謝しました。そして夜の暗闇に消えて行ったのでした。彼は静かにやって来て、また静かに去って行きました。しかし彼の存在をわたしは決して忘れることはないでしょう。わたしは主の御言葉^{みことば}を思い出しました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」¹³

今は神殿建設の時代です。今日ほど多くの神殿が建築され、奉献されてきた時代はありません。現代の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、主の家で儀式が活発に行われるようになることを予見しています。神殿は参入する人、またそのために犠牲を払うす

べての人に祝福をもたらします。キリストの光は死者を含めたすべての人を輝かせます。ジョセフ・F・スミス大管長は死者のために働くことについてこのように明言しています。「わたしたちの働きを通して、彼らを縛る鎖が外され、彼らを取り巻く闇が払われる。そして光が彼らのうえに輝き、彼らは地上の子孫が自分たちのためにしたことを霊界で聞き、あなたがこれらの義務を果たしてくれたことを、あなたとともに喜ぶであろう。」¹⁴

使徒パウロは「信者の模範になりなさい」¹⁵と熱心に勧めています。ヤコブの手紙から読みます。「御言^{みことば}を行う人になりなさい。おのを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません。」¹⁶

最後にミニー・ルイス・ハスキングの詩を読んで終わりにしたいと思います。

年の入り口に立つその人にわたしはこう言った。

「光を下さい。そうすれば知らない所でも安心して歩いて行けるでしょ

うから。」

すると彼はこう答えた。

「闇の中を進んで行って手を神の御手に預けなさい。その方が光よりも、知っている道を行くよりも安心できるでしょうから。」

そこでわたしは進んで行って、神の御手を見つけると、闇の中を喜びに満たされて進んだ。

神はわたしを丘へと導き、荒涼とした東の空に朝日をお見せになった。¹⁷

聖なる安息日でもあるこの復活祭の朝に、わたしたちが光を輝かせ、それによって天父と、救いを得させる地上の唯一の名前である御子イエス・キリストが栄光をお受けになることができますように。

わたしたちがイエス・キリストの足跡をたどって歩みを進められますよう、敬虔^{けいけん}に祈ります。聖なる主の御名によって、アーメン。

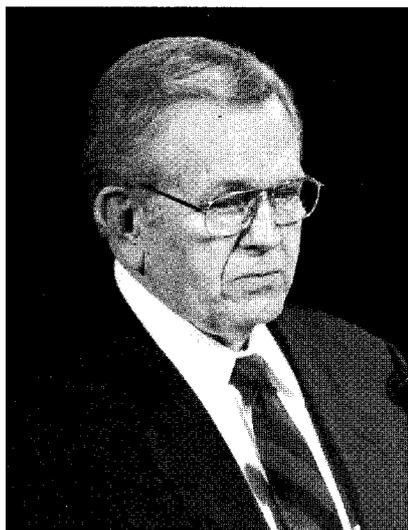
注

1. マタイ13:15
2. 使徒8:31
3. ヨハネ9:3, 5-7
4. ヨハネ9:24, 25
5. Frederic W. Farrar, *The Life of Christ* (1874), 580; ルカ22:61
6. Farrar, *The Life of Christ*, 581.
7. エペソ4:22, 24
8. ヨハネ11:43
9. Harold B. Lee, *Stand Ye in Holy Places* (1974), 115; モロナイ7:16
10. 作者不詳
11. ジョセフ・スミス歴史1:14
12. ジョセフ・スミス歴史1:16, 17.
強調箇所は原文のまま
13. ヨハネ8:12
14. In Conference Report, Oct. 1916, 6.
15. 1テモテ4:12
16. ヤコブの手紙1:22
17. From "The Gate of the Year," in James Dalton Morrison, ed., *Masterpieces of Religious Verse* (1948), 92.

監督と副監督

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・バックナー

教会はワード単位で運営されています。……神殿を除き、わたしたちの^{あがな}讀いに必要な事柄はすべてワードに集中しており、今や神殿もわたしたちのより身近な場所に位置するようになってきています。



昨晩、神権部会でヒンクレー大管長は監督たちをたたえ、助言を与え、祝福を授けてくれました。昨日オックス長老によって説明された二人の証人の規則ののっとり、わたしは第二の証人となりましょう。

以前、わたしがステークの高等評議員としてエメリー・ホワイトとともに働いていたころのことです。それまでエメリーは10年間、郊外にあるハーパーワードで監督を務めていました。彼の妻のルチルは、ステークの扶助協会会長でした。

ルチルはわたしに、ある春の朝、近所の人がエメリーを尋ねて来たときのことを話してくれました。彼女が、エメリーは外で畑を耕している、と伝えると、彼はとても心配そうにこう言うのです。その日の早朝、畑を通りかかったとき、彼はエメリーのすきにつながれた馬たちが^{うね}畝を列の半分まで作ったところで、手綱

をだらりと下げて立っているのに気づきました。しかしエメリーの姿はどこにも見当たりません。その人は大して気にも留めませんでした。随分時間がたってから再び畑を通りかかって、いまだに馬がそのままの姿を見たとのことです。彼はさくをよじ登り、畑に入って馬のところに行きました。やはりエメリーはどこにも見当たりません。そこで彼はルチルに確認しようと思い、急いでやって来たわけです。

ルチルは静かにこう答えました。「大丈夫、心配しないで。きっとだれかが困って、監督を迎えに来たのよ。」

畑で何時間もじっと立っていた何頭かの馬の姿は、教会の監督と彼を支える副監督の献身を象徴しています。

監督、副監督は皆、^{ひよ}比喩的表現で言うと、だれかが助けを必要とするときには、作りかけの畝の中に馬を置いたまま行くのです。

わたしはこれまでの年月、その畑を何度も通りました。その畑を見ると、ワードの監督会に召されている人々の犠牲と奉仕、そして彼らが働くうえでなくてはならない夫人と家族の犠牲と奉仕を思い起こします。

最近のことですが、ある日曜日の早朝に、わたしはその畑に立ちました。そこから、エメリーとルチルが子供を育てた家と向こうの丘を眺めました。わたしは少年のころ、ほかのスカウト仲間とともに、ホワイト監督に連れられてその家から出かけたことがあります。わたしたちは、エメリーに道順を教わりながら、その丘をハイキングしました。

パウロはテモテ人への手紙で次のように記しています。「さて、監督は、非難のない人で、ひとりの妻の夫であり、自らを制し、慎み深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ[る人である。]」

「よく教えることができ[る]」(“apt to teach”)という言葉には特別な意味があります。「できる」(“apt”)には、「傾向のある、備えられた」(“inclined, ready, prepared”)という意味があります。

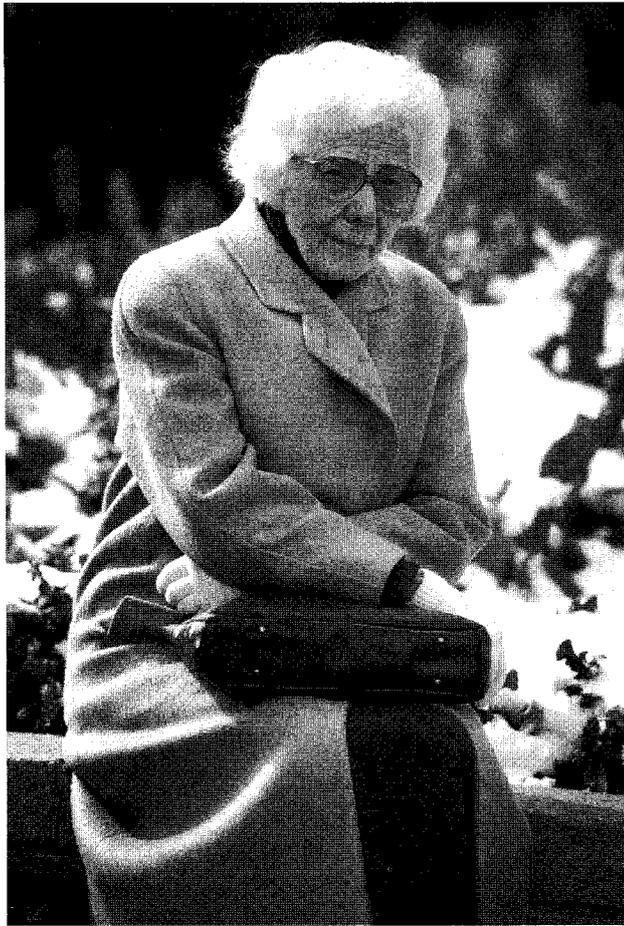
世界中で、末日聖徒イエス・キリスト教会の監督の職務に類するものは、ほかにどこにもありません。親を除けば、監督は、最も大切な事柄について教え、または学ぶきっかけを作る最高の機会を得ています。そして両親に対して彼らの持つ責任を教えるすばらしい機会も得ています。それから監督は、親が子供を教える時間が持てるようにしてあげなくてはなりません。

監督は、アロン神権を持つ若い男性、そしてもちろん若い女性に対しても責任があります。監督は^{じょうぶん}自分の一とささげ物を受け取り、集計します。監督はまた教会の実務をつかさどり、貧しい人を探し、ほかの多くの義務を遂行する責任があります。

監督には、「神の預言者たちより与えられる王国の律法に従って、正しい者の証言により、また彼の^{じょうぶん}副監督たちの助けにより神の民を裁く」²義務があります。彼らが儀式を受け、また職務を遂行する際、彼らをそのふさわしさによって裁く義務があるのです。

監督はまた自分の羊の群に対し、個別に、または集団として相談に乗り、誤りを正し、福音を教えなくてはなりません。これらすべてにおいて、監督はイエス・キリストの福音、十字架と^{あがな}贖いの犠牲、復活、福音の回復について教える義務があります。

わたしは、どの監督、副監督もその職務を無給で行うことから、これが自発的な奉仕によるものであると説明されるのを聞いてきました。彼ら自身も自分の一とささげ物を納め、さらに自らの召しに多大な時間を費やします。彼らは祝福という報いを受け、彼らとともに働く人々



も同様の報いを受けます。

しかし人は、自ら進んで監督になるわけでもなければ、望んでなるものでもありません。人は召されて、すなわち「預言によって……神から召され」て監督になるのです。その後、監督は「福音を宣べ伝え、その儀式を執行するために……権能を持つ者による按手によって」聖任と任命を受けます。³

まず、神権の職である監督に聖任され、その後任命を受け、ワードを管理する鍵を授かります。監督は二人の副監督とともに、会長会の一つの形式である監督会を構成します。

一度聖任されると、彼は残りの人生をずっと監督として過ごします。ワードを管理する責任を解任された後は、聖任された職は休止します。再びワードを管理する責任に召されたら、以前聖任された職は活動を再開します。再度解任されたら、職はまた休止となります。

監督の聖任の本質は、靈感により導きを受けるという権利と義務です。監督

には自分が何をすべきか御霊によって識別する力があります。

啓示は、すべての監督が共通して得ている一つのしるしです。監督に召されている人はそれぞれ多様な文化を持ち、様々な職業に従事しています。経験、人格、年齢はそれぞれ違いますが、霊的な導きを受ける権利は異なりません。

何年も前に、わたしの友人はカウンセリングの分野では最高の権威者の一人と言われる人のもとで学ぶため、大規模な大学に入学しました。この教授はすぐに、気品があり聡明なその末日聖徒の若者に関心を示しました。

その若者は、博士号を取得するうえで必要な履修科目を学ぶうちに、周囲の関心を集めるようになりました。

彼は博士論文のテーマに末日聖徒の監督を選びました。すべては順調に進みましたが、監督の聖任、識別する力、霊的な導きを受ける監督の権利について述べたとき、問題が起きました。

博士号の委員会は、このような項目は学術論文としてふさわしくないと感じ、論文から削除するよう主張したのです。すると彼は、せめて、末日聖徒は監督が霊的な洞察を得ると信じている、と表現する方がいいかもしれないと思いました。しかし委員会はそれも認めませんでした。それは彼らが、このような霊的な要素を学術論文に組み入れることに、大きな困惑を覚えたからです。

彼は委員会から、少し内容を修正すれば、特に啓示について述べた箇所をすべて削除すれば、研究論文は出版され、彼の評価は確立するだろうと言わ

れました。

彼は最善を尽くしました。論文に盛り込んだ御霊についての説明は、彼自身には不本意な量でしたが、世の中の教授たちから完全に受け入れられるには多すぎたようでした。それでも彼は、学位を受けました。

わたしはこの友人に、監督の研究から学んだ最も重要なことは何か尋ねました。すると彼は、「外套は知性よりはるかに勝ること、神権は導きを与える力である、と学んだよ」と答えました。

教会のごく普通の人が監督に召され、靈感を受けて助言を与え、誤りを正せることを疑ってはなりません。たくさんの助けが必要と思える人がなかなか監督の助言を求めようとしない一方で、いつまでも助言と慰めが必要で、絶えず面倒を見てもらわなければ、まるで無視されているように感じる人もいるというのは残念なことです。

監督は靈感を受けています。わたしたちはそれぞれ選択の自由が与えられ、指導者の勧告を受け入れることも、拒むこともできますが、勧告が壇上から伝えられるものでも、個人的なものでも、監督からの助言を決して無視してはなりません。

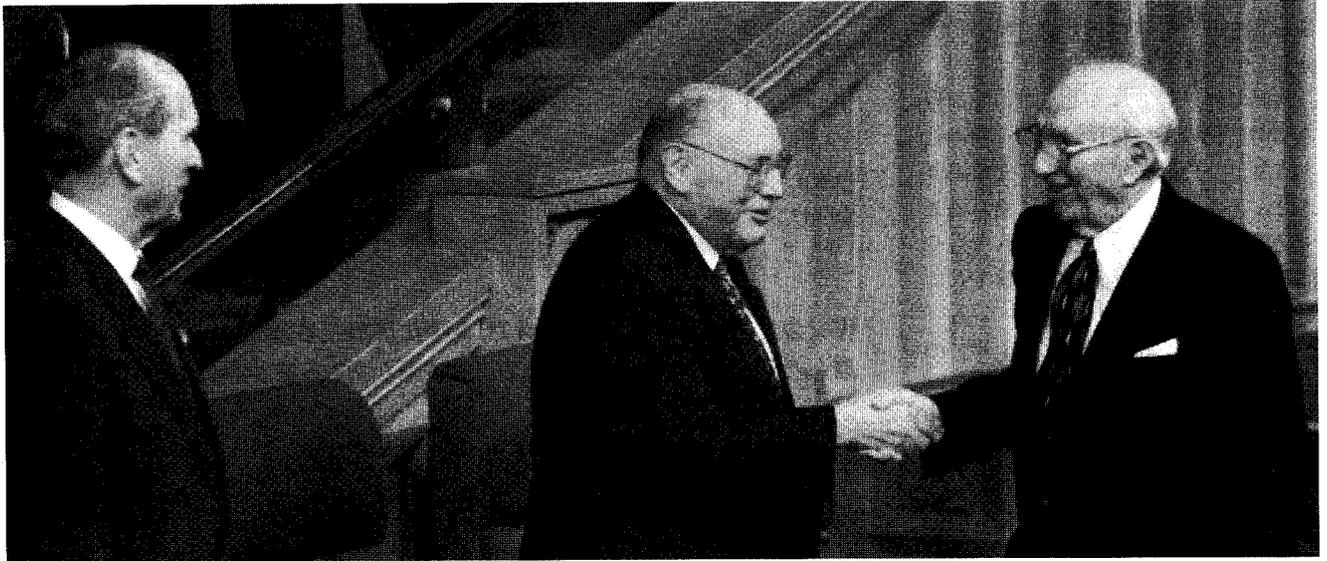
人生は厳しいものかもしれませんが、そしてある意味で、教会での生活はもっとも厳しいものかもしれません。エライザ・R・スノーは次のように記しています。

「シオンへの集合で

試練と艱難がやむと思ってはならない。シオンであなたを待つものが安らぎと喜びだけだと思ってはならない。そうではない、ここは溶鉱炉すべてを溶かす、何もかもを。焼き尽くすのだ、要らぬものを皆埋もれた黄金を精錬するために……。

シオンへの集合で

働きが終わると思ってはならない。自分の必要を満たしていつも満ち足りてはいられない。そうではない、信仰ある者は全力で自らの務めを果たす。御業を進める、昼も夜も



大会の部会の始まりに当たって、壇上でゴードン・B・ヒンクレー大管長を歓迎する十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老。その様子を見守る、同じく十二使徒のラッセル・M・ネルソン長老。

散乱したイスラエルを集めるために。」⁴

助けの必要なときは、監督に頼ることができ、必要以上に監督の時間を取ることをしないでください。監督ができることにも限界があります。監督会の人たちにも、生計を立て、家族とともに過ごす時間が必要です。

わたしたちはしばしば、大管長会と十二使徒定員会という、比較的少数の使徒職にある人々が、どのようにして1,000万人を超える会員たちを管理しているのか尋ねられることがあります。

実際には、教会はワード単位で運営されています。どの監督にも副監督がいます。監督は特別な外套を身にまとい、ワードの管理大祭司として任命されています。ワードにはほかに大祭司がおり、長老で構成される会長会もあります。そして、必要を満たすに十分な数の補助組織の指導者と教師がいます。わたしたちが監督に倣い、謙遜に、絶えず自ら進んで、奉仕するならば、払った犠牲によって祝福がもたらされます。

会員数がやがて1億に到達するかどうかは問題ではありません(必ず到達することでしょう)。たとえ到達しても、教会はワード単位で運営されていくことでしょう。神殿を除き、わたしたちの贖いに必要な事柄はすべてワードに集中しており、今や神殿もわたしたち

のより身近な場所に位置するようになってきています。

ステークという避け所の下に幾つかのワードが集まり、それと同様に地方部の下に幾つかの支部が集まっています。そこには、監督会を訓練するステーク会長会と評議会、そして監督会とともに働く人を訓練するほかの指導者たちがいます。

世界中で構成されているこの組織は、イエス・キリストの福音の回復による産物です。自発的な奉仕という奇跡は、贖い主に対するおのおのの証ゆえに起こるのです。

この啓示がもたらす影響力は、ステークや地方部内の組織が築かれたことでやむものではありません。なぜなら、これらの目的はすべて家族を守ることだからです。それぞれの家族が一つに集まり、ワードや支部を構成しているのです。

それぞれの家族が永遠の聖約によって一つとなり、一人一人が守られ幸福であるかどうかを見守るのは監督の責任です。このことが最も効果的に行われるのは、監督が両親の持つ重要な責任を認識するときです。

監督はよく「ワードの父親」と呼ばれることがあります。ワード内の子供たちを扶養するために召されているではありません。

『教会指導手引き』にはこうあります。

「親は子供の福利に対し第一の責任を負う。⁵ 監督会とワードのほかの指導者はこの責任を支援するが、親に代わってこの責任を果たすことはしない。⁶

教会の定員会、補助組織、プログラム、活動は家族を強め、支援しなければならぬ。これらは、福音を中心とした家族の活動に取って代わるものでなく、それを促すものでなくてはならない。」⁷

最近、大管長会は会員に対し、次のような手紙を出しました。

「家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえで大切な役割を果たしてはくれません。……

……必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」⁸

ワードと同様、家族も規模や形態はそれぞれ異なります。時は流れ、一つの世代は次の世代へと代わっていきます。子供は生まれ、やがて大人になります。ついには祖父や祖母となります。そして一つの家族から幾つもの家族へと分かれていきます。ワードも発展し、分

割します。一つのワードが、幾つにも分割していきます。

世界で何が起ころうと、どんな高度な文明や根の深い腐敗が社会を飲み込もうと、この計画が変わることはありません。この教会は、全地に満ちるまで発展することでしょう。それでもやはり、教会はワード単位で運営されていくことでしょう。

この教会は、昇栄に備えるすべての人々に対し、活動と交流の場、儀式と聖任、聖約、契約、そして誤りを正す機会を提供します。これは天で定められた規範に従っており、いかなる人間の知性をもってしても、計画することのできないものです。

今日、またこれからもずっと、だれかに助けが必要な問題が生じたら、普通の人が、畝を作りかけの畑に手綱をだらりと垂らした馬を立たせたまま、後に残して行かなければいけないことでしょう。女性と子供たちは、『モルモン書』からもたらされる真理をもって彼らとともに働き、支援します。この書物はすべての中で最も貴重な啓示の書であり、キリストと贖い、そしてキリストの復活について証する書物です。わたしたちはキリストを証します。主が明らかにされた計画に基づくワードに守られ、わたしたちは家族とともに安全に過ごせることでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

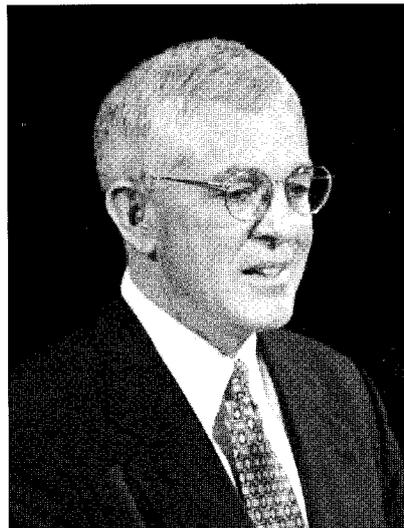
1. 1テモテ3:2
2. 教義と聖約58:18, 強調付加
3. 信仰箇条1:5
4. "Think not, When You Gather to Zion." *Hymns* (1948), no. 21, vv. 1, 3.
5. 教義と聖約68:25-28参照
6. *Church Handbook of Instructions, Book 2: Priesthood and Auxiliary Leaders* (1998), 178.
7. *Church Handbook of Instructions, Book 2*, 299.
8. 1999年2月11日付けの大管長会から
の手紙

友情——福音の原則

七十人会長会

マリン・K・ジェンセン

天父の永遠の目的を果たすうえで、^{みて}御手に使われる道具になりたいと
ほんとうに望んでいるなら、ただ一つ友達となる必要があるだけです。



兄弟姉妹の皆さん、おはよう
ございます。率直に申し上げて、このような割り当ては決して気分的に楽なものではありませんが、このすばらしいイースターの朝に皆さんの前でお話できることを心より感謝しています。

賢明なわたしの父は以前、教会の説教壇から話す言葉によく耳を傾けたら、話者が福音のどの原則に関心を払い、与えられた時間でどのような事柄に懸命に取り組んでいるかが分かると話したことがあります。それからは父の影響により、話すテーマを選ぶ際は細心の注意を払うようになりました。しかし、ここで一つ告白しなければならぬことがあります。それは、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が、新会員は皆、基本的に友人、責任、神の善い言葉による養いの3つを必要としていることについて話すのを聞いて以来、わたしは自分

自身の友人としての行動に強い関心を払うようになったということです。

預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「友情とは『モルモニズム』の偉大な基本原則の一つである。」この考えにより、わたしたちは皆、鼓舞され動機づけられることでしょう。なぜなら、友情はわたしたちの世界が最も必要としているものの一つと思われるからです。わたしたちは皆、友情を心から求め、親しく、変わることのない友情からしか得られない満足と安心感を切に望んでいます。聖典の中で友情の原則についてははっきりと言及してあるところがほとんどない訳は、恐らくそれが福音に添って生活するならばきわめて自然に表現されるべきものであるからでしょう。事実、この上なくキリスト教的な特性と言える慈愛にいとこがいとすれば、それは友情と言えるでしょう。これについて使徒パウロの言葉を、次のように少々言い換えてみたいと思います。友情は「寛容であり、[友情]は情深い。また、ねたむことをしない。……自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。……[友情]はいつまでも絶えることがない。」²

人生で価値あるほとんどの事柄と同様、友情を必要とする心は家庭内で満たされることがよくあります。家庭内で子供たちが互いに、また親との間に友情を感じていれば、家庭の外に自分を受け入れてもらいたいという強迫観念を持つことはないでしょう。妻とわたしがこれまでの人生で最も満足した成果の一つは、子供たちが互いに良い友人となったことが分かるに足るだけ

長生きできたことです。幼いころは、体に大けがをさせてやると互いに脅し合っていた子供たちが、今は互いに友情を求め、心からその友情を享受している姿を見るのはまさしく奇跡です。同様に、親にとって、両親はわたしの親友です、と子供たちから言われるのは、何よりの褒め言葉となるでしょう。

友情はまた、コートシップと結婚において不可欠かつ素晴らしい要素です。友情から芽生え、ロマンスに熟し、結婚へと至る男女間の関係では常に、友情が絶えることがありません。安易に離婚する今日の世界にあって、夫と妻が現世での祝福や試練を経験する際に、絶えず互いの友情を静かに享受する姿は、何にも勝って人々を鼓舞します。最近刊行された、結婚25周年の人々への調査に関する報告書には次のようにあります。「結婚生活を続かせるかなめは……ごく普通概念でありながら深い影響力を持つもの——友情です。」³ 預言者ジョセフ・スミスはミズーリでの苦難のさなか、離れて暮らしていた妻のエマにあてて心をつづき手紙を送りました。ジョセフは文面でエマを次のような言葉で慰めています「最愛のエマへ、わたしはいつまでも、あなたと子供たちのほんとうの心の友です。そ

れを忘れないでください。」⁴

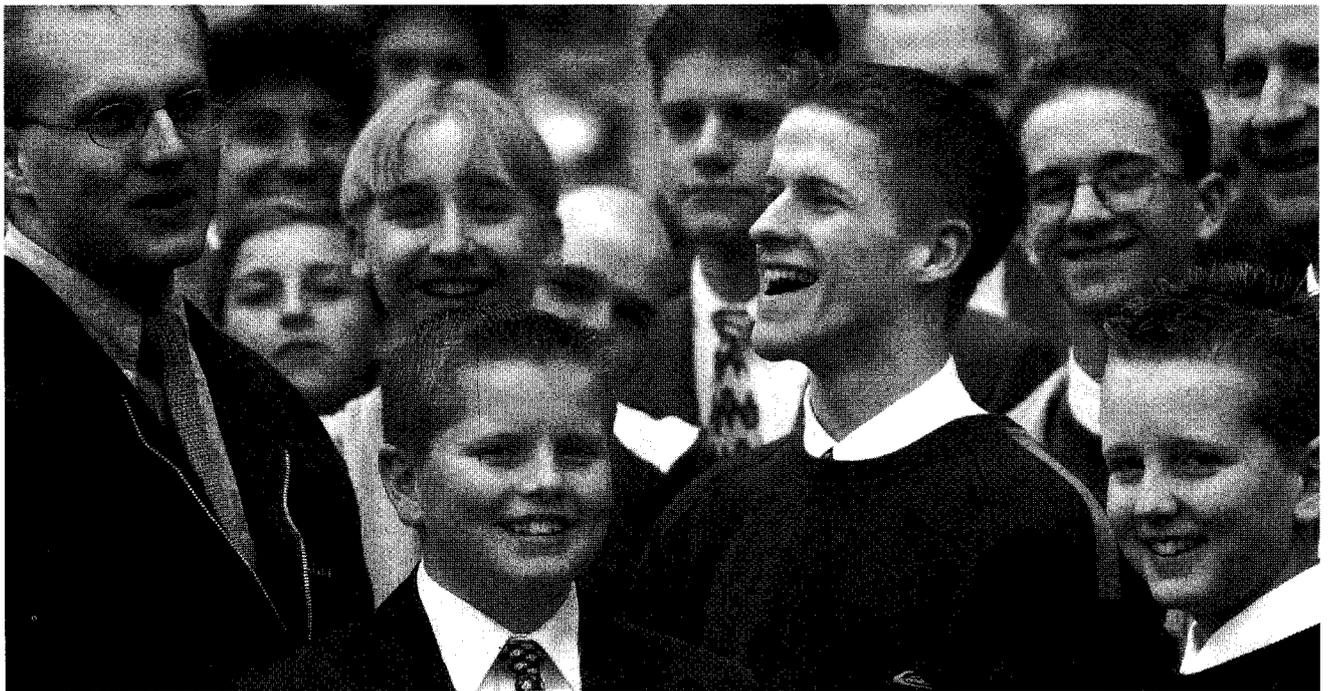
靈感された教会の組織では、友情も生まれます。会員は幼少の子供から老齢の人に至るまで、友情と社交性がはぐくまれるグループに参加します。クラス、定員会、会長会、その他様々な組織で、友人をつくり、お互いの理解度を増します。カートランドの預言者の塾では、出席した長老に対し次のような歓迎のあいさつを行っていました。その言葉には、わたしたち皆が示すよう望まれている友情の精神が表されています。「わたしは、神の恵みにより、愛のきずなをもって、あなたの友になり……確固とした揺るぎない不変の決意をもってあなたを仲間を迎え入れます。」

会員が皆、心からの友情の精神をさらに培うならば、教会での相互の関係はいつそう楽しく、建設的なものとなります。例えば、クラスの生徒と友人関係を築けない福音の教師は、決して永続する影響や効力を及ぼすことはありません。わたしは今でも、高校時代の文集に記された文章を大切に心に留めています。それはわたしたちがたくさんを学んだ愛するセミナー教師によるもので、友達になれたことに心から感謝しているという一文でした。

いかに管理上の事柄に精通してい

うとも、監督は、子供、青少年、そして成人たちが、彼らが潜在的に持つ霊的な可能性に到達できるよう助けるつもりでいるならば、彼らの友とならなければなりません。わたしは以前、知り合いの若い女性が監督のもとへ行き、かなり重大な過ちについて告白するという状況にかかわったことがあります。彼女は、自分が福音の道からそれたことについて監督がどのような反応を示すか不安に思っていたましたが、駆り立てられる気持ちを強く感じ、とにかく監督のところへ行きました。わたしは監督の反応はどうだったかと彼女に尋ねました。すると、監督が彼女とともに泣いたこと、そして主から赦しが得られるよう監督とともに努力することにより、今は監督が親友の一人となったことを切々と語ってくれました。

末日聖徒として、会員には友情を培い、保つうえで特別なチャレンジがあります。結婚、家族、そしてわたしたちの教会に関して会員は非常に多くの責任を負っているため、家族やほかの会員以外の人々に手を差し伸べ、友情の輪を広げることに、時間と精力の制約という試練をしばしば受けます。最近わたしは、家で時間を割いてこの話の準備をしようとしていたとき、



このようなジレンマを感じました。わたしは2度、時々しか会えない、心から愛する旧友たちからの、予期せぬ訪問を受けました。再会し、思い出を語り合うという特別な機会であったはずの時間に、わたしは内心、訪問客が帰り、友情に関する話の準備を再開できればいいのという、いらだちの気持ちを感じているのに気づいたのです。

それから、わたしは恥ずかしくなりました。わたしたちは何と利己的なのでしょうか。面倒な事柄、与えること、互いに祝福することについて、わたしたちは何と消極的なのでしょうか。自ら進んで友とならなければ、どのような親、隣人、主イエス・キリストの弟子となるのでしょうか。この情報化時代にあってなお、友情こそわたしたちが大切にしている真理と生き方を分かち合う最良の技術ではないのでしょうか。自発的にほかの人々に対して友情の手を差し伸べることを、不承不承にしかできないなら、それは、神の永遠の目的の達成を手助けすることに関して重大な障害となるのではないのでしょうか。

何年か前、監督として働いていたころ、改宗して間もない家族がわたしたちの住むユタ州の郊外に転居してきました。このすばらしい家族は、アメリカ西部で教会に入り、温かいフェロシップを受け、地元の小さな支部で活動していました。そんな彼らが、それまでの所より規模が大きく、組織も整ったわたしたちのワードに来たとき、どうしたことかまるでわずかな裂け目から滑り落ちるように、いなくなってしまったのです。家族の幾人か、特に父親は教会と会員にそれほど魅力を感じなくなっていました。

ある日曜の朝、その父親が神権会に姿を見せていないことに気づいて、わたしは集会所を出て、車で彼の家に行きました。彼はわたしを家に招き入れ、彼が抱えている新たな信仰と隣人に対しての葛藤^{かつとう}について二人で真剣に話し合いました。問題を解決する様々な可能性を模索しましたが、どれも彼の心にはさほど届かないようでした。わたしはいらだった調子で、一体どうしたら彼の

助けになれるのかと尋ねました。そのときの彼の答えは決して忘れません。

彼はこのように答えました。「そうですね、監督さん。(次は少し言葉を換える必要があるでしょう。)何をしてもかまいませんが、お願いですから、わたしに友人を割り当てることだけはしないでください。」

その日、わたしは偉大な原則を学びました。「取り組まれるべき課題」になりたい人などいるわけがありません。皆、ただ自然な愛を示されたいと望んでいるだけです。そして、友を得るならば、「割り当て」ではなく、本物で心からの気持ちで接してくれる人であってほしいのです。

兄弟姉妹の皆さん、今日のわたしからのメッセージはとても単純なものです。天父の永遠の目的を果たすうえで、御手に使われる道具になりたいとほんとうに望んでいるなら、ただ一つ、友達となる必要があるだけです。1,000万人強を数えるわたしたちの一人一人が「自分の自由意志と選択」によって、まだ信仰を共にしていない人に無条件の友情で手を差し伸べるときに、どのような力を及ぼすか考えてみてください。もはや、最初は温かく歓迎するが、後は関心を払わなくなるといった態度を責められることもないでしょう。また、教会に活発な家族がそれぞれ、あまり活発でない家族や新会員に絶えず関心を払い、友情を示すと、どのような良い結果が生まれるか想像してみてください。そのような力は、それぞれが友となろうとするところにあります。老いも若きも、貧富を問わず、教育のある者、つつましい者、すべての言語、すべての国々にわたるわたしたちみんなが、友達となる力を持っているのです。

救い主は十字架にかかる直前、弟子に向かって、「人がその友のた

めに自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。……あなたがたはわたしの友である」⁶と言われました。わたしはこれまでキリストの友情により豊かに祝福されてきました。キリストがわたしたちにとってかけがえのない存在、すなわち真の友であられるように、わたしたちも人々に対して、そのような存在となれるようお祈りします。わたしたちが友となるとき以上に、キリストのようになるときはありません。わたしは、人生で得た友人には計り知れない価値があることを^{あかし}証し、彼らに感謝の気持ちを伝えたいと思います。献身的に友情を示すとき、わたしたちは神の御業、そして神の子供たちの幸福と進歩のために最も意義ある貢献をしているのです。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

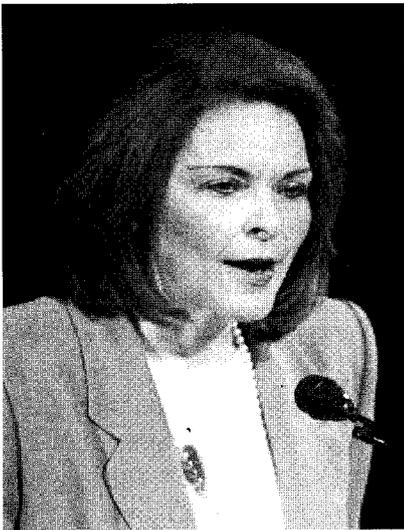
1. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, sel. Joseph Fielding Smith (1976), 316.
2. 1コリント13:4-8
3. John Gottman, as cited in Karen S. Peterson, "Friendship Makes Marriages a Success," *USA Today*, 1 Apr. 1999, p. 1D.
4. Quoted in Daniel H. Ludlow, ed., *Encyclopedia of Mormonism*, 5 vols. (1992), 3:1345.
5. 教義と聖約88:133
6. ヨハネ15:13-14



わたしたちの 唯一のチャンス

中央扶助協会第二副会長
シェリー・L・デュー

**主はわたしたちを皆助ける方法を御存じです。
しかし、わたしたちは生活の中で主の贖いの力に頼る必要があります。**



救い主は、ゲツセマネ、そしてカルバリへと向かう前に、最後の説教の中で弟子たちに対して、「わたしは道であり、真理であり、命である」と宣言されました（ヨハネ14：6）。この復活祭の朝にわたしは、「人が救われるのはただキリストにより、キリストを通じてだけであり、決してほかの方法や手段はない」という預言者アルマの言葉について証したいと思います（アルマ38：9）。

救い主の贖いは、まさしく万人に及ぶものです。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのです（1コリント15：22、強調付加）。主はわたしたち一人一人、すべての人を招いておられます。イエス・キリストの福音はすべての男女と子供たちに

与えられたものです。裕福な人と貧しい人、結婚しているか否か、あるいはポルトガル人であろうと中国人であろうと原則が変わることはありません。福音はわたしたち一人一人のためのものです。そして、霊的に求められるものとその報いは普遍です。救いに関しては、「すべての人が神にとって等しい存在なので」す（2ニーファイ26：33、強調付加）。主の意図される場所は、わたしたちが神の息子や娘であると感じるのを妨げようともくろむルシフェルとは対照的です。ルシフェルは、神に奉仕する人々を軽蔑し、わたしたちの視界を覆い隠し、天の家に帰る道を踏み外させようとわたしたちを誘惑することに喜びを感じます。

ブリガム・ヤング大学の学生だったころ、自宅へ帰る途中に、道を外れるということについてある経験をしました。クリスマスイブに、兄とわたしは車でカンザスの自宅へ向かっていました。出発して間もなく、行く手に激しい吹雪が生じていることを知りました。車を止めて地図を広げ、吹雪を避ける道を確認し、あまりよく知らない地域に向かって車を走らせました。しかし、安全を考え迂回したもの、かえって非常に危険な目に遭ってしまったのです。迂回路は初めて通る道だったうえに、そこにも嵐が吹き荒れていたのです。さらに困ったことに、夜遅かったせいもあり視界も悪く、吹雪の中、よく見えないハイウエーを徐行するうちに、わたしたちの乗った古い車が動か

なくなってしまったのです。立ち往生したわたしたちは、どこにいるのかさえ分かりませんでした。

その後、やっとのことで、通りがかった車に最寄りの町まで乗せて行ってもらいました。そこは自宅からはるかに離れた、コロラド州のラストチャンスという町でした。そのときにできることはただ一つ、自宅に電話して、事の次第を説明することでした。真夜中に父は家を出てわたしたちを迎えに来てくれました。翌日の午後、わたしたちは無事家に着くことができました。

ラストチャンスで過ごしたクリスマスイブのことは決して忘れないでしょう。そこでわたしたちは、自分たちのしたことが原因で身動きが取れなくなってしまったのです。しかも解決する備えを何もしていませんでした。その当日、父はわたしたちが自分の力でできなかったことを代わりに行ってくれました。わたしたちは皆、永遠の家へ向かう途上にいます。そして様々な理由から、助けを必要としています。孤独や心の痛み、絶望や幻滅、故意によらぬ過ちや重大な罪の結果から救われることを必要としているのです。

わたしたちはどこに救いを求めればいいのでしょうか。「神は、御子を送ることによってもっとすばらしい方法を備えられた」のです（エテル12：11）。救い主はわたしたちにとってラストチャンスではなく、唯一のチャンスです。自己不信に打ち勝ち、どのような人物になり得るか理解する唯一のチャンス、悔い改め、罪を洗い清められる唯一のチャンス、心を清め、弱点を克服し、敵を避ける唯一のチャンス、贖いと昇栄を得る唯一のチャンス、そして地上で平安と幸福を見だし、来るべき世で永遠の命を得る唯一のチャンスなのです。

もし人が自らの知恵以外に頼るものがなければ、生まれながらの人は必ずサタンに屈することでしょう（モーサヤ3：19参照）。そしてサタンは細くて狭い道を迷い出て自分に従った人を見捨てるのです。しかし、救い主は御自分に従う人が皆、家へ帰れるように導いてくださいます。リーハイの家族は、教



えを学び、試しを受け、^{きよ}聖められるために準備された荒れ野での過酷な経験に耐えました。同様に、現世での家から永遠の命へと通じる道も、地上の荒れ野を通っています。そこでわたしたちはリーハイたちと同じような困難を経験することでしょう。しかしその旅において、わたしたちは一人ではありません。主がリーハイと交わされた約束が、わたしたちにも与えられているからです。「わたしはあなたがたの前に道を備えよう。……あなたがたはわたしの命令を守るかぎり、約束の地に導かれるであろう。……あなたがたは約束の地に着いた後、……主なるわたしがあなたがたを……連れ出したことを知るであろう。」(1ニーファイ17：13-14)

主は道を御存じです。なぜなら主は道であり、わたしたちが死を克服するための唯一のチャンスを与えることができる御方だからです。主の贖いによって、自らの過ちや罪から自分の力では克服できない試しやそれに伴う苦しみなど、人生での困難に対処するために必要な力、平安、光、強さのすべてが与えられるのです。

主は、わたしたちの打ち砕かれた心を癒し、「打ちひしがれている者に自由を得させ」と約束されました(ルカ4：18)。また、弱った者には力を与え、傷ついた心を癒し、弱さを強さに変えることを(イザヤ40：29；『モルモン書』ヤコブ2：8；エテル12：27参照)、また、わたしたちの苦痛と病を身に受け、悔い改めるならば罪を清め、死の縄目を解くことを(アルマ7：11-13参照)、もしわたしたちが贖い主の岩の上に基を築くならば、悪魔の力もわたしたちに及ばないことを(ヒラマン5：12参照)、そして、主は決してわたしたちを離れず、わたしたちを捨てないことをそれぞれ約束されました(ヘブル13：5参照)。

この世にこれほどの価値のあるものはほかにありません。これほどの専心、力、そして愛はありません。主はわたしたちの唯一のチャンスなのです。

わたしたちのなすべきことは、贖いの力を受ける方法を学ぶことです。さもなくば、地上での生活を自分の力だけに頼って生きていかなければなりません。そのような生き方は、失敗への恐れを招き、現世と永遠とにわたる最もすばらしい贈り物を拒むこととなります。「ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。」(教義と聖約88：33) 兄とわたしは立ち往生したときに、愚かにも天父の助けを求めることも、助けを受けることもしませんでした。また、主はわたしたちの弁護者であられ、「人の弱さを知っており、誘惑を受ける者たちを助ける方法を知っている」御方です(教義と聖約62：1)。言い換えれば、主はわたしたちを皆助ける方法を御存じです。しかし、わたしたちは生活の中で主の贖いの力に頼る必要があります。すなわち、主を信じ、悔い改め、主の戒めに従い、神聖なる儀式に参加し、聖約を守ることによって頼り、断食と祈り、聖文と神殿の中に主を求めることによって頼るのです。

これらのことを行うには信仰が必要です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っています。「わたしたちに必要なものが一つあるとすれば、それは信仰です。」キリストを信じる信仰とは、主の存在を信じ、主を信頼し、主に従い、主に頼ることです。それは、使徒パウロが「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」と語ったときのように(ピリピ4：13)、良心と思いに平安を得るという祝福を受けることです。

少し前に、中央扶助協会会長は、東ヨーロッパから訪れた二人のジャーナリストから面会の依頼を受けました。この二人は、自国で教会の姉妹たちがすばらしい奉仕活動をする様子に関心を寄せたのです。わたしたちは、義になつた女性たちのこの大きな組織は、設立当初から「貧しい人の救済だけで

なく、魂の救いを目指してきた」ことを説明しました。ジャーナリストから、自分たちの国では多くの人々が悩みを抱えているという説明を聞き、救済とは女性の「情緒的な問題」に関する救済を意味するのかと尋ねられました。それに対し、わたしたち会長会は、扶助協会では福音の教義を学び、福音によってたとえ生活が困難なときでも幸福でいる方法を知ることができるかと答えました。するとレポーターの一人は疑い深く、「そのようなことが可能ですか。生活が困難なときに幸福でいることなどできますか」と尋ねました。彼女の質問にわたしはふと考え込みました。なぜなら、彼女はどこに平安を求めたらよいか知らないと感じたからです。

生活が困難なときに幸福でいることができますか。不安のさなかに平安を感じ、皮肉な思いの中に希望を見いだすことは可能ですか。変化することは可能ですか。古い習慣を振り払い、新しく生まれ変わることは可能ですか。キリストに従う者が持つ徳の価値がもはや認められなくなった世の中にあつて、高潔に清く生活することは可能ですか。

答えは、そのとおり、可能です。イエス・キリストによってそれが可能になったのです。イエス・キリストの贖いにより、確かにわたしたちは、死の重荷を一人で負う必要がなくなるのです。混乱したこの世界にあつて、イエス・キリストの福音ほど必要なものはほかにありません。イエス・キリストの福音以上に幸福をもたらす、結婚と家庭を強める力を持つものはほかに存在しません。ハワード・W・ハンター大管長はこのように述べました。「イエスが手を置かれた者は皆生き返る。もしイエスがその御手を結婚生活のうえに置かれるならば、結婚生活は命を得、もし家族のうえに手を置かれるならば、その家族はよみがえるのである。」³ 救い主は、わたしたちが主を信じ、主の贈り物を受け取るならば、わたしたち一人一人のために、約束したことを行ってくださいます。

長年にわたって、わたしは皆さんと同様、緊張と落胆を経験してきました。もし自分の持つ以上の知恵と力の源に

頼れなかったなら、そのような緊張と落胆に押しつぶされていたことでしょう。しかし主は、決してわたしを忘れられることも見捨てられることもありませんでした。やがてわたしはイエスがキリストであられ、この教会が主の教会であると知るようになりました。アンモンとともにわたしは次のように宣言します。「主を誇って喜びすぎることがあり得ようか。まことに、主の大いなる力と、主の憐れみ……について語りすぎることがあり得ようか。見よ……わたしは感じていることの万分の一も言い表せない。」(アルマ26:16) 時満ちる神権時代のたそがれに、ルシフェルはわたしたちの家路への旅を危険にさらし、わたしたちを救い主の贖いの力から引き離そうと躍起になって働いています。これらに立ち向かう唯一の答えは、イエス・キリストなのです。

預言者たちが証してきたイエスを求めるように、わたしたちは決意を新たにしようではありませんか。自ら主のくびきを負うて、比類なき主の贖いの力にあずかるうではありませんか。そして、神の息子と娘として立ち上がり、この世の悪影響を断ち切るうではありませんか。「主を神とする人々」と(1ニーファイ17:40)、主はすばらしい約束を交わしてくださいました。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約84:88) イエス・キリストはわたしたちの唯一のチャンスです。主はわたしたちに道を示してくださいます。なぜなら主御自身が道であられるからです。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997), 186.
2. *Relief Society Minutebook*, 9 June 1842.
3. In Conference Report, Oct. 1979, 93.

愛と奉仕

十二使徒定員会会員
デビッド・B・ヘイト

わたしたちは……夫婦の宣教師を緊急に必要としています。……もしあなたが現役を退いて、残る人生をどうしようかと考えているのであれば、ここに胸躍るすばらしい世界があります。



愛する兄弟姉妹の皆さん、何と美しい日でしょうか。何と美しい日であり、わたしたちは何とすばらしい時代に生を受け、何とすばらしい時期に教会員となったことでしょうか。

わたしは以前ほどよく目が見えませんが、わたしの視野は広がっていることに気づきました。年を取るにつれて神の計画についてはっきりと分かるようになってきたからです。傍らに座っている妻のルビーに目を向けると、彼女に大きな祝福があるようにと願わずにはいられません。わたしたちは、今年、69回目の結婚記念日を祝うことになります。わたしは今日まで受けてきた祝福や教会から受けた影響力に感謝する思いでいっぱいです。妻のルビーとともに過ごしてきたわたしの人生、また、妻とともに育ててきた息子のブルースとロバート、そして娘のカレン、

ならびにそれぞれの家族は教会から多大な影響を受けてきたのです。わたしは今、心の目で、ここユタ州だけでなく、カリフォルニア、テキサス、ノースカロライナ、ボストンに住むひ孫たちのテレビの前にいる姿を見ることができます。たぶん、彼らはこう言っていることでしょう。「あそこにいるのがおじいさんだよ。ほんとうに年を取っているね。でも、彼はぼくたちのおじいさんなんだよ。」わたしは彼ら全員に愛と感謝を表したいと思います。

年を重ねてきた今、わたしが生きてきたこれまでの世の中と人生を振り返ってみると、わたしたちが分かち合ってきた愛と、行ってきた奉仕はほんとうに報われていることに気づきます。

何年か前に、責任を与えられて旅行した帰りの飛行機の中で、間もなく到着しようとするところに、ステewardデスがやって来て、何か飲み物をどうですかと尋ねました。わたしはセブンアップ(訳注—アメリカの炭酸飲料)かレモンジュースが欲しいと言いました。

彼女は飲み物を持って来て、渡そうとしたときに、わたしのネクタイピンに目を留めました。そのネクタイピンを今、手に持っているのですが、これは昔、スコットランド伝道部で使っていたものです。ここには、イギリス王室の紋章が付いており、その中心にロンドン神殿があしらわれています。つまりこのタイピンは、神殿の周りを紋章で飾ったようになっているのです。ステewardデスはセブンアップを手渡ししながら、言いました。「まあ、珍しい

タイピンですね。何が付いているのですか。」

「神殿ですよ」とわたしは言いました。

するとこの若いお嬢さんは言いました。「神殿？ 何の神殿ですか？」

「主の神殿です」と答えると、彼女は「え！ 何ですって？」と言いました。

わたしは「これは主の神殿ですよ」と答えました。

わたしは彼女が興味を持ったことに気づきました。彼女はこう言いました。「お客様はどこ教会に集わっているのですか。」

わたしたちの教会について話すと、彼女がかなり関心を持っていることが分かったので、わたしはこう言いました。「あなたのお名前と住所を書いてくださったら、青年たちにあなたのお住まいを訪問してもらおうようにしましょう。彼らはこの神殿について、また神殿そのものについて説明してくれると思いますよ。」

彼女は不思議そうな顔をしてわたし

ゴードン・B・ヒンクレー大管長。



を見ると、立ち去りました。しばらくして彼女は戻って来ると、ベニー・ハリマンという自分の名前とロサンゼルス^の住所が書かれた紙をくれました。

わたしは伝道部長に電話して、いつものようにこう言いました。「最も優秀な宣教師を送ってください。この若い女性を訪問していただきたいのです。」わたしは彼女にこう約束していました。「あなたのもとへ青年たちを送ります。彼らが行ってくれるようお願いすることを実行し、彼らの言葉に耳を傾ければ、あなたは人生で最大の祝福を得ることを約束します。」

それから1年と少ししてから、ある日事務所に電話がかかってきました。あのお嬢さんの声でした。「ベニー・ハリマンと申します。わたしのことを覚えていらっしゃるでしょうか。」

「もちろん、覚えてますよ」とわたしは言いました。

すると、「もし、スケジュールの調整がつけば、ソルトレーク神殿でわたしと婚約者の結婚式を司っていただけますか」と言いました。

わたしは「もちろんです」と答えました。

わたしがこの若い女性と、あれから後に出会った若い男性とを結び固めていたとき、彼女の母親は、神殿の中でわたしたちが自分の娘に何をしているのだろうかと考えながら、ソルトレークのテンプルスクウェアをうろろろしていたそうです。神殿に入ることができなかったからです。

時が過ぎ行く中で、わたしたちが分かち合う愛、行う奉仕は、わたしたちの生活にとって非常に重要な役割を果たします。

救い主が復活され

た後に、御姿を現されたことをわたしたちは皆知っています。救い主がガリラヤの岸辺でペテロと漁師たちと会われたのも、その一つでした。それは明け方のかなり早い時刻だったことでしょう。主は彼らを呼んで、魚がとれたかどうかをお尋ねになりました。彼らがとれなかったと答えると、主は別の場所に網を下してみるようにと言われました。その後の様子をヨハネは見事に記録しています。彼らが網を引き上げると、たくさんの魚がとれました。

救い主がそこにおられました。ヨハネの記録によれば、そこに炭火がおこしてありました。彼らは魚と蜂の巣またはパンを食べました。そのとき、救い主はペテロに言われました。「ヨハネの子シモンよ、あなたはこれらを愛する以上に、わたしを愛するか。」(欽定訳ヨハネ21:15より和訳。1-17参照) 救い主は、恐らく網の中でまだ跳ねていた魚を指して言われたのでしょうか。

「あなたはこれらを愛する以上に、わたしを愛するか。」彼らは貧しい生活をしていました。魚をとって、それを売り、お金に換えて、生活に必要なものを手に入れていました。

ペテロは、救い主がすべてを御存じであることを暗に示しながら、こう言いました。「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです。」すると救い主はペテロに「わたしの小羊を養いなさい」と言われました(15節)。

そして救い主はもう一度ペテロに言われました。「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。」ペテロは救い主が二度も言われたので悲しみを覚えました。すると、救い主は「わたしの羊を飼いなさい」と言われました(16節)。

さらに、救い主は3度目に言われました。「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。……わたしの羊を養いなさい。」(17節)

わたしたちは何をしていますでしょうか。わたしたちにとってきわめて大切な日であることを証し、救い主が復活され、死の縄目を解かれたことを祝い、宣べ伝え、教えるこの日に、わたした

ちは何を行い、救い主に対する愛をどのように表しているのでしょうか。従順と奉仕と、与えられた時間をどのように使うかによって、愛を表すのではないのでしょうか。

先日わたしはアリゾナ州フェニックス地域のステーキ会長から興味ある手紙を頂きました。彼はファイヤサイドを開きたいと思うので、わたしにいつかフェニックスへ来てほしいと言ってきました。「スノーバード」に話してほしいという要請でした。数百人に上る「スノーバード」と呼ばれる人々が集まっていると言うのです。冬の間アメリカ合衆国各地から暖かいアリゾナへ飛んで来て、数か月をそこで過ごす人々のことです。「彼らはもう現役を退いた、すばらしい人たちです。主のために働く資格がある人々です。今、ここのワードに出席しています」と書かれていました。もしあなたが「スノーバード」であれば、アリゾナでもどこでも飛んで行ってそこでしばらく滞在することができます。つまり、何でも好きなことができる状態に置かれています。

ご承知のように、伝道プログラムが全世界で展開され、多くの人々を教会に迎え入れている現在、わたしたちは全世界の支部やステーキを強めるために夫婦宣教師を緊急に必要としています。

恐らく皆さんはモンゴルで起きた出来事についてそのあらましを聞き及んでいると思います。ケン・ピーズリー兄弟はモンゴル政府を支援するために同地へ行って、高等教育の制度を確立し、カリキュラムとその管理運営方法について指導しました。ピーズリー兄弟はそれと同時に、教会のために門戸を開くための努力をしました。

皆さんはまた、宣教師としてモンゴルに召され、その後伝道部長に召されて、すばらしい働きをしたゲリー・コックス部長と妻のジョイス・コックス姉妹についても御存じかもしれません。

さらに、ジョン・ベネット博士と奥さんのキャロラインについても御存じかもしれません。彼らはカナリヤ諸島の人々から来てほしいと言われていたため、カナリヤ諸島へ召されると思っ

ていました。ところが、彼らに与えられた召しはモンゴルへ赴任することでした。二人はたいそう驚きました。わたしは後に、彼らがモンゴルで体験したこと、彼らが人々の心をとらえ、また奉仕した様子をつづった彼らの手紙を読む機会がありました。ベネット夫妻の伝道中、弟が亡くなり、子供たちの結婚式と披露宴が行われましたが、彼らはこう語りました。「そうしたことが起きても、わたしたちは電話で連絡を取ることができました。」

現在、モンゴルで何が起きているかをお知らせすると、この国では9つの支部に1,300人の会員が集っています。

わたしはまた、ユタ州オークレー出身のケン・ウールステンハム兄弟と妻のカレン・ウールステンハム姉妹を心に思い浮かべています。彼らは召しを受けてどこかで働くことを希望しました。そして、オーストラリアのパー스에派遣されました。彼らは現在、パーズの北、300マイル(約480キロ)にある小さな支部にいます。そしてそこで起きている教会の発展を目の当たりにし、また自分たちもその発展に携わることによって、二人の生活にもたらされた興奮を書き送ってくれました。

もしあなたが現役を退いて、残る人生をどうしようかと考えているのであれば、ここに胸躍るすばらしい世界があります。ソルトレーク・シティーに住むタルメージ・ニールセン兄弟は現役を退いた医師です。彼は奥さんとともに、南アメリカとドイツのフランクフルトへ召され、医療上の問題を持つ人々を助けました。またロシアでも医療問題の解決に貢献しました。帰還してからしばらく自宅にとどまり、そして孫たちと「こんにちは」と「さようなら」のキスをして、今度はハワイへ召されました。そこで訪問者センターの所長を務めました。ニールセン兄弟姉妹がこれら3回の伝道ですばらしい時と経験と祝福を味わったことをわたしは知っています。

最近ニールセン兄弟と話す機会がありました。わたしはこう言いました。「これから残る人生をどうするおつもり

ですか。」

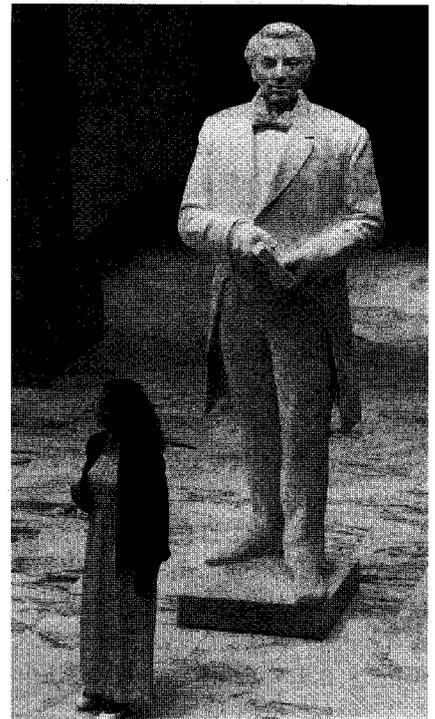
すると彼は「ええ、もう72歳になりましたから」と言いました。

わたしはこう言いました。「まだ72歳ですか。わたしはあなたより20年も長生きしています。この20年間に起きたことを考えたら、世界へ出て行ってできることがあなたにはまだありますよ、タルメージ兄弟。」

わたしの証を申し上げます。福音が真実であり、神は生きておられ、神がわたしたちの御父であり、神は奇跡的な方法でわたしたちの心と良心にこの御業が真実であることを知らせてくださいます。わたしたちはそれに気づき、それを感じ、神がわたしたち全員に愛と憐れみを寄せておられることを感じています。

わたしたちが福音の原則に従って生活することができるよう願っています。わたしたちが持っているすべての時間を効率的に使うことができるよう願っています。わたしは皆さんにわたしの愛と、この御業が真実であることの証をお伝えし、救い主イエス・キリストの御名によってへりくだり、お祈りします。アーメン。

ジョセフ・スミス記念館のロビーに置かれた、預言者ジョセフ・スミスの像。



「そのかたは、 ここにはおられない。 よみがえられたのだ」

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」と語ったこの率直な言葉は、あらゆる文学をもしのぐ最も意味の深い言葉となりました。
……それはよみがえりについて主が語られたあらゆる言葉の成就でした。



愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんを前にして深い感謝の念に満たされています。わたしはあらゆる人の中で特別に豊かな祝福を受けていると感じます。わたしは皆さんの愛によって祝福を受けています。行く先々で、ほんとうに親切なもてなしを受けます。わたしは皆さんの信仰によって祝福を受けています。そのすばらしい奉仕、献身、忠実、これらすべてがわたし自身の信仰の一部となっているのです。皆さんは何とすばらしい方たちでしょう。福音を実践するときに、人はより良い方向へと変化していきますが、皆さんがそれを証明していらっしゃいます。ほかの方法

ではそうはいかないのです。

皆さんは惜しみなく自分の時間と財産を用いる私心のない方たちです。この広い世界の隅々で、皆さんは天父の王国を築き、その御業を推進するために働いておられます。

わたしは先週ある男性に電話をかけました。彼は会社を退職された方です。この男性は伝道部長として働いたことがあり、現在、姉妹と一緒に宣教師として働いておられます。わたしは、「新しい神殿を管理するために喜んで働くお気持ちがおありですか」と彼に尋ねました。彼はこみ上げてくる気持ちを抑え切れない様子でした。彼はその召しの大きさに圧倒され、口を利くことができませんでした。彼ら夫婦は子供や孫とまたもや長期間離れて暮らし、別の分野で主に仕えるのです。二人は孫たちと別れて寂しい思いをするでしょうか。もちろんそうです。しかし、二人は行きます。そして忠実に奉仕します。

世界の津々浦々でたとえどれほど不都合なことがあっても、またどれほど快適な生活を捨てることになっても、あらゆる召しにこたえてくれる献身的で忠実な教会員がいることに、わたしはどれほど深く感謝していることでしょうか。

しかしこの復活祭の季節、わたしが感謝しているあらゆる事柄の中で、最も感謝しているのは、わたしの主、贖い主からの贈り物です。この季節、わたし

たちはあらゆるキリスト教徒とともに、イエス・キリストの復活を記念します。

この復活という出来事は決して月並みな出来事ではありませんでした。人類の歴史上最も偉大な出来事でした。わたしはためらうことなくそう申し上げます。

「人がもし死ねば、また生きるでしょうか」とヨブは尋ねました(ヨブ14:14)。これほど大切な質問はほかにありません。

わたしたちは快適で安全な生活を送っていると、死について考えたりしないものです。心がほかのことに支配されています。しかしこの地上での生活に終わりが来るという事実ほど確実で、普遍的で、最終的な事実はありません。だれ一人として、死を免れることはできません。だれもできないのです。

わたしはパリでナポレオンの墓の前に立ち、モスクワでレーニンの墓の前に立ち、またほかにも世界中の多くの偉大な指導者が埋葬されている場所を訪れたことがあります。これらの指導者は、当時の世界において、軍隊を統率し、ほとんど全能とも言える権力をもって国を支配しました。彼らの言葉を聞いただけで人々は恐怖を覚えました。わたしは世界中にある偉大な墓地の幾つかを敬虔な気持ちで歩いてきました。フィリピンのマニラにある兵士の墓地に立ったとき、静かにまた感慨深くいろいろなことを思い巡らしました。この墓地には先の第二次世界大戦で命をささげた約1万7,000人のアメリカ人が埋葬されています。また太平洋での悲惨な戦闘で死亡し、遺体の発見されなかった3万5,000人のアメリカ人の記念碑が建っています。ビルマのラングーン郊外にたたくむイギリスの墓地を敬虔な気持ちで歩いたこともあります。そのときわたしは英国諸島の村や街、そして大都市からやって来て、暑くて遠い国で命をささげた何百万という若い男性の名前に気づきました。アジアやヨーロッパ、あるいはそのほかの国々にある墓地を散策したこともあります。そこで、かつては活発に動き回り幸せだった人々、また創造力にあふれ、傑出した人々、自分の生きた世界に多くの

貢献を残した人々の人生について考えました。彼らは皆、墓という忘却の幕のかなたへ行ってしまいました。わたしたちより前に地球上に住んでいた人々は皆もういなくなっていました。彼らはすべてを後に残し、沈黙の死という門口を超えて行ってしまったのです。死を免れた人は一人もいません。あらゆる人が「その境界線からどんな旅行者も二度と帰って来たことのない未知の国」(『ハムレット』第3幕、1場、56行)へ行ってしまったといった表現でシェークスピアは死を描写しました。

しかしイエス・キリストがすべてを変えられたのです。そのようなことができるのは神以外におられません。イエス・キリストが死の縄目を断ち切られたのです。イエス御自身も死を経験なさる必要がありましたが、埋葬の日から3日目に「眠っている者の初穂として」墓からよみがえられたのです(1コリント15:20)。そうすることによってわたしたち一人一人に復活の祝福をもたらされたのです。

この不思議な出来事についてよくよく考えたパウロは次のように語ってい

ます。「死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか。」(1コリント15:55)

2週間前に、わたしはイエスが2,000年前に歩まれたあの偉大な町エルサレムを訪れていました。高台に立ち、古い町を見下ろしました。そして数キロ南にあるベツレヘムについて考えました。イエスはその町にある質素な馬屋の中でお生まれになりました。神の御子であり独り子であるイエスは御父の天の王宮を離れて死すべき肉体をまともされました。その誕生に際して、天使たちは歌い、賢者が贈り物をするためにやって来ました。イエスはガリラヤのナザレでほかの少年たちと同じように成長されました。そこで彼は「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛され」ました(ルカ2:52)。

イエスは12歳のときにマリヤとヨセフに連れられて、エルサレムを訪れました。帰宅の途中、二人はイエスがいないことに気づきました。エルサレムに引き返すと、イエスは神殿で学識のある博士たちと話していました。勝手に両親のもとを離れた

ことをいさめるマリヤに対してイエスは次のようにお答えになりました。「わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか。」(ルカ2:49) その言葉は将来携わることになる御業の予表でした。

その御業はまず、いとこのヨハネの手によって受けられたヨルダン川でのイエス御自身のバプテスマから始まりました。イエスが水から上がられると、聖霊が鳩のような姿を取ってイエスに降られ、そして次のように語られる天父の御声が聞こえました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」(マタイ3:17) この宣言はイエスが神の御子であることを確認するものとなりました。

イエスは40日間の断食で、天父より授かった聖なる使命からイエスを引き離そうとする悪魔の試みに遭われました。誘惑しようとする悪魔に対してイエスは次のように答えられました。「主なるあなたの神を試みてはならない。」(マタイ4:7) ここでもまたイエスは神の御子であることを宣言されました。

・ イエスはパレスチナの土ほこりにま





大会の部会で、モルモンタバナクル合唱団を指揮する、クレイグ・ジェソップ兄弟。

みれた道を歩かれました。自分の家と呼べる家も、体を横たえて休む場所もありませんでした。イエスのメッセージは平和の福音でした。イエスの教えはすなわち愛と寛容の教えでした。「あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。」(マタイ5:40)

イエスはたとえによって教えられました。イエスは後にも先にも決して行われたことのない奇跡を行われました。長い間治らなかった病気が癒されました。目の見えない人は見え、耳の聞こえない人が聞こえ、足の不自由な人は歩けるようになりました。イエスは死者をよみがえらせられ、再び命を得た人々はイエスを賛美しました。確かにそのような奇跡を行った人はそれまで一人もいませんでした。

イエスに従ってきた人々も何人かいましたが、ほとんどの人々は彼を憎みました。イエスは律法学者やパリサイ人を偽善者と呼び、また白く塗った墓にたとえられました。律法学者やパリサイ人は、イエスを陥れる計画を立てました。イエスは主の宮から両替人を追い出されました。この両替人たちも一緒になってイエスを殺そうと計画したことでしょう。しかしイエスはひる

むことなく「よい働きをし」続けられました(使徒10:38)。

主への追憶の情を不朽のものとするのに、これらの事実があれば十分ではないでしょうか。歴史上、名言や業績ゆえに偉人として記憶にとどめられる人々の名前の中に、いえ、それ以上の位置に主の御名を掲げるために、これらの事実を挙げれば十分ではないでしょうか。まさにイエスは史上最も偉大な預言者の御一人です。

しかし全能者の御子を語るのに、これらだけでは十分とは言えません。これらの事実は、より偉大なことが起きる前兆にすぎませんでした。その偉大なことは、不思議なまた悲惨な方法で実現されることになったのです。

主は裏切られ、捕らえられ、死を宣告され、ひどい苦しみの中、十字架につけられ亡くなされました。主は生きのまま、体を木の十字架に釘で打ち付けられました。言葉にならない苦痛の中、主の命は少しずつ衰えていきました。まだ息があるとき、主は叫ばれました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)

主の霊が肉体を離れたとき、地は揺

れました。その様子を見ていた百卒長は言いました。「まことに、この人は神の子であった。」(マタイ27:54)

主を愛していた者たちは主の遺体を十字架から降ろしました。彼らは遺体を布で包み、アリマタヤのヨセフが用意した墓に納めました。入り口に置かれた大きな石で墓は封じられ、番人が置かれました。

主の友人たちはさぞや涙を流したことでしょう。主が愛された、主の神性を証するために召された使徒たちも涙を流しました。主を愛した女性たちも嘆き悲しみまし

た。主が3日目によみがえると語られたことを理解していた人はだれ一人いませんでした。そのようなことをどうして理解できたのでしょうか。そのようなことは、これまで起きたことがありません。まったく前例のないことです。彼らでさえも信じられないことでした。

そして死によって主が取り去られてしまったと思ったとき、彼らは落胆し、絶望しそして苦痛を感じたことでしょう。

しかしそれがすべての終わりではありませんでした。3日目の朝、マグダラのマリヤともう一人のマリヤが墓に戻ってみました。驚いたことに、石がのけられ、墓が開いていました。二人は中をのぞいてみました。すると主の遺体が置かれていた場所の両端に、白衣を着た二人の御方が腰をかけていました。一人の天使が、彼女たちに言いました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。

すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして3日目によみがえり、と仰せられたで

はないか。」(ルカ24:5-7)

「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」と語ったこの率直な言葉は、あらゆる文学をもしのぐ最も意味の深い言葉となりました。その言葉は、空となった墓で宣言されました。それはよみがえりについて主が語られたあらゆる言葉の成就でした。そして地上に生を受けたすべての男女、そして子供が抱いていた疑問に対する、この上ない答えとなったのです。

よみがえった主はマリヤに語られ、マリヤは答えました。主はまぼろしではありませんでした。空想でもありませんでした。主は、亡くなる前と何ら変わることなく、確かに生きておられました。主はマリヤに触ることをお許しになりませんでした。まだ天父のもとに昇っておられなかったからです。そしてその後間もなく主は天に昇られました。天父の御手に抱かれたとき、それはどんなにすばらしい再会だったことでしょうか。天父は御子を愛されました。御子が苦しまれたときには、自らも涙を流されたことでしょうか。

主はエマオの村へ行く道で二人の人に御姿を現されました。主は彼らと言葉を交わし、ともに食されました。使徒たちを招いて、彼らに教えられました。トマスは最初のときに、その場にいませんでした。2度目に主が御姿を現されたとき、主はトマスに御自分の手とわき腹に触るようと言われました。傷跡に驚いたトマスはこのように叫びました。「わが主よ、わが神よ。」(ヨハネ20:28)主はあるとき、500人もの人々と話をされました。

これらの事実について記された記録をだれが論駁できるのでしょうか。このような経験をした人々の証を否定する記録は存在しません。彼らが生涯を通してこれらの出来事に対する証をしているという証拠は豊富にあります。彼らは経験した事柄が事実であることを証するために、命までもささげたのです。彼らの言葉は明らかであり、証は確かなものです。

何世紀にもわたって、何百万もの人々がこの証を受け入れてきました。

その真理を証するために、数え切れないほどの人が命を落としました。彼らは聖霊の力によりその真理を得ていたため、もはや打ち消すことができなかつたのです。確かに、人類史上これ以上に広く信憑性が試された出来事はありませんでした。

そしてキリストを証するものがもう一つあります。『聖書』のもう一つの証である『モルモン書』です。『モルモン書』は主が旧世界の人々にだけでなく、新世界の人々にも御姿を現されたことを証しています。主はかつてこのように宣言されなかったでしょうか。「わたしはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとつの羊飼となるであろう。」(ヨハネ10:16)

主は復活後、西半球の人々に御姿を現されました。主が天の雲から降られたとき、このように厳かに宣言する永遠の父なる神の御声が再び聞こえました。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。」(3ニーファイ11:7)

主はここでもまた、主の御名と神の御子であることを証する十二使徒を召されました。主はパレスチナでされたように、人々を教え、祝福し、癒しを与えられました。人々は主の教えに従って生活したために、それからの200年間平和が続きました。

もしこれらすべての事実をもってしてもまだ十分でないならば、この神権時代の偉大な預言者ジョセフ・スミスの明白で、疑う余地のない証があります。少年ジョセフは森に入り、光と知識を求めて祈りました。筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がジョセフに現れ、空中に立たれました。そのうちの御一方が彼に語りかけ、彼の「名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』』と言われた」のです(ジョセフ・スミス—歴史1:17)。

このジョセフは後になって、このように宣言しました。「そして、わたしたちは御父の右に御子の栄光を見、その完全を受けた。……

そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』(教義と聖約76:20, 22)

したがってこのすばらしい復活祭の朝に、全能者の僕として、主の大義の預言者ならびに使徒として、わたしたちは声を上げ、不死不滅の救い主について証を述べます。主は永遠の父の御子として世に來られました。イザヤが主について預言したとおりに主は行われました。主は「われわれの病を負い、われわれの悲しみをにになった。……

……彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ53:4-5)

主は3日目に、岩をくりぬいた墓からよみがえり、不死不滅となられました。主は多くの人々に語りかけられました。天父は繰り返し、主が神の御子であることを確認されました。

全能の神に感謝をささげましょう。神の栄光ある御子は死の縄目を断たれました。それはあらゆる勝利に勝る大いなる勝利でした。パウロは宣言しています。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(1コリント15:22)

キリストはわたしたちの勝利の主です。またわたしたちの罪を贖ってください。主の贖いの犠牲によってすべての人は墓からよみがえります。主が道を開いてくださったので、不死不滅だけでなく永遠の命を得ることができるのです。

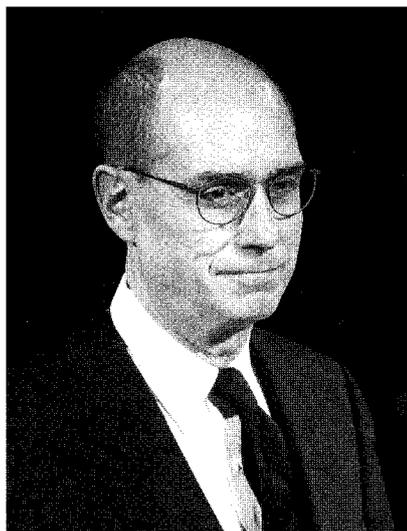
わたしは主イエス・キリストの使徒として、この復活祭にこれらを証します。厳粛に、畏敬の念を持ち、また感謝を込めて、イエス・キリストの御名によってお話しします。アーメン。

教義を教える力

十二使徒定員会会員

ヘンリー・B・アイリング

イエス・キリストの教義は^{おきなご}幼子にも理解させることができます。ですから、神の力さえあれば、救いの教義は簡潔に教えることができます。



この世が造られる前から、光と闇、善と悪の間の闘いが続いています。その激しさは衰えを見せず、死傷者は増え続けているようです。破壊者は神のすべての子供たちを不幸にしようとしています。わたしたちのだれもが、その破壊者の力に翻弄されている人々を愛する家族の中に抱えています。眠れぬ夜を過ごしている人も多くいます。わたしたちは危機に瀕した子や孫の周囲に渦巻く力に対抗して、善の力を懸命に増し加えようと努力してきました。わたしたちは彼らを愛しています。ですから、最高の模範を示そうとしました。彼らのことを祈り求めてきました。昔、ある賢明な預言者が、人々からあまり重要視されていないために用いられることの少ない力がある、と勧告しました。

アルマは、残虐な敵から滅ぼされようとしていた民の指導者でした。民が危険な状況に直面していたため、アルマにはすべてのことを行う余裕がなく、何を優先するかを選択しなければなりませんでした。とりでを築くことも、武具を作ることも、軍隊を訓練することもできました。でも、神の助けがなければ勝利の望みはありません。そのためには民の悔い改めが必要でした。そこでアルマは一つのことに集中しました。

「ところで、御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。」(アルマ31：5)

神の御言葉とは、イエス・キリストと預言者によって教えられた教義です。アルマは神の御言葉には偉大な力があることを知っていました。神の御言葉は民の心を開き、霊的なこと、目に見えないものを見せてくれます。また、神と真理への愛を抱けるよう心を開いてくれます。教義と聖約第18章で、救い主はわたしたちの目と心を開く、この二つの力を引用し、宣教師として働くことを望む人々に教えを授けておられます。伝道に行くべき心が揺れている子供たちのことを考えながら聞いてください。ここでは主が二人の僕に向かつて教えておられます。皆さんも

愛する若人に教義を教えるときに応用できるのではないのでしょうか。

「さて、オリバー・カウドリよ、わたしはあなたと、またデビッド・ホイットマーに戒めとして告げる。見よ、わたしはどこにいる人でもすべての人に悔い改めるように命じる。わたしは、わたしの使徒パウロに語ったようにあなたがたに語る。あなたがたはまさに、パウロが召されたと同じ召しに召されているからである。

人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」(教義と聖約18：9-10)

主はまず、どれほど二人を信頼しているかを述べられました。そして、御父と御自身がどれほど一人一人を愛しているかを述べて、二人の心を引きつけておられます。次に来るのが教義の土台作りです。なぜ主を愛するべきかの説明です。

「見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるよう、主はすべての人の苦を引き受けた。

そして、悔い改めを条件として、すべての人を自分のもとに導くことができるように、主は再び死者の中からよみがえったのである。

人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18：11-13)

民の心を開くという主の使命についての教えの後で、主の戒めが続きます。「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶために召されている。」(教義と聖約18：14)

最後に、主は民の目を開き、幕のあなたが見えるようにしてくださいます。彼らにもわたしたちにも、偉大な救いの計画に示されていてまだ到達していない将来の状態を見せてくださるので、そして、すべてを犠牲にしても惜しくないほどのすばらしい交わりについて語ってくださいます。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの

父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしを父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:15-16)

このわずかな節の中で主は、主の愛に心を開くという教義について教えておられます。また、御霊に照らされた者でなければ見ることのできない霊的な実体についてわたしたちの目を開く、という教義を教えてください。

心と目を開く必要性を考えた場合、問題になるのはその教義の教え方です。教義は、「それは真実である」という聖霊の証^{あかし}によって力を増します。わたしたちは教える人をできるかぎり備えます。静かな細い声によるかすかな導きを受けられるようにするためです。これには少なくともある程度、イエス・キリストへの信仰が必要になります。また主の御心に従うための、少なくともある程度の謙虚さと積極性が重要です。皆さんが教えようとしている人は、そのどちらもほとんど持ち合わせていないかもしれません。でも、信じる望みを持てるように励ますことができます。それよりも皆さんは、教義の持つもう一つの力から確信を得ることができます。真理には自ら進む力があります。教義はただ聞くだけの人に対しても、その心に信仰の種をまくことができるのです。そして、イエス・キリストへの信仰のほんの小さな種でも、御霊を招き入れることができます。

わたしたち自身の備えについては、もっとコントロールできます。神の御言葉をよく味わい、生ける預言者の言葉を研究できるからです。わたしたちは自分自身のために、そして教える人のために断食して祈り、御霊を招きます。

わたしたちには聖霊が必要ですから、真実の教義を逸脱して教えることのないように注意しなければなりません。聖霊は真理の御霊です。聖霊の確認は、推論や個人的な解釈を避けることによ

って授けられるのです。しかし、これは一筋縄ではいきません。教えようとする人々を愛している皆さんは、教えた教義に相手に関心を示さないと、何か新しいこと、センセーショナルなことを話してあげなければとの誘惑に駆られます。でも、聖霊を招くためには真実の教義だけにとどめることが必要です。

偽りの教義に近づかないための確かな方法として、簡潔に教えるという方法が挙げられます。簡潔であれば安全ですし、失われるものはほとんどありません。救い主は大切な教義を小さな子供たちにも教えるように命じられました。こうあります。

「さらにまた、シオンにおいて、または組織されているそのいずれかのステークにおいて、子供を持つ両親がいて、8歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリスト^{あんしゅ}を信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖霊の賜物^{たまもの}の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。」(教義と聖約68:25)

イエス・キリストの教義は幼子にも

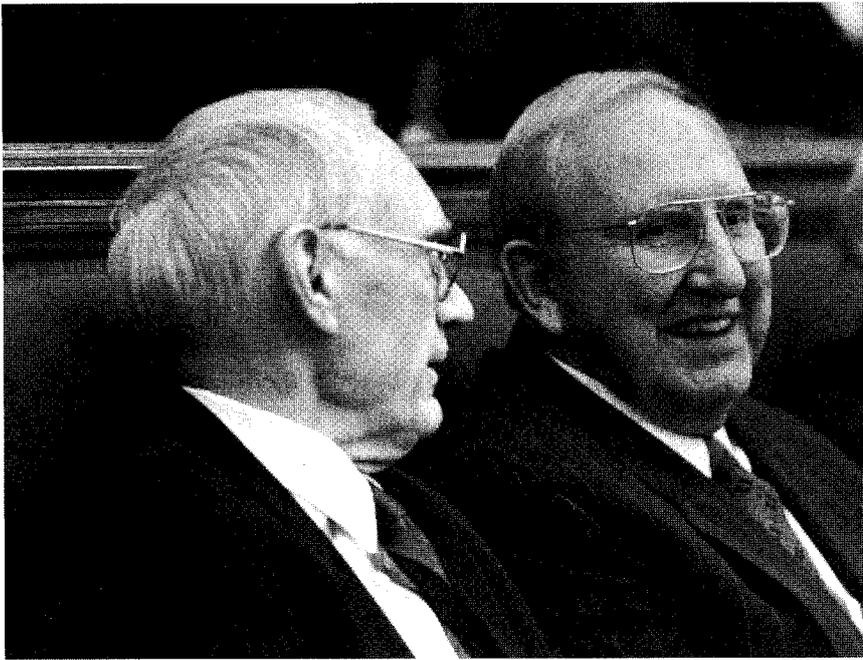
理解させることができます。ですから、神の力さえあれば、救いの教義は簡潔に教えることができるのです。

教えを受け入れる可能性が最も大きいのは子供です。教える最良の時は、まだ子供が小さくてこの世の敵の誘惑を受けない時期、個人的な煩いのために真理の言葉がなかなか耳に入らなくなるような状態に達していない時期です。

賢明な両親は、機会を見つけては子供たちを集めてイエス・キリストの教義を教えています。そうした機会は、敵の攻撃の数に比較して非常にまれです。子供の生活に救いの教義の力が注がれる時間を1とすると、救いの真理を否定し無視するメッセージや画像はその何百倍も存在しているからです。

教義を教える備えをするのに疲れていないかどうかとか、子供ともっと親しくするには子供が喜ぶことだけをした方がいいのではとか、うちの親は説教ばかりしていると子供たちが考え始めているのではとかいったことは問題ではないのです。大切なのはこうです。「時間も機会もそれほど少ない中で、わたしの口から出るとの教えの





大会の前に談笑する七十人のローレン・C・ダン長老とボーン・J・フェザーストン長老。

言葉が、必ずやってくる信仰への攻撃に対して彼らを強めることができるだろうか。」皆さんが今日語る言葉は、子供たちの記憶にとどまります。そして、今日という日はすぐに過ぎ去ってしまうのです。

わたしたちは時間をかけて、全力で教義を教えますが、こたえてくれない子供もいます。悲しいことです。でも、聖文の中の家族の記録は希望を与えてくれます。息子アルマやエノスを考えてみてください。彼らは危機に遭って父親の言葉、キリストの教えの言葉を思い起こしました。それが彼らを救ったのです。同様に、救いの神聖な教えについての皆さんが教えることは、子供たちの記憶に残るのです。

皆さんの心には二つの疑問が忍び寄ってきます。子供に教えられるだけ自分は教義を知っているのだろうか、ということと、これまで教えてきたのに、なぜいい結果が出ないのだろうか、ということと。

わたしの親族の中に、改宗したばかりで教育も受けていないにもかかわらず、勇気をもって教義を教えようとした若い女性がいます。彼女の努力の成果はいまだにとどまることを知りません。それを見ると、努力の成果を得る

には忍耐が必要だということが分かります。

曾祖母の一人であるメアリー・ボメリという名の人の話です。わたしは会ったことはありません。孫娘がメアリーから話を聞いてまとめました。

メアリーは1830年に生まれました。スイスで暮らしていた24歳のときに、宣教師が家族に福音を教えました。当時メアリーは、小さな農家だった家族を機織りや布地売りをして支えていました。家族は回復されたイエス・キリストの福音を聞いて真実であると確信し、バプテスマを受けました。メアリーの兄弟たちは財布も旅の袋もない状態で伝道に出ました。そして残された家族は、アメリカに行って聖徒たちの群れに加わりたいと思い、財産をすべて売り払いました。

でも、家族全員が行けるだけのお金にはなりません。そこでメアリーが残ることを提案しました。機織りの仕事で生活し、アメリカへの旅費を蓄えられると考えたからです。彼女はベルリンに行き、ある女性に雇われました。家族の衣服のために機織りをする仕事です。メアリーは使用人の部屋で寝起きし、機織りを居間の一部に据えつけました。

当時ベルリンでは、末日聖徒イエス・キリスト教会の教えを宣べ伝えることが禁止されていました。でもメアリーは、よきおとずれを自分の胸の内だけにしまっておくことができませんでした。その家の女主人と友人たちがメアリーの機織りの周りに集まり、スイス人の彼女の話を耳を傾けました。天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を現されたこと、天使の訪れ、そして『モルモン書』の話です。そしてアルマの話のところでは、復活の教義を教えました。

そのことで機織りの仕事に少々問題が起きました。当時は早死にする子供が多く、集まった女性も子供を亡くしていて、中には何人も亡くしている人もいました。メアリーが子供は日の栄えの王国を受け継ぐこと、亡くなった子供たちや救い主、そして御父と一緒に生活できるという話をすると、彼女たちの頬には涙が伝い、メアリーももらい泣きました。その涙がメアリーが織った布をぬらしてしまっただけです。

メアリーの教えはもっと深刻な問題を引き起こしました。メアリーは話したことをだれにも言わないように言ったのですが、女性たちは約束を守らず、その喜びのおとずれを友人たちに話してしまいました。ある晩、扉をたたく音がしました。警官でした。警官はメアリーを留置所に連行しました。途中メアリーは、翌朝会う判事の名前と、彼が家族持ちかどうか、また、いい父親であり夫であるかも尋ねました。警官は苦笑しながら、判事がこの世的な人間であることを話しました。

留置所でメアリーは紙と鉛筆をもらい、判事に手紙を書きました。『モルモン書』にあるイエス・キリストの復活や霊界のこと、また最後の裁きの前に自分の人生について振り返る時間がその判事にどれだけ残されているかについて書いたのです。またメアリーは、判事には悔い改めるべきことがたくさんあり、それが家族の心を傷つけ、また判事自身をも悲しませることになると書きつづりました。徹夜で書きました。翌朝、メアリーはその手紙を判事

に渡してくれるように警官に頼みました。警官はそのとおりにしました。

後で警官が判事から呼び出されました。メアリーが書いた手紙は彼女が福音を教えたことの動かし難い証拠となりました。ですから法律違反です。しかし程なくして、警官がメアリーの独房にやって来ました。警官は手紙の内容により告訴が取り下げられ、彼女が釈放されたことを告げました。彼女がイエス・キリストの回復された福音を教えたことで人々の目と心が開かれて、結果として投獄されることになりましたが、判事に悔い改めの教義を宣言することにより釈放されたのです (see Theresa Snow Hill, *Life and Times of Henry Eyring and Mary Bommeli* [1997], 15-22)。

メアリー・ボメリの教えに心を動かされたのは、織機りの周りに集まった女性たちと判事だけではありません。彼女の孫であるわたしの父が、死が近づいた夜にわたしに話してくれました。父は間もなく霊界でメアリーと喜びの再開ができると言いました。父が確信をもってそのことを語ってくれたとき、

パラダイスでの輝ける日の光と人々の明るい笑顔を見たような気持ちでした。

わたしは父に、まだ悔い改めていないことがないかどうか尋ねました。父はにこりとすると、かすかに笑いながらこう言いました。「いや、ハル。すべて途中で悔い改めてきたよ。」メアリー・ボメリがあ的女性たちに教えたパラダイスの教義は、彼女の孫にも受け継がれていたのです。あの判事にメアリーが説いた教えによって、父は正しい生活を送りましたが、メアリー・ボメリの教えはそれで終わったわけではありません。彼女の教えの記録は、まだ生を受けていない幾世代もの子孫に真実の教義を伝え続けることでしょう。新しい改宗者でも教義を理解して教えることができると信じた彼女のおかげで、子孫の思いと心は開かれ、善悪の闘いを雄々しく勝ち進むことができます。

皆さんの子孫たちは互いに教義を教え合うことでしょう。それは皆さんが教えたからです。教義は思いを霊的な事柄に向け、心を神の愛へと開くだけではありません。人々に喜びと平安を

もたらす教義には、人々の口を開かせる力もあるのです。ベルリンのあ的女性たちのように、皆さんの子孫たちもよきおとずれを自分の中だけにしまっておくことはできないでしょう。

わたしは家族ともども、回復された完全な福音が授けられている時代に生を受けられたことに感謝しています。わたしはまた、わたしたちを愛するという使命を救い主がお持ちであること、そして救い主が命の言葉をわたしたちに授けてくださったことに感謝しています。その言葉を愛する人々と分かち合うことができますように。父なる神が生きておられ、神のすべての子供たちを愛しておられることを証します。イエス・キリストは肉における神の独り子で、救い主であられます。主はよみがえられました。わたしたちは福音の律法と儀式に従うこと^{かき}によって洗い清められます。神権の鍵は回復されました。その鍵をゴードン・B・ヒンクレー大管長が保有しています。それが真実であることを証します。イエス・キリストの御名^{みな}により申し上げます。アーメン。



靈感によって与えられた 教会の福祉

十二使徒定員会会員
ジョセフ・B・ワースリン

わたしたちのために模範を示してくださった救い主は「貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こし」す人を喜ばれます〔教義と聖約52：40〕。



愛する兄弟姉妹、何とすばらしいイースターであったことでしょう。救い主の生涯と復活について思いをはせるとき、まことに救い主に助けを願い求めた数多くの人々の姿が思い出されます。生まれつき歩くことのできない男性の変形した足、あるいは墓へと運ばれる一人息子の遺体の後をついて来る母親の頬を伝わる涙を想像するのは難しくありません。わたしの目には、飢えた人々のうつろな目、病んだ人々の震える手、非難の対象となった人々の嘆願する様子、ほかの人々との接触を禁止された人々の落胆したまなざしが見えます。このような人々がすべて、富も家も地位もない孤独な一人の御方を目指して進もうとしている姿が見えます。

わたしにはこの御方、生ける神の御子が尽きることのない哀れみの心で一人一人を御覧になる姿が見えます。その神聖な御手がそっと触れると、打ちひしがれた人々には慰めが、病んだ人々には癒しが、非難の対象となっている人々には解放がもたらされます。その御言葉が、亡くなった男性をひつぎから立ち上がらせ、母親によみがえった息子を抱かせるのです。

広く知られているものからひそかにそっとなされたものまで、これらの慈悲深く親切な行いは、救い主の際立った性質の一つを浮き彫りにしてくれます。それは踏みにじられ、疲れ果て、弱り、苦悩している人々に注がれる主の愛と哀れみです。まさに、このような哀れみ深い行いは救い主の御名そのものなのです。

神の御子の地上での御業から2,000年が経過しましたが、その愛の模範と教えは今なお、わたしたちがどのような民であり、わたしたちの教会がどのような教会なのかという問題に対する大切な指針となっています。今日、末日聖徒イエス・キリスト教会とその会員は、靈感によって与えられた福祉プログラムにより、救い主の模範に倣い、人々の苦しみを和らげ、自立を促そうと努力しています。

教会福祉の働き

教会の福祉プログラムは世界中によく知られています。受ける側に依存心

を、与える側に気まずい思いを持たせることなく、この教会がどのように貧しい人々や困っている人々を世話しているのか自分の目で確かめようとあらゆる地位の人々が教会本部にやってきました。ある国の大統領が、福祉区域を訪問後、その日の残りのスケジュールをすべてキャンセルしました。彼はこう語りました。「わたしのスケジュール表で予定されているほかのどんなことよりも大切なことがここにあります。わたしはここにとどまってもっと多くのことを学ばなければならないのです。」

過去何年もの間、教会の福祉プログラムは飛躍する教会の増え続ける必要を満たすために発展してきました。今日、北アメリカにある80か所の教会所有の農場で、困っている人々のために栄養価の高い食物が生産されています。80の缶詰め工場がこの生命を維持するための食物が缶詰めにされ梱包されているのです。100を超える監督の倉には、自分たちのワードや支部で貧しい人々や困っている人々を探し出し援助するという、神聖な義務を遂行する1万人以上の監督や支部長を助ける備えができています。50のデゼレト産業が何千もの人々に仕事や研修を提供しています。全世界で、160の雇用センターが、毎年7万8,000人以上の人々の職探しを援助します。65の末日聖徒社会福祉課の事務所が教会員の夫婦のために養子縁組の援助をし、助けが必要な人々にカウンセリングを提供します。

この現代の世にあって福祉活動に先鞭をつけるよう主に育成された偉大な指導者たちが、今日の福祉プログラムに心から満足しているに違いないと感じます。

主の方法

ジョセフ・F・スミス大管長は次のように記しています。「この地上にあって人々を物質的に救い、豊かで幸福な民にする力を有しない宗教は、来たるべき世にあって人々を霊的に救い、昇栄に導く宗教としての信頼を勝ち得ることはできない。これは常に末日聖徒にとって核となる教えだった。」



物質的なことと霊的なことには分かち難いつながりがあります。自分の時間と才能と様々な手段を使って、病んでいる人々の必要を満たし、飢えている人々に食物を提供し、依存心のある人々に自立するよう教えるときに、わたしたちの霊性は想像できないほど豊かになるのです。

主は預言者ジョセフ・スミスに対する啓示の中で次のように宣言されました。「わたしが意図しているのは、聖徒たちに必要なものを与えることである。しかしそれは、わたし自身の方法で行われなければならない。見よ、富んでいる者を低くすることによって貧しい者を高くすること、これこそ、主なるわたしが聖徒たちに必要なものを与えるために定めた方法である。」² 主の方法にあっては、自らを助ける者を助けるというのが原則です。貧しい人々は、自分たちの受ける物質的な援助に見合った働きをするときに、正しい原則を学び、自分自身の力で貧困から自立へと抜け出すことができます。富んでいる人々は、貧しい人々のために惜しみなくその財産を用いるときに、謙遜に

なり低くなるのです。

わたしたちは教会員に自立し、自分自身を支えるために可能なかぎりすべてのことを自分で行い、必要な援助を自分の家族から得るように教えています。教会員とその家族が生活するためにできる限りのことを行っても、まだ基本的な必要を満たすことができない場合、教会からの援助の手が差し伸べられます。

教会の監督には「貧しい人や困っている人、配偶者がなく自分一人で子供を養育している人、老人、障害者、孤児、配偶者に先立たれた人、その他特別な援助を必要としている人」

を世話する特別な責任があります。³

わたしは助けを求めてきた人を援助するために、一人の監督がどのように自分のうちにある手段を組織したか知っています。この男性は何年もの間、幸福な結婚生活を送っていましたが、人生の後半になってアルコールと薬物に依存するようになったため、仕事も家も家庭も失ってしまいました。ホームレスとしての苦しい生活を何年間も送った彼は、惨めで屈辱的な思いを経験しました。この男性は涙を流しながら、監督に助けを求めました。

ワード福祉委員会でこの大きな問題が議題に上がりました。ある男性は、彼の歯科医である友人がひよっとすると問題の男性の折れた前歯を治療してくれるかもしれないと言いました。扶助協会の会長は、彼の監督の倉からの栄養ある食料が健康状態を改善するのではないかと提案しました。また依存症を克服する力を得られるように毎日彼と一緒に時間を過ごし、助けてあげられる人が必要ではないかと提案する人もいました。

いろいろな提案が絶え間なく続く中

で、監督は他者を気遣うワードのすべての兄弟姉妹が、いつでも援助の手を差し伸べる準備のできていることに気づきました。

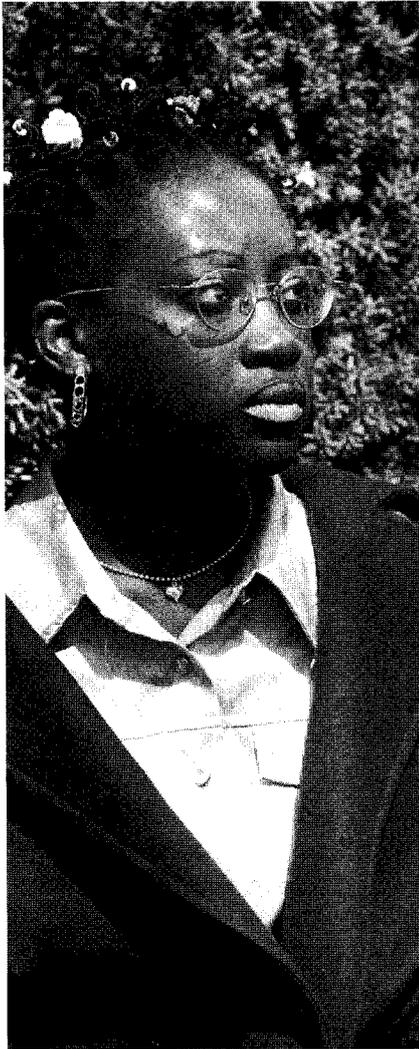
すぐに監督は進展の数々に気づきました。神権指導者はその男性に祝福を施しました。善意に満ちた歯科医はこの男性の折れた歯を治療しました。監督の倉から持って行った食料のおかげでこの男性の健康状態は改善されました。信仰篤い年配の夫婦が特別なホームティーチャーとして奉仕することに同意してくれました。二人は依存症を克服するというこの男性の決心が鈍らないように毎日訪問してくれたのです。

確立された原則に従って、この善良な兄弟はワードのほかの人々ために役立ちたいと言ってきました。ゆっくりとではありましたが、彼の生活を変わり始めました。次第に、絶望的で惨めな顔つきが喜びと幸福に満ちた顔つきに変わっていきました。確かに苦痛を伴う過程ではありましたが、依存症から抜け出すことができました。そして教会に活発になったのです。貧しく悲惨な生活が希望と幸福に満ちた生活に変わりました。これこそ困っている人々を世話する主の方法なのです。

教会と人道的援助

教会はその援助の手を会員だけに限定せず、預言者ジョセフ・スミスの次の勧告に従っています。「神の愛に満たされている人は、家族に祝福を与えることに満足するだけでなく、全世界の人々のために奉仕し、全人類に祝福を及ぼすことを切望する。」⁴ ジョセフ・スミスは「相手が当教会の会員であれ、あるいはほかの教会に集う人やどの教会にも属さない人であれ、どのような場所においても、飢えている人には食べ物を与え、裸の人には服を着せ、やもめを助け、孤児の涙をぬぐい、慰めを与える」よう会員に教えています。⁵

過去10年あまり、全世界に散らばった146の国々に住む何百万という神の子供たちの苦しみを和らげるために、教会は2万7,000トンの衣類、1万6,000トンの食料、そして3,000トンの医療、



教育関係の物資および備品を送りました。わたしたちは「わたしたちの教会の会員ですか」とは尋ねません。ただ「苦しいですか」と尋ねるだけです。

昨年10月と11月にニカラグアとホンジュラスを荒廃させたハリケーン・ミッチのことを知らない人はいないでしょう。恐るべき力で、このハリケーンは家々を水浸しにし、土石流を起こしました。1万人を超える人々が死亡し、200万人が家を失いました。このきわめて勢力の強いハリケーンは家々を破壊し、まるでセメントと同じくらいに固い泥で街中を覆い尽くしました。

ほとんどすぐに、教会は生活を支える食料と衣類、医薬品、毛布を会員にもほかの宗派の人々にも送り始めました。船荷が目的地に到着すると直ちに、何百人という会員が駆けつけ、

トラックの荷をほだき、物資を箱詰めしました。1箱に入っているもので、1週間、家族を維持することができるようになっていました。

中央福祉委員会の委員長である愛するゴードン・B・ヒンクレー大管長は、中央アメリカにおける被害に心を痛めました。ある寝つかれない夜に、この大きな被害に耐えている人々のもとへ行き、愛を伝え励ましを与えるようにという御霊の促しを感じました。預言者の訪問はその地に住む人々の意気を上げ、何千もの人々に希望を与えました。「困難などときには〔教会に〕資源があるかぎり皆さんを援助します」と預言者は語りました。^{あかし}兄弟姉妹、わたしは証します。彼は神の預言者です。そしてわたしは心の底から、彼を支持します。

必要な物資を大災害のときに供給することに加えて、約1,300人の教会員が多くの国の貧しい人々に奉仕するという主の召しにこたえました。二つの実例を紹介しましょう。

ユタ州アイピンズ出身のデビッドとドビー・グラインズ兄弟姉妹は、現在アフリカのガーナに住み、雇用条件の改善に努力する人々にビジネス、コンピューター、オフィス管理技術を教えています。

マーク・カトラー兄弟はカリフォルニア州クレイトン出身の元外科医です。彼と妻のボニーはベトナムで奉仕しています。カトラー兄弟は、地元の内科医のためにコンサルタント、講師として働いています。カトラー姉妹は病院の医師や職員に英語と医学用語を教えています。

福祉と教会員

ほかの人々を助けるだけでなく、家族や個人のレベルで自分たちの自立の度合いを点検するのもいいでしょう。以下のことを自問することもできます。

わたしたちは賢く財産を管理しているだろうか。出費を収入以下に押さえているだろうか。不必要な負債を避けているだろうか。「少なくとも1年分の食料、衣類、また可能ならば燃料を蓄

える」という中央幹部の勧告に従っているだろうか。子供らに働くことを教えているだろうか。子供たちに自分の持ち物を大切に無駄にしないように教えているだろうか。また彼らは神聖な^{じゅうぶん}什分の一の律法の大切さを理解しているだろうか。わたしたちは十分な教育を受け、適切な職業に就いているだろうか。知恵の言葉に従った生活することで健康を維持しているだろうか。有害な物質のもたらす悪い影響から免れているだろうか。

もし、正直なところ、これらの質問のうち一つでも「いいえ」と答える項目があれば、自立のための計画を練り直したいと望むことでしょう。預言者はわたしたちに以下のような基本的指針を提示しています。

まず、今日の諸悪の一つは^{ごんちち}貪欲の罪です。物質的所有に対する過度の欲求は、わたしたちの心を疲れさせ、わたしたちの財産を徐々に消耗させ、不幸に導く一種の強迫観念となる可能性があります。教会の会員の中にも、この罪のために不必要な負債で苦しむ人が増えています。ヒーバー・J・グラント大管長は次のように語りました。「人の心と家族に平安と満足を与えるものを一つ挙げるとすれば、それはわたしたちが収入の範囲内で生活することです。わたしたちを虐げ、落胆させ、希望を失わせるものを一つ挙げるとすれば、それは返済できない借金を負い、果たせない義務を負うことです。」⁸

「福祉の原則が勤勉、節約、自立であることに変わりはありません」と教会の福祉役員会の議長であるトーマス・S・モンソン第一副管長は勧告しました。「わたしたちは多額の負債を避けなければなりません。……『負債を払って暮らさない。』(列王下4:7) 現代人にとってもこれは何と賢明な勧告でしょうか。」⁹

第2に、時の初めから、神はわたしたちに働くよう命じられ、¹⁰怠惰を戒めてこられました。¹¹ 残念ながら、^{ごんちち}今日の社会は、特にインターネットやテレビ、コンピューターゲーム上に現れる愚かでむなしい娯楽といった怠惰を奨励する

ものにあふれています。

第3に、わたしはヒンクレー大管長の次の勧告に耳を傾けるようお勧めします。「できるかぎり高い教育を受けてください……心と手の技術を磨いてください。教育はいろいろな機会への鍵です。」¹² そうです、教育はわたしたちの才能、技術、そして能力を磨き、伸ばし、さらには開花させる動機となります。

第4に、救い主の模範に従う道を選び、ほかの人の苦難を和らげようと望むなら、断食のささげ物として差し出す断食献金の額について考慮することができます。これらの神聖な基金は一つの目的のために、たった一つの目的のために使用されます。すなわち病気の人々、苦しんでいる人々、助けを必要としている人々を祝福するという目的です。

惜しみなく断食のささげ物を納めることにより納めた本人が豊かに祝福を受け、主と監督のパートナーとなることを許されます。そして人の苦しみを和らげる手伝いをし、自立をはぐくむことができます。恵まれた環境に置かれているわたしたちは、恐らく自らのささげ物を評価し、主がわたしたちに対して惜しまれないように、わたしたちも主に対して惜しみなくあれらかどうかを判断すべきでしょう。

結 論

もし救い主が今日の^{こんにち}世界でわたしたちとともに生活されるなら、助けの必要な人々、苦しんでいる人々、病んでいる人々に働きかけられることでしょう。スペンサー・W・キンボール大管長は次のように述べています。「こうして考えてみると、〔福祉活動〕はプログラムではなく、福音の本質であることが分かる。まさに、福音の実践である。キリスト教徒の生活を貫く最も気高い原則である。」¹³ この言葉から、救い主の模範に従う意義が見出せるかもしれません。

大恐慌の真っ直中、静かに生まれ出たこの福祉プログラムが、60年後に文字どおり世界中の何百万という貧しい人々を祝福するプログラムに成長発展

しようなどと想像した人はほとんどいませんでした。

「主の恵み、人にも分かつた」という美しい賛美歌は、与えることに関する靈感に満ちた教訓を教えてください。

わたしは主の慈悲により
雨露をしのぎ、食足りてきました。
ですから衣食に足りない人を見て、
分かち合わずにいることなど
できないのです。

温かな人とパン
安全に守ってくれる屋根
それらを分かち合えばあの人もまた
安らぎを得られるかも
しれないのですから。¹⁴

(訳注—英語の賛美歌の歌詞を逐語訳したものを掲載)

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちのために模範を示してくださった救い主は「貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こす人を喜ばれます。¹⁵ 主の勧告に耳を傾け、「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め」る人を喜ばれます。¹⁶

わたしたちが主の模範に従えるよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. "The Truth about Mormonism," *Out West magazine*, Sept.1905, 242.
2. 教義と聖約104:15-16
3. *Church Handbook of Instructions, Book 1: Stake Presidencies and Bishoprics* (1998), 14.
4. *History of the Church*, 4: 227.
5. *Times and Seasons*, 15 Mar. 1842, 732.
6. Address given in Honduras, 21 Nov.1998: see also "President Hinckley: 'We Will Not Forget You,'" *Church News*, 28 Nov. 1998, 3, 6-7.
7. 1998年6月24日付けの大管長会からの手紙
8. *Gospel Standards*, comp. G. Homer Durham (1941), 111.
9. 『聖徒の道』1989年2月号, 51
10. 創世3:19参照
11. 教義と聖約88:124参照
12. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997), 172
13. 『聖徒の道』1978年2月号, 118
14. 『賛美歌』219番〔英文〕
15. 教義と聖約52:40
16. 教義と聖約81:5

大会部会中のタバナクル2階席。



帰郷

管理監督会第二副監督
キース・B・マクマリン

キリストを信する信仰を持ち、キリストを信頼し、キリストのみもとへ来て、キリストに従ってください。……皆さんの前に少しずつ道が開かれ、……本来いるべき場所に戻る日が来る(のです)。



わたしの愛する兄弟姉妹の皆さん。この総大会も終わりに近づき、わたしの心は今、孤独感にさいなまれている人々、恐れを抱いている人々、道を踏み迷っている人々に向けられています。もし皆さんが、あるいは皆さんの知っている人が、「外の闇の中に」いるのなら(ゴードン・B・ヒンクレー「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号, 59), どうぞ耳を傾けてください。

この世の人生は、ふるさとへ向かう旅人にとえられます。道のりは長く、歩みは遅く、日々の出来事は冗長で退屈です。しかしながら、最終的には、見覚えのある風景が目前に開けます。それは山や谷谷かもしれません。あるいは田舎の風景だったり、摩天楼だったり、混雑した高速道路だったり、あるいはまた静かな近所の通りだったりす

るかもしれません。その風景がどのようなものであれ、見覚えのある風景を目にした途端、旅人は歩みを速め、疲れ果てた魂が活気づき、期待と平安に満ちた懐かしい思いがよみがえってきます。旅人は、とうとう再びふるさとに戻って来たのです。

この世の喧噪けんそうの中で、このふるさとへ向かう旅という経験は、数限りない人々の生活の中で毎日繰り返されています。わたしたちは、注意深く眺めさえすれば、そんな何げない日々の出来事の中から、この世の生活について多くを学ぶことができるのです。一つ確かに言えることがあります。それは、もしわたしたちがこの世の旅のことを軽く考えたり、あるいは、その道がどこへ通じているのかと考えもせず、どれでも目に入った道を進んだりするようなことがあったとしたら、わたしたちは大きな過ちを犯すことになるということです。ある愛する使徒が次のように言っています。「確かに、死すべき人が犯すあらゆる過ちの中で、神の救いの計画について誤りを犯すことほどに、誤ってはならないものはありません。その過ちほど後々にわたって重大な結果を招く過ちはないからです。」(ニール・A・マックスウェル「永遠の神が定めたもうた大計画」『聖徒の道』1984年7月号, 38)

旅を成功させるためには、次の4つのことをよく理解し、それに正しく従って行動する必要があります。その4つとは、生命の永遠性、罪の性質あがな、悔い改めのすばらしさ、そして贖いの力です。

生命は、生物学を超えたところに存在します。わたしたちは、この地上に来る前には、神のみもとで生活していました。神がいらっしゃる天は、わたしたちのふるさとでした。わたしたち一人一人は、神の霊の子供ですから、神はわたしたちの天の御父ということになります(アブラハム3:23-25;ヨブ38:4-7;エレミヤ1:5参照)。イエス・キリストの福音が回復されたために、わたしたちは、誕生というものが神によって定められた計画の一部であり、また永遠の旅路にあって欠くべからざる一段階であるということを知っています。主の預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように言っています。「すべての生命にかかわる真実とは、それが永遠のものであるということです。これは偉大で重要な真理です。わたしたちは、神の計画の下で、ある目的を持ってこの地上にやって来ました。そして、この地上での生活を終えるとき、今よりも良いものを目指して進み続けますが、そのためには、それにふさわしい生活をしてきたのならば、という条件がつきます。」(priesthood leadership session, Charlotte North Carolina regional conference, 24 Feb. 1996, 5, 強調付加)

しかしながら、罪には、この世の旅を決してたやすいものとはしない性質があります。使徒パウロは、次のように書き残しています。

「しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。

その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、

無情な者、融和しない者、そしめる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者、

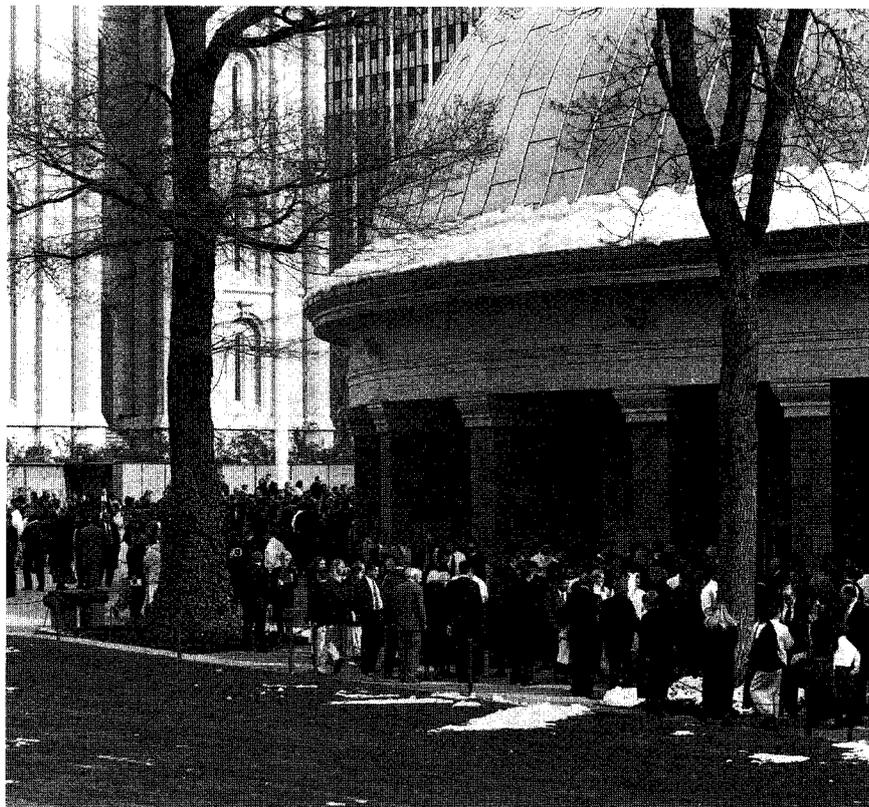
信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい。」(2テモテ3:1-5, 強調付加)

わたしたち自身の欠点や弱点のゆえ

に、どんな旅人であっても、その旅の途中では罪と無縁というわけにはいきません。それは、ある意味では、律法、二者択一、選択の自由といった厳しい試練の中で生きていくことから生まれる必然的な結果なのです（アルマ42：17-24；12：31-34；2ニーファイ2：11，15-16，25-27参照）。「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。」（ヤコブの手紙4：17）

さらに言えば、わたしたちが、たとえどれほどの良識を持てようとも、あるいはまたどれほど慎重であろうとも、旅には誘惑が付きものです。救い主でさえ、誘惑から無縁というわけにはいきませんでした。救い主が御業を開始するに当たって経験された誘惑は、わたしたちが経験する誘惑を典型的に表しています。このときに出遭われた誘惑、つまり、石をパンに変える、宮の頂上から飛び下りる、地上の宝のために魂を売る、という3つの誘惑について、デビッド・O・マッケイ大管長は次のように言いました（マタイ4：2-10参照）。「その3つの誘惑を分類すれば、皆さんやわたしを汚すあらゆる誘惑の大部分が、その3つのうちのどれかに該当することが分かります。……つまり、わたしたちの出遭う誘惑とは、(1) 生理的欲求に関する誘惑、(2) 自尊心や流行に負けること、神にかかわることから遠ざけようとするものを志向する虚栄心、(3) 世の富や人の権勢を求める欲求を……満足させること、の3種類となります。」（in Conference Report, Apr. 1911, 59）

わたしたちは、誘惑に駆られたとき、良心の痛みを経験します。良心が感じやすいということは、霊が健全だということの証拠です。わたしたちの感じる心の痛みや罪悪感といったものは、誘惑や不完全さや罪に対して霊が反応していることを表しています。良心とは、あらゆる旅人に与えられる伴侶です（モロナイ7：16-19参照）。また、良心はその旅を非常に不愉快なものにする可能性も秘めています。それは、「すべての人は罪を犯したため」であり、



大会の部会に出席するため、タバナクルへの入場を待つ人々。

また、主は「ほんのわずかでも罪を見過ごしに」されることはないからなのです（ローマ3：23；教義と聖約1：31）。この至高の贈り物のゆえに、神に感謝します。わたしたちは、良心の痛みがあればこそ、悔い改めて良心の平安に至ることができるのです（モーサヤ4：1-3参照）。

天父は、わたしたちが人生の旅を続けるに当たって、様々な大きな危険に遭遇することも知っておられました。しかし同時に、子供たち一人一人にふるさとへ戻って来てほしいという強い望みも持ち続けておられます。そのために、天父はわたしたちに時間を与えてくださいました。わたしたちの過ちを正すための時間や罪を克服するための時間、そして再会のために備える時間を与えてくださったのです。「人が悔い改めることができるように、猶予期間が与えられた。したがって、この世の生涯は試しの状態、すなわち神にお会いする用意をする時期……となった。」（アルマ12：24）

しかしながら天父は、わたしたちが

精力のかぎり尽くしても、神の助けがなければふるさとに戻り着くことができないということも御存じでした。そのために、こう約束されたのです。「わたしたちはあなたたちのために一人の救い主を備えよう。」（1ニーファイ10：4；13：40；モーセ1：6；2ニーファイ25：23参照）

この約束を実現するために、イエスキリストが、時の中間の時代に、永遠の父なる神の独り子として肉身をもって降臨されました。イエスは、様々な道を死すべき人が歩むように歩まれました。それは、「御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように」なるためでした（アルマ7：12，11節；エテル12：27；教義と聖約20：22；62：1も参照）。主にとって、未知の悩みや心配事や苦しみは存在しません。主は罪のない御方ではありましたが、わたしたちをどう助けるかを知ることができるよう、わたしたちの悲しみには深く精通しておられたのです（イザヤ53：3-6参照）。

キリストは、死すべき世と不死不滅の世との間にある深みに橋をお架けになりました。墓はもはや囚人たちを閉じ込める力もなく、正義も隣れみによってその条件が満たされるようになり、限りなく永遠にわたってその影響を及ぼす奇しき贖いは既に整えられています(アルマ34:8-10, 14-16参照)。キリストは復活された主であり、わたしたちの救い主、贖い主です。それゆえ、悔い改めの日を引き延ばしてはなりません(アルマ13:27; 34:33-35参照)。

キリストを信ずる信仰を持ち、キリストを信頼し、キリストのみもとへ来て、キリストに従ってください(3ニーファイ27:13-16; モロナイ10:32-33参照)。してはいけないと知っていることで今していることがあったら、それを心の中で全部書き出してみてください。今日、そのうち少なくとも一つでもやめ、代わりに、しなければならぬことを始めてみましょう。この旅路を無事終えることができるよう、救いと強さを求めて天父に祈ってください。皆さんが問題を一つ克服し、さらに次の問題へと進んで行くとき、皆さんの前に少しずつ道が開かれ、やがて、疲れ切った旅人である皆さんが、本来いるべき場所に戻る日が来ることを、わたしは約束します。

道を踏み迷った一人の人の話です。かりにその人の名前をトマスとしておきましょう。わたしたちが出会ったのは、日曜日にあまり教会に姿を見せることのない教会員たちのために開かれた特別なファイヤサイドでのことでした。当時彼は35歳で、教会の活動から遠ざかって20年ほど経過していました。ファイヤサイドの開かれる前日、トマスの父親が、出席してはどうかと誘ったのです。トマスの返事は、考えておく、というものでした。ここからは、父親の書いた手紙を引用してみたいと思います。

「ファイヤサイドの始まる30分前に、[トマス]は電話をしてきて、車で連れて行ってほしいと言ってきたのです。わたしは、あなたとそのほか40人ほどの人がいたあの部屋に入って行くとき

に感じた期待感を、うまく言葉で説明することはできません。あの部屋には特別な雰囲気があることが感じられ、それが[トマスの]心に琴線に触れたようで、帰宅したときには、『モルモン書』の中から長老が説明してくださった部分をもう一度読む決意をしていました。

これがきっかけで、結局『モルモン書』全部を読むことになり、什分の一も納め始めました。息子は、違った光で人生を見直すようになったのです。……麻葉やコーヒーもやめました。『モルモン書』を読み続けただけでなく、『教義と聖約』も読み続けました。聖餐会にも出席し始め、そして……文字どおり、違う人間になり始めたのです。実際、わたしたちは笑いながら息子にこう尋ねたものです。『おやおや、どんな魔法を使ったのかな?』

わたしたちにとっての大きな祝福は、メルキゼデク神権を受けるために……息子が監督から面接を受けたことでした。これこそまさに、20年近く息子のためにささげられてきた祈りに対する答えだったのです。」(personal letter, 1 Aug. 1997)

この話を聞いていると、もう一人の父親の言葉を思い出します。「このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。」(ルカ15:24)

ブリガム・ヤング大管長は次のように言いました。「日の栄えの世界からこの地上にやって来たときには、純潔で清らかだった霊だけしか存在しない。……神はわたしたちの霊の父であり、もしわたしたちが神の御心を知り、理解し、実践するならば、すべての人が神の御前に戻る備えができるはずである。そして、御前に戻ったときには、そこにかつて長い間住んでいたことに、そして、宮殿も歩道も庭園も、隅々までなじみの場所であったことに気づくであろう。そして、あなたがたが御父を抱き締めると、御父もあなたがたを抱き締めて、こう言われるであろう。『わが

息子よ、わが娘よ、あなたたちは再びわたしのもとに戻って来たのだ。』すると、子はこう言うであろう。『おお、わたしの父よ、御父よ、わたしは再び御前に参りました。』(in *Journal of Discourses*, 4:268)

わたしの力のかぎりを尽くして、今申し上げたことが真実であることを証します。どうぞ闇の中から外へ出て来てください。福音の光の中に十分に足を踏み入れてください。悔い改めと良心の平安とそして聖霊の慰めの美しい実を存分に味わってください。この旅を、皆さんが本来いるべき場所へ戻るための旅としてください。最後に、皆さんがよく御存じの詩を引用しつつ、それに自作の詩を加えてわたしの証とします。

高きに栄えて 住めるわが父
みもとに戻りて 汝が御顔を拝せん

救い主の御前に 頭垂れ
涙にて御足洗わん その贖いに感謝し

我一人にやあらずと 心震わせ
愛の御声聞く
『わが子よ、我へ戻りしや』と
(エライザ・R・スノー作詞「高きに栄えて」『賛美歌』180番引用)

イエス・キリストの御名により、アーメン。



家庭内で家族の名前を傷つけてはならない

七十人

クリー・L・コッフオード

他人のお金や物を盗もうとするような考えは心の中から追い払うのですが、他人の名前や評判を中傷することについてはむとんちゃくな人がいます。



愛 するようになるのはたやすいことです。そしてわたしは皆さんを心から愛しています。このことを皆さんにお伝えできればと思います。この部会が始まる少し前、何人かの孫たちがホテルのわたしの部屋に立ち寄ってくれました。彼らが、今朝のマーリン・ジェンセン長老の説教について話していたことはすぐに分かりました。やがて孫の一人がこう言いました。「おじいちゃん、びくびくしているの？」わたしは強がって答えました。「いや、そうでもないさ。」するともう一人が言いました。「心配しないで、おじいちゃん。もし失敗したって、ぼくたちはおじいちゃんのこと、まだ愛しているからね。」でも、だれかがこう言い添えたとき、現実に引き

戻されてしまいました。「でもおじいちゃん、失敗したら、すごく恥ずかしいよ。」そういう訳で、失敗しないように精いっぱい頑張ろうと思います。

1858年6月26日、この日、当時からすればアメリカ合衆国史上最大規模と思われる連邦政府軍が、通報されていたようにソルトレーク盆地に侵攻して来ました。実際には存在しない反乱を鎮めるために派遣されたのです。教会の歴史を少しでも知っている人であれば、軍隊は比較的整然と行進して、現在この建物がある地点から数メートルの所まで接近し、ある著者の表現を借りれば「荒涼とした」市内を通過して、西へ進み、かなり離れた地点に野営したことを御存じだと思います。その後の軍の動きについてはほとんど知られていません。最終的にこの軍隊はソルトレーク・シティーの南約64キロまで行進して、シダーバレーのフェアフィールドビレッジに到着しました。この村は人口が200人にも満たない小さな農村であったと考えられています。ここで霊的面の指導者を務めていたのがわたしの曾祖父に当たるジョン・カーソンでした。

フェアフィールドの住民がどのような思いで軍隊を迎えたかをご想像ください。ある日の朝起きてみると、数千人の兵士が、3,000台の幌馬車、1万頭の牛、1万2,000頭のラバとともにあなたの町にやって来たようなものです。大きな問題が目の前に迫っていました。

我が家に語り伝えられている歴史によれば、それは空想化され、不正確な部分も多いと思いますが、カーソン監督は自分に管理を任された人々の安全を確保できるかどうかを心を悩ましていました。軍隊が野営するという難題が一夜にしてフェアフィールドを襲ったのです。

会員たちを可能なかぎり守るため、カーソン監督は駐屯地の司令官に会いに行きました。司令官とは曾祖父が経営するホテルでしばしば食事を共にし、互いに相手を尊重する良い関係を築いていました。二人の指導者は状況を調査してから、境界線を設けることで合意に達しました。兵士は上官の特別な許可がなければ民間地域に足を踏み入れてはならず、会員はカーソン監督の特別な許可なしに駐屯地に足を踏み入れてはならないという約束でした。この境界線は暗黙のうちに「この線を越えてはならない」という命令を表していました。

わたしたちが子供のころ、地面に引かれた線には特別な意味がありました。未熟な少年時代にありがちな感情から意見の対立が生じると、昔からの解決方法によって地面に線を引くのです。相手の子供は線の向こう側に立って、懸命に威嚇する仕草をします。そしてだれかが、「線を越えるとひどいめに遭うよ」という意味の誘いの言葉を、あまり上品でない言葉を使って言ったものでした。こうして少年時代を過ごしていたときに、わたしは地面に引かれた線が持つ重大な価値を学びました。その後長じるに従って、わたしは、愛にあふれる天の御父はルシフェルの軍勢からわたしたちを守るために架空の線を引いておられることを理解するようになりました。

現在、わたしたちの生活には数多くの線が引かれていると思いますが、わたしは今日、その一つだけを採り上げてお話ししたいと思います。それは、家庭内で家族の名前を傷つけてはならない、という線です。

わたしは中央幹部として働き始めたころに、マリオン・D・ハンクス長老



の訪問先に同行する特権にあずかりました。あるときハンクス長老は次のような話をしました。本人の許可を得ましたので、ここで紹介させていただきます。

オスカー・カーカムは教会の中で偉大な人として、また最も尊敬を集めたスカウト指導者として知られていました。カーカム長老は七十人第一評議会の会員であり、またどこへ行っても堂々としていました。集会中にしばしば個人に関して話す許可を求め、同意を得ると、だれかの良い点について話したものです。生涯を終える少し前に、カーカム長老はブリガム・ヤング大学において「優しい言葉をかけなさい」というテーマで話をしました。カーカム長老が亡くなった日の朝、ハンクス長老は招かれてカーカム家の遺族を訪れました。すると、カーカム長老がメモを取っていた小さく、安価なノートを渡されました。そのノートの最後に記されていたのはこのような言葉でした。「優しい言葉をかけなさい。そうすればあなたの名前が家庭の中で傷つ

けられることはない。』(see Marion D. Hanks, foreword to *Say the Good Word*, by Oscar A. Kirkham [1958], 4)

わたしたちが皆、この勧告に従うとしたら、どれほど大きな祝福を受けることでしょうか。わたしたちの名前がほかの人の家庭でも傷つけられていないとしたら、それはどれほど喜ばしいことでしょうか。線をまたいで他人のあら探しをすることがどれほど簡単に皆さんは気づいたことがあるでしょうか。わたしたちは、自分の場合は見逃してほしいと思う行為を他人に見つけると非難しがちです。わたしには憐れみ^{あわ}を、他人には正義を、という態度はだれにも見られるものです。他人の名前や評判を口にすると、それらを主の目に神聖なものとして扱う必要があります。

他人のお金や物を盗もうとするような考えは心の中から追い払うのですが、他人の名前や評判を中傷することについてはむとんちやくな人がいます。

「他人を裁く前に、その人の足跡に従って1マイル歩いてみなさい」という古いことわざは、今なおすばらしい忠告です。次のような詩もあります。

最悪の状態の中にも
良いところがたくさんある
最善の状態の中にも
ひどいところがたくさんある
だから、他人のあら探しをしても
わたしたちにとって
何も良いことがないのだ。

(Hazel Felleman, sel., *The Best Loved Poems of the American People* [1936], 615)

この原則はわたしたちの時代に新たに発見されたものでも、特有のものでもありません。『旧約聖書』の詩篇には、この点について主から発せられた緊急の警告が記されています。「ひそかに、その隣人をそしめる者をわたしは滅ぼします。」(詩篇101:5)

時の中間の時代に主の僕^{しもべ}であったヤコブは、この永遠の真理についてこのように述べています。「兄弟たちよ。

互^{たがひ}に悪口を言い合ってはならない。兄弟の悪口を言ったり、自分の兄弟をさばいたりする者は、律法をそしり、律法をさばくやからである。……

……隣り人をさばくあなたは、いったい、何者であるか。』(ヤコブの手紙4:11-12)

この末日に主は、預言者ブリガム・ヤングを通して与えられた啓示の中で、この長年にわたり教えてきた戒めを新たにしておられます。「互いに悪口を言い合うのをやめなさい。」(教義と聖約136:23)

主の御言葉^{みことば}の中でわずかに数節に述べられているこの簡潔な戒めが、不従順の罰の対象となることにわたしは事の重大さを感じています。「裁きがあなたがたに下り、あなたがたの信仰がなくなり、あなたがたの敵があなたがたを打ち負かすことのないように、わたしの戒めをすべて熱心に守りなさい。」(教義と聖約136:42)

この戒めの重大さに疑問を感じている方々に、二つの簡単な質問を投げかけたいと思います。(1) 隣り人の背後に回ってその人の名前や評判を落とそうとしていながら、あなたは隣り人を愛していると言えるでしょうか。(2) 隣り人も愛することのできないあなたが神を愛することができるでしょうか。

そのような行いを正当化しようとするはかない努力は、マタイによる福音書に見られる救い主の激しい言葉を自分の胸に突き刺そうとしているにすぎません。

「まむしの子らよ。あなたがたは悪い者であるのに、どうして良いことを語ることができようか。……

あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならぬであろう。あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである。」(マタイ12:34, 36-37)

この話に耳を傾けている初等協会の子供たちに少しお話ししたいと思います。わたしはこれまで皆さんのお父さんやお母さんにとっても大切なことをお

話してきました。わたしには皆さんの助けが必要です。皆さんと取引をしましょう。皆さんが注意して聞いてくれたら、話を早く終えることを約束します。

皆さんは子じかのバンビと森のお友達の物語を覚えているでしょうか。もし覚えていたら、バンビの仲の良いお友達にうさぎのとんすけがいたことを覚えていると思います。とんすけはちょうど皆さんくらいの年です。とんすけは善いうさぎでしたが、一つ困ったことがありました。いつもほかの人の悪口を言うのです。ある日、バンビが歩く練習をしていると、転んでしまいました。とんすけは誘惑に逆らうことができませんでした。「あの子はうまく歩けないんだね」とうっかり言ってしまいました。するとお母さんはとても機嫌が悪くなって、こう言いました。「今朝、お父さんから何て言われたの。」とんすけはうつむいて、もじもじしながら言いました。「良いことを言えないんだったら、何も言っではいけない。」これは皆さんにも守ってほしい教えます。わたしが皆さんたち子供に実行してほしいのはこのことなのです。つまり、もし家族の中でだれかがほかの人の悪口を言い始めたら、皆さんは足をバタンと鳴らして、大きな声で、「良いことを言えないんだったら、何も言っではいけない」と言ってください。皆さんが言っていることはだれにも分かるはずですよ。こうすれば、お父さんとお母さんもこの戒めを守りやすくなります。

主の祝福があって、わたしたちが一人一人、地面に引かれた線を越えることなく、また家庭内で家族の名前が傷つけられていないと言えるような生活ができますようにお祈りします。

復活祭を祝うこの特別な日に当たって、わたしは御霊の導きにより厳かに宣言したいと思います。イエス・キリストはまことにわたしたちの救い主、贖い主であり、また主の贖いの犠牲によらない、ほかの方法では救いはもたらされません。イエス・キリストの御名により、アーメン。

永遠の家族の きずなを結ぶ橋

七十人

デニス・B・ノイエンシュバンダー

**系図や、家族にまつわる話、歴史的な出来事、……伝統……(か)
ほかの宝物にはできないような方法で、過去と未来の世代をつなぐ
かけがえのない架け橋となります。**



兄 弟姉妹、どの家族にもかけがえのない大切なものがあります。家具や書籍、陶器、あるいはそのほかいろいろ貴重なものが集められ、それらは子供から孫へと受け継がれていくでしょう。そうした大切なものは、すでにこの世を去った愛する人々を思い起こさせてくれるばかりでなく、まだ見ぬ未来の子孫へとわたしたちの心を誘ってくれます。そのような品々は、過去と未来の家族をつなぐ尊い架け橋となってくれるのです。

ほかにも家族の宝物はいろいろあります。系図や、家族にまつわる話、歴史的な出来事、あるいは伝統もそうですね。こうした永遠にわたる宝物もまた、ほかの宝物にはできないような方法で、過去と未来の世代をつなぐかけがえの

ない架け橋となります。

わたしはこれから、家族歴史、橋、そして永遠の宝物についての幾つかの考察を皆さんと分かち合いたいと思います。家族歴史は、幾世代にもわたる家族の間の架け橋となるばかりではなく、教会の中で活発に活動するための橋も築いてくれます。また、わたしたちと神殿を結ぶ橋をも築いてくれるのです。

始めに、家族歴史は幾世代もの家族を結びつける架け橋を築きます。幾世代もの家族を結ぶ橋は、偶然に築かれるものではありません。この教会の会員はすべて、この橋の建設に携わる責任があります。今年のクリスマスに一族が集まったときわたしは、89歳になる父が4歳半の孫のアシュリンと言葉を交わし、時には笑いながら実に楽しそうにしている光景を目にしました。そのほほえみさの中にわたしはふと寂しさも覚えました。アシュリンは、そうした祖父との楽しいけれどもはかない思い出を記憶にとどめるかもしれませんが、祖母との思い出は何もありません。わたしの母は、アシュリンが生まれる前に亡くなっていたからです。わたしの子供はだれもわたしの祖父母のことを知りません。わたしが覚えていることを、子供や孫に知らせたければ、わたしが彼らの間を結ぶ橋を架けなければならぬのです。祖父母と子供や孫を結びつけることができるのは、わたしをおいてほかにはありません。先祖とその子孫が互いをまったく知らないとしても、双方が敬愛の念

をもって心を通い合わせることができるように結び合わせるのわたし責任です。もしわたしが家族歴史を残さなければ、孫には何も伝わりません。わたしが何らかの形で記録にとどめておかなければ、わたしの死と同時にそれらは消滅してしまい、わたしが子孫に残してやらなければ、彼らは決して得ることができないのです。永遠に続く家族の思い出の品々や記録を集め、それを後世に残していくことは、個人的な責任です。この責任は、何人たりともないがしろにすることはできませんし、人に任せることもできません。

記録にして残さなければ、人の一生はその代かよくて次の世代でおおかた忘れ去られてしまいます。家族の歴史の観点から見て、それは何と悲しいことでしょう。逸話や伝記あるいは家族の伝統の形で先祖の記録を残すことによって、わたしたちは自らの人格を築く助けを得られるだけでなく、人生の指針を得たり、意義を見いだしたりすることができるようになります。数年前わたしは、ロシア正教会の修道院で働く熱心な系図の専門家にお会いしたことがあります。彼は、自分の家族の膨大な系図記録をわたしに見せてくれました。



それは実に綿密で、見事な記録でした。彼は、系図の最も尊い功績は、家族の伝統を確立し、その伝統を後世に伝えていくことにあると言っています。そして次のようにも言っていました。「こうした家族の伝統や歴史を知ることによって、幾世代もの人々が見えない糸で結ばれることになるのです。もし自分の先祖が正直な人々だったことが分かれば、その人は自分も正直であろうと努めるでしょうし、そのことを誇りに思うことでしょう。自分が不正直なために、一族を辱めることなどとてもできないはずです。」

もしあなたが一族の中で最初に福音を受け入れた人であるならば、あなたの生涯を記録に残し、あなたの子孫に励ましの言葉を書き送ることによって、橋を築いてください。1892年に、ユタのスプリングビルにあったコロブステーキの扶助協会の姉妹たちは、子供たちに手紙を書いてそれをタイムカプセルに入れ、扶助協会創立100年に当たる1942年の3月17日にそのタイムカプセルを取り出して手紙を読むようにと残り残しました。マリア・キャサリン・ポイヤール姉妹は、簡単な系図を書き記した後、二人の子供に次のような手紙を書きました。「愛する子供たちへ、あなたたちがこの手紙を読むころ、わたしたちやおじいさんたちはお墓の中で静かに眠っていることと思います。再びわたしたちが天国で会うときまで、愛するあなたたちのために一生懸命に働いたこの手はその務めを終え、あなたたちの無邪気な顔をいとしくまた誇らしげに見詰めた目もあなたたちを見ることはないでしょう。あなたたちきょうだいがいつも仲むつまじくありますように。……人には常に正義を尽くし、良心の命ずるままに行動し、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かう力を得ることができるように神に願い求めなさい。そして、あなたのおかげで人生がもっとすばらしくなると言われる人になりなさい。神の戒めを常に守るように。あなたたちの人生がいつもばら色でありますように。また、あなたたちが常に正義を守る人でありますように。決して逆境に打ちのめされることのないように。御霊と神の恵みがいつもあなたた

ちとともにありますよう、心から祈っています。家族の写真と同封します。また会う日まで。愛する子供たちへ。」この美しく、心のこもった手紙は、6世代にわたる信仰深い家族を結ぶ橋を築きました。

聖文に「父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる」とあるように、家族歴史の探究やそれに伴う神殿事業には計り知れない力があります。ウッドロー・ウイルソンは次のように述べています。「昨日のことを思い出せない国民は、今日のことが分からない。増してこの先どうするかなど思い及びもしないのである。自分たちがどこから来て、何をしてきたかをしっかりと把握していなければ、今の働きなどむなしいことである。」これは家族についても言えるのではないのでしょうか。すなわち、自分たちの先祖について知らない家族は、現在の自分たちについてよく分かっていないし、将来どうすればよいかも分からない。自分たちがどのような先祖の末えいで、どんな生き方をした人々の子孫かを知らなければ、無駄な努力をしているということなのです。

次に家族歴史はわたしたちを教会活動へと導く架け橋を築きます。家族歴史の探求は、教会員を強めるだけでなく、教会の教えを学ぼうとする人々の証を強めるのにも役立ちます。家族歴史を探究し、神殿に提出する名前を準備することは、新会員を教会につなぎ止めるのにも役立ちます。福音の儀式を遵守することによって、家族の信仰と確信も強められます。最近開かれたステーキ大会でわたしは、バプテスマを受けて間もないというデイ夫妻に会いました。彼らの話では、すでに彼らは名前を家族の歴史記録に入れる準備を終えていて、できるだけ早く神殿に参入できるよう予定しているということでした。それはすばらしいことです。宣教師や友人、隣人、あるいは神権指導者や補助組織の指導者が働きかけることによって、新しく教会に入った人々を速やかに家族歴史や神殿の業に導き入れることができるのです。神殿の儀式に参加することは、わ

た私たちの福音生活の根幹を成すものです。家族歴史を作成したり、それにかかわる福音の儀式に参加したりするのに改めて召しを頂く必要はありません。

先日わたしは1940年8月号の『インブループメント・エラ』(Improvement Era)の中から、次のような一節を見つけました。「一昨年の4月に行われた総大会で、十二使徒定員会のジョン・A・ウィットソー長老は、その場に集まった伝道部長たちの一つの質問をした。伝道活動を通して新しい友人や求道者、あるいは教会に興味のある人を見いだすには、福音のどの部分を活用すればよいかというものだった。この問いかけに熱心に思いを巡らせた西ステーク伝道部のフランク・エバンズ部長は、系図の探求とそれに続く福音の儀式と信仰こそ、最も大切であるという結論に達したとのことである。」⁵

最近の教会の調査によると、新しく教会に入った人に、早い段階で系図の探求を促し、神殿に家族ファイルを提出する準備をさせたり、できれば死者のための身代わりのバプテスマを受けさせたりすることによって、しっかりとした教会員生活を根付かせることができるということです。大管長会と十二使徒定員会は、新会員を強め、定例集会から遠ざかっている教会員の活発化を図るために、家族歴史と家族歴史センター™をもっと幅広く活用するようにと勧めています。神権指導者や宣教師の皆さん、それに家族歴史センターのディレクターの方々には、このセンターがさらに効果的に活用されるよう努力していただきたいと思えます。

最後に家族歴史の業はわたしたちを神殿へと導いてくれます。家族歴史と神殿事業は、切っても切り離すことはできません。家族歴史について語るとき、恐らくは神殿事業についても語られるべきでしょう。家族歴史の探求があつて初めて、神殿の儀式に必要な名前が準備されます。言い換えれば神殿の儀式を行うために家族歴史の探求が必要になるということでもあります。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、次のように語っています。「わたしたちが非常に大き



な規模で進めている家族歴史の探求は、そのすべてが神殿事業に向けられています。そのほかの目的はありません。」⁶

家族歴史の探求は、異なる世代の人々の心の架け橋にもなります。神殿の儀式は、神権の力による橋を築きます。すなわち、すでにわたしたちの心に築いた先祖との心の結びつきを、神権の力によって確かなものにするのができるのです。マザー・テレサは、「最も悲しむべき貧困とは、よりどころのない寂しさに襲われることと、自分はだれにも必要とされていないと思ひ込むことである」⁷と語っています。この、自分は必要とされていない、あるいは愛する人々がそばにいない孤独という形の貧困が永遠に続くとしたら、これ以上悲しいことはありません。しかしわたしたちは、家族歴史と神殿の業に携わることによって、愛する人々と永遠に結ばれ、神権による儀式を通して結び固められるのです。

兄弟姉妹の皆さん、家族歴史の探求と神殿事業は、架け橋を築く永遠の家族の宝物です。すなわち、幾世代にもわたる家族を結びつけ、教会に活発に

集うための架け橋となり、神殿とわたしたちを結びつける働きもしてくれます。わたしたちは先祖からたくさんの偉大な宝物を受け継いでいることと、その宝物を将来の世代の人々に残す責任がわたしたちにあることを、皆さん一人一人が気づいて行動を起こされるように、わたしは心から願っています。イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

注

1. Dennis B. Neuenschwander, personal journal, 14 Aug. 1975.
2. Mariah Catherine Boyer, letter to her two children, Irena B. Mendenhall and Richard Lovell Mendenhall Jr.
3. マラキ4:5-6参照
4. Quoted in *The Rebirth of America*, (1986), 12.
5. *Improvement Era*, Aug. 1940, 495.
6. 『聖徒の道』1998年7月号, 96
7. Quoted in *Church News*, 20 June 1998, 2.

消せない炎のように

十二使徒定員会会員
M・ラッセル・バラード

このことだけは確かです。戒めは変わっていません。……正しいことは今でも正しいままです。そして、たとえ社会的な信頼を得て、政治的に正当化されるよう巧妙に装われていても、誤りは依然として誤っているのです。



兄 弟姉妹の皆さん、靈感あふれる2日間を過ごしてまいりました。そしてわたしたちの話もこの総大会において導きや御霊を受ける助けとなれば、と思っています。

ふさわしさを身に付けた若い兄弟姉妹が主の宮で結婚し、結び固められるとき、わたしはその儀式を執行する特権にあずかることがあります。そのような機会は常に、家族や友人にとって特別なものです。そのようなときに感じるのは、この世の幸福と永遠の喜びが円満に入り交じった気持ちであり、それは心からこの日が来るのを祈っていた母親の目に浮かぶ、あふれるほどの涙に表れます。そのような気持ちは父親の目にも表れますが、彼はここ何か月かぶりで、結婚費用の捻出以外のことが頭をもたげているといった次第です。しかし最もそのような気持ちが表れるのは、世の誘

惑を退け、福音の教えに忠実に生きてきた徳高い花嫁と花婿の目です。清らかさ、純潔、純粋さを保ってきた人は、特別で、否定できない気持ちを抱くことができます。

教会に集う、あまりに多くの若い男性や女性が、悪に満ちたメッセージや不道徳な行いが蔓延しているこの世の圧力に屈しています。ルシフェルは老若を問わず、人々の心によこしまな闘いを挑んできます。そしてその犠牲者の数は増大しています。この世の標準はまるで風に吹かれる砂漠の砂のごとく移り変わっていきます。かつては聞いたことも、受け入れられたこともないような事柄が、今では常識となっています。この世の見方があまりにも大きく変わってしまったため、伝統的な道德上の標準を固守している人が奇妙に見られ、神の戒めを守りたいという望みに対して、まるで申し開きでもしなくてはならないような状況となっています。

しかしこのことだけは確かです。戒めは変わっていません。これについては誤解があってはなりません。正しいことは今でも正しいままです。そして、たとえ社会的な信頼を得て、政治的に正当化されるよう巧妙に装われていても、誤りは依然として誤っているのです。わたしたちは結婚するまで純潔を守り、結婚後も忠誠を尽くすことを信じています。その標準は真理の絶対的な標準です。世論調査の対象になることもなければ、状況や環境に左右されることもありません。物議をかます必要もなければ、ほかの福音の標準も必要ありません。

しかし親、指導者、教師は、教会の青少年が福音の標準を理解し、愛し、尊び、守って生活するのを学べるよう助けることがどうしても必要です。両親と青少年はともに狡猾な敵対者に対して、身構えなくてはなりません。わたしたちは福音に添って生活するよう献身的に、効果的に、強固な意志をもって努めなくてはなりません。なぜならばサタンは福音とわたしたちを滅ぼすことに対し同様な態度で臨んでいるからです。

わたしたちの目の前には大きな試練があります。愛する人々が危険にさらされています。家族の周囲に信仰のとりでを築き、特に青少年が清さ、純潔、そして純粋さを保つよう備える助けをなし、神殿に参入するため完全にふさわしくなれるようにする4つの方法を提案したいと思います。

最初は福音を知らせることです。わたしの知るかぎり、最も大切で、人生を変えることのできる情報は、わたしたちが永遠の父なる神のまことの子供であると知ることです。これは教義的に正しいだけではなく、霊的にもきわめて重要なことです。キリストは弟子のために祈りをささげたとき、このように述べられました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ17:3) 天の御父を知り、自分にとって父であり神である天の御父との関係を理解することは、現世に意義を見だし、来るべき世への希望を抱くことです。天の御父が実在し、自分たちがまことに御父の息子、娘であり、御父が今もそして永遠に所有される財産をすべて受け継ぐことを、家族は知る必要があります。その知識に確信が持てれば、悪にそれる道を求める心は薄れ、神に頼って生きようになるでしょう(民数21:8参照)。

わたしたちも何らかの方法で、先祖である開拓者に倣い、イエス・キリストの福音に対する力強い証を心に培わなければなりません。1846年9月にノーブーの町が敵の手に落ちたとき、聖徒たちが粗末なキャンプで過ごした耐え難い状況を思い起こしてください。ウィン

タークォーターズにその報告が届いたとき、ブリガム・ヤングは直ちに兄弟たちを召集しました。状況を説明し、ノーブー神殿で聖約したことを彼らに思い起こさせました。それは、来たいと望む者はたとえどれほど貧しくても、皆連れて行くというものでした。そして彼らに次のような注目すべきチャレンジを与えました。

「今こそ働くときである。主の宮で交わした聖約の火を、消せない炎のように燃え立たせよう。……」(Journal History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 28 Sept. 1846, 5, 強調付加)すると何日もたたないうちに、ウインタークォーターズの民は非常に貧しい境遇にもかかわらず、何台もの幌馬車がミシシッピ川沿いの貧しいキャンプに住む聖徒を救うため東へと向かいました。

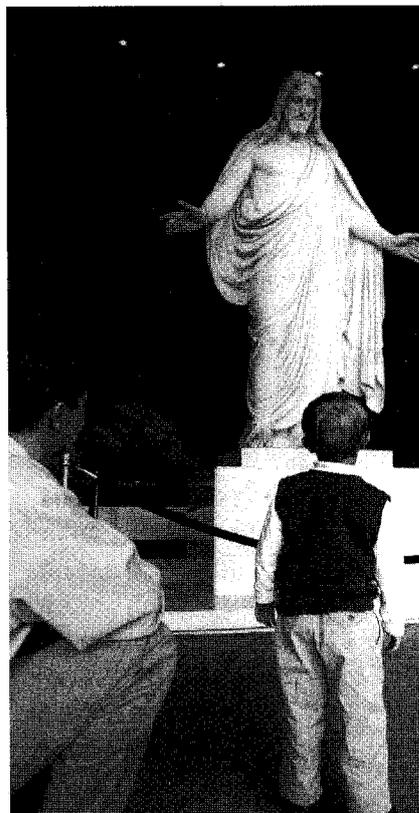
初期の聖徒が耐えた困難や払った犠牲についてよく耳にし、わたしたちはこう言います。「開拓者はどうやってそんなことができたのだろうか。どこからそんな力を得たのだろうか。」その答えの一部はブリガム・ヤングの力強い言葉に



あります。初期の末日聖徒らは神と聖約を交わしました。そしてその聖約は心の中で消せない炎のように燃えたのです。

わたしたちは時々、聖約より自分の都合に合わせて生活するよう誘惑を受けることがあります。確かに、福音の標準に添って生活し、真理を擁護し、回復を証するというのは、都合のいいことばかりではありません。福音をだれかに分かち合うのも、たいてい不都合なことです。教会の召しを受けること、特に自分の能力を上回るような召しを受けることも、必ずしも都合のいいことではありません。またわたしたちは、意義ある方法で奉仕をする^と聖約しましたが、そのような機会がこちらの都合に合わせて訪れることはまれです。だからといって自分の都合に合わせて生活すると、そこに霊的な力は宿りません。そのような力は、わたしたちが聖約を守るときにもたらされるのです。初期の聖徒たちの生活を見れば、その根本的な力は彼らが交わした聖約にあったことが分かります。彼らの模範や証は、その後何世代にもわたって子孫に影響を及ぼすほどの力がありました。

子供は成長するにつれ、適切な事柄と不適切な事柄について、親からより率直にはっきりと教わる必要があります。親は子供に対し、ポルノグラフィーに関する写真や小説をすべて避けるよう教える必要があります。ポルノグラフィーはどのような種類であってもすべて悪魔の道具であり、それらをもて遊ぶならば、人の霊を中毒にし、鈍らせ、ついには滅ぼす力があることを、子供と青少年は親から学ばなくてはなりません。そして汚らわしい言葉を使わず、神の御名をみだりに口にせず、礼節を欠く冗談を耳にしたらそれを繰り返さないことも学ばなくてはなりません。肉欲を礼賛する音楽を聴かないよう、家族に教えてください。性について、また純潔に関する福音の教えについて、はっきりと話してください。このような情報は、家族の中で適切な方法により親が直接教えるようにしてください。家族は一人一人皆規則を知り、それを守れるよう霊的に強め



られる必要があります。そして過ちを犯してしまったとき、驚嘆すべき主イエス・キリストの贖いを理解し、受け入れなくてはなりません。そうすれば完全かつ、時には困難な悔い改めの過程を経て、赦しと将来への希望を得ることができます。個人も家族も永遠の命を求めることに対し、決してあきらめてはなりません。

残念なことに、今日の世の中にはあまりにも多くの両親が、これらの価値観や教会のほかの教義を家族に教える責任を放棄し、他人任せでいます。同世代の仲間、学校、教会の指導者、教師、果てはメディアにまで任せている状態です。子供は、自らの価値観の体系に深く影響を及ぼす経験や認知で頭や心を満たしながら、日々学習しています。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは互いを教え合い、心に信仰を培い、悪がさらに蔓延する世にあっても戒めを守る勇気を持てるよう、自らを強めなくてはなりません。聖約の火が心の中で消せない炎のように燃え上がるほど、キリストの福音に深く改宗する必要があります。そしてそのような信仰をもって、忠

実かつふさわしくあるために必要な事柄
を行うのです。

2番目は、コミュニケーションを図
ることです。家族内では、開放的で率
直なコミュニケーションほど大切なもの
はありません。それは、子供に福音の
原則と標準を教えようとしている親にと
っては特に大切です。青少年に勧告を
与える能力と、恐らくもっと大切なこと
ですが、彼らの関心事にじっくりと耳を
傾ける能力は、良い結果をもたらす関
係を築く土台です。自分の目に映り、心
に感じる事柄は、わたしたちが聞いたり
語ったりする事柄をはるかに上回るも
のを伝えることがよくあります。ここで
子供の皆さんに一言お伝えしたいと思
います。自分の親に対し、決して失礼
な態度を執らないでください。皆さんは
聞くこと、特にお父さんやお母さんの勧
告と御霊による勧めを聞くことも学ぶ必
要があります。わたしたちは教えるため

の特別な機会を求め、活用しなくては
なりません。そのような機会は家族の関
係の中では常に訪れるものです。そし
て、毎週月曜日に家庭の夕べを開くよう
、今決意する必要があります。

また定期的に行う家族の祈りと家族の
聖文研究を通して、効果的なコミュニケ
ーションの機会が得られます。聖文は家
族の価値観や目標を定める助けとなり、
それについてともに話し合うことにより、
家族一人一人が安定し、靈的に強まり、
自立するのを学べるようになります。こ
れを実現するには時間を要しますので、
テレビ、映画、ビデオ、テレビゲーム、
インターネット、または家庭の外の活動
などについて、許容する時間をともに協
議しなくてはなりません。

3番目は、間に入ることです。誤っ
た選択をするのを見たら、間に入るのが
親の務めです。それは尊い賜物である
選択の自由を子供から奪うことではあり

ません。選択の自由は神から授かった
賜物であるため、究極的には、子供た
ちが何を行い、どのように振る舞い、何
を信じるかという選択は、常に子供たち
にかかっています。しかし親として、適
切な振る舞いについて、そして誤った
道に進んだ場合の結果について、子供
たちが確実に理解していることを確認
する必要があります。覚えていただきたい
のは、家庭の中には非合法の検閲官
のような人は存在しないということです。
映画、雑誌、テレビ、ビデオ、インター
ネット、そのほかのメディアは、家庭で
は客のような存在です。そして家族の
娯楽としてふさわしいと判断した場合
だけ、招き入れるべきです。皆さんの家
庭を平安と義の避け所としてください。
自分の特別な霊の環境が悪の影響に汚
染されるのを許してはなりません。互い
の言葉や態度を優しく親切な、かつ温
和で、思いやり深いものにしてください。
また福音の標準に基づいた家族の目標
があれば、よりいっそう良い決断をしや
すくなります。

監督、教師、そのほかの教会の指導
者の皆さんが家族を助けようと努めると
き、同じ原則が当てはまります。皆さん
の責任下にある人が道徳的に適切では
ない選択をしているのに、そばでただ
黙って立っていることはありません。青
少年の一人が道徳上の岐路に立たされ
ているとき、常にだれかが、つまり親、
指導者、教師といった人たちがだれか、
愛と優しさをもって間に入ることで、影
響を与えることができるのです。

4番目は模範を示すことです。疲れ
切った航海士が羅針盤の助けを借りず
に、海図に載っていない海を渡って帰
路に就くのが難しいのと同様に、良い模
範という導く光がないまま、子供や青少
年が人生という海原を渡って行くことは
まず不可能です。親が原則に反し、福
音に添って生活しない姿を子供に見せ
るなら、子供がふさわしくない事柄を避
けるよう期待することはできません。

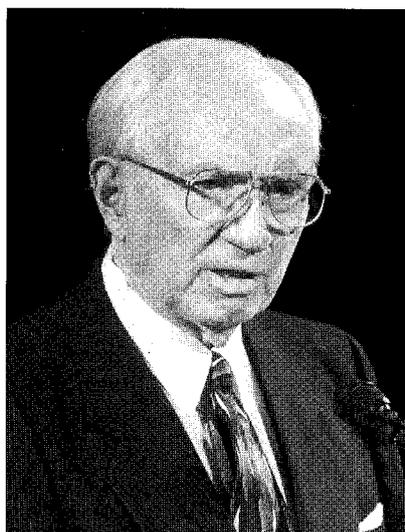
両親、教師、そして指導者としての
わたしたちの厳粛な義務は、義にかな
った強さ、勇気、犠牲、利己心のない
奉仕および自制の模範を、力強く個人



主の祝福への感謝

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちは大きな祝福を受けています。わたしたちは非常に重大な責任を受けています。……あらゆる所に住む民の間で主の正義の業を広めるために、恐れず前進しましょう。



今までで最も多くの血が流された世紀でもあります。真理の敵が何百万もの人々に、破壊と悲惨と苦痛を伴う悪影響をもたらしました。ユーゴスラビアで起きていることには、それがよく表れています。御父は争いを好む子供たちを見て、きつと嘆いておられることでしょう。

とはいえ、全般的に見れば、今世紀は歴史上最高の時代でした。地球の長い歴史の中で今世紀に匹敵する時代はありませんでした。人の平均寿命は25年も伸びました。考えてもみてください。これは奇跡です。科学技術の進歩の恩恵は至る所に見受けられます。たいいてい人は従来よりも長生きし、より良い生活を営んでいます。より優れた理解と知識を得られる時代です。多様性の時代でもあります。互いに学び合えば互いへの理解は増します。また今世紀は啓発の時代でもありました。医療、旅行、通信の発達の奇跡はほとんど想像を絶する域にまで達しました。これらすべては、わたしたちに新たな機会を切り開いてくれました。わたしたちは、主の御業の発展のためにこの機会をとらえ、活用していかなければなりません。

そして、これらのどの賜物にも勝つてすばらしいのは、イエス・キリストの福音の回復です。それに付随して、すべての権能と祝福も回復されました。今はまさに時満ちる神権時代です。福音はもう二度と地上から取り去られることはないのです。

ペテロの次の言葉はわたしたちのことを話したものであると、わたしは信じて

的に示すことです。これらの模範の特色は、青少年が福音の鉄の棒につかまり、まっすぐに細い道に残れるようになるというものです。

知らせる、コミュニケーションを図る、間に入る、そして模範を示すことに心を向ければ必ず結果として、福音の標準から決してそれることのない完全な子供に恵まれた、完全な家族が誕生すると申し上げられたら、どんなにすばらしいことでしょう。残念ながらそうではありません。しかし福音の原則を知り、教え、それに添って生活する家族の方が、深刻な過ちから生ずる痛みを味わわずに済んでいるようです。前向きなコミュニケーションの方法や忠実な模範が、長期間にわたり定着し、広く浸透すれば、個人的な問題についても協議し、家族の一人一人を祝福するのに必要な変化をもたらすことが、はるかに容易になります。

ベニヤミン王は、次のような、重要な勧告をしています。「あなたがたが罪を犯すもことになることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。

しかし、これだけは言える。もし自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払わず、神の戒めを守らず、主の来臨について聞いた事柄を生涯の最後まで信じ続けないならば、あなたがたは滅びるに違いない。おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びてはならない。」(モーサヤ4:29-30)

兄弟姉妹の皆さん、「聖約の火」を心の中に「消せない炎のように」燃やしているわたしたち一人一人のうえに、神の祝福がありますように。また、わたしたちが霊的に備えられ、毎週聖餐を受けるときに、神聖な聖約を新たにできますように。聖約を新たにすることにより、主を尊び、最も喜ばしく偉大なこの時代にあって、家族を強めるという方法で主の教会を建設するために、なすべきことを喜んで果たすよう、イエス・キリストの御名によりへりくだってお祈りします。アーメン。

兄弟姉妹の皆さん、輝かしい2日間でした。聖霊の力と靈感がわたしたちに注がれました。わたしたちはともに喜びを感じました。今大会を終えるに当たって、わたしたちは、賜った祝福に対して感謝せずにはいられません。

音楽もすばらしいものでした。わたしたちのために歌ってくださった聖歌隊とコーラスによって心は高揚し、啓発されました。祈りはわたしたちをさらに主に近づけてくれました。話者は皆、聖霊の力によって語りました。

今、ひととき優れた時代であった今世紀が、少しずつ幕を閉じようとしています。しかし同時に、ある面では世界史上恥ずべき期間でもありました。歴史上、ほかのいかなる世紀よりも多くの戦争、多くの残忍な行為、多くの対立と混乱を伴った世紀だったからです。

います。「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(欽定訳1ペテロ2:9より和訳)

さて、兄弟姉妹。これまでの自分より少しでも善い行いをしようという決意をもって家路に就こうではありませんか。わたしたちはもう少し優しく、もう少し惜しみない心を持ち、もう少し思いやり深くなれるはずで。また、信仰の異なる人々に対してもう少し寛大で、友好的になり、彼らへの敬意を示すために、いっそうの努力を払うことができます。横柄な態度や独善的な態度を執っている暇はありません。わたしたちには、教会の会員だけでなく、ほかのすべての人に対して助けの手を差し伸べる義務があります。わたしたちがそうするなら、教会への人々の関心と敬意はさらに高まることでしょう。

わたしは、痛々しい惨事に見舞われている地域に対して教会が人道的救援活動を実施していることに心から感謝しています。わたしたちは多くのことを成し遂げ、信仰は異なるものの同じ天の御父の子供である大勢の人々の生活に祝福をもたらしてきました。わたしたちはこれからも資力の続くかぎり、援助を続けていきます。この活動に貢献してくださっているすべての人々に感謝の意をお伝えします。

家族を強めるために引き続き努力しましょう。夫、妻である皆さん、互いに対する完全な忠誠心を培いましょう。伴侶はんりよに対し無関心にならず、互いへの愛と尊敬の精神を養うよう常に努めましょう。相手に対して、あら探しをしたり、怒ったり、軽視したりすることは避けなければなりません。

親である皆さん、家族を守ってください。主が命じられたように、光と真理の中で子供たちを育ててください。彼らにあふれるばかりの愛を注いでください。しかし甘やかすすぎたはいけません。皆さんの証あかしを子供たちと分かち合ってください。ともに聖文を読んでください。彼



らを導き、守ってください。世話をするように主から託された子供たちほど、皆さんにとって大きな祝福と義務はありません。ともに祈ってください。主の御前に皆でひざまずいて家族の祈りをささげること取って代わるほど大切なことはないはずで。

いつもどんな状況にあっても正しいことを行う、正直で高潔な民となりましょう。

わたしたちは大きな祝福を受けています。わたしたちは非常に重大な責任を受けています。ひざまずき、導きを求めて主に祈りましょう。そして、自分の足でしっかりと立ち、あらゆる所に住民の間で主の正義の業を広めるために、恐れず前進しましょう。

このお話を終えるに当たり、現在建設中のすべての神殿に加えてノーブー神殿を再建することを発表したいと思い

ます。ある教会員とその家族の多大な献金によりこれが可能になりました。この方に感謝を申し上げたいと思います。完成にはしばらくかかるとは思いますが、すでに設計が始まっています。この神殿はやや孤立した場所に位置することから、ほとんどの期間、参入者はあまり多くないでしょう。しかし夏の期間はかなり多忙を極めることが予測されます。この新しい建物は、ミシシッピ川の岸辺に最初に神殿を建設した人々を追悼するものとなるでしょう。

前にお話ししたことを繰り返し申し上げます。わたしは皆さんを愛しています。わたしは皆さんに祝福と、この偉大ですばらしい末日の業に対する証を残します。「神よ、また〔半年後に〕逢うまで、な汝れを守りませ。」イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

荒れ野の中の光

中央若い女性第二副会長

シャロン・G・ラーセン

目標から目をそらさず、神の御子のまっすぐで細い道を歩んでください。



想 像もつかないかもしれませんが、光もなく、火さえも持たずに8年間荒れ野を野営して旅をするように言われたら、皆さんはどう思いますか。これは、主にエルサレムを去るようと命じられた父祖リーハイとその家族が経験したことです。きっと不平不満は出ても、自分から進んで行こうという人は少なかったはず。この長期にわたる旅をした一行の中には、皆さんのような若い女性も確かにいたはず。

主は彼らに火を使わないように命じ、次のように教えられました。「わたしはまた、荒れ野であなたがたの光となろう。あなたがたがわたしの命令を守るならば、わたしはあなたがたの前に道を備えよう。……あなたがたは……約束の地に導かれるであろう。そして、あなた

がたを導いているのがわたしであることを知るであろう……。」(1ニーファイ17:13)

皆さんにも、行きたいと願う約束の地があるはず。そして、今日若い女性のだれもが経験する荒れ野の中で、自分の光を得ることが出来ます。この光は、主のすべての子供たち、特に若人の皆さんに注がれている主の愛に包まれて、皆さんの手もとに届くのです。主は皆さんが試練や誘惑に遭うことを御存じなので、皆さんの心と思いと霊を照らす光を用意して下さっています。主は、御自分の言葉は真理であり、真理は光であり、光はイエス・キリストの御霊であると語られました(教義と聖約84:45参照)。

サニーは韓国からの交換留学生です。彼女は今まったく新しい国で、新しい家族とともに暮らし、新しい言葉を話しています。授業は難しく、一緒に食事をしたり、話したり、学校の活動に参加したりする友達もいませんでした。彼女は次のように書いています。「とても惨めな気持ちでした。そして、わたしは祈ってみようと考えようになりました。助けや慰めや信仰を求めて天父に祈るなんて、それまで考えたこともありませんでした。それからわたしは毎朝『モルモン書』を読み始め、学校に行く前には祈るようになりました。授業は前よりずっと簡単になり、もっとよく分かるようになって、わたしは驚きました。勉強をしているとき、だれかが助けてくれるように感じました。」(Letter in pos-

session of Young Women office)

祈りは明かりのスイッチを入れるのにとえられることは御存じだと思います。祈りが皆さんの生活の一部になると、皆さんは光に照らされ、まっすぐで細い道を歩み始めるのです。

わたしは皆さんと同じ年代のころ、まっすぐで細い道がいかに大切か、そしていつもそこに目を向け、そこにとどまるのがいかに難しいかを学びました。わたしはカナディアンロッキーのふもとのとても小さな町で育ちました。父は農家を営み、わたしは働くことを教わりました。毎年夏には父を手伝ってトラクターを運転し、草を刈り、干し草を集め、干し草の束を引いて運び、土地を耕しました。初めて土地を耕したときのことを覚えています。父は、畝をまっすぐに作る大切さを説明してくれました。畝が曲がってしまうと、中に種がまかれぬ部分が出て、雑草が勝ってしまうのです。父は「畑の向こうのフェンスの柱をじっと見て、それを目標に行けば、まっすぐな畝が引ける。でこぼこした場所があっても、惑わされてはいけないよ。トラクターのすぐ先を見るようになるとまっすぐな線から外れて曲がり始めるんだ」と言って、わたしに仕事をさせました。

初めの何往復かはフェンスの柱のことを覚えていたのですが、それから時間つぶしに歌を歌い始めました。自分の知っている歌や賛美歌を全部歌って、知らないのも勝手に作って歌いました。大声を張り上げて歌って楽しんでいると、こちらに向かって父が歩いて来るのが見えました。わたしがトラクターを止めると、父が言いました。「まっすぐな畝がどうなってしまったか、分かるかい?」

わたしは「どういうこと?」と言いました。

「畝を見てごらん。初めの何本かはまっすぐだが、おまえがいつ仕事に集中するのをやめたか、見ればすぐに分かるよ。目標にしていた畑の向こうにあるフェンスの柱を見るのをやめてしまったね。往復する度に少しずつ曲がって行って、ほら、畑には大きな円が幾つもできてしまった。」父はそう言ってトラクターに乗り込み、畝をまっすぐにするため

に何回か往復しました。もう一度わたしにさせるためにトラクターを降りた父は、わたしに言いました。「シャロン、自分が行こうとしている所にいつも注意を向けなければいけないよ。」

この世のプレッシャーに押しつぶされそうになったり、今欲しいもののために最も欲しいものをあきらめるように誘惑されたりするとき、トラクターの前や今という時の、もっと先に目を向けるのは難しいことです。穴やでこぼこ、人生を楽しんでいるように見える友達からの誘いによって、道を踏み外すこともあり得ます。しかし、わたしたちをまっすぐな道にとどまらせるための光は、畑の向こうにある目標のようなものです。注意をそらされ、誘惑を受けることもありますが、主はそこにおられ、わたしたちが道をまっすぐにできるように助けてくださいます。皆さんは暗闇から抜け出で、光、主の光の中に来ることができるのです。

ある若い友人は、光と御霊を得ることの大切さを理解していませんでした。そして、今日出回っている俗悪で暴力的な映画を見るのが大切だと思ふ理由をわたしに説明しようとしていました。彼はそういうものを見ないと世間知らずで無知な人間になり、世の中でいよいよ利用されてしまうだけだと言いました。

わたしはその若い友人に尋ねました。「あなたは、世間のことを知るためにこの世の与えるものに身をさらし、自分の力だけで選択する方を選ぶのですか。それとも暗闇が入り込む余地がないほど多くの光と真理と義に満たされるために、主によって導かれながら自分の人生を歩む方を選ぶのですか」と。わたしたちは同時に光と暗闇との中にいることはできないのです。

この光は、若い女性のロゴマークのたいまつに象徴されています。炎の中に皆さんの横顔が描かれたこのたいまつは、真理と義を求める皆さんの願いを燃え立たせてくれます。キリストは皆さんの光であり、幸福なときも暗闇を歩むときも皆さんに道を示してくださいませ。自分は独りぼっちだ、見捨てられた、と感じる必要は決してありません。

ローレルのクラス会長であるエミリー

は副会長を選ぶに当たって主の御心を知りたいと思っていました。この光を感じたときについてこう語っています。「わたしはある女の子について祈りました。そしてとても強い啓示を受け、心と思いが一致してすべてが明らかになったように感じました。そして、彼女が副会長になるべき人だとはっきりと分かりました。」(Letter in possession of Young Women office) 祈りは神の力につながる道を開き、それによってわたしたちは愛と奉仕と犠牲とに導かれ、自身の力を

伸ばすことができます。

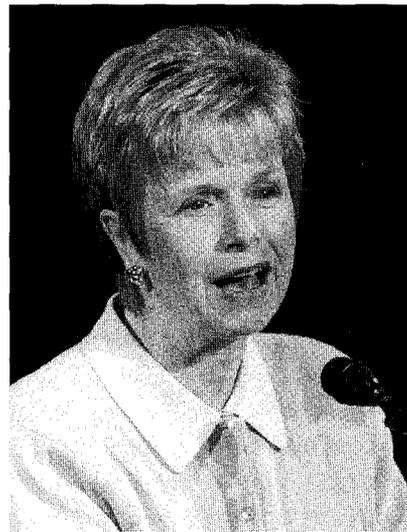
『モルモン書』に登場するヤレドの兄弟は、この過程を知っていました。彼は主の指示の下に8隻の船を造りましたが、船の中には光がありませんでした。彼は主に助けを求めました。(これはわたしたちにもできることです。)しかし、答えは彼の期待する方法では与えられませんでした。主にとって船の中に光を置くのはとても簡単なことでしたが、主がほんとう望まれたのは、ヤレドの兄弟自身の中に御霊の光をともすことでした。



バプテスマの 靈的な力

中央若い女性第一副会長
キャロル・B・トーマス

バプテスマの靈的な力を、慎み深さという原則にどのように応用できるでしょうか。服装によっても、世と違った者となってほしいと願っています。



愛する若い女性の皆さん、皆さんをどんなに愛していることでしょうか。今晚皆さんとともに集えるのは、大きな祝福です。以前、十二使徒定員会の一員であるロバート・D・ヘイルズ長老から次のように尋ねられました。「若い女性の皆さんは、バプテスマのときに交わした聖約の意味を知っていますか？」そして、「ぜひ、それを彼女たちに教えてください」と言われました。わたしはそのとき、「わたしは自分が交わしたバプテスマの聖約がどんなに大切かを十分に理解しているだろうか」と考えたのを覚えています。そこで、これから少しの間、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になるとは、ほんとうはどういう意味なのか、またバプテスマはわたしたちの生活にどんな祝福をも

主が懐中電灯は与えてくださらないと分かったときから、16個の石を切り出し、それを光らせて光を下さるように主に願う求めるまでの間、ヤレドの兄弟は何をしていたと皆さんは思いますか。わたしは、きっと彼はサニー・キムやエミリーと同様に、御霊、光によって導かれるよう、断食し、祈り、深く考え、聖文を読み、奉仕し、愛し、赦し、ひたすら従順になるよう努めることに、多くの時間を費やしたことでしょう。

ヤレドの兄弟は自分の知るすべてのことを行い、一生懸命に働き、可能なあらゆる手段、中でも主への信仰を行使しながら、自分の考えを携えて主のみもとへ行きました。そして、彼の努力は十分であったので、主はその16個の石に手を触れられ、光が与えられました(エテル2:18-25;3:1-6参照)。答えは常にあるのです。

多くの若い女性が、この光に従っており、主から祝福を受けています。主を自らの光としている何人かの人々の証に耳を傾けてください。

[注—数人の若い女性がビデオテープを通じて証した。]

主が皆さんの光となられますように。また約束の地への道を、皆さんの目の前に備えていただけますように。「主が照らすことがおできにならないほど暗い人生はない」のです(Sam Cardon and Steven K. Jones, "Come unto Him," New Era, Apr. 1995, 10)。リーハイやヤレドの兄弟のように預言者である必要はありません。義に飢え渴き、自分らしくあってください。主を信頼してください。畑の向こうにある目標から目をそらさず、神の御子のまっすぐで細い道を歩んでください。光と御霊がイエス・キリストによってもたらされることを証します。

主は光、わがすべて
御前には闇はなし
贖いの主、救いの王
天使とともに賛美せん
(「主は光」『賛美歌』47番)

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

たらずのかについてお話ししたいと思います。

救い主はバプテスマを、再び生まれることにたとえられました。皆さんの人生で、最も素晴らしい二つの時期について考えてみてください。それは皆さんが生まれた日と、バプテスマを受けた日です。どちらもこの人生で欠かせない誕生日です。自分が生まれた日のことを覚えている人はだれもいません。ただ、お母さんがあなたを抱き寄せ、この子はどんな人になるのだろうかと夢みている姿を想像するだけです。

第二の誕生日であるバプテスマの日のことを思い出すのは、それほど難しくないでしょう。フィリピンのビーハイブのラン・ティンは、自分のバプテスマについて次のように書いてくれています。「わたしは生まれ変わったような気がしました。罪から清められたという特別な気持ちでした。母の目からは、真珠のような涙が泉のようにあふれ出て、わたしにはそれが喜びの涙だと分かりました。母は真心からわたしにこう言いました。『ラン・ティン、今日あなたを主に返しできて、ほんとうに安心した気持ちよ。あなたが歩む人生の道を主がともに歩んでくださると信じているわ。』」(letter in possession of Young Women office.)

バプテスマは霊の再生です。バプテスマを受けることにより、わたしたちは頭のとっぺんから足のつま先まで清められ、聖霊の賜物を通していつも救い主

とともにいられるようになります。主は、わたしたち一人一人の傍らにあって、ともに歩んでくださるのです。

バプテスマを受け、確認の儀式を受けるとき、4つの事柄が起こります。(1)わたしたちはキリストの教会の会員になり、主に従うことを決意します。(2)わたしたちの罪が赦されます。(3)日の栄えの王国に入る許しを得ます。(4)バプテスマは個人の聖めの門であり、わたしたちはそれによって「聖くされる」と言ってもよいでしょう。

初めの3つは、非常に分かりやすいと思います。今日は、4つ目の「聖くなる」ということに焦点を当てて考えてみましょう。「聖くなる」とはどういうことでしょうか。皆さんは聖霊を受けることで、変えられ、違う人になりました。これは、もう世の者であることはできないということです。戻ることはできないのです。ヘイルズ長老はこう言いました。「若い女性の皆さんに、バプテスマを受けたとき、彼女たちはこの世から取り上げられ、神の王国に入れられたことを理解させてください。」(notes from General Young Women Board meeting, 5 Dec. 1997) 皆さんは闇から連れ出され、キリストの光の中に入れられたのです。まったく新しい人生の始まりです。

十二使徒定員会の一員であるヘンリー・B・アイリング長老は、バプテスマを受けて家に帰る途中、「あーあ、もうただ乗りは終わったんだ」という思いで頭がいっぱいだったと言います。それは確かに真実です。バプテスマを受けた人はだれでも、人生での行いについて責任を持つという祝福を得るのです。

これは、フランス国王ルイ17世の息子の話ですが、彼は幼いころ、父親を王の地位から追いやった悪人たちに誘拐されました。それから6か月間、この世のあらゆる汚れた、低俗な事柄にさらされましたが、彼は決してその圧力に屈することがありませんでした。彼を捕らえた者たちは不思議に思い、なぜそのような強い道徳心を持っているのかと聞きました。彼の答えは簡潔なものでした。「あなたがたが勧めるようなことはできない。なぜなら、わたしは王になる

べくして生まれてきたのだから。」(see Vaughn J. Featherstone, "The King's Son," *New Era*, Nov. 1975, 35) 皆さんは、王の娘になるべくして生まれてきました。バプテスマを受けることにより、皆さんが自分自身を聖め、聖なる者となるときに、尊く高貴な祝福を受けると約束されています。

では、どうしたらそれができるのでしょうか。さらに聖くなり、高貴な受け継ぎを得るにはどうしたらよいのでしょうか。キリストはこう言われました。「わたしに従い、わたしが行うのを見たそのことを、あなたがたも行いなさい。」(2ニーファイ 31:12)

キリストの光に従っている若い女性たちの中から、何人か紹介しましょう。

アリゾナに住むローレルの姉妹はこう書いています。「それは10月で、高校の大きなパーティーが近づいていました。わたしはまだ15歳と半年でしたが、ある男の子からダンスに誘われました。わたしは、誘いを受けて、ダンスパーティーで待ち合わせをすれば、両親には分からないかしら、と考えました。でも、もう一度考えて、両親が知らなくても、天のお父様とイエス・キリストはわたしのことを知っていて、ほんとうに気にかけてくださっているのだと分かりました。わたしはダンスパーティーには行かず、女の子の友達を5人家に呼びました。わたしはとても幸せで、自由で、人生を精いっぱい生きていると感じました。」(letter in possession of Young Women office)

次に、レベッカというビーハイブの姉妹の日記から紹介します。「時々、中学校に行くのが大変に思えるときがあります。クラスに、神を冒瀆する言葉をいつも使う男の子がいます。そんなとき、わたしは心の中で短くお祈りをして、その子のことを気にしないでいられるように、悪い言葉が心の中に残らないように助けてくださいとお願いします。そして、ほんとうにそのようになります。もしも祈るなら、どんなに小さな問題でも解決できます。」(letter in possession of Young Women office)

もう一人の若い女性はこう書いていま

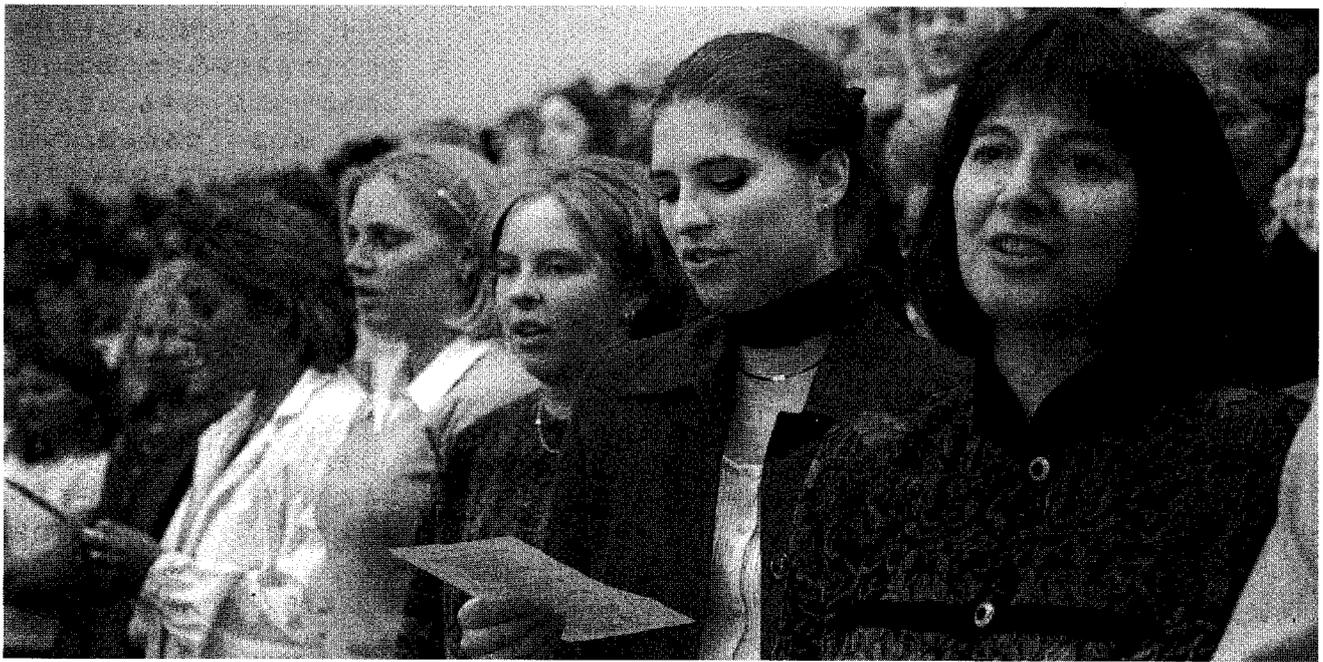
す。「この1年、わたしにはあまり多くの友達がいませんでした。でも、わたしはがっかりしませんでした。なぜなら、御霊による平安が心を満たしてくれたからです。……独りぼっちに思えるときや、人前で気まずい思いをするときもありましたが、主はいつもわたしとともにいてくださいました。」(letter in possession of Young Women office)

ユタのマイヤメイドの姉妹はこう書いています。「この1年間、わたしは個人的な問題を抱えていました。御霊を失ってしまいましたが、でも信じられないようなことが起こったのです。わたしは監督のところへ行きました。こんなに怖かったのは生まれて初めてでした。でも、部屋の中に主がともにいて、わたしの震える手を握ってくださるのを感じました。自分は赦されるということを知っていました。この1年、謙遜になり、悔い改め、もう一度祈りについて学び直すという、険しい道を歩んできました。でも、主はそこにおられました。片時もわたしを一人にしておかれることはありませんでした。わたしは光と闇の両側を経験しました。そして今、光の側こそわたしたちがいるべき場所だと知っています。」(letter in possession of Young Women office)

皆さんの救い主の光に従おうとする望みに、わたしたちは心から感動しています。一人一人困難な状況にありますが、皆さんは霊的な力の源が何であるかを知っています。祈ったり、証をしたり、義の側に立ったりするとき、皆さんの生活から悪の力を閉め出すことができるのです。

皆さんが学校の廊下を歩きながらほかの生徒たちを見るとき、「自分はみんなと違う」と思いませんか。ほかの人より「優れている」ということではなく、主に関する知識と主への堅固な思いを持っているという点で、皆さんは違っているのです。そして、その違いこそが強さや祝福になり得るのです。

皆さんの多くにとって最も難しい事柄の一つは、慎み深くあるということでしょう。バプテスマの霊的な力を、慎み深さという原則にどのように応用できるで



タバナクルで歌う、若い女性と指導者たち。

しょうか。服装によっても、世と違った者となってほしいと願っています。イリノイ州シカゴのローレルのマーシー・マシューズ姉妹の手紙を紹介しましょう。

「1998年、わたしは、若い女性での数多くのレッスンや話、またアドバイスを実践することで、良い結果を得ました。わたしは、普通のモルモンの少女です。ここまでしっかりと強く歩み続けるのは、易しいことではありませんでした。わたしは自分の証や標準を強めるために、いつも目標を立てます。

最近、ミューチャルで慎み深さの大切さについての活動がありました。レッスンの前は、自分は慎み深い服装をしていると思っていましたが、ショートパンツやスカートの長さをもう少し長くできるのも知っていました。それが自分の一つの弱点だということは分かっていたのですが、心の中で後回しにしていました。ほかのみんなもショートパンツやデイズーデュークス(注——すそ丈が極端に短く、穴やほつれの多いジーンズ)やミニスカートをはいていましたし、わたしが着ていた服は自分のお金で買ったものでした。慎み深さについてのレッスンを聞いた後、家に着いたら真っ先に自分のたんすに行って、慎みのない洋服はみんな捨ててしまおうと思いつ

家に帰りました。それを見て着たいと思わないようにするためです。家に帰ってそのことを両親に話しました。心の中では、両親がわたしの服装は別に悪くないから大丈夫だと言ってくれるのを期待していたように思います。

その夜、父はわたしをととても誇りに思っていること、そして教会に着て行くためのひざ丈のワンピースを何枚か買っていました。次の段階は、全部の洋服をチェックして、要らないものをすべて捨てることでした。とても気に入っていたスカートやショートパンツを手放すのは、とても難しいことでしたが、実行しました。もう、短いショートパンツやスカートを**はくことは絶対にしません**。

自分に対してこんなに良い気持ちを感じたのは初めてです。神殿や教会に行くとき、自分は神の手であり、……自分が着る服装によって神の娘であることを表していると感じるのが大好きです。

わたしは、すべての若い女性の皆さんにこの段階を踏むようにチャレンジしたいと思います。そうすることで、自分が何者であり、何を大切にしているかを見いだすことができます。自分の一部になっているものをあきらめるとき、想像をはるかに超えた祝福が皆さんに注

がれるでしょう。](letter in possession of Young Women office)

マーシーのすばらしい模範は、わたしたち若い女性のテーマの縮図です。皆さんも御存じのように、「わたしたちはいつでも、どのようなことについても、そしてどんな洋服によっても、神の証人として立つ」のです。

今晚、バプテスマの霊的な力について話してきました。わたしたちは毎週ふさわしい状態で聖餐を取ることで、その力を新たにできます。「英語では、聖餐の祈りほど感銘を与える表現はほかにありません。この祈りの中で、パンと水を頂く際に受ける聖約と約束を心から学ぼう皆さんにお勧めします。」(Elder Dallin H. Oaks, notes in author's possession) 皆さんの生活に祝福をもたらすものなので、この意味について深く考えてください。

皆さんが交わしたバプテスマの聖約に心を向け、大切にできるようにお祈りします。皆さんが祈りをささげるとき、特に土曜の晩には、聖餐を受ける備えをし、バプテスマによる霊的な力を皆さんの生活の中で受けられるよう、天父に願い求めてください。わたしの愛と証を皆さんにお伝えします。イエス・キリストの御名により、アーメン。

光に従う

中央若い女性会長

マーガレット・ロ・ナドール

主はわたしたちに世俗の冷たい危険から抜け出で、主の光のぬくもりへ来れと招いていらっしゃいます。



皆さんは暗闇くらやみの中をまごついてつま先をおつけ、「痛い！」と言ってしまった経験はないでしょうか。もし今晚この建物が停電になってしまったらどうでしょうか。恐らくパニック状態に陥ることでしょう。暗闇は肉体の健康にも霊の健康にも害を及ぼします。わたしたちの生活に光が与えられていることは大きな祝福なのです。物を見分けるのに役立つ光があり、啓発する光があり、自信と完全な信頼をもってついて行ける光があります。それがどのような意味が分かるよう一つのお話をします。

クリスマスの数日前のことでした。当時まだ新婚だったわたしたちが休暇で帰省する道すがらでのことです。車で42時間もかかる道のりでしたが、家族との再会に胸を弾ませていたため、大したことではありませんでした。昼夜運転をしている途中で激しい吹雪に見舞

われました。視界は遮られ、ハイウエー上の雪は刻一刻と積もっていきました。外の闇は深く、わたしたちはどこへ向かっているのかも分かりません。また積雪のため、車線も見えません。とても恐ろしい状況でした。

すると突然、ゆっくりと着実に走る大きなトレーラーが前方の視界に入ってきました。テールランプがかすかに見えるだけでしたが、その光はわたしたちにとって一筋の希望となりました。運転していた主人はトレーラーからの光を凝視し、そのトレーラーが深く積もる雪の上に残すわだちに沿って運転しました。前方に誘導してくれるトレーラーを見つけ、混乱は幾分和らぎました。なぜなら、運転手は道を知っていて、座席の位置もわたしたちより高いため視界もより広く、そして何と緊急時のための無線機を装備していたのです。

わたしたちは声を出して祈り、主人は手が白くなるほどハンドルをしっかりと握り締めながら、吹雪の中をその光について行きました。トレーラーが減速し、ハイウエーのわきに寄ったことに気づくまでに、道路の両側に脱輪してしまった何台もの車を追い越しました。信仰を表し、わたしたちは前方の車について行きました。間もなく自分たちが安全な場所、逃げ所に着いたのに気づき安心しました。そしてとても感謝しました。運転手の方に感謝を伝えるのが待ち切れないほどでした。わたしたちを導いてくれたのですから。

わたしたち一人一人も家路に就いているのです。しかし家を目指しているのはクリスマスのためではなく、永遠のため

にです。愛ある天の御父のみもとに安全にたどり着きたいのです。御父はわたしたちが安全に戻って来ることをお望みなので、道しるべとなる光を遣わされました。それは救い主である主イエス・キリストという完全な模範です。主は道みちを御存じです。夜の闇の中でも、嵐あらしの中でも、また十字路でも、そして日中の光の中でも、わたしたちの道を照らしてください。いつでも家路を示すよう備えられているのです。

主はこのように語られました。「わたしはまた……あなたがたの光となろう。あなたがたがわたしの命令を守るならば、わたしはあなたがたの前に道を備えよう。……そして、あなたがたを導いているのがわたしであることを知るであらう。」(1ニーファイ17:13)

ある若い女性から手紙を頂きました。文面には、自分のたどっている道について次のように記されていました。「わたしはビデオを見ている友人たちと一緒にいました。そのビデオが、見てはいけないものであることを知っていました。わたしはその場を去るようにと御霊みたまに促されました。わたしはそのささやきに耳を傾け、立ち上がってその場を離れることができました。御霊を強く感じたのです。感じる事ができたのは自分の選択によってであると知っています。」(Letter in possession of Young Women Office)この女性は光に従い、安全なところに導かれました。

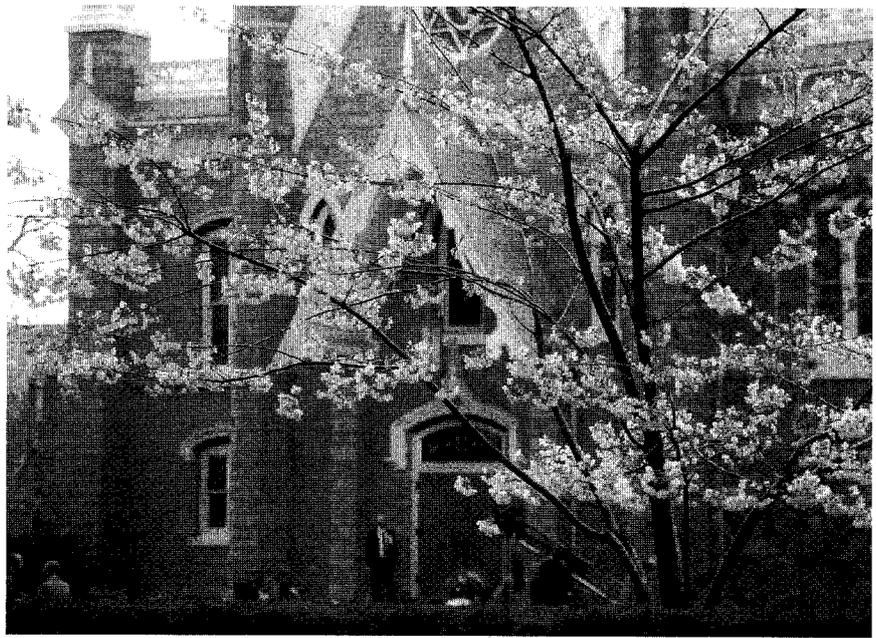
1833年のある恐ろしい日に、同じ光が二人の10代の姉妹に行く手を示しました。荒れ狂った暴徒がミズーリ州インディペンデンスの静かな通りを襲撃しました。このインディペンデンスには15歳のメアリー・エリザベス・ロリンズと13歳の妹キャロラインが住んでいました。恐ろしい暴徒は所有物を壊し、火をつけ、暴動を起こしていました。印刷機が置かれていたウィリアム・フェルプス兄弟の家に押し入る暴徒もいました。フェルプス兄弟はジョセフ・スミスが受けた啓示を印刷していたのです。暴徒らは印刷機を壊し、表の通りに投げ捨てました。またすでに印刷された貴重なページの束を建物から運び出し、燃やすために

外にばらまきました。

メアリー・エリザベスと妹のキャロラインはさくの後ろに隠れ、破壊されていく様子を震えながら見ていました。メアリーは荒れ狂う暴徒の危険を十分承知していました。にもかかわらず、これらの貴重なページを暴徒から守るようせき立てられるような思いに駆られました。この二人の10代の姉妹たちは道に駆け出し、両腕いっぱい聖文を抱きかかえて逃げました。それを見ていた暴徒の何人かがこの勇敢な姉妹たちを追いかけ、止まるよう命令しました。二人はとうもろこし畑に逃げ込み、息を凝らして身を潜めました。印刷された啓示をとうもろこしの茎の間の地面に置き、その上に覆いかぶさりました。暴徒たちはとうもろこし畑の中でも二人を懸命に捜し、非常に接近して来たときもありました。しかし結局二人を見つけることはできず、あきらめて、また町を壊そうと戻って行ってしまいました。

主の光はこの二人の若い女性に何をすべきか、そして安全を求めてどこへ行くべきかを示しました。同じ光が皆さんのためにも輝いています。その光は彼女たちを守ったように、皆さんのことも守ってくれます。若い女性の事務局にはこの二人の女性の彫刻が飾られ、当時と今における若い女性の勇気を思い起こさせます。

ジェーン・オールグッド・ベイリーは新しい宗教の光をあきらめようとせず、ワイオミングの平原で寒さ、飢え、病にあってもくじけませんでした。彼女はほかの女性と手を取り合って、氷の張る川を渡りました。川の向こう岸にたどり着いたときには、服は肌凍りついていましたが、それでも進み続けました。道中で18歳の息子ラングレーは病気になるました。あまりの衰弱のため、旅の大半を手車に乗って過ごすほかありません。ラングレーは凍ったテントを手車の上に敷いて寝具にしていました。ある朝起き上がり、自分は負担になりすぎていると感じていた彼は、隊よりも先へ行き、死んでしまおうと灌木の下に横たわりました。忠実な母親が息子を見つけたとき、彼をしっかりとこのように言いました。



4月の花で満開となった、アッセンブリーホール外側の木々。

「手車に乗りなさい。わたしが助けるからあきらめないで。」そしてマーティン・ウィリー手車隊の生存者とともに道を進めました。

ソルトレーク盆地に到着したとき、ラングレーはまだ生きていました。彼は18歳でしたが、体重は16ポンド(約28キロ)しかありませんでした。その18歳の少年はわたしの曾祖父です。その若い生命が救われたことに、また家族にとって光であり、生き延びる見込みのほとんどなかった息子の命を守った気高い母親の不屈の精神と体力に、わたしは感謝しています。

皆さんは恐らく、大平原で吹雪の中、手車を押したり、暴徒から逃れたりする必要はないでしょう。しかし自分が守っている善の標準を落とさなくてはつきあえない友達や流行、そして誘いから退かなくてはならないかもしれません。それは勇気の要ることです。皆さんは間もなく扶助協会の姉妹となり、やがて母親となり、次の世代に力と証あかしを与えるようになります。準備をするこの時期に「あきらめるわ。教会の標準は高すぎるのよ。純潔の律法をきちんと守って生活するなんて難すぎるわ。わたしは弱い人ですもの」などと言っている場合ではないのです。皆さんにはできます。将来のために行わなくてははいけないのです。

わたしたちは世にあつて、世の者とならないようにすることができます。主はわたしたちに世俗の冷たい危険から抜け出で、主の光のぬくもりへ来れと招いていらっしゃいます。そのためには高潔さ、性格の強さ、信仰、つまり主イエス・キリストによって説かれた真理への信仰が必要です。主は次のように言われました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」(ヨハネ8:12)

シェリー・アン・スコフィールド姉妹は若くして恐ろしい試練に立ち向かい、その際に主の光が助けとなりました。シェリーは大きな信仰と天父への愛を抱きながらその試練に立ち向かいました。シェリーはある日、自分は病気であると感じ始めました。医者にかかり、深刻な病気であると診断されました。彼女はこのような語りました。「怖かったです。肺に大きな塊があり、医者は癌がん、化学療法、放射線療法などという言葉を用いたのです。」しかし彼女は恐怖に負けることはありませんでした。「成長するわたし」で受けた訓練に忠実な彼女は仕事に取りかかり、治療で学校に行けない間に達成する目標の長いリストを作りました。そして善いことを成し遂げようと没頭しました。また受け

ている祝福にも気づいていました。例えば神権を持ち祝福を授けてくれた父親、すばらしい家族、かけがえのない友人、優秀な医者などです。シェリーはこのように語りました。「しかし何よりもわたしには天父に対する証があります。天父がわたしを愛してくださり、この試練を乗り越えられるよう助けてくださるといふ証があります。」

シェリーは若い女性の友人のためにこのときの思いを記録に残しました。彼女が語った一部をここで分かち合いたいと思います。

「若い女性の皆さんに、今こそが天父に近づく時期であることを知ってほしいと思います。自分は約束したことを実行できるということを天父に示せるよう励んでください。わたしはそのように努めています。今は福音について、これまで知っていた以上に学んでいます。そして天父がわたしとともにおられることを知っています。痛みと悲しみを感じる時、天父もそのように感じてくださっています。天父はわたしに、そして皆さん一人一人に、そのように感じる時は、ひざまずいて助けを祈り求めるようにと望んでおられます。なぜならば天父は喜んで助けようとされているからです。

天父は皆さんを愛しておられます。皆さんが人生での試練から学べるよう、そして皆さんが天父の近くにとどまり、信仰を持てるようお祈りします。証を得て、正しいことに忠実であってください。」

シェリー・スコフィールド姉妹は1998年11月3日、強い信仰のうちに亡くなりました。

親愛なる大切な若い姉妹の皆さん、皆さんすべてがシェリーやその他わたしが今晚話したような人たちのような経験をするわけではありません。しかしわたしたち一人一人が人生という旅の間、主に近づく必要があります。

皆さんが自分の生活の中で光を見詰め、それに従うための助けとなる3つの事柄を提案したいと思います。1番目は最も大切なことです。祈ってください。天父に語りかけ、心を注ぎ出すならば、天父に近づくことができるでしょう。そして待ってみて、心にわく感情に耳を傾けてください。御霊の促しが理解できるよう求めてください。心から祈れば、(皆さんに対する)天父の偉大な愛を感じるでしょう。

2番目に、聖文を研究してください。聖文は主の道を教えています。そして今日どのように生きるかという質問に答

えています。ほかの方法では得られない光と御霊をわたしたちの生活にもたらしめます。

3番目に、熱心に善いことに携わってください。つまり家族や友達に奉仕をしてください。教会とセミナーに活発に集ってください。才能や技術を伸ばしてください。善い模範を示してください。いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、神の証人になってください。そのように行えば、皆さんの人生での光は輝きを増し、その光は表情に表れてくることでしょう。

若い女性の事務局からは神聖なソルトレーク神殿が見えます。そして花嫁たちが写真撮影のために外に出て来る様子がうかがえます。神殿結婚をしたその花嫁たちは美しく見えますが、それは顔や目が光り輝いているからです。自分たちの生活における救い主の影響を理解しているからこそ、輝きが放たれるのです。若い女性が自らを備え、神聖な聖約を交わし守り、神殿の儀式を受けるに十分なふさわしさを身に付けるといふことには、非常に特別なものがあります。

わたしたちがある冬の嵐の晩、トレーラーの光に従ったように、シェリーもメアリー・エリザベスもジェーンも光に従いました。そして皆さんもそのようにできます。勇気や力や信仰が必要になる時が来たら、この賛美歌の歌詞を思い出してください。

主は光、夜も昼も
近くませば 恐れなし
(「主は光」『賛美歌』47番)

主はいつも皆さんを助けてくださることを証します。主の生涯の模範とその教えは堅固であり、確かな導きです。自信と完全な信頼をもって主に従うことができます。それは主がわたしたちの救い主であられるからです。わたしは主を愛しています。皆さんのことも愛しています。主が皆さんを愛しておられることをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。



日の栄えへの旅

第一副管長

トーマス・S・モンソン

**母親の愛情、父親の強さ、神の靈感を目の当たりにするとき、
皆さん一人一人に教えを受け入れる準備ができるのです。**



愛する姉妹の皆さん、今晚こうして皆さんの前に立ち、このタバナクルに集うすべての人々に加え、衛星中継を通してこの会の模様を見聞きする何万人もの人々がいることを考えるのは何と幸せなことでしょう。主の助けがありますように祈っています。

ヘンリー・ワーズワース・ロングフェローの優れた詩の中に、皆さんのような若い人とその未来を表現したものがあります。

美しき若者、その輝き
その幻想と願いと夢
つづられる人生は様々で幕は下りず、
おとめはヒロインに、男は友になるのだ！

愛する若い女性の皆さん、そして母親、教師、指導者の皆さん、願わくはここで述べるわたしの思いと提案が、皆

さんが現世から御父のいらっしゃる日の栄えの王国へと歩みを進めるうえでの導きとなりますように。

わたしは皆さんを導き、永遠の喜びに至らせる4つの行動目標を入念に選んでみました。次の4つです。

1. 上を見詰める
2. 心の内を見詰める
3. 外に向かって手を差し伸べる
4. 前に向かって進む

最初の「上を見詰める」について話をしましょう。

御父はわたしたち一人一人に、御父を求める気持ちを植え付けられました。聖文の言葉には「神に頼って生きるようにしなさい」²と高らかにはっきりと述べられています。どのような問題も、神にとって取るに足りないようなものではなく、また信仰ある祈りにこたえられないほど大きな問題ありません。祈りこそ、御霊の影響力を受ける手段となるのです。自分が何者で、どのような人物になってもらいたいと御父が望まれているかが分かると、目的をもって祈ることができます。

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか」³という使徒パウロの言葉を思い起こして心から祈るときに、御父に近づくのはそんなに難しいことではないと感じることでしょう。

御父がお喜びになることをしたいと望むなら、まず皆さんの両親を敬ってください。これが御父の戒めだからです。両親は皆さんを心から愛しています。皆さんの喜びが両親の喜びであり、皆さんの悲しみが両親の悲しみだからです。両親

親は主の与えられる天からの導きが皆さんに注がれるようにと望んでいます。

期待を裏切られた両親がよく、自分の娘か息子のことを「ひどく困った10代」であるという言い方をするのを聞きますが、わたしはあえて皆さんのことを「すばらしい10代」と表現したいと思います。

人生とは必ずしも笑顔や幸福ばかりとは限りません。母親の愛情、父親の強さ、神の靈感を目の当たりにするとき、皆さん一人一人に教えを受け入れる準備ができるのです。

ラッセル・M・ネルソン長老に許しを頂いて、御父の計画を知ることで慰められる悲しみについての教訓を皆さんと分かち合いたいと思います。

ネルソン夫妻には9人の娘さんと、息子さんが1人います。固いきずなで結ばれた、幸福な家族です。子供たちがまだ小さかったある晩のこと、両親は皆を集め、父親が話を切り出しました。「たくさんの夫婦が宣教師として伝道に召されていて、伝道部長になると、任地に子供たちを連れて行くんだよ。」そこで父親は少し間を置いて、こう問いかけました。「もしもお母さんとお父さんがそのような責任に召されたら、みんなは一緒に来てくれるかい。」

ネルソン長老は子供たちの答えを待ちました。一人の娘がこう言いました。「お父さん、きっとお父さんは召されないわ。だってわたしは高校でチアリーダーをやっているんですもの！」

年長の子供もこう言いました。「わたしは行けないわ。わたしには大学がある。」

10代の子供たちも口々に話し出しました。すると、年の行かないエミリーが澄んだ心でこう答えました。「お父さんが召されたら、わたしも行く。」

実際にどの子供も行く気持ちはあったのでしたが、エミリーの単純ながら心からの答えに、皆は感動し涙を流しました。

それから年月は瞬く間に過ぎ去り、子供たちは結婚し、孫たちにも恵まれました。エミリーは恐ろしい癌に冒されながらも雄々しく勇敢に闘い抜いて、天に召されました。

ネルソン長老は葬儀の席で話をしまし

た。わたしはこれ以上にすばらしく、愛にあふれたメッセージを聞いたことはありません。長老は救いの計画について話をし、家族が永遠に続くという神の約束について述べました。長老は静かに語りました。「エミリーは少し早く現世を卒業してしまったようです。」どれほど教え諭された瞬間だったでしょう！

ひつぎの後に続く一族の長い列の中に、エミリーのまだ幼い二人の子供たちを腕に抱えて歩く長老の姿がありました。式に参列したすべての人が、いながらにして真理と教訓を学んだのです。わたしたちは皆「天の国を見詰める」ように、霊が鼓舞された思いがしました。

第2は「心の内を見詰める」です。

皆さん、次のことを自問してください。「自分はどこに行きたいか、何になりたいか、何をしたいか知っていますか。」

主はこの質問にこう答えられています。

「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」

聖文や両親の指導、また初等協会、若い女性、日曜学校、聖餐会、セミナーでの熱心なレッスンを受けることは、皆さんを強め、最良の自分になる決意をさせてくれます。

教会でも学校でも目的をもって学びましょう。自分の目標や達成するための計画を書き出してみましょう。目標は高く設定してください。なぜなら皆さんは永遠の祝福を受ける能力があるからです。

人は旅を始める前から、人生で起こるであろうすべてのことを知ることができると期待してはなりません。人生の旅路では、考えていたのと異なる決定や選択をすることもあると予期していません。それでも、東か西かど

ちらに行くべきかも分からず目的も持たずにいると、望んでいたとおりの旅の終着点にたどり着くのを期待することはできません。皆さんは目的にかなった決定を下すべきです。

ルイス・キャロルの有名な物語、『不思議の国のアリス』にあるように、アリスは1本の道を通して不思議の国の森にたどり着きました。するとそこで道は二つに分かれていました。どちらの道にするか決めかねたアリスは、突然木の近くに現れたチェシャ猫に尋ねました。「どっちへ行きたいのかね」と猫が尋ねました。

「分からないわ」

「それじゃあどっちを選ぼうとたいした違いはないね。」

わたしたちはどこへ行きたいかを知っています。はたしてわたしたちは「信仰によって」そこに到達する決心ができていますか。

「き〔て〕わたしに学びなさい」と主は言われました。「わたしに従ってきなさい」と主はお命じになりました。主の優しい招きに肯定的にこたえることで、皆さんは「外に向かって奉仕の手を差し伸べる」という次の目標への準備ができます。

使徒パウロは賢明な勧告を与えています。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」

若い女性の皆さん、皆さんがほかの人々の生活に手を差し伸べ、祝福を与える機会は計り知れないほどあります。例えば、神殿に行く特権について考えてみてください。そこでは亡くなった人々の身代わりとしてバプテスマの祝福をもたらすという奉仕を行うことができます。

ある朝のこと、神殿に向かって歩いていると、死者のためのバプテスマに早期から参加した若い女性のグループを見つけました。髪はぬれていましたが、その笑顔は輝き、心は喜びで満たされていました。一人の少女が神殿を振り返り、心を込めてこう言いました。「今日はわたしの人生でいちばん幸せな一日だったわ。」



生きている人々に奉仕する機会もあります。そればかりか、口で言い表せないほどの喜びを彼らにもたすこともできるのです。世話を必要とする、病気や老齢の人々にとっては養護老人施設が家庭となります。そこに暮らす人々は若かったころを懐かしがります。そして家族との交わりや家庭の安らぎを切望しています。

教会の礼拝行事を行う目的で、ある老人ホームに行ったときの事です。車いすの入居者に聖餐が配られた後、皆さんと同じ年ごろの若い女性がバイオリンの独奏をしてくれました。年老いた姉妹たちは非常に感激して、「お上手」「すばらしい」「あなたが好きよ」と口々に感嘆の声を上げました。そのような気を散らすかもしれない賛辞は、演奏を妨げるところか、彼女の演奏をさらに高いレベルに到達させてくれました。

その日、彼女はわたしにこう言いました。「今まであんなにうまく弾けたことはありませんでした。何かわたしの力以上のものを引き出してくれたようです。天父の愛から来る霊的な力だと思います。」

わたしは彼女にこう言いました。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……」と。

彼女は「そのとおりですね」というようにうなずくと、大切にバイオリンをケースにしまいました。そして喜びの涙を浮かべながら、席に戻って行きました。

願わくはわたしたちが「外に向かって手を差し伸べる」ことを心に留めていられますように。

最後は「前に向かって進む」です。成長と奉仕の機会や勤めに対して躊躇することのないようにしましょう。行動を引き延ばすことは時間が盗まれるのと同じです。日々のチャレンジに立ち向かしましょう。母親の目を見て「お母さん、大好きよ」という優しい言葉をかけたのはどれくらい前のことですか。また皆さんを養うために苦勞して働いている父親についてはどうでしょう。父親も「大好き」というその言葉を子供の口から聞いたらほんとうにうれしいのではないでし



ょうか。

両親のありがたみに慣れっこになっているあまり、自分にとって両親がいかに大切であり、両親にとって自分がいかに大切かを理解できずにいることがあります。これと同様の事例は教室でも発生します。オリンパス中学校で磁石の勉強をした後に行った質問の一つに、『M』で始まって物を拾い集めるものは何でしょう』というのがありましたが、3分の1以上の生徒が「Magnet(磁石)」と言う代わりに「Mother(母親)」と答えたそうです。

皆さんの進歩を阻む現世の試みや妨害に対抗して行動を起こしてください。

皆さんが受ける資格のある祝福に、祝福師の祝福があります。皆さんの両親や監督は皆さんが祝福を受けるのにふさわしい時期を知っています。祝福師の祝福は皆さんの潜在的な賜物についても触れます。この祝福は皆さんにとって、丘の上にそびえる灯台のように危険を警告し、静かで安全な港に案内するものとなるでしょう。それは、そのような祝福を皆さんに与えるために召され、任命された祝福師の口から出る預言の言葉です。

この機会にわたしの心からの感謝を皆さんの両親、教師、指導者にお伝えしたいと思います。彼らは皆さんの良き模範です。彼らは皆さんの人生には失望、落胆の日々、個人的な挫折が襲ってくることを知っています。彼らはその

ような経験を克服し、日の栄えへとつながる生活の道を示してくれるでしょう。人は一度最良のものを経験すると、普通のものではもはや満足できなくなることを覚えておいてください。

何年か前のことになりますが、ジャミ・パーマーという当時12歳の愛らしい少女が両親に連れられて、わたしの事務所に車いすですべて来てくれました。彼女は癌と診断されており、手術が必要でした。あらゆる治療を受けなければならず、快復にもかなりの時間がかかるようでした。そんな緊迫した折りにわたしたちは会いました。父親は夢、希望、計画のすべてがお預けとなってしまう、意気消沈している娘の祝福にわたしも加わってくれるようにと頼みました。わたしたちは皆、涙を流しながら、神権の祝福を施しました。

わたしはそれから、ジャミと家族に続けて会うようにしてきました。あれから何年もたちました。ジャミは生命を脅かす病気に苦しんでいる若者を守る「メイク・ア・ウィッシュ(希望をかなえる)財団」の広報担当者として、奉仕の手を惜しみなく差し伸べてきました。ジャミは美しい若い女性に成長しました。彼女は現在、ブリガム・ヤング大学の学生で、健康に暮らしています。ジャミは精練する者の火をくぐり抜け、寿命を延ばしました。彼女は困難な年月の間、自分を支えてくれたすべての人たちに感謝しています。特に御父に対して、

今、元気で生きていられることを感謝しています。

ジャミの人生における分岐点は、癌の治療を受けていた早い時期にやって来ました。ジャミとワードの青少年たちはティンパノゴス洞くつにハイキングに行く計画を立てました。行ったことのある人なら分かると思いますが、あのコースは険しくて、永久に洞くつにはたどり着けない気すらしてきます。ジャミは残念そうに友人たちに言いました。「そのハイキングなら一緒には行けないわ。」

「どうして」と彼らが聞きます。

「わたしには歩けないもの」とジャミが答えます。

一瞬の沈黙がありました。それから一人がこう答えました。「ジャミ、あなたが歩けないのなら、わたしたちが運んであげるわ。」こうして彼らはジャミを運んで登り、帰って来たのでした。

若い女性の皆さん、皆さんはもう「上を見詰め」「心の内を見詰め」「外に向かって手を差し伸べ」「前に向かって進む」ことができますか。これらを実行するならば、受ける報いは大きく、栄光は永遠のものとなるでしょう。¹⁰

愛する姉妹の皆さん、わたしは証を述べたいと思います。御父は生きていらっしゃる。イエスはキリストです。わたしたちは今日、わたしたちの時代のために召された預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長に導かれています。

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. "Morituri Salutamus," in *The Complete Poetical Works of Longfellow* (1922), 311
2. アルマ37:47
3. 1コリント3:16
4. 教義と聖約88:118
5. Adapted from *Alice's Adventures in Wonderland* (1929), 76
6. マタイ11:28-29
7. ルカ18:22
8. 1テモテ4:12
9. モーサヤ2:17参照
10. 教義と聖約76:6参照

子羊を見いだし、 羊を養う

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

バプテスマを受けた人一人一人が力づけられ、主の福音のめくもりを感じるようになっていくのを見届ける(責任は、わたしたち一人一人にあります。)



愛する兄弟姉妹の皆さん、最初に、この会に出席してくださった皆さんに感謝いたします。また皆さんの多くの働きにも感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。皆さんは主の御業を成し遂げるために、時間や活力そして財力をささげています。献身し、求められることをすべて実行しようとしている皆さんを、主は確かに愛しておられます。

皆さんにお話しするのはすばらしいことですが、同時に重大な責任でもあります。「ヒンクレー大管長は何か新しい、あつと言わせるようなプログラムを発表するのではないか」と思っている方がいるかもしれません。はつき

り申し上げておきますが、そのようなことについてお話しするつもりはありません。全世界の伝道活動に深い関心を寄せている十二使徒会の兄弟たちから、この最も大切な業についてわたしが感じていることを話してほしいと頼まれました。

最終的な数からすれば、この集会は伝道活動に関してこれまで開かれてきた集会の中で最大規模の集会となることでしょう。このタバナクルは満席です。この集会の様子は全世界で働いている5万9,000人近くの専任宣教師全員が見ることになります。さらに、伝道活動に関心と責任を持つ何千人、いや、何十万人の教会役員がわたしたちとともに集まり、あるいはこの会の模様を後で見ることでしょう。前もってお断りしておきますが、この集会はかなり長くなります。わたしは年老いています。今後どれほど生きられるか分かりません。したがって、話す力があるうちに、話すべきこととお話ししたいと思います。これからお話するような長い話を再びできるかどうか分からないからです。間に賛美歌を挟んで、2回お話しします。合わせて約40分間話すことになると思います。あらかじめこうお断りしましたので、くつろいで聞きたいと思う方もいらっしゃるでしょう。気持ちよくお眠りいただいてけっこうです。

先日、わたしはこれまでに会った

人々の中で最も熱意にあふれる改宗者の部類に入の方とお話しました。シカゴで開かれた大きな集会に出席したわたしたちは、ユナイテッドセンターに集まった約2万人の教会員とお会いしました。この会場はバスケットボールチームのシカゴブルズが本拠地としている施設です。同地に滞在中、教会員になって日の浅いランディー・チアストリ兄弟がわたしたちのために車を運転してくれました。シカゴで車に乗っていた長い時間、彼は伝道活動について話し、「教会は世界で最もすばらしい組織です」と言って称賛し、福音と救いの計画が自分の人生で出会った最も偉大な事柄だったと話してくれました。ランディーが教会を知ったのはナンシーとデートをしたときでした。彼はナンシーを夕食に連れて行きました。最初のデートで、ナンシーはお酒を飲まないことを話しました。ワインも飲まないと言いました。何と変わった人だろうと彼は思ったそうです。それは彼女の信仰に反するし、たばこもだめだと言われました。こうして、彼女の宗教が二人の話題になりました。

最初のデートから1年目に当たる日に二人は結婚しました。けれどもランディーはナンシーの宗教を受け入れることができませんでした。彼は幾つかの疑問を解決するのに8年近くかかりました。

二人一組の宣教師が次々に来て、福音を教えました。そしてついに、ランディーは御霊を感じました。そして、昨年の3月にバプテスマを受けました。

ランディーはクモラの丘を訪れ、ノーブーを訪れました。「わたしは17の神殿を訪問しましたが、外から眺めるだけで、中へ入ったことはありません」とランディーは話していました。それでも彼は、行くことのできる神殿をすべて訪れました。彼は今、神殿の中へ入る日が来るのを楽しみにしています。それは4月に、シカゴで実現するでしょう。ランディーは自分自身のエンダウメントを受け、翌日、ナンシーとの結び固めを受けるのです。

ランディーはバプテスマを受けるとすぐに責任を受けました。アロン神権に聖任され、教会員になってから約9か月後

にはメルキゼデク神権の長老に聖任されました。彼は教会を愛しています。福音を愛する気持ちでいっぱいです。福音が生活の中心を占めるようになりました。福音について人々に話さずにはいられません。毎朝毎晩、ひざまずいて、自分の人生に起きた不思議な出来事を主に感謝しています。

わたしはランディーの話を知っている間に、幾つかの大切なことを学びました。第1は、教会員の模範が持つ途方もなく大きな力です。ランディーに関心を持たせたのは、最初のデートでナンシーが酒とワインを飲まないことについて示した毅然としながらも穏やかな態度でした。宣教師たちは何年もの間彼に教えました。しかし、主を愛するように、そして救いの計画を理解できるように、彼の心の扉を開く鍵となったのは、ナンシーだったのです。

わたしが学んだ第2のことは、相手が多少なりとも関心を持っていれば、決してあきらめないことです。ランディーが教会に入るには8年近くかかりました。頭では分かっている、大きな一歩を踏み出すのを恐れていたのです。家族の伝統を捨て、新しく、なじみの薄い、そして理解しにくいものを受け入れようとしていました。

第3は、彼がバプテスマを受けてすぐに責任を受けたことです。監督は、彼が召しを果たしていくにはかなりのチャレンジが伴うことを承知していました。彼はその召しを十分に果たせるでしょうか。監督はそのようなことについてほとんど気に留めませんでした。監督の目に映ったのは熱意にあふれた新しい改宗者でした。そこで、監督は彼が成長できるように責任を与えたのです。

監督は彼には教会内に友達がいることを知っていました。第一はもちろん、奥さんのナンシーでした。そのほかにも質問に答え、彼が理解できないときに忍耐強く耳を傾けることのできる有能な人々が周りに何人かいました。彼は一人にされて、手探りで暗闇を歩むことはありませんでした。彼には、喜んで時間を割いて彼と話し合ってくれる人々がいました。



会員を通して新しい改宗者が見つかる時、伝道活動は成功する。

彼は教会について知るべき事柄をすべて知っているのでしょうか。いいえ、もちろん知りません。彼は絶えず学び続けており、いっそう教会に対する熱意を増し加えているのです。

彼は自分が見いだしたものに夢中になっています。神殿において、さらに素晴らしい祝福を受けたいと願っています。教会員になってから1年足らずの間に、彼の証は強くしっかりしたものになりました。彼はまさに理想的な改宗者だと、わたしは思います。そして彼の熱意は人から人へ広がっています。わたしたちはこのような人をもっと必要としています。そして、そのような人に働きかけるさらに多くの人を必要としています。

人々を教会に連れて来る

この業の初期の時代から、伝道活動には4つの段階があります。

1. 求道者を見つける。
2. 求道者を教える。

3. ふさわしい改宗者にバプテスマを施す。

4. 新会員をフェローシップし、強める。

昨年、教会全体で約30万に上る改宗者のバプテスマがありました。これは実に大きな意義のある数字です。これは2,500人の会員のいるステークが120できる数です。考えてみてください。1年に、新しいステークが120できるのです。素晴らしいことです。しかし、これで十分ではありません。非現実的なことを申し上げるつもりはありませんが、教会員としてわたしたちが一人一人に与えられている義務を理解し、主に助けを求めて心から祈り、全員が一致協力するならば、この数は2倍になります。最初の大きな課題は興味を持つ求道者を見つけることです。宣教師の活動とは単にちらしを配ることだと考えている会員が大勢います。しかし、宣教師の活動を知っている人は、もっと良い方法があることを知っています。それは教会員を通じて行う方法です。教会員が求道者を

紹介すると、そこには即座に対応できる支援体制があります。教会員はこの業が真実であることを証します。求道者である友達の幸せを心から願っています。そして、友達が福音を学んで進歩するのを見て、感動するのです。

実際に教えるのは専任宣教師かもしれませんが、教会員は、宣教師が教える際に家庭を提供することによって支援することができます。教会員はこの業が神の業であることについて心からの証を述べます。会員は宣教師が近くにいないときに、求道者の質問に答えます。会員は、大きな、時には難しい変化を遂げようとする求道者の友達になるのです。

福音は恥とするようなものではありません。むしろ誇りとするものです。パウロはテモテに「あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない」と書き送りました(2テモテ1:8)。福音を分かち合う機会はどこにでもあります。

ウィリアム・ゴームリー博士はテキサス州コーパス・クリスティでステーキ会長を務めました。彼はガソリンを入れるスタンドを決めていました。ガソリンを入れる度に、教会の印刷物を経営者に渡していました。パンフレットや教会の機関誌、あるいは『チャーチニュース』(Church News)など、必ず何かを置いていきました。ガソリンスタンドの経営者は印刷物を読んだときに御霊の力によって改宗しました。前回わたしが調べたところでは、彼は監督として働いていました。

新しい人を教会に連れて来るのは宣教師だけの責任ではありません。教会員が中心になって新しい求道者を見つけるときに、宣教師は最大の成功を収めることができます。

教会のすべての監督が会員たちにとって一つのモットーを掲げることを提案したいと思います。それは「ワード発展のために全員で働こう」ということです。この言い方が文法的に正しいかどうか定かではありませんが、言おうとしていることは間違っていないはずです。

「人々に真理の知識をもたらす力が一

人一人に秘められている」ことを、すべての会員の心に刻み込んでください。会員がこのために努力するよう導いてください。このことについて大いなる熱意をもって祈るよう励ましてください。会員一人一人がいにしへのアルマのように祈るよう導いてください。

「おお、主よ、どうかわたしたちがこの民をキリストにあって再びあなたのみもとに連れ戻すのに、成功を収められるようにしてください。

まことに、おお、主よ、彼らは貴い人々であり、その多くはわたしたちの同胞です。ですから、主よ、わたしたちが同胞であるこれらの人々を再びあなたのみもとに連れ戻すことができるように、わたしたちに力と知恵をお与えください。」(アルマ31:34-35)

わたしは、皆さんたち宣教師のことが心にかかっています。皆さんは伝道活動を一人で行って、立派に成し遂げることはできません。ほかの人々の助けが

必要です。その助ける力は会員一人一人が持っています。けれども、皆さんはできる限りのことをしなければなりません。熱心に伝道しなければなりません。皆さんが会員から紹介を得るために働かないときは、街頭伝道やほかの方法によって、自分でそのような人を見つけるのです。

先日わたしは、親しい友人の葬儀で話をする機会がありました。何年前かに彼は伝道部長として働きました。伝道地に着いたとき、彼は自分にその責任を果たす力がまったくないと感じました。前任者は非常に優れた人で、卓越した能力を持ち、優秀な指導者であり、非常に有能な伝道部長でした。そのような人の後任に召されたのでした。

この新しい伝道部長は伝道部を引き継いでから、宣教師たちとの集会を開くために伝道部内を回って、このように言いました。「わたしは若いころ、伝道に出る機会がありませんでした。ですが

実際に教えるのは専任宣教師だが、会員は主の業の神聖さに対する心からの証を述べることによりそれを助けることができる。



ら、皆さんがどのようなことを経験しているかを知りません。でも全力で働き、最善を尽くしてください。祈りを忘れずに、一生懸命働いて、刈り入れは主にゆだねてください。」

そのような精神が伝道部中にみなぎり、愛が一人一人に差し伸べられたことによって、まったく新しい気持ちで全員が働き始めました。会員たちは宣教師を支援しました。そして、1年で改宗者の数は2倍になりました。

次のモロナイの言葉は宣教師と改宗者に向けられたものです。「あなたがたは、ふさわしくないままでバプテスマを受けることのないようにしなさい。ふさわしくないままでキリストの聖餐を受けられないようにしなさい。むしろあなたがたは、ふさわしい状態ですべてのことを行い、しかも、生ける神の御子イエス・キリストの名によって行うようにしなさい。このように行い、最後まで堪え忍ぶならば、あなたがたは決して追い出されることはないであろう。」(モルモン9:29)

教会に入るときにふさわしさについてジョセフ・F・スミス大管長はこうに記しています。「人はバプテスマを志願する前に教えを受けなければならない。では、何を教わるのだろうか。それは、神とイエス・キリストと聖霊を信じる信仰であり、祈りの効果を信じる信仰、イエスが教えられた福音の儀式と原則を信じる信仰、この福音と福音にまつわるすべての力が預言者ジョセフ・スミスに回復されたことを信じる信仰、預言者ジョセフが主の御手に使われる者となって設立した教会を信じる信仰、生ける神が承認しておられる僕として神権者を信じる信仰、現代に与えられた啓示を信じる信仰、末日聖徒に要求される業が成果を上げることを信じる信仰、什分の一の原則そして神の律法で規定され、物心両面で求められている事柄を信じる信仰、そして最後に主の御前に義にかなった生活を送ることを信じる信仰である。」(“Baptism,” *Improvement Era*, January 1911, 267-68)

会員としての責任を果たす

さて兄弟姉妹の皆さん、わたしたち

は伝道活動を宣教師だけに行わせることも、手伝うこともできます。もし、宣教師だけに行わせるとすれば、彼らは来る日も来る日もドアをノックすることになります。そしてわずかな収穫しか得ることができないでしょう。あるいは、教会員としてわたしたちは、求道者を見つけ、そして教えることについて宣教師を助けることができます。

これはだれの責任でしょうか。ステーキ会長とその評議会から順にお話ししたいと思います。各ステーキにはステーキ伝道部があり、ステーキ伝道部長がいます。これは彼らの責任であって、ステーキ会長による全般的な指示を受けながら、求道者を見つけ、彼らを励ますという務めを絶えず実行していきます。求道者を見つけるための働きは、すべての教会員が行います。

教会のすべてのステーキにおいて、福音のメッセージに耳を傾ける人々を見つける機会に気づく能力を高めてください。これを行うに当たって、わたしたちは攻撃的になる必要も、尊大になる必要もありません。わたしたちが携えることのできる最も効果的なちらしは、わたしたち自身が善良な生活を送ることです。この業に携わっていると、わたしたちの生活は改善されます。なぜならば、わたしたちが真理に導こうとしている人々の進歩の妨げになるようなことを行ったり、言ったりしないように注意するようになるからです。

ステーキ会長と地方部長の皆さん、ステーキや地方部で求道者を見つけ、友達になることについて、あらゆる義務と管理責任を引き受けてください。監督と支部長の皆さんも、ワードや支部において同様の責任を引き受けてください。皆さんは、この働きについて主の前に神聖な義務を負っています。自ら模範を示し、靈感による指導の下でほかの人々が実行できるようにしてください。これを行う能力と意志があなたに備わっていることについてわたしたちは全幅の信頼を置いています。

教会のあらゆるレベルで、伝道活動への熱意をかき立てる必要があります。時々聖餐会でこのテーマを採り上げてく

ださい。神権会と扶助協会の集会で毎週、伝道活動について話し合うようにしてください。若い男性と若い女性は、この最も大切な業を助ける方法について話し合い、実行計画を立ててください。初等協会の子供たちも、助ける方法について考えてください。子供が初等協会に誘われたことがきっかけになって、教会に入った親はたくさんいます。わたしの孫娘には教会員でない幼い友達があります。二人は連れ立って教会へ行きます。ある日、この女の子は、悪意のない母親からこう言われました。「あなたはモルモンのようにお祈りするのね。」

ワードとステーキの評議会では、ワードの会員が支援している求道者の状態、また最近教会に入った改宗者一人一人の状態を検討することを議題に加える必要があります。

これらが実行されると、宣教師は忙しくなりますが、幸せです。生産性は向上します。宣教師に対してこのような啓示が与えられています。

「あなたがたはわたしの御霊の力をもって出て行き、二人ずつ組んでわたしの名によってわたしの福音を宣べ伝え、ラッパの音のように声を上げ、神の天使のようにわたしの言葉を宣べなければならない。」

また、あなたがたは出て行って水でバプテスマを施し、『悔い改めなさい。悔い改めなさい。天の王国は近づいているからである』と言わなければならない。」(教義と聖約42:6-7)

主はさらにこのように言われました。「また、行って王国のこの福音を宣べ伝え、あらゆる点で引き続き忠実である者は、心が疲れること……もなく、体や手足や関節が疲れることもない。髪の毛一筋も、知られずに地に落ちることはない。また、これらの者は飢えることも、渇くこともない。」(教義と聖約84:80)

主は続いてこう言われました。「そして、あなたがたを受け入れる者がだれであろうと、わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立つて行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがた

の心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約 84:88)

宣教師が教会員にリフェローを求めるのは適切なことです。リフェローを依頼する宣教師は、それを受ける見込みがはるかに高くなります。

教会員からのリフェローについての意識が薄らいでいるため、多くの地域で教会員によるリフェローの数が減少しています。例えば、アメリカ合衆国とカナダでは1987年に、教会員からのリフェローによる求道者は42パーセントでした。ところが1997年にはその数が20パーセントまで落ちています。同様の減少傾向は、世界各地で見受けられます。

兄弟姉妹の皆さん、この傾向を逆の方向に向けなければなりません。この大切な業を正しい優先順位に戻す必要があります。主はこの非常に大切な業に力を尽くす人々を祝福してください。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約 18:15-16)

ジョセフ・スミスはこのように宣言しています。「あらゆることを述べてきたが結局、最も偉大にして最も重要な義務は福音を宣べ伝えることである。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, sel. Joseph Fielding Smith [1976], 113)

さらにこのように述べています。「大いなることが成し遂げられるかどうかは個人の努力にかかっていること、末日の偉大な業を達成するために、聖なる御霊とともに働くよう召されていることを聖徒たちに悟らせなさい。」(Teachings, 178)

歴代の大管長はこの大切な業について

それぞれ説教の中で採り上げています。

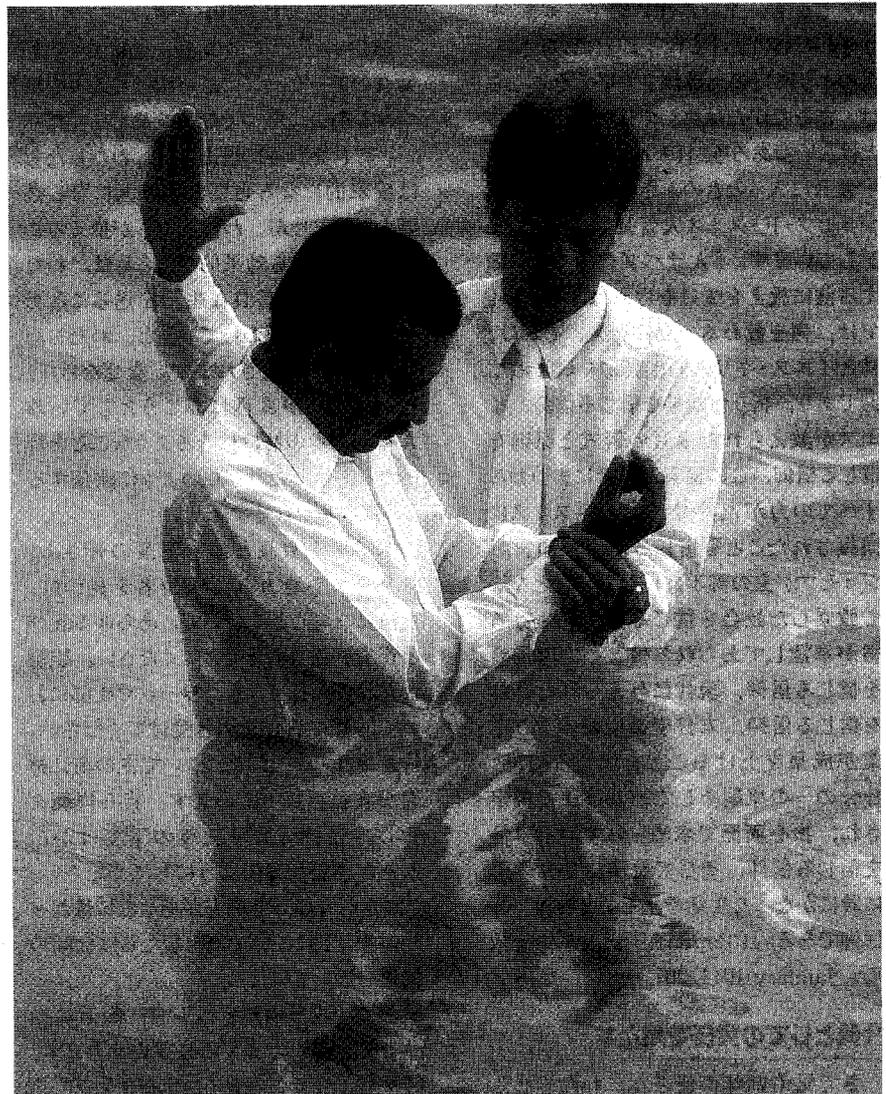
わたしたちが携わっている業は大いなる業です。わたしたちは福音に耳を傾ける人々を見つけるというすばらしい責任を受けています。主は、すべての造られた者に福音を教えることを戒めとしてわたしたちに与えておられます。そのために、専任宣教師とステーク宣教師全員が最善の努力をする必要があります。すべての監督と副監督、そしてワード評議会の全員が、最善の努力をする必要があります。また、すべてのステーク会長、ステークの評議会、特に会員・宣教師調整評議会は最善を尽くしてこの業に関心を向ける必要があります。

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちがこの大きなチャレンジに立ち向かうときに神の祝福がありますように。わたしたちはこのチャレンジを無視することも、逃れることもできません。立ち向かわなければなりません。機会は山ほどあります。わたしたちはそれを成し遂げることができます。そして主は、努力するわたしたちを祝福してください。

新会員を強める

新しい改宗者を見だし、その人がバプテスマを受けると、わたしたちはその人をフェローシップし、この御業が真実であるという彼らの証を強めるという

新しい改宗者にとって、バプテスマは喜びに満ちた出来事である。しかし、彼らはわたしたちの愛とフェローシップを必要としている。



チャレンジを受けます。わたしたちは彼らが教会に入り、やがて去って行くままにしてはなりません。教会に加入するのはとても重要なことです。改宗者は皆、キリストの御名を受け、戒めを守るといふ聖約をします。しかし、教会に来ることは、一つの冒険です。改宗者を迎える温かく力強い会員の助けと、愛と関心に満ちた態度がなければ、彼らは自分が踏み込んだ道に不安を感じ始めることでしょう。改宗者を歓迎し、行くべき道に沿って導こうとする親しみのこもった手と歓迎の心がなければ、彼らは道をそれて行くかもしれないのです。

わたしたちが伝道の業の実を大切に保たなかったなら、伝道活動を行っても何の意味もありません。伝道と定着、この二つの働きは不可分のものであり、改宗者は貴い存在です。すべての改宗者は神の息子と娘だからです。会員となった人々が定着するように見守るのは、わたしたちの急務なのです。救い主の言葉に倣えば、宣教師が全世界の人をバプテスマに導いたとしても、彼らが教会に定着しなければ、何の得になるでしょうか(マルコ8:36参照)。

先日わたしはとても興味深い手紙を頂きました。1年前に教会に加入したある女性からの手紙です。こう書かれています。

「教会にたどり着くまでの道のりはユニークで、チャレンジに満ちたものでした。この1年間はわたしの人生でいちばん厳しいものでしたが、最も報いの多い1年でもありました。新会員としてわたしには、これからも毎日チャレンジが続くでしょう。」

彼女は教会に加入したとき、ワードの指導者からの助けを感じられなかったと言います。監督は新会員の彼女に対して無関心に思われました。疎外感を抱いた彼女は、伝道部長のところに行ってみました。伝道部長は彼女に様々な良い機会を与えてくれました。

彼女はこう言っています。「教会の人は、新会員となることがどういうことなのか分かっています。ですから、どのように新会員を助けたらいいかなど分かるはずがありません。」

兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんがもし新会員の気持ちを理解していないとしたら、それがどのような気持ちなのか想像してみるようにお勧めします。それはたとえようもなく寂しいという気持ちかもしれません。幻滅や恐怖という気持ちかもしれません。この教会に属しているわたしたちは、自分で想像する以上に、この世の人とは掛け離れた存在です。この女性はこう書いています。「わたしたちは、求道者という立場から、教会員という立場に変わったときに、自分がまったく異なる世界、独自の伝統、文化、言葉を持つ世界に足を踏み入れてしまったことに驚きます。わたしたちは、この新しい世界を旅するときに導きを求めることのできる人や場所がないということに気づきます。最初のうち、この旅は興奮に満ちたものであり、失敗しても楽しくさえありますが、次第に欲求不満が募り、ついには怒りへと変わっていくのです。この欲求不満と怒りの段階で、新会員は去って行きます。そして、元いた所へと戻って行きます。そこでは、自分が何者なのか分かりますし、人に貢献し、言葉を交わすこともできるのです。」

以前にも話しましたが、もう一度繰り返します。新しい改宗者はだれでも3つのことを必要としています。

1. 常に頼ることのできる、自分を支えてくれる教会の友人、自分の質問に答えてくれ、自分の問題を理解してくれる教会の友人。

2. 責任。この教会のいちばん大きな特徴は活動です。それは、わたしたちを成長させてくれる過程です。主に対する信仰と愛は、腕の筋肉に似ています。筋肉は使えば強くなります。使わなければ弱くなります。どの改宗者にも責任を与えるべきです。監督はその改宗者がまだ責任を受けるにふさわしくないと感じるかもしれません。チャンスを与えてください。主が皆さんを召されたときのリスクを考えてみましょう。

もちろん新しい改宗者はすべてを知っているわけではありません。時には間違いを犯すこともあるでしょう。それは問題ではありません。わたしたちはだれ

でも間違いを犯します。大切なのは、活動からもたらされる成長なのです。

この責任を与えるという過程の中で、新しい改宗者が男性であれば、アロン神権に聖任されるというのは正しくかつ非常に大切なことです。やがてその男性は何か月も待つことなくメルキゼデク神権に聖任されることでしょう。長老定員会のフェロシップも受けるでしょう。彼は世界中に広がる大きな神権者のグループ、すなわち主を愛し御業の推進を願う信念と信仰に満ちた男性グループの一員となるのです。

3. すべての改宗者は「神の善い言葉で養われ」なければなりません(モロナイ6:4)。改宗者にとって欠かせないのは、神権定員会や扶助協会、若い女性、若い男性、日曜学校、あるいは初等協会などに参加することです。また、聖餐会に出席して聖餐を取り、バプテスマのときに交わした聖約を新たにしよう励ましを受けなければなりません。

最近わたしは、ある夫婦の話を自分の所属するワードで聞く機会がありました。男性の方はというと、監督の責任も含め、教会の中でいろいろな責任を果たしてきた人でした。この夫婦に与えられたいちばん最近の責任は、夫のいない母親とその子供たちのフェロシップをするという責任でした。その責任はそれまでに受けた教会の責任の中で最も楽しい責任だ、とこの男性は語っていました。

この若い女性には質問が数多くありました。そして恐れと不安に満ちていました。失敗したり、的外れな発言をして恥ずかしい思いをしたり、人から笑われたりするのをとても恐れていました。この夫妻は、忍耐強くその母親とその子供たちを教会に連れて来ては、一緒に座り、彼らが恥ずかしい思いをしないように見守りました。まるで護衛のようでした。そしてこの夫妻は1週間に1度、夕方に彼らの家を訪問し、さらに福音について教えたり、彼らの様々な質問に答えたりしました。まるで羊飼いが羊を導くように、この夫妻はその小さな家族を導いたのです。後にこの家族は事情があって別の市へと引っ越すことになっ



わたしたちが温かく力強い握手を交わしながら改宗者とあいさつし、彼らに愛と関心を示し、親しみを込めて話しかけ、主の道に沿って導くことをしなければ、彼らは道をそれてしまうかもしれない。

たとき、兄弟はこのように言いました。「わたしたちはこの女性と連絡を取っていくつもりです。わたしたち夫婦は彼女に深く感謝しています。彼女はようやく教会に落ち着いてきましたので、もう不安はありません。彼女とかかわれたことは、実にすばらしい喜びでした。」

もしわたしたちが教会に入って来る人たちにもっと関心を向けるなら、去って行く人はごくわずかしかない、とわたしは確信しています。彼らはまだ完全に改宗していないかもしれません。レッスンを6回聞いただけで、どうやって完全に改宗できるでしょうか。まだ彼らは十分に教会員らしい振る舞いを身に付けていないかもしれません。しかし彼らは新しい価値観や機会に目覚めているのです。彼らは自分が神様の息子、娘であると教えられてきました。そして御父と御子と聖霊の御名によってバプテスマを受けたのです。それから教会員に確認され、聖霊の賜物たまものを受けました。

先日カナダを訪れましたが、様々な訪問先の一つであるレジナに滞在していたときのことです。わたしたちはサスカチワン・サスカトゥーンステークのD・ローレンス・ペナーステーク会長に迎えられました。このステーク会長はすばらしい方で、優秀な管理能力を持っています。彼は20歳のときにバプテスマを受けました。バプテスマを受けたことは、彼にとってはとてつもなく大きな飛躍でした。教会員たちが宣教師に彼の名前を紹介したのが始まりでした。宣教師はすぐさま彼の家を探し出し、立ち寄ってみました。そして彼と語り合い、教え、バプテスマを施しました。宣教師は彼を力づけ、地元の教会指導者もそのようにしました。やがて彼は神権を授かり、責任を与えられました。1年後、彼は専任宣教師に召されて、日本で伝道しました。そして霊的に強められて、帰還したのです。これまで多くの人々に力づけられ、彼は今日この偉大なシオ

ンのステークの管理大祭司となっています。彼は夫であり、善良な子供たちの父親です。そして家族全員が活発です。彼は改宗者として教会に入る人にとって、そして定着し、やがて指導者になる人にとって、模範となっています。

長期にわたってフェロウシップを続ける

さて、宣教師の皆さん、皆さんにも改宗者を教会に定着させる責任があります。改宗した彼らを訪問し続けることはできないかもしれません。しかし時々手紙を書いて、彼らを力づけることができます。宣教師である皆さんにお願いします。自分がバプテスマに導いたすべての男性、女性、子供の名前と自宅の住所を、自分の聖典に記録するようにしてください。皆さんの書く字はつたないかもしれませんが、時折手紙をもらえば、彼らは元気づけられ、慰められ、喜びを思い起こすでしょう。帰還した後も、彼らを忘れないでください。そしてそれ以降もずっと、彼らの信頼に値するような生活をしてください。そして時折手紙を書き、皆さんの愛を伝えてください。

宣教師の皆さん、繰り返しますが、だれかにバプテスマを施しても、その後すぐに彼らを教会から離れさせてしまっただけではなりません。それでは一体何になるのでしょうか。これまで一生懸命時間をかけて努力してきたかもしれません。そしてその人に福音を教えるに当たり、断食して祈ってきたかもしれません。しかし、もしその人が教会に定着しないならば、それらの働きすべては無駄であったということになります。それまでの過程すべては、何の価値もなくなってしまいます。バプテスマを受けるにふさわしい求道者は皆、救われるにふさわしい改宗者なのです。

七十人のブルース・ポーター長老は次のような経験を話してくれました。「わたしは25年前、宣教師としてドイツのブッパータル市に巡回宣教師として着任しました。それは前任の宣教師が数家族と何人かの個人にバプテスマを施すという、驚くべき成功があった直後の

ことでした。100人近い会員がいたその支部は、そのバプテスマのおかげでかなり人数が増えました。わたしと同僚は宣教師として、この新会員たちを教会になじませ、フェロシップすることに力を注ごうと決心しました。生涯彼らが支部の活発な会員としてとどまるためにです。新会員のためのレッスンや、自分たちで付け加えたレッスンを教えました。また宣教師が教える福音の基礎クラスに1年間登録しました。さらに彼らが確実に召しを受けるように、また彼らが活動や会員からのフェロシップを通して確実に支部になじむことができるように、支部の指導者と協力しました。そして彼らが互いに知り合いになれるよう、またほかの求道者を教える手助けができるように、調整しました。それによって、お互いの間にきずなが生じ、将来もそのグループが活発でいられるようにするためにです。つまり彼らがバプテスマを受けてから6か月間以上、わたしたちは確実に改宗者たちの証が強まり、そして教会になじめるよう、できるだけのことをしたのです。

25年たった今も、それらの家族と個人ほとんど全員は、活発で忠実です。彼らの子供の多くが伝道に出て、神殿で結婚しています。現在ではその2世や、3世までもが教会で活発に集っています。活発でなくなってしまう唯一の夫婦には娘がいて、その娘は今も活発であり、神殿で結婚しています。これは一例にすぎないのですが、わたし自身の経験から、宣教師が教会員と協力して、新会員を教会に解け込むのを助けるために時間を使うなら、長い目で見たとき、その努力は豊かに実を結ぶものであると確信しています。](Letter to Elder Richard G. Scott)

評議会の重要性

これは達成可能なことについての力強い証です。しかし、宣教師は伝道をおろそかにしてまで会員のフェロシップを助ける必要はありません。この二つの業は同時にできることです。皆さんには聖徒全員がついています。とりわけ定期的な開かれる会員・宣教師調整評議

会があり、そこではステーキ内の伝道に関する問題について考える機会があります。特に、教会に入って来たばかりの新会員の進歩状況を把握し、報告することができるのです。伝道部長もしばしばその会に出席してくれることでしょう。

この評議会の指示の下に、新会員はレッスンをさらに6回受け、信仰の基盤をしっかりと築きます。

ワード評議会を開く監督の皆さん、その評議会で改宗者の状態について話し合うことは、会を管理するうえで最も重大なことになるかもしれません。監督は厳しいルールに縛られてはいけません。柔軟に対処してください。監督には祈りの答えを得られる資格、そしてこの件に関して主から靈感と啓示を受ける資格が与えられています。わたしは、教会に入ってくる人々に無関心な監督がいると聞くと、がく然とします。教会に入ってくる時点では、まだあまりぱっとしない人たちかもしれません。しかし正しく扱われれば、彼らは福音によって洗練されていきます。服装、振る舞い、行動は良くなっていくことでしょう。わたしたちは皆、奇跡が起こるのを目の当たりにしてきました。大きな機会には、同時に大きなチャレンジが付きものなのです。

愛する兄弟姉妹の皆さん、責任はわたしたち一人一人にあります。ステーキ会長会、高等評議会、監督会、日曜学校会長会、初等協会会長会、若い男性会長会、若い女性会長会、扶助協会および神権定員会会長会が責任を持って、バプテスマを受けた一人一人が力づけられ、主の福音のぬくもりを感じるようになっていくのを見届けなくてはなりません。わたしたちが進歩していることをお伝えできることを、わたしはうれしく思います。しかし同時に、なすべきことは山ほどあります。

何と栄えある業でしょうか。この業は、まさに奇跡で満ちあふれています。これまで目にしてきた奇跡について語るならば、一晩中かかってしまうことでしょう。

兄弟姉妹の皆さん、ワード、ステーキ、地方部、支部において、主の軍勢になってください。この業への熱意を抱

き、あらゆる国民、部族、国語の民、民族に福音を伝える宣教師を助けたいという強い望みをもってください。「畑はすでに白くなり刈り入れを待っている……。」(教義と聖約4:4)主は繰り返してそのように宣言なさいました。その御言葉どおりに信じるべきではないでしょうか。

教会が組織される以前にも、伝道の業は行われていました。そのとき以来、聖徒が経験した多くの苦難にもかかわらず、伝道の業は続いてきたのです。

わたしたち一人一人が心の内に決心して立ち上がりましょう。地上に住む神の息子、娘に不死不滅と永遠の命をもたらすという天の御父の栄えある業の一助となるために、新しい機会を受け入れ、新しい責任感を抱き、新しい義務を引き受けましょう。

これは神の聖なる御業です。この教会は、主の教会であり、王国です。聖なる森で起きた示現は、まさにジョセフが語ったとおりに現実に起こりました。わたしたちは現在、この最も神聖な出来事の真実性をさらに証するために、この尊い地を見下ろす新しい神殿を建設中です。最近わたしは、この新しい神殿の建築地を決めるために雪の中にたたずんでいました。そのとき、聖なる森で起きたことの重要性に対する真実の理解がわたしの心にもたらされました。『モルモン書』は真実の書物です。そこには主イエス・キリストについて証されています。主の神権は回復され、わたしたちの中に存在します。天の使いによってもたらされた神権の鍵は、わたしたちの永遠の祝福のために行使されています。これが皆さんとそしてわたしの持つ証です。わたしたちはこの証を人々と分かち合わなければなりません。わたしはこの証と祝福と愛を皆さん一人一人に、イエス・キリストの御名によって残します。アーメン。

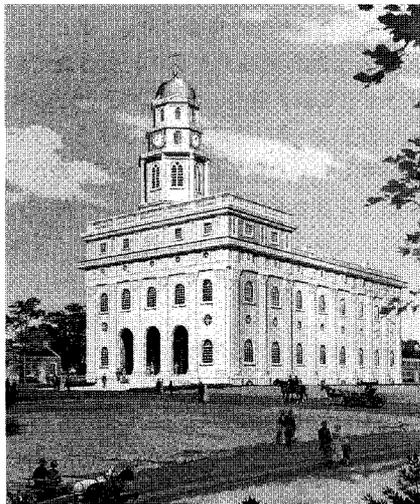
(本記事は、1999年2月21日、ソルトレーク・タバナクルから中継された衛星放送を基に書かれました。)

チャーチ・ニュース

再奉献される ノーブー神殿

教会の2番目の神殿であるノーブー神殿は、1846年に奉献された。神殿はイリノイ州のミシシッピ川西岸に建っていたが、初期の教会員が町を追われた後、1848年に放火によって崩壊した。その後、竜巻により外壁が崩れ、おびただしい数の石灰岩のブロックが後にその地に移住して来た人々によって持ち去られた。当時の建造物で現存するのは、わずかな数の装飾用の石のみである。

1999年4月の総大会の閉会に当たり、ゴードン・B・シンクレイ大管長は次のような思いがけない発表をした。「ノーブー神殿を再建することを発表したいと思えます。ある教会員とその家族の多大な献金によりこれが可能になりました。この方に感謝を申し上げたいと思えます。完成にはしばらくかかると思いますが、すでに設計が始まっています。この神殿はやや孤立した場所に位置することから、ほとんどの期間、参入者はあまり多くないでしょう。しかし夏の期間はかなり多忙を極めることが予測されます。この新しい建物は、ミシシッピ川の



岸辺に最初に神殿を建設した人々を追悼するものとなるでしょう。」

現在、教会が所有する1.6ヘクタールの神殿の敷地は景観が整えられ、その周囲は鉄のさくで囲まれている。また、当時の神殿の基礎部分と地下の部分が掘り出され、観光で訪れた人々も見ることが出来る。昨年、教会は神殿の敷地の西側に長年にわたって運営されていたカトリックの修道院と学校のあった土地、約3ヘクタールを購入した。教会は歴史に残るノーブーに数多くの開拓者の建物を再建し、大きな訪問者センターを有している。

すべての儀式が行われたのがわずか8週間だったノーブー神殿には60の部屋があり、薄い石灰岩でできた壁の厚さは1から2メートルで、高さ50メートルの塔が一つあった。神殿の鐘は、手車でソルトレーク盆地に運ばれ、現在テンブルスクウェアに設置されている。□



七十人 アデマール・ダミアニ 長老

長年にわたって教会の指導的立場を務めた後、七十人第二定員会に新たに召されたアデマール・ダミアニ長老は、中央幹部の指導者から指示を

受けるのに慣れていません。今度は自分自身が、中央幹部として勧告を与える立場になったことについて、心構えを調整することになります。

「この召しを受けることになったのは、主の助けがあればこそでした」と長老は語ります。「そして、主の助けがなければ、この働きを果たすことはできません。」

ダミアニ長老は、この召しを受けるまでは地域幹部七十人でしたが、ブラジル南地域会長会第二副会長の責任は引き続き行います。ダミアニ長老はこれまで、伝道部長、サンパウロ宣教師訓練センター副所長、地区福祉エージェント、ステーキ副会長、高等評議員、監督などを歴任してきました。

ダミアニ長老はブラジル出身で(1939年12月18日生まれ)、後に結婚相手となったバルキリア・ブロンジーから福音を紹介され、1961年5月にバプテスマを受けました。彼女は1961年3月にバプテスマを受けました。二人は1963年3月に結婚し、2人の子供と5人の孫に恵まれています。

彼の奥さんは霊的にも精神的にも全面的に支援してくれて、そのほか多くの長所がありました。そのため、自分の務めが果たせたと、ダミアニ長老は言います。

ダミアニ長老は長年ビジネスの分野に携わってきました。退職時は、ビジネス向けのカスタムソフトウェアを専門に扱う、セダ・テクノロジー社(SEDATechnologia)の共同経営者でした。ダミアニ長老は、仕事で培った管理とリーダーシップの経験が、急速に成長しつつあるブラジルの教会を担う指導者を訓練する助けになることを願っています。

さらに重要なのは、イエス・キリストを証する責任が増したことだと、ダミアニ長老は言います。ダミアニ長老の証は、救い主に対する『モルモン書』の証を通して初めて学んだ真理の上に確立されています。そして、それは教会での奉仕を通して、特に伝道部長としての奉仕を通して(ブラジル・クリティバ伝道部、1995-98年)、福音が宣教師と、彼らが教えた求道者の生活を変えるのを見て強まったのです。

ダミアニ長老は次のように証を分かち合っています。「ジョセフ・スミスが預言者であったこと、そしてゴードン・B・ヒンクレーが今日の預言者であることに、疑いの余地はありません。」□



七十人
スティーブン・B・
オーブソン長老

「わたしたちは、シオンを建設するためにここにいるのです」と新たに七十人第二定員会会員となったスティーブン・B・オーブソン長老は言います。この召しを受けたとき、彼はアルゼンチン・ブエノスアイレス南伝道部の部長として働いていました。「教会員はだれでも、このことを実現させるために働かななくてはなりません。そして、わたしは王国の建設を助けるために最善を尽くすつもりです。」

1936年7月9日にオレゴン州グラス・バレーで、メリル・オーブソンとマルバー

タバナクルの外では、4月の名残雪が訪問者たちを歓迎した。



グ・オーブソン夫妻のもとに生まれたスティーブンは、4人中3番目の子でした。その後オレゴンで育ち、後にブリガム・ヤング大学へ進学し、1956年から1959にかけてはメキシコ北伝道部で働きました。財務と銀行業務について学ぶためブリガム・ヤング大学に戻ると、そこでアリゾナ州テンピ出身のディキシー・ランドルと出会いました。二人は1960年9月7日に、アリゾナ神殿で結婚しました。1961年にブリガム・ヤング大学を卒業すると、夫妻はテンピに移りました。

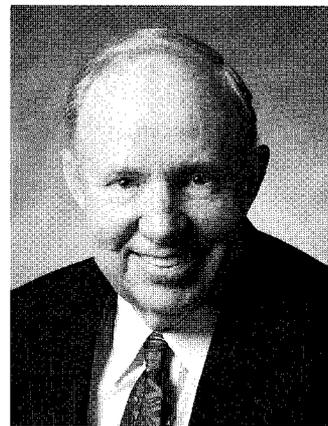
オーブソン兄弟は就職してから最初の10年間は、財務および銀行業務に携わりました。1970年に、合衆国で最初の全室スイートのホテルチェーンである、グラナダ・ロイヤル・ホームテルズ (Granada Royale Homotels) の創始者のもとで働くことになりました。このチェーンは後にエンバシー・スーツ (Embassy Suites) となりました。1985年に、オーブソン兄弟は独立してスーツ・シンキング・インク (Suite Thinking, Inc.) というホテル開発とマネージメントの会社を設立しました。

現在オーブソン夫妻はカリフォルニア州サン・フアン・キャピストラノに在住し、6人の息子と、15人の孫に恵まれています。男の子ばかりの家族だったので、オーブソン一家はいつもスポーツや野外活動を楽しみました。25年以上にわたる楽しい思い出には、パウウェル湖で過ごした家族休暇とユタのスキー旅行があります。息子たちは全員、伝道に出ました。

オーブソン家は悲痛な経験も味わい、2歳半の子供を亡くしました。今でも小

さな子供たちの苦難を認識するオーブソン兄弟は、多くの活動の合間に時間を見つけて、インドのマドラスにある障害を負った子供たちの施設、パスウェイ (Pathway) に携わっています。

「天父がわたしに備えられた計画は、わたしが従順に従う必要のあるものだという強い確信があります」と、監督、ステーク宣教師、ステーク高等評議員、そしてカリフォルニア州サンディエゴ神殿の儀式執行者を歴任したオーブソン長老は言います。「この召しは主から授かったもう一つの祝福、機会であると思います。そして全力を尽くしてこの務めを果たすつもりです。」□



七十人
デビッド・R・
ストーン長老

先日、七十人第二定員会に召されたデビッド・R・ストーン長老は、1936年6月16日にアルゼンチンのブエノスアイレスで生まれました。そして家庭では英語、学校ではスペイン語を話すという子供時代を過ごしました。10歳のときに両親が離婚し、ストーン長老は10代のころ、寄宿学校で生活し、夏はコルドバ近郊にある牛の放牧場で過ごしました。

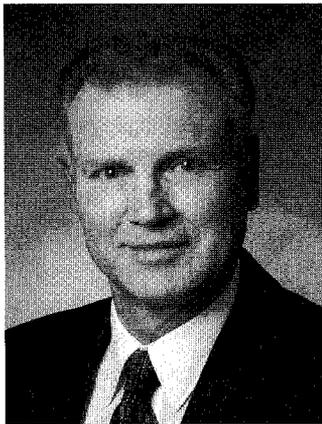
1951年、母親がバプテスマを受け、その後、子供たちがブリガム・ヤング大学に通えるよう、ユタ州プロボに移りました。デビッドは18歳のときに、ブリガム・ヤング大学に入学しました。病院に

通院していたある日、デビッドは医師に求道者であることを話しました。すると医師から、いつから福音を学んでいるか尋ねられ、「2、3年前からです」と答えました。すると医師はデビッドを見詰めて言いました。「決断を引き延ばしている、間に合わなくなることもあるんだよ。」その言葉が心に残り、デビッドは答えを得るために祈る決心をし、それから6週間後にバプテスマを受けました。

ストーン長老はスペイン系アメリカ人伝道部で伝道し、ブリガム・ヤング大学を卒業後、オハイオ州シンシナティで就職しました。ある日帰郷した際、ストーン長老はロザリー・エレクソンと出会いました。最初のデートの後、すでに互いに好感を抱いていました。それから9日後、ストーン長老は飛行機での移動の際、シカゴからロザリーに電話をかけ、二人はその場で婚約しました。二人は1966年2月にソルトレーク神殿で結婚しました。

1967年、ストーン長老はアルゼンチンのジレット社(Gillette Company)でマーケティングマネージャーとなり、同社に16年間勤務しました。その間、ストーン夫妻には6人の子供が生まれました。長男エリックはニューヨーク、長女アンジェラはアルゼンチン、次女ジュリーはペルー、三女キャロラインはボストン、次男マイケルはアルゼンチン、三男ジョナサンはイギリスでそれぞれ生まれました。またこの間ストーン長老は4か国、6つのワードの監督会で働きました。また、ステーキ高等評議員、ステーキ会長会、地区代表の任も果たしました。

1986年、ストーン長老は転職し、ブラック・アンド・デッカー社(Black & Decker)に入社しました。1994年に定年を迎え、1996年にストーン夫妻は、ドミニカ共和国サント・ドミンゴ西伝道部を管理するよう召されました。ストーン長老はこのように語っています。「それまでわたしが仕事で管理職に就いていたのは、伝道部長として働くための準備にすぎなかったのです。わたしたちはこれまで常に、主から求められたことは喜んで行うようにしてきました。」□



七十人 H・ブルース・ ストゥーキ長老

H・ブルース・ストゥーキ長老は、シェリル夫人と6人の子供たちとの人生を振り返りました。「わたしたちは行うことは何でも、みんなで一緒に行ってきました。妻は子供の名前と家族のモットーをあしらった家族の旗を作りました。そのモットーは『家族で一緒に行く』です。魚釣り、पोर्टこぎ、狩り、作業、そしてまき集めも一緒にしました。そして一生懸命働くのですが、楽しみながら行いました。そして最後にはお楽しみとして、アウトドア料理やアイスクリームパーティーをしました。」

ストゥーキ長老は七十人第二定員会に召されたとき、イギリス・マンチェスター伝道部の部長として働いていました。ストゥーキ長老は次のように話を続けました。「伝道部にも同じスローガン掲げました。宣教師は皆自分たちの家族であり、息子、娘なのです。宣教師、地元の指導者、会員が主の業を一緒に行ったのです。」

1937年12月1日、ストゥーキ長老はユタ州セントジョージで生まれ、近隣の農村であるサンタクララで育ちました。1955年、シェリル・コックスと結婚し、1957年にセントジョージ神殿で結び固めを受けました。現在、夫妻は17人の孫に恵まれています。ストゥーキ長老はディキシーカレッジを卒業後、ユタ州立大学で経営学の学士号を取得しました。その

後食品流通業界に携わり、後に合衆国西部で宅地開発業者として働きました。

ストゥーキ長老は次のように語っています。「組織や計画する方法について知っていたので、教会での責任に役立ちました。また教会の穏やかな雰囲気の影響され、より良い経営者となれたのです。」またストゥーキ長老は、ユタ州政府の公益事業部、教育部、経済開発部でも働きました。さらにユタ州で航空機の定期便乗り入れの事業を起し、この事業は後にスカイウェスト・エアラインズへと発展しました。

教会では、ストゥーキ長老はスカウトおよび若い男性の指導者、監督、ステーク会長、地区代表、および地域幹部として任を果たしてきました。そして次のように述べています。「主には大変良くしていただいてまいりました。家族の一人が重い病にかかり、主の助けと祝福を必要とした時期もありました。そして主から特別にその祝福を頂きました。ですからそれからはずっと主に感謝し、恩を感じていました。しかしお返ししようと思うほど、主はさらに祝福してくださいます。ですので、主に仕えることから得られる喜びと幸福に、目を向けることにしているのです。」□



七十人 リチャード・H・ ウィンケル長老

七十人第二定員会会員のリチャード・H・ウィンケル長老は、自分

が強い証^{あかし}を得るに至ったのは、家族の影響とこれまでの伝道の経験によるところが大きいと語っています。特に若い宣教師としてチリで過ごした2年間は彼の人生に大きな影響を与えました。

ウィンケル長老がチリに到着したのは、チリ伝道部が設立されて間もない1962年のことでした。ウィンケル長老は回復された福音を熱心に学ぶチリの人々の間に福音が根付いていくのを目の当たりにしました。

ウィンケル長老は自分が働きかけたある若い家族のことを思い出します。「わたしはこの奥さんにバプテスマを施し、彼女のご主人とはスカウトプログラムとともに働きました。そして日記に、いつかこのご主人は教会に入るだろうと書きました。」

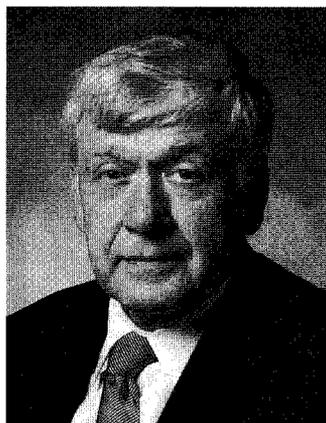
20年後、ウィンケル長老のもとに、テキサスのアマリロで働く二人の姉妹宣教師から電話がかかってきました。この姉妹宣教師は以前この夫婦に会ったことがあり、その後夫婦はアメリカに移住し、子供が5人いるという旨の電話でした。奥さんは教会にあまり活発ではありませんが、「ウィンケル長老」の名前を覚えており、姉妹宣教師の一人がご主人の居場所を捜し当てました。「姉妹宣教師たちは、最初のレッスンが終わった後で、わたしがこの夫婦に電話をして証をしてほしいと思っていたので、そのようにしました」とウィンケル長老は語っています。「わたしたちは電話越しでしたが、久しぶりの再会を喜びました。」何週間かして、ウィンケル長老はアマリロに行き、ご主人と子供たちにバプテスマを施しました。

ウィンケル長老は1942年5月17日、カリフォルニア州のオークランドで生まれました。ブリガム・ヤング大学で学士号、ペパーダイン大学で経営学修士号を取得しました。ブリガム・ヤング大学在学中に、カレン・ハートに出会い、1966年8月31日にソルトレーク神殿で結婚しました。現在9人の子供に恵まれ、ユタ州のプロボに住んでいます。

ウィンケル長老の父親はカリフォルニアでビーバー・ランバー(Beaver Lumber)という製材所を設立し、ウィンケル

長老はその会社を引き継ぎ、さらにカリフォルニア州のアーカタにある製材所を買収しました。子供のうち7人は、成長するにつれて積極的に製材業に取り組むようになり、夏休みや週末には一緒に働きました。「皆、口々に指のつめの中におがくずが詰まっていると言っていました」とウィンケル長老は語っています。

ウィンケル長老は監督、ステーキ会長、スペイン・マドリッド伝道部の部長として働きました。「わたしは福音を愛しています。救い主を愛しています。また預言者を愛しています。わたしはいつどのような責任に召されても喜んで働きます。福音は真実であるといつも思ってきましたし、わたしの証はさらに強まっています。」□



七十人 ロバート・S・ウッド 長老

「**教**会で初めて召しを受けたのは12歳のときでした」と七十人第二定員会会員のロバート・S・ウッド長老は当時を振り返ります。「ミューチャルでの音楽の指揮者の責任を受けました。」しかし彼は二つの問題を克服しなければなりません。まず一つは、歌えないこと、もう一つは音楽について何も知らないということでした。「若い女性会長はわたしをわきの方に連れて行き、こう言いました。『いいわね、ロバート。1, 2, 3, 4。』」この話をしながら、ウッド長老は腕で4分の4拍子のリズムを取

りました。「このようにしてわたしは指揮の仕方を学んだのです。」

ロバートは、ジャック・ウッドとブランチェ・ウッドを両親に、4人兄弟の末っ子として、1936年12月25日アイダホ州アイダホフォールで生まれました。高校を卒業すると、スタンフォード大学に進学し、そこでディキシー・レイ・ジョーンズに出会いました。

それから1957年から1959年までフランス伝道部で専任宣教師として働きました。歴史学の学士号を取得するために帰国してから、ロバートとディキシーはデートをするようになりました。ロバートは次のように当時を振り返ります。「しばらくデートを重ねてから彼女が尋ねた最も大切な質問ですが、彼女はわたしの目をじっと見詰めてこう聞きました。

『ロバート、あなたはずっと教会に活発に集えますか。』彼の答えは確固としていました。二人は1961年3月27日にアイダホフォールズ神殿で結婚しました。

その後二人はマサチューセッツ州に移り、ロバートはハーバード大学で修士号と博士号を取得しました。国際関係のスペシャリストとして、彼はハーバード大学、ベントリー単科大学、バージニア大学で教鞭を執りました。つい最近までは、ロードアイランド州ニューポートにある合衆国海軍軍事大学の海軍学センターで学部長を務めていました。

ウッド家には子供が4人、孫が8人います。「わたしの家族は二つの事柄で説明できます」とウッド長老は語ります。「まず第1に天の御父が4人のすばらしい子供を送ってくださったこと。次は母親です……もし『ロバート、あなたはずっと教会に活発に集えますか』と尋ねたこのふさわしい女性と結婚しなかったら、わたしは会社でも教会でも、どのような働きも成し得なかったことでしょう。」

七十人に求められる数多くの責任の中で、「どのような弱点があっても、完全な自信を持ってできることが一つあります。……それはイエス・キリストについで証^{あかし}することです。」□

専任宣教師

1999年5月(236期生)8人 海外7人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



石井 亨
札幌伝道部
高崎ステーキ
前橋ワード



大庭由宇吾
東京南伝道部
福岡ステーキ
福岡ワード



大森あゆみ
東京北伝道部
岡山ステーキ
岡山ワード



加藤純子
福岡伝道部
秋田地方部
秋田支部



佐久間由美
仙台伝道部
ワシントン州
リンクウッドステーキ
ホールズレイク支部



霜村博志
神戸伝道部
長野地方部
長野支部



橋本久美子
名古屋伝道部
秋田地方部
秋田支部



山本康文
東京南伝道部
大阪堺ステーキ
和歌山ワード



大石義和
ハワイ・ホノルル伝道部
東京北ステーキ
坂戸ワード



大嶋悦子
ソルトレーク・
デンプルスクエア伝道部
神戸ステーキ
北六甲ワード



志茂あい
オーストラリア・
シドニー北伝道部
町田ステーキ
町田第1ワード



高橋愛理
ハワイ・ホノルル伝道部
仙台ステーキ
上杉ワード



根本清貴
ハワイ・ホノルル伝道部
我孫子ステーキ
牛久ワード



前田洋平
ロシア・
モスクワ南伝道部
静岡ステーキ
浜松ワード



山田牧人
オーストラリア・
ブリスベン伝道部
神戸ステーキ
相生支部

皆さんの原稿を募集しています



◎国際機関誌『リアホナ』にまつわる身近な話題をご紹介します。

—「わたしの『リアホナ』活用法」,「ホームティーチング・家庭訪問の現場にて」,「『リアホナ』の記事を通して啓発された経験・証」,「伝道における『リアホナ』の役立て方」等々、あなたと『リアホナ』を結ぶ身近な話題、アイデアを郵便またはファクシミリでお気軽にお寄せください。締切りは1999年7月31日です。

◎地域のニュース、あなたの証などを紹介ください。

◎ご投稿の際には連絡先(住所・電話番号・ファックス番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、できれば写真(投稿者または投稿内容に関連するもの)を同封のうえお送りください。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、所属ステーキ/地方部、ワード/支部、MTC入所月、伝道部名を明記)

◎あて先・お問合せ：〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会『リアホナ』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

役員の変動

1999年5月13日から1999年6月8日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動(敬称略)

- 熊本ステーキ八代支部
支部長：一美 豊
- 東京ステーキ狭山ワード
監督：岡田 喜隆
- 日本広島ステーキ
第一副会長：林 徹
第二副会長：松重 光治
- 新潟地方部長岡支部
支部長：大河原 吉明
- 仙台ステーキ米沢支部
支部長：伊藤 慶久
- 日本金沢地方部
地方部長：徳沢 清児
第一副部長：柴田 昇
第二副部長：渡辺 健
- 金沢地方部金沢第1支部
支部長：太田 秀典
- 金沢地方部金沢第2支部
支部長：広瀬 博幸

ユニットの変更

- 1999年5月9日付で、福知山地方部福知山支部が新設された。
- 1999年5月23日付で、旧石川・富山・福井の各地方部が合併し、金沢地方部が新設された。それに伴い旧呉羽支部を富山支部と名称変更した。また旧金沢支部と旧野々市支部の境界が変更され、それぞれ金沢第1支部、金沢第2支部の名称で再組織された。

お詫びと訂正

- 「台湾——信仰をはぐくんだ40年間」『リアホナ』1999年5月号、31ページ左段22行目の記述中に「中国民主共和国」とありましたが「中華民国」の誤りでした。謹んでお詫びし、訂正いたします。

*



「シオンの陣営」 ジュディス・メア画

1834年6月中旬、ミズーリ州クレイ群フィッシング川において、暴徒たちは突然起きた強烈な嵐によって退散を余儀なくされた。それに先立って、暴徒たちが攻撃の準備を進めていることを知らされた預言者ジョセフ・スミスは、シオンの陣営の安全を祈り求め、主が守ってくださるという約束を受けていた。嵐が激しかったため、シオンの陣営の人々は、テントを去って、近くのバプテスト教会の集会所（絵の後方に見える）に避難した。



18 67年以來132年間にわたり、教会の指導者たちはテンプルスクウェアのタバナクルから、末日聖徒に対してイエス・キリストの回復された福音について説き、時宜^{じき}にかなった勧告を与えてきた。表紙——失われた羊のたとえの中で、救い主はこうおっしゃっている。「わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたからです。」(ルカ15:6)

第169回年次総大会報告
1999年4月3, 4日

